

2023年度 シラバス (講義要綱)

2022年度以前入学生
総合政策学部



卒業必要単位数（総合政策学部）

【2017～2022年度入学生】

区 分			卒業必要単位数							
全学共通教育科目	基礎科目		必修	6単位			50 単位 以上	全学共通教育科目・専門教育科目から自由に18単位以上	合計130単位以上	
	語学科目		必修	4単位 留学生は日本語で4単位						
			選択	4単位以上 留学生は日本語で4単位以上						
	情報科目		必修	6単位						
			選択							
	地域科目		選択	4単位以上						
	一般教養科目		社会科学系列	選択	4単位以上					
			人文科学系列	選択	4単位以上					
			自然科学系列	選択	4単位以上					
	キャリア科目		必修	4単位						
			選択							
	※特別科目		選択							
スキル科目		社会調査士養成ユニット	選択	いずれかのユニットから10単位以上						
		公務員養成ユニット	選択							
		おもてなし経営ユニット	選択							
		英語力養成ユニット	選択							
		メディアデザインユニット	選択							
専門教育科目	学部基礎科目		必修	6単位			62 単位 以上			
	演習科目		必修	12単位						
	地域・まちづくり分野		選択必修	いずれかの分野を選択し、分野必修6単位と同じ分野から18単位以上						
			選択							
	スポーツ・人間分野		選択必修							
			選択							
	国際・経営分野		選択必修							
			選択							
分野共通科目		選択								

※特別科目の他大学開放科目については、全学共通教育科目の必要単位数を超えて修得した科目として認定し、10単位まで含めることができる。

カリキュラム表の見方

区分	基礎や専門、分野・コースなどの区分を記載します。
授業科目名	科目の名称・サブタイトルを記載します。
単位数	科目ごとの単位数を記載します。丸付数字は必修科目を表します。
年 次	<p>科目が開講されている学年・学期を記載します。</p> <p>○ ……半期週1回開講</p> <p>◎ ……半期週2回開講</p> <p>集 ……集中講義</p> <p>▲ ……その他の開講</p> <p>……不開講科目</p>
講師区分	<p>本学の教員かそうでないかを記載します。</p> <p>兼 ……他学部所属教員</p> <p>非 ……他大学、他組織所属教員</p> <p>空白……本学部所属の教員を表します。</p>
担当教員	科目を担当する教員名を記載します。
ベーシック	ファンタジスタ科目―三重創生ファンタジスタ(ベーシック)資格科目
実践	実践交流科目―三重創生ファンタジスタ(アドヴァンス)資格科目
実務	実務家教員授業科目

総合政策学科(17カリキュラム表)

区分			2017～2022年度入学生 授業科目名	読み替え科目名	単 位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	地 域	ベ ー シ ン グ	実 践	実 務	備 考															
						1年次		2年次		3年次		4年次																								
						前	後	前	後	前	後	前	後																							
全学共通教育科目	基礎科目	必修	「人間たれ」	「人間たれ」Ⅰ	②	○									岩崎 恭典	1																				
			入門演習Ⅰ	入門演習a	②	○									浅井 雅	2																				
															岩崎 祐子																					
		加納 光																																		
		川崎 綾子																																		
		倉田 英司																																		
		鶴田 利恵																																		
		富田 与																																		
		永井 博																																		
	入門演習Ⅱ	入門演習b	②	○										吉川 和挟	3																					
														浅井 雅																						
														岩崎 祐子																						
														加納 光																						
														川崎 綾子																						
														倉田 英司																						
														鶴田 利恵																						
														富田 与																						
														永井 博																						
	語学科目	必修	基礎英語Ⅰ		②	○									兼 非 非	ゴードン リース 青木 陽子 ケント・スコット	4																			
			基礎英語Ⅱ		②		○							兼 非 非	ゴードン リース 青木 陽子 ケント・スコット	5																				
			基礎日本語Ⅰ		②	○								非 非 非	伊藤 晴苗 角田 延之 安田 由紀子								6			留学生科目										
			基礎日本語Ⅱ		②		○							非 非 非	伊藤 晴苗 角田 延之 安田 由紀子		7												留学生科目							
		選択科目	英語コミュニケーションⅠ		2			○							兼 兼	ゴードン リース 青木 陽子 樋口 晶子		8 9 10																		
			英語コミュニケーションⅡ		2				○						兼 兼	ゴードン リース 青木 陽子 樋口 晶子							11 12 13													
			中国語Ⅰ		2				○						兼	加納 光 吉山 青翔	14 15 16																			
			中国語Ⅱ		2					○					兼	加納 光 吉山 青翔		17 18 19																		
			ポルトガル語Ⅰ		2				○							フェリベ フェハーリ							20 21 22													
			ポルトガル語Ⅱ		2					○						フェリベ フェハーリ	23 24 25																			
			海外語学研修a(英語)		2						▲																									
			海外語学研修b(中国語)		2							▲																								
			日本語中級Ⅰ		2						○					非 非 非	伊藤 晴苗 角田 延之 安田 由紀子	26 27 28																		
			日本語中級Ⅱ		2							○				非 非 非	伊藤 晴苗 角田 延之 安田 由紀子							29 30 31												
			日本語上級Ⅰ		2								○			非 非 非	加納 光 伊藤 晴苗 角田 延之 安田 由紀子						32 33 34													
			日本語上級Ⅱ		2									○		非 非 非	加納 光 伊藤 晴苗 角田 延之 安田 由紀子	35 36 37																		
			情報科目	必修	コンピュータリテラシー		④	○									兼							田中 伊知郎	38 39											
					情報倫理		②		○								兼						田中 伊知郎	26 27 28 29					オンデマンド							
		選択		情報科学	情報科学概論	2	○									兼	池田 幹男	30 31 32 33																		
				情報と職業		2				○						非	井岡 幹博		34 35 36 37																	
				アプリケーション演習Ⅰ	文書表現ツール1	2		○								兼	池田 幹男			38 39 40 41																
				アプリケーション演習Ⅱ		2			○							兼	柳澤 翔士				42 43 44 45															
地域科目		必修	四日市学		2	○									永井 博	46 47 48	○	○																		
			地域社会の歴史		2			○											岡 良浩							49 50 51										
			市民教育	公共哲学	2	○													兼 非	鬼頭 浩文 李 修二							52 53 54									
		選択	人権論	「人間たれ」Ⅱ	2			○								浅井 雅	55 56 57 58 59 60 61	○	○																	
			地域社会と環境		2	○										兼								青木 陽子	62 63 64 65 66 67 68											
			地域防災	防災とまちづくり	2		▲									兼								野呂 達哉		69 70 71 72 73 74 75										
			地域連携特別講義a	全学共通特別講義a	2				▲							兼								鬼頭 浩文			76 77 78 79 80 81 82									
			地域連携特別講義a		2											兼								倉田 英司				83 84 85 86 87 88 89								
			地域連携特別講義b																											○	○	○	○			
																																			○	○

総合政策学科(17カリキュラム表)

区分		2017～2022年度入学生 授業科目名	読み替え科目名	単位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	地 域	ベ ー シ ン グ	実 践	実 務	備 考	
					1年次		2年次		3年次		4年次										
					前	後	前	後	前	後	前	後									
全学共通教育科目	一般教養科目	社会科学系	経営学	経営学入門	2		○							兼	川崎 綾子	37					
			経済学	経済学概論	2		○								鬼頭 浩文	38					
			政治学	政治学概論	2	○									吉川 和狭	39					
			社会学	社会学概論	2	○									三田 泰雅	40					
			ジェンダー論		2		○								高田 晴美	41					
															三田 泰雅						
			メディアリテラシー		2	○								兼	前川 督雄	42					
			社会福祉概論		2	○								非	李 修二	43					
			日本国憲法	日本国憲法概論	2	○									中西 紀夫	44					
			法学	法学入門	2		○								中西 紀夫	45					
		民法入門	民法概論	2		○								土志田 佳枝	46				○		
		倫理学	社会思想史	2		○								フェリベ フェハーリ	47						
		哲学	哲学概論	2	○									フェリベ フェハーリ	48						
		文学	文学概論	2	○									永井 博	49						
		文章表現論		2	○									永井 博	50						
													非	杉谷 克芳	51						
		人文科学系	文化論	表象文化論	2		○								高田 晴美						
														富田 与	52						
														永井 博							
			教育学	教育学概論	2		○							非	三田 泰雅	53					
	日本史概論		歴史学概論	2	○									長谷川 誠	54						
	世界史概論		近現代史概論	2		○								浅井 雅	55						
	地理学概論																				
	地誌																				
	科学的思考論			2	○								兼	吉山 青翔	56						
	科学思想史																				
	自然科学系	自然科学概論		2	○								兼	田中 伊知郎	57						
		数学概論		2	○								兼	金岩 稔	58						
		化学概論		2	○								兼	牧田 直子	59						
		地学概論		2	○								非	森 康則	60						
		生物学概論		2		○							兼	田中 伊知郎	61					オンデマンド	
		生物と進化		2	○								兼	田中 伊知郎	62						
		環境論		2		○							兼	吉山 青翔	63						
		心理学	心理学概論	2		○							兼	田中 伊知郎	64						
		キャリア基礎Ⅰ		②		○							兼	岡 良浩	65				○		
		必修	キャリア基礎Ⅱ		②			○						兼	吉山 青翔					○	
													岩崎 祐子								
													岡 良浩								
													永井 博								
													中西 紀夫								
												兼	田中 伊知郎	66					○		
												兼	樋口 晶子								
												兼	牧田 直子								
												兼	吉山 青翔								
												非	李 修二								
	選択	キャリア基礎Ⅲ		2				○						岩崎 祐子					○		
													岡 良浩								
													永井 博								
													中西 紀夫								
												兼	田中 伊知郎	67					○		
											兼	樋口 晶子									
特別科目	ボランティア活動a		2	▲									倉田 英司	68	○	○					
	ボランティア活動b		2	▲									倉田 英司	69	○	○					
	国際協力研修		2		集								岩崎 祐子	70							
	インターンシップ		2			▲						兼	鬼頭 浩文	71	○	○					
	他大学開放科目a		2			▲															
	他大学開放科目b		2			▲															
	他大学開放科目c		2			▲															
	他大学開放科目d		2			▲															
	他大学開放科目e		2			▲															
	総合政策学部スキル科目	社会調査士養成	社会調査入門		2	○									三田 泰雅	72					
社会調査の技法				2		○								三田 泰雅	73						
データ分析の基礎			統計学入門	2				○					兼	田中 伊知郎	74					オンデマンド	
統計的分析				2				○					兼	田中 伊知郎	75					オンデマンド	
データ解析の技法				2				○					非	古山 歩	76						
フィールドワーク論				2			○							倉田 英司	77						
社会調査実習1				2					○					三田 泰雅	78	○	○				
社会調査実習2				2						○				三田 泰雅	79	○	○				
公務のための数的推理				2		○								高田 晴美	80						
公務のための判断推理			2	○									高田 晴美	81							
公務のための現代文			2		○								高田 晴美	82					オンデマンド		
公務のための政治学			2				○						小林 慶太郎	83							
公務のための経済学			2				○					兼	鬼頭 浩文	84					オンデマンド		
公務のための法学			2			○							中西 紀夫	85							
公務のための人文科学			2			○							浅井 雅	86					オンデマンド		
公務のための自然科学			2					○					高田 晴美	87							
公務のための英文理解			2						○				ゴードン リース	88							
公務のための論文・面接			2							○			小林 慶太郎	89							

総合政策学科(17カリキュラム表)

区分		2017～2022年度入学生 授業科目名	読み替え科目名	単 位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	地 域	ベ ー シ ツ ク	実 践	実 務	備 考	
					1年次		2年次		3年次		4年次										
					前	後	前	後	前	後	前	後									
全学共通教育科目	総合政策学部スキル科目	おもてなし経営	ビジネスマナー	2		○							非	長野ゆき子	90				○		
			サービス経営論	2	○									岡 良浩	91						
			販売士講座	2			○						非	山川 和美	92				○		
			ビジネスコミュニケーション	2			○						非	長野ゆき子	93				○		
			グローバルコミュニケーション	2				○						富田 与	94						
		オペレーション演習	2			集								岡 良浩	95	○	○	○			
														川崎 綾子							
														永井 博							
		ビジネスマネジメント	2					○						岩崎 祐子	96						
														奥原 貴士							
		マーケティング演習	2						○						岡 良浩	97	○	○		○	
															岩崎 祐子						
		おもてなし特別講義a	2			○									岩崎 祐子	98	○	○		○	
															岡 良浩						
		おもてなし特別講義b	2			○									岩崎 祐子	99	○	○		○	オンデマンド
															岡 良浩						
															兼						
	英語力養成	観光英語Ⅰ	2	○										ゴードン リース	100						
		観光英語Ⅱ	2		○									ゴードン リース	101						
		コンピュータ英語Ⅰ	2	○									非	柴田 啓文	102						
		コンピュータ英語Ⅱ	2		○								非	柴田 啓文	103						
		英語表現Ⅰ	2			○								ゴードン リース	104						
		英語表現Ⅱ	2				○							ゴードン リース	105						
		ビジネス英語Ⅰ	2			○							兼	樋口 晶子	106						
		ビジネス英語Ⅱ	2				○						兼	樋口 晶子	107						
		検定英語Ⅰ	2					○					非	武藤 和成	108						
		検定英語Ⅱ	2						○				非	武藤 和成	109						
	メディアデザイン	メディアツールa	2	○									非	西尾 秀樹	110				○		
		メディアツールb	2		○								非	西尾 秀樹	111				○		
			2			○							非	山本 努武	112						
		メディアツールc	2			○							非	田中 麻衣	112				○		
		メディアツールd	2				○						兼	柳澤 翔士	113				○		
		Webデザインa	2				○						非	堀内 敬弘	114				○		
		Webデザインb	2					○					非	堀内 敬弘	115				○		
		Webプログラミングa	Webプログラミング1	2		○								兼	池田 幹男	116					
														兼	片山 清和						
														兼	柳澤 翔士						
		Webプログラミングb		2		○								兼	池田 幹男	117					
														兼	片山 清和						
インターネット論	ITリテラシー	2										兼	柳澤 翔士	118				○			

総合政策学科(17カリキュラム表)

区分			2017～2022年度入学生 授業科目名	読み替え科目名	単 位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	地 域	ベ ー シ ッ ク	実 践	実 務	備 考																				
						1年次		2年次		3年次		4年次																													
						前	後	前	後	前	後	前	後																												
専門教育科目	学部基礎	必修	政策科学入門	政策科学入門Ⅰ	②	○									永井 博 他	119																									
			総合政策論Ⅰ		②		○									吉川 和狹	120																								
			総合政策論Ⅱ	総合政策概論	②			○								岡 良浩 他	121					オンデマンド																			
			演習科目	必修	基礎演習a		②			○						奥原 貴士	122																								
																川崎 綾子	123																								
																小泉 大亮	124																								
																小林 慶太郎	125																								
																高田 晴美	126																								
																鶴田 利恵	127																								
																富田 与	128																								
																中西 紀夫	129																								
																フェリベ フェアリー	130																								
																三田 泰雅	131																								
																若山 裕晃	132																								
																兼 鬼頭 浩文	133																								
																奥原 貴士	134																								
																川崎 綾子	135																								
																小泉 大亮	136																								
					基礎演習b		②			○										奥原 貴士	134																				
																				川崎 綾子	135																				
																				小泉 大亮	136																				
																				小林 慶太郎	137																				
																				高田 晴美	138																				
																				鶴田 利恵	139																				
																				富田 与	140																				
																				中西 紀夫	141																				
																				フェリベ フェアリー	142																				
																				三田 泰雅	143																				
																				若山 裕晃	144																				
																				兼 鬼頭 浩文	145																				
																				奥原 貴士	146																				
																				小泉 大亮	147																				
																				小林 慶太郎	148																				
					専門演習a		②			○										高田 晴美	149																				
																				鶴田 利恵	150																				
																				富田 与	151																				
																				中西 紀夫	152																				
																				フェリベ フェアリー	153																				
																				三田 泰雅	154																				
																				若山 裕晃	155																				
																				兼 鬼頭 浩文	156																				
																				奥原 貴士	157																				
																				小泉 大亮	158																				
																				小林 慶太郎	159																				
																				高田 晴美	160																				
																				鶴田 利恵	161																				
																				富田 与	162																				
																				中西 紀夫	163																				
					専門演習b		②			○										フェリベ フェアリー	164																				
																				三田 泰雅	165																				
																				若山 裕晃	166																				
																				兼 鬼頭 浩文	167																				
																				奥原 貴士	168																				
																				小泉 大亮	169																				
																				小林 慶太郎	170																				
																				高田 晴美	171																				
																				鶴田 利恵	172																				
																				富田 与	173																				
																				中西 紀夫	174																				
																				フェリベ フェアリー	175																				
																				三田 泰雅	176																				
																				若山 裕晃	177																				
																				兼 鬼頭 浩文	178																				
					専門演習c		②			○										松井 真理子	179																				
																				奥原 貴士	180																				
																				小泉 大亮	181																				
																				小林 慶太郎	182																				
																				高田 晴美	183																				
																				鶴田 利恵	184																				
富田 与	185																																								
中西 紀夫	186																																								
フェリベ フェアリー	187																																								
三田 泰雅	188																																								
若山 裕晃	189																																								
兼 鬼頭 浩文	190																																								
非 松井 真理子	191																																								
専門演習d		②																		○															奥原 貴士	180					
																																			小泉 大亮	181					
					小林 慶太郎	182																																			
					高田 晴美	183																																			
					鶴田 利恵	184																																			
					富田 与	185																																			
					中西 紀夫	186																																			
					フェリベ フェアリー	187																																			
					三田 泰雅	188																																			
					若山 裕晃	189																																			
					兼 鬼頭 浩文	190																																			
					非 松井 真理子	191																																			

総合政策学科(17カリキュラム表)

区分		2017～2022年度入学生 授業科目名	読み替え科目名	単位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	地 域	ベ ー シ ン グ	実 践	実 務	備 考		
					1年次		2年次		3年次		4年次											
					前	後	前	後	前	後	前	後										
専 門 教 育 科 目	地域・まちづくり分野	分野必修	地方自治論		2		○								吉川 和挟	192						
		地域経済論		2			○							岡 良浩	193							
		政策過程論		2				○						吉川 和挟	194							
		現代財政学		2			○							鶴田 利恵	195							
		行政法		2				○						小林 慶太郎	196	○	○		○			
		行政学		2				○						中西 紀夫	197							
		都市法		2					○					吉川 和挟	198							
		政策法務		2						○				中西 紀夫	199							
		地域産業論		2			○							岡 良浩	200	○	○					
		地域開発論		2				○						岡 良浩	201	○	○					
		地域福祉論		2				○					非	柴田 啓文	202							
		社会保障論		2				○					非	李 修二	203							
		地域社会学		2				○						三田 泰雅	204							
		環境社会学		2				○					非	村田 静昭	205				○			
		女性学																				
		食とまちづくり		2		○									小林 慶太郎	206	○	○	○	○		
		祭りとまちづくり		2			○								岩崎 恭典	207	○	○	○	○		
		音楽とまちづくり		2				○					兼 兼	浅井 雅	208	○	○	○	○			
		鉄道とまちづくり		2				○						前川 督雄	209	○	○	○	○			
		コミュニティ論		2		○								岩崎 恭典	210	○	○					
		地方議会論		2				○						倉田 英司	211	○	○					
		NPO論	市民とまちづくり	2			○						兼	吉川 和挟	212	○	○		○			
		マイノリティ政策	ダイバーシティ社会論	2	○									小林 慶太郎	213							
		環境政策		2			○						兼 兼	岡 良浩	214							
		観光政策		2			集							鬼頭 浩文	215	○	○	○				
		経済政策	ミクロ経済学入門	2				○					兼	千葉 賢	216							
		都市政策		2			○							岡 良浩	217							
		交通政策		2				○						鬼頭 浩文	218							
		都市計画論		2					○					倉田 英司	219							
										○				本部 賢一	220							
		専門教育科目	スポーツ・人間分野	分野必修	からだとこころ		2			○					非 非 非	大西 信行	220					
				こころの科学		2				○					杉崎 一美	221						
	スポーツ政策論				2		○							別所 史子	222							
	スポーツ指導論				2	○								若山 裕晃	223							
	スポーツトレーニング論				2	○								小泉 大亮	224							
	スポーツ心理学				2		○							若山 裕晃	225							
	スポーツ社会学				2			○						若山 裕晃	226							
	スポーツ生理学				2			○						若山 裕晃	227							
	健康スポーツ論				2				○					小泉 大亮	228							
	スポーツ栄養学				2				○				非	小泉 大亮	229					○		
	アスリート育成論				2		○							櫻井 智美	230							
	スポーツ応用科学				2			○						若山 裕晃	231							
	スポーツメディカル論				2				○					小泉 大亮	232							
	地域スポーツ論				2				○					小泉 大亮	233							
	スポーツ実技				2	○								若山 裕晃	234							
	介護予防スポーツ				2				○					非	池田 裕美子	235				○		
	健康スポーツ実技			2				○					小泉 大亮	236								
	こころと健康			2			○						非 非 非	柿原 加代子	237							
	こころと文学			2				○					工藤 安史	238								
	国際経済事情			2				○					後藤 由紀	239								
	国際関係論			2				○					佐藤 優子	240								
	経営管理論			2					○				高田 晴美	241								
	日本経済事情		マクロ経済学入門	2	○								鶴田 利恵	242								
	金融論			2				○					富田 与	243								
	国際経営論			2					○			非	川崎 綾子	244								
	国際協力論			2					○				吉成 亮	245								
	開発経済学			2				○					富田 与	246								
	簿記入門			2		○							鶴田 利恵	247								
	会計学総論			2		○							奥原 貴士	248								
	財務諸表論			2				○					奥原 貴士	249								
	経営戦略論			2		○							奥原 貴士	250								
	マーケティング論			2					○				川崎 綾子	251								
	中小企業論		2					○				岡 良浩	252									
	人事管理論		2						○			川崎 綾子	253									
ものづくり経営		2					○				西浦 尚夫	254										
流通論		2				○				非	川崎 綾子	255										
農業経営論		2					○				鶴田 利恵	256										
起業論		2				○				非	杉谷 克芳	257										
専 門 教 育 科 目	分野共通科目	特別講義	総合政策特別講義Ⅰ																			
		総合政策特別講義Ⅱ																				
		総合政策特別講義Ⅲ		2	○							兼 兼	片山 清和	258								
		出版文化論		2			○					非	前川 督雄	259				○				
		日本文化論		2				○					稲葉 年計	260								
		東洋文化論		2					○				永井 博	261								
		西洋文化論		2						○			加納 光	262								
		地域文化論		2						○		非	山本 伸	263		○	○					
				2							○		浅井 雅	264								
				2																		
				2																		
				2																		

シラバスの見方

例

授業科目名	社会学概論			科目コード	181203	授業コード	100221
担当教員	三 田 泰 雅			科目ナンバリング	GELA1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選択
授業の位置づけ	大学生として身につけるべき教養を主に修得する						
授業のねらい	この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。私たちは他者と関わり合って社会を作 っています。一方で人間は社会によって作られる側面もあります。私たちはどのように社 会を作り、そして社会に作られているのか。この両面を明らかにすることで社会の仕組みを考えてゆく授業です。						
到達目標	社会学的なものの見方や考え方を身につける						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 規範と価値 第3講 自分とは何だろうか 第4講 スポーツから近代社会を考える 第5講 人は集団をつくる 第6講 家族とは何だろうか 第7講 ジェンダーのはたらき 第8講 格差と社会階層 第9講 なぜ学校に行くのか 第10講 都市を生きる 第11講 国家と国民社会 第12講 医療と健康 第13講 環境を考える 第14講 社会的排除 第15講 社会学の誕生						
テキスト・教材（参考文献含む）	<参考文献> 出口剛司（2019）『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.						
事前・事後学習	1日10分以上かけて新聞やニュースに目を通す						
成績評価方法	平常点45%，期末試験55%。 平常点は各回の授業の参加度とミニツツペーパーの内容で評価します。						
授業内の課題・提出方法	各授業内でミニツツペーパーを提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニツツペーパーの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。						
担当者から一言	社会はどんなふうにいるのか、私たちが生きているこの社会のしくみを一緒に考えてゆきましょう。						

- ・授業科目名：本年度開講の授業科目名です。
 - ・担当教員：授業科目担当者です。
 - ・科目コード：カリキュラム内の科目ナンバーです。
 - ・授業コード：時間割順を示すナンバーです。
 - ・科目ナンバリング：後掲の科目ナンバリングを参照のこと。
 - ・配当年次：学年（年次）は、その科目を履修することができる最低学年を表記しています。
 - ・開講学期：授業科目がいつ開講されるかを表記しています。
 - ・単位数：単位数を表記しています。
 - ・必修/選択：「必修」は、卒業のために必ず単位修得しなければならない科目です。「選択」は選択科目を表しています。各学部・各専攻で必要な科目かどうかは異なります。各自のカリキュラム表で確認してください。
 - ・授業の位置づけ：卒業認定・学位授与の方針（D P）と当該授業科目の関連が記載されています。
 - ・授業のねらい：どのような授業科目か、この授業の目的・意義を簡潔に示しています。
 - ・到達目標：具体的に習得すべき知識や技能等について記載されています。授業の終了時点でどのような知識や技能（スキル）を身につけることが出来るか、教育目標としているかについて記載されています。
 - ・授業計画：15回の授業について、各回の「テーマ」「内容」を明記しています。なお、授業の進行具合や受講学生の興味・関心に合わせて適宜変更する授業科目もあります。
 - ・テキスト・教材（参考文献含む）：テキストには、授業内で実際に使用する教科書を明記しています。授業開始前までに必ず準備してから授業に臨んでください。参考文献については、各授業担当にお尋ねください。
 - ・事前・事後学習：事前・事後学習とは、毎回の授業に出席する際の予習及び復習と考えて取り組んでください。また、履修上他の科目を先行して履修することが望ましい科目がある場合は、こちらに『「○○○Ⅰ」を先行して履修していることが望ましい』など記載されています。
 - ・成績 評価方法：定期試験 60 %、小テスト 40 %のように、評価（ポイント）基準を明記しています。
- 授業内の課題・提出方法、フィードバック方法：授業内で課される課題の内容や提出方法、また、それらのフィードバック方法が記載されています。
- ・担当者から一言：履修上の注意の他、シラバスの他の項目で書ききれなかった内容を補足して記載されています。

授業科目名	「人間たれ」			科目コード	171001	授業コード	115101
担当教員	岩崎 恭典			科目ナンバリング	GEF1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかねばならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。						
授業のねらい	本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。						
到達目標	1. 本学の建学の精神を理解する。 2. 満30周年を迎えた本学の歴史を、満75周年を迎えた学校法人暁学園の歴史を、昭和・平成・令和・平成という時代とともに振り返り、今後の社会に生きていく力とは何かについて理解を深める。 3. 各分野の専攻やスキル科目、地域志向科目等本学の特徴的な講義、また、学友会主催事業等についての理解を深める。						
授業計画	第1講で、講師のスケジュールを確定させたうえで、改めて詳細な講義計画を示す。 第1講 ガイダンス 君たちが大学で学ぶべきこと 第2講 18歳成人に伴う社会的責任について 第3講 地震・風水害に備える、そして、被災地を支援すること 第4講 交通安全・車の免許取得に際して考慮すべきこと(JAF) 第5講 先輩に学ぶ 本学卒業生のインタビュー動画をみる 第6講 先輩に学ぶ 本学ベトナムからの留学生のインタビュー動画をみる 第7講 先輩に学ぶ 本学ネパールからの留学生のインタビュー動画をみる 第8講 先輩に学ぶ 他大学の長期インターンシップ学生のインタビュー動画をみる 第9講 外国で働くということ(オイスカ) 第10講 本学の海外研修について 第11講 日本の財政状況と税金、家計、金融知識(財務省津財務事務所) 第12講 人生の先輩に聴く① 四日市北ロータリークラブ会長 第13講 人生の先輩に聴く② 本学社会人OB 第14講 前学期のまとめ 建学の精神について 第15講 夏休みを前に 産婦人科医は語る 定期試験						
テキスト・教材(参考文献含む)	できるだけレジメと資料を配布する。						
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください(1日30分以上)。						
成績評価方法	出席することを基本として、時折実施する小テスト(50%)、定期試験の成績(50%)により評価する。						
授業内の課題・提出方法	ほぼ毎回提出してもらう小レポートは時間内に解答できるものとする予定である。回答時間がない場合には、翌週までにレポートボックスまで提出してもらう。また、感想・岩崎あるいは大学に対する質問・意見等については、「大福帳」の往復によって意思疎通を図るものとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、「大福帳」、前学期試験答案については、個人別にまとめたうえで、後学期の一年生演習授業の担当者を通じて返却するものとする。なお、再履修のものは、希望すれば小生との面談のうえ、返却を求めることができる。						
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。						

授業科目名	入門演習 I			科目コード	171002	授業コード	114108
担当教員	永井 博			科目ナンバリング	GEF1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかねばならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。						
授業のねらい	<p>学生生活を進めるうえで必要な、次のようなスチューデントスキル（四日市大学の学生として最低限身につけておいてもらいたい基礎的な知識・技能など）を学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業を受けるうえで必要なスキル 2. 人間関係を作るうえで必要なスキル 3. 大学での学修を助けてくれる施設を知り、活用するスキル 4. 総合政策学部を知り、学修を進めていくスキル 						
到達目標	大学生として必要なスチューデントスキルを知り、活用することができるようになること。						
授業計画	<p>第1回 履修登録のチェック 第2回 ガイダンス（入門演習とは） 第3回 総合政策学部とは 第4回 大学の講義の受け方 第5回 C S Cガイダンス 第6回 コンピュータ・センターと情報センターのガイダンス 第7回 ノートの取り方（基本的なこと・ノートの取り方・ノートを取る際の注意） 第8回 ノートの取り方 ②（模擬授業とノートチェック） 第9回 読解の基礎 ①（課題文の読解） 第10回 読解の基礎 ②（課題の解答の確認） 第11回 新聞記事の読み方 ①（新聞記事とは・新聞の組み立て・新聞記事の読み方） 第12回 新聞記事の読み方 ②（課題の報告） 第13回 人前で話す ①（話す力とは・3つの力・話す力を伸ばす） 第14回 人前で話す ②（自己紹介の準備） 第15回 人前で話す ③（自己紹介） * 授業の順番は入れ替わることがあります。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	四日市大学総合政策学部編『クレッシエンド 総合政策』2023年度版						
事前・事後学習	<p>毎回の授業に関係するテキストをよく読み、その章の「予習」に取り組むこと。（90分） 毎回の授業に関係するテキストの章の「復習」に取り組むこと。（90分）</p>						
成績評価方法	定期試験は行わない。授業・課題への取り組みなどを100%として評価する。						
授業内の課題・提出方法	テキストの関係箇所（章）に課題があるので、それに取り組むこと。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教員がチェックした課題を、翌週以降にコメントとともに返却する。						
担当者から一言	大学で学んでいくための基本的で必須な知識やスキルを学ぶ授業です。なかでも「読む」力を重視します。また、先生と知り合い、友だちをつくる機会でもあります。積極的に参加してください。						

授業科目名	入門演習Ⅱ			科目コード	171003	授業コード	114508
担当教員	永井 博			科目ナンバリング	GEF1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかねばならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。						
授業のねらい	大学生として、また総合政策学部の学生として学ぶために必要なスタディスキルを学ぶ。						
到達目標	大学生として必要なスタディスキルを知り、活用することができるようになること。						
授業計画	第1回 ガイダンス／履修登録のチェック 第2回 レジューメの作り方 ①（レジューメとは・レジューメ各部の作り方など） 第3回 レジューメの作り方 ②（レジューメ作成・確認） 第4回 資料の探し方・選び方 第5回 引用の基礎（テキストとドリル） 第6回 基礎演習ガイダンス 第7回 研究倫理教育 第8回 文章・レポートの書き方 ①（文章の構造・推敲） 第9回 文章・レポートの書き方 ②（レポートの確認） 第10回 ディベート ① 解説 第11回 ディベート ② 準備 第12回 ディベート ③ 準備 第13回 ディベート ④ 実践 面接 第14回 ボランティア・ガイダンス 第15回 1年次の振り返りと2年次に向けて ＊授業の順番は入れ替わることがあります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	四日市大学総合政策学部編『クレッシェンド 総合政策』2023年度						
事前・事後学習	毎回の授業に係るテキストの章をよく読み、その「予習」に取り組むこと。（90分） 毎回の授業に係るテキストの章の「復習」に取り組むこと。（90分）						
成績評価方法	定期試験は行わない。授業・課題への取り組みなどを100%として評価する。						
授業内の課題・提出方法	テキストの関係箇所（章）に課題があるので、それに取り組むこと。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教員がチェックした課題を、翌週以降にコメントとともに返却する。						
担当者から一言	大学で学んでいくための基本的で必須な知識やスキルを学ぶ授業です。なかでも「書く」「話す」力を重視します。積極的に参加してください。						

授業科目名	基礎英語 I			科目コード	171101	授業コード	113101
担当教員	ゴードン リース			科目ナンバリング	GEL1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	英語力を総合的に高めることを第1のねらいにしています。2つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解力を磨き、自国文化との比較を通し、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。3つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。						
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上にも英語学習を通して貢献することを目標にしています。						
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当者が異なります。各講座によります。（下記は例） 第1講義 ガイダンス 及び Unit 1 第2講義 Unit 2 以下 第15講義まで同じ展開						
テキスト・教材（参考文献含む）	それぞれの担当者がテキスト・教材を具体的に指示します。						
事前・事後学習	担当者の指示に従って下さい。						
成績評価方法	担当者のガイダンス等を参考にして下さい。						
授業内の課題・提出方法	担当者の指示に従って下さい。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	担当者の指示に従って下さい。						
担当者から一言	高等学校までの英語学習とは違った、興味深い教材や授業展開に刺激を受け、全く新しい英語学習を始めましょう。						

授業科目名	基礎英語Ⅱ			科目コード	171102	授業コード	113501
担当教員	ゴードン リース			科目ナンバリング	GEL1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	英語力を総合的に高めることを第1のねらいにしています。2つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解力を磨き、自国文化との比較を通して、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。3つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することにもねらいとしています。						
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上に英語学習を通して貢献することを目標にしています。						
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当者が異なります。各講座によります。（下記は例） 第1講義 ガイダンス 及び Unit 1 第2講義 Unit 2 以下 第15講義まで同じ展開						
テキスト・教材（参考文献含む）	それぞれの担当者がテキスト・教材を具体的に指示します。						
事前・事後学習	担当者の指示に従って下さい。						
成績評価方法	担当者のガイダンス等を参考にして下さい。						
授業内の課題・提出方法	担当者の指示に従って下さい。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	担当者の指示に従って下さい。						
担当者から一言	世界の共通言語である英語の総合的な力（聴く、話す、読む、書く）を高めるため、大学から新たな英語学習を始める、という気持ちで受講して下さい。						

授業科目名	基礎日本語 I			科目コード	171103	授業コード	113107
担当教員	安田 由紀子			科目ナンバリング	GEL9001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能-読む、書く、聞く、話す-を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業で必要となる専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。						
到達目標	この授業では大学の授業で必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、授業に積極的に参加するために必要となる日本語能力を身につけることを、到達目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス レポート作成の基礎、読解、語彙① 第2講 レポート作成、読解、語彙② 第3講 レポート作成、読解、語彙③ 第4講 レポート作成、読解、語彙④ 第5講 能力試験対策模擬試験①、② 第6講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第12講 能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第13講 レポート作成、読解、語彙⑤ 第14講 レポート作成、読解、語彙⑥ 第15講 レポート作成、読解、語彙⑦ 定期試験 ※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『読解厳選テーマ10 [中、中上級]』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』" 有田 『1回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺						
事前・事後学習	N1までの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ予習をしておくこと（90分） 授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと（90分）						
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。						

授業科目名	基礎日本語Ⅱ			科目コード	171104	授業コード	113507
担当教員	安田 由紀子			科目ナンバリング	GEL9002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能-読む、書く、聞く、話す-を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に「聞く・話す」に焦点を当てて強化をはかります。聞いたことを理解するにとどまらず、相手の言いたいことをはかり、それを受けて返事をしたり行動したりする能力を身につけることがねらいです。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。						
到達目標	この授業では、「聞く・話す」ことより相手の伝えたいことをくみ取り、どんな場合にでも対応できるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。						
授業計画	第1講 合同ガイダンス（クラス分け日本語テストも含む） 第2講 日本を知る 議論、発表① 語彙学習① 第3講 能力試験対策模擬試験①、② 第4講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第5講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第6講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 日本を知る 議論、発表③ 語彙学習③ 第12講 日本を知る 議論、発表④ 語彙学習④ 第13講 日本を知る 議論、発表⑤ 語彙学習⑤ 第14講 日本を知る 議論、発表⑥ 語彙学習⑥ 第15講 日本を知る 議論、発表⑦ 語彙学習⑦ 定期試験 ※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『読解厳選テーマ10 [中、中上級]』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』" 有田 『1回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺						
事前・事後学習	N1 向まで問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ予習をしておくこと（90分） 授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと（90分）						
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。						

授業科目名	英語コミュニケーション I	科目コード	171105	授業コード	111201
担当教員	ゴードン リース	科目ナンバリング	GEL1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	The main overall goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. The text that will be utilized provides a framework for developing communication skills and increasing vocabulary.				
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。				
授業計画	1. Guidance, Greetings and Introductions 2. Unit 1- Where are you from? Subject-Verb Agreement 主語と動詞の一致 3. Unit 1- Where are you from? Subject-Verb Agreement 主語と動詞の一致 4. Unit 2- How are you doing? Be Verbs & Do Verbs Be 動詞と一般動詞0 5. Unit 2- How are you doing? Be Verbs & Do Verbs Be 動詞と一般動詞0 6. Unit 3- How many classes do you have? Countable Nouns 数えられる名詞 7. Unit 3- How many classes do you have? Countable Nouns 数えられる名詞 8. Unit 4- How much food do you need for your party? Uncountable Nouns 数えられない名詞 9. Unit 4- How much food do you need for your party? Uncountable Nouns 数えられない名詞 10. Unit 5- How many people are there in your family? There is / There are / It is / They are 「ある」「いる」の表現と It is / They are との違い 11. Unit 5- How many people are there in your family? There is / There are / It is / They are 「ある」「いる」の表現と It is / They are との違い 12. Final presentation- preparation 13. Final presentation- preparation 14. Final presentation- preparation 15. Final presentation- 定期試験				
テキスト・教材（参考文献含む）	Project English Vivian Morooka Nanundo 9784523179368				
事前・事後学習	In addition to homework, after each class spend about 60 minutes reviewing class handouts, and textbook exercises covered in the lesson. Also, spend about 30 minutes reading ahead in the text and preparing for the following lesson.				
成績評価方法	学習態度 30% 課題・小テスト 30% スピーキングテスト・スキット 20% 定期試験 20% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。				
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。				
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 1. 5回以上欠席すると単位なし。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 3. テキストがないと欠席扱いになります。				

授業科目名	英語コミュニケーション I		科目コード	171105	授業コード	111402
担当教員	青木 陽子		科目ナンバリング	GEL1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	<p>本授業では、「話す」「聞く」「読む」という技能を中心に、英語コミュニケーション能力の習得を目指します。</p> <p>多様なコミュニケーション手段・媒体における表現方法の違いに着目しながら、英語表現を学びます。具体的に、日常会話、プレゼンテーション、メールでのやり取り、新聞・雑誌・SNS等での言葉の使い方等、様々な場面における英語表現を授業で取り上げます。</p> <p>授業で取り上げた英語表現を実践の場で生かしながら、自分の意見を発信できるように、コミュニケーション能力の向上を目指します。</p>					
到達目標	1. 初級レベルの英語表現を習得すること 2. 多様なコミュニケーション媒体の英語表現を理解すること 3. 自分の意見・考えを英語で発信する力を身につけること					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要、Unit 1 College Life 第2講 Unit 1 College Life 第3講 Unit 2 Future Plans / Jobs 第4講 Unit 2 Future Plans / Jobs 第5講 Unit 3 Part-Time Jobs and Otakatsu 第6講 Unit 3 Part-Time Jobs and Otakatsu 第7講 Unit 4 Movies 第8講 Unit 4 Movies 第9講 Unit 5 Parties and Festivals 第10講 Unit 5 Parties and Festivals 第11講 Unit 6 Friends 第12講 Unit 6 Friends 第13講 Unit 7 Study Abroad / World Englishes 第14講 Unit 7 Study Abroad / World Englishes 第15講 Unit 8 SNS / Fashion / Weather 定期試験					
テキスト・教材（参考文献含む）	塩澤正・Adam Martinelli著「Activator Next 大学生の自信を促す英語コミュニケーション」金星堂（2023年）					
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容について、事前に予習しておくこと（90分） 事後学習：授業で扱ったテキスト及び配布資料を復習しておくこと、授業で出された課題を行うこと（90分）					
成績評価方法	定期試験60%、課題・小テスト20%、学習態度20%					
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業で課題を提出していただきます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 提出された課題は、内容を確認後、次回の授業でフィードバックします。					
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。					

授業科目名	英語コミュニケーション I			科目コード	171105	授業コード	111202
担当教員	樋口 晶子			科目ナンバリング	GEL1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	基礎レベルの英語によるコミュニケーション能力の習得をめざします。相手（「読み手」「聞き手」など）があることを意識した英語の使用を実践的に学びます。スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングの4技能に加え、異文化への理解も深めます。たとえば、映画などの英語を聞き取って内容を理解し、英語及び英語文化の理解を深めます。ペアワーク・グループワークを多く行い、積極的にコミュニケーションを取る姿勢を身につけます。						
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語の4技能を、受講開始時よりも伸ばす。 3. 下手でもいいので、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を習得する。						
授業計画	第1講 ガイダンス Unit 1 What is Important to You? (2-1) 第2講 Unit 1 What is Important to You? (2-2) 第3講 Unit 2 My Morning Routine (2-1) 第4講 Unit 2 My Morning Routine (2-2) 第5講 Unit 3 Your Recommended Restaurant (2-1) 第6講 Unit 3 Your Recommended Restaurant (2-2) 第7講 Unit 4 The Best Film Ever (2-1) 第8講 Unit 4 The Best Film Ever (2-2) 第9講 Unit 5 What is a True Friend? (2-1) 第10講 Unit 5 What is a True Friend? (2-2) 第11講 Unit 6 The Best Pizza in Town (2-1) 第12講 Unit 6 The Best Pizza in Town (2-2) 第13講 Unit 7 An Ideal Private Tour Plan (2-1) 第14講 Unit 7 An Ideal Private Tour Plan (2-2) 第15講 Unit 8 Useful Apps for Your Smartphone 定期試験 テキスト以外にも、適宜プリントや動画などを使用し、上記の単元に関連する内容を補足します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト：『SPEAKING STEPS』（金星堂） 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 英和辞典・和英辞典など、辞書の使用を奨励します。						
事前・事後学習	予習・復習として、毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 50% 定期試験 50% ※出席率は、「学習態度」に含みます。 特に「学習態度」については、コミュニケーションを取る姿勢を習得するという観点から、単に教室にいてだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。（授業に取り組む姿勢については、英語スキルの高さとは別に高く評価します）						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
担当者から一言	学生参加型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。下手でもいいのでコミュニケーション（相互意思疎通）する気持ちを自分から示し、積極的に発言・情報発信してください。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ		科目コード	171106	授業コード	111601
担当教員	ゴードン リース		科目ナンバリング	GEL1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	The main overall goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. The text that will be utilized provides a framework for developing communication skills and increasing vocabulary.					
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。					
授業計画	1. Guidance/Talking about the past/ "How was your vacation?" 2. Unit 6- When is your report due? Cardinal & Ordinal Numbers 数 3. Unit 6- When is your report due? Cardinal & Ordinal Numbers 数 4. Unit 7- How was your weekend? Past Tense 過去形 5. Unit 7- How was your weekend? Past Tense 過去形 6. Unit 8- What time is your first class? Time 時間の表現 7. Unit 8- What time is your first class? Time 時間の表現 8. Unit 9- Have you ever been to Kyoto? Present Perfect 現在完了形 9. Unit 9- Have you ever been to Kyoto? Present Perfect 現在完了形 10. Unit 10- Can I ask you a favor? Auxiliary Verbs 助動詞 11. Unit 10- Can I ask you a favor? Auxiliary Verbs 助動詞 12. Unit 11- I'm going to visit my grandparents. Future Tense 未来形 13. Unit 11- I'm going to visit my grandparents. Future Tense 未来形 14. Final presentation- preparation 15. Final presentations- 定期試験					
テキスト・教材（参考文献含む）	Project English Vivian Morooka Nanundo 9784523179368					
事前・事後学習	In addition to homework, after each class spend about 60 minutes reviewing class handouts, textbook exercises and videos that were covered in the lesson. In addition, spend about 30 minutes reading ahead preparing for the following class.					
成績評価方法	学習態度 30% 課題・小テスト 30% スピーキング・テスト(2) 20% 定期試験 20% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。					
授業内の課題・提出方法	クラスの担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。					
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 1. 5回以上欠席すると単位なし。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 3. テキストがないと欠席扱いになります。					

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ			科目コード	171106	授業コード	111802
担当教員	青木 陽子			科目ナンバリング	GEL1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業は、「英語コミュニケーションⅠ」からの継続授業です。「話す」「聞く」「読む」という技能を中心に、英語コミュニケーション能力の習得を目指します。多様なコミュニケーション手段・媒体における表現方法の違いに着目しながら、英語表現を学びます。具体的に、日常会話、プレゼンテーション、メールでのやり取り、新聞・雑誌・SNS等での言葉の使い方等、様々な場面における英語表現を授業で取り上げます。授業で取り上げた英語表現を実践の場で生かしながら、自分の意見を発信できるように、コミュニケーション能力の向上を目指します。						
到達目標	1. 初級レベルの英語表現を習得すること 2. 多様なコミュニケーション媒体の英語表現を理解すること 3. 自分の意見・考えを英語で発信する力を身につけること						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要、Unit 8 SNS / Fashion / Weather 第2講 Unit 9 Cultures / Idols / Anime 第3講 Unit 9 Cultures / Idols / Anime 第4講 Unit 10 Music 第5講 Unit 10 Music 第6講 Unit 11 Relationships 第7講 Unit 11 Relationships 第8講 Unit 12 Travelling Overseas 第9講 Unit 12 Travelling Overseas 第10講 Unit 13 Shopping 第11講 Unit 13 Shopping 第12講 Unit 14 Social Media 第13講 Unit 14 Social Media 第14講 Unit 15 SDGs 第15講 Unit 15 SDGs 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	塩澤正・Adam Martinelli著「Activator Next 大学生の自信を促す英語コミュニケーション」金星堂（2023年）						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容について、事前に予習しておくこと（90分） 事後学習：授業で扱ったテキスト及び配布資料を復習しておくこと、授業で出された課題を行うこと（90分）						
成績評価方法	定期試験60%、課題・小テスト20%、学習態度20%						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞ 毎回の授業で課題を提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞ 提出された課題は、内容を確認後、次回の授業でフィードバックします。						
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ		科目コード	171106	授業コード	111602
担当教員	樋口 晶子		科目ナンバリング	GEL1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	「英語コミュニケーションⅠ」で修得した英語によるコミュニケーション能力をさらに磨きます。相手があることを意識した実践的な英語スキル（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）に加え、異文化理解もさらに深めます。たとえば、映画などの英語を聞き取って内容を理解し、英語及び英語文化の理解を深めます。ペアワーク・グループワークを多く行い、学生同士が積極的にコミュニケーションを取る姿勢を身につけます。意欲のある学生には、英語資格試験（TOEIC、英検等）への挑戦を期待します。					
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語の4技能を、受講開始時よりも伸ばす。 3. 下手でもいいので、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を習得する。					
授業計画	第1講 ガイダンス Unit 8 Useful Apps for Your Smartphone 第2講 Unit 9 A Proposal for New Flavors (2-1) 第3講 Unit 9 A Proposal for New Flavors (2-2) 第4講 Unit 10 A Great Figure in the Business World (2-1) 第5講 Unit 10 A Great Figure in the Business World (2-2) 第6講 Unit 11 Cheese for Uncle David -Comedy- (2-1) 第7講 Unit 11 Cheese for Uncle David -Comedy- (2-2) 第8講 Unit 12 The Babysitter #1 -Horror- (2-1) 第9講 Unit 12 The Babysitter #1 -Horror- (2-2) 第10講 Unit 13 The Babysitter #2 -Horror- (2-1) 第11講 Unit 13 The Babysitter #2 -Horror- (2-2) 第12講 Unit 14 Unsent Letter #1 -Romance- (2-1) 第13講 Unit 14 Unsent Letter #1 -Romance- (2-2) 第14講 Unit 15 Unsent Letter #2 -Romance- (2-1) 第15講 Unit 15 Unsent Letter #2 -Romance- (2-2) 定期試験 テキスト以外にも、適宜プリントや動画などを使用し、上記の単元に関連する内容を補足します。					
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト：『SPEAKING STEPS』（金星堂）【「英語コミュニケーションⅠ」と同じ】 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 英和辞典・和英辞典など、辞書の使用を奨励します。					
事前・事後学習	予習・復習として、毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。					
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 50% 定期試験 50% ※出席率は、「学習態度」に含みます。 特に「学習態度」については、コミュニケーションを取る姿勢を習得するという観点から、単に教室にいただけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。（授業に取り組む姿勢については、英語スキルの高さと別が高く評価します）					
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。					
担当者から一言	「英語コミュニケーションⅠ」と同様に、学生参加型の授業です。下手でもいいので、積極的にコミュニケーションする姿勢を身につけてください。出席しても授業に積極的に参加しない場合は、評価しません。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。					

授業科目名	中国語 I			科目コード	171107	授業コード	111203
担当教員	加納 光			科目ナンバリング	GEL1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	この授業では、「音声」「語彙」「文法」「表現」の各分野における基礎学習を通し、中国語の基礎的な運用能力を養成します。学期の前半は、主に「音声面」に重点を置き、声調（高低アクセント）と400余りの音節を正しく発音できるようにします。それを踏まえ、学期の後半から中国語の初級レベルの「語彙」「文法」「表現」を学習します。言語事情のほか、中国の社会や文化に関する解説も行い、中国および中国語に対する理解を深めることが、この授業のねらいです。なお、中国語母語話者の受講はできません。						
到達目標	この授業では、言語活動の中心をなす「話す」「聴く」「読む」の三要素の反復練習に多くの時間を費やしなが、中国語の基礎をしっかりと身につけていきます。簡単な日常会話を話すことのできる初級レベルの語学力の習得を、この授業の到達目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要、中国語概要 1 第2講 中国語概要 2、中国概況 1 第3講 声調（4）と単母音（7）の発音、概況 2 第4講 複合母音（13）の発音、概況 3 第5講 鼻母音（16）の発音、概況 4 第6講 子音（21）の発音、概況 5 第7講 発音、表記上の規則、概況 6 第8講 発音のまとめ、小テスト、概況 7 第9講 どうぞよろしく（point 1～4）、概況 8 第10講 お名前は（point 1～4）、概況 9 第11講 ご出身は（point 1～4）、概況 10 第12講 飲み物は（point 1～4）、概況 11 第13講 おいくつ（point 1～4）、概況 12 第14講 和食はいかが（point 1～4）、概況 13 第15講 復習、概況 14 定期試験 注 授業内容、進度については、状況に応じて変更することもあります。毎回の発音・表現練習には積極的にチャレンジしてください。						
テキスト・教材（参考文献含む）	1）教材：相原茂他『日中いぶこみ交差点（エッセンシャル版）』（朝日出版）2, 400円＋税 2）参考書：『WHY? に答えるはじめての中国語の文法書』（相原茂） 3）辞書：『簡約現代中国語辞典』（光生館）						
事前・事後学習	毎回与えられる復習（90分）、予習（90分）のための課題や宿題を欠かさずに行い、中国語の基礎を着実に固めていってください。						
成績評価方法	①定期試験60% ②小テスト20% ③課題、宿題（評価した後返却します）20%により総合的に評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内の課題など提出方法はMoodleか、あるいは次回の授業時に直接手渡し of のいずれかの方法により提出していただきます。どちらの方法にするかは、授業の際に、そのつど指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	平常授業中に行われる書き取りテストは採点后返却し、フィードバックします。課題などの提出物も状況に応じて返却しフィードバックする予定です。						
担当者から一言	本講義では、平常授業中、ほぼ毎回書き取りテストを行い、会話暗記などの課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。必ずテキストを用意してください。						

授業科目名	中国語 I	科目コード	171107	授業コード	111403
担当教員	吉山 青翔	科目ナンバリング	GEL1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	本講義は中国語をゼロから始める中国語初心者に向け、国連など国際会議で公用語と指定されている中国語の標準語（＝普通話）の基本発音・基本文法・基本語彙・基本文型と、中国語日常会話の基本的なスキル、及び中国文化との一体化的な中国語学習を目指します。				
到達目標	中国語の門に入り、より中国語を学ぶための基礎を据えることができるでしょうし、そして、国際感覚の養成にも役に立つでしょう。				
授業計画	第1講 ガイダンス、中国語と日本語の相違点 第2講 中国語発音 1、あいさつの表現 1 第3講 復習と小テスト、中国語発音 2、あいさつの表現 2 第4講 復習と小テスト、中国語発音復習、中国語による唐詩鑑賞 第5講 中国語人称代名詞、語順、「Yes/No式疑問文」、「是」の用法 第6講 復習と小テスト、会話「我是日本人」（私は日本人です） 第7講 中国語の「Wh式疑問文 1」、「什么」、名前の名乗りかたと尋ねかた 第8講 復習と小テスト、会話「我姓小林」（小林と申します） 第9講 中国語の指示代名詞、動詞述語文、「的・都・也」の用法 第10講 復習と小テスト、会話「妈妈也是老师」（母親も教師です） 第11講 中国語の「Wh式疑問文 2」「動詞否定表現」、「打算」「想」「喜欢」の用法 第12講 復習と小テスト、会話「你想不想吃蛋糕」（ケーキを食べたくありませんか） 第13講 中国語の数詞量詞表現、年齢の言い方、「有」の用法 第14講 復習と小テスト、会話「我今年十九岁，有一个弟弟」 第15講 総括				
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト： 相原茂他『日中いぶこみ交差点』（朝日出版社、2019年） 参考文献 王青翔（＝吉山青翔）・栄隈真人司共著『徹底復習式 きょう忘れてもあした覚える 実用中国語』（東洋書店、2013年）				
事前・事後学習	授業前に90分ほどをかけて予習し、授業後にも90分ほどをかけて復習してください。				
成績評価方法	平常授業中に行われる書き取りテストなど（40点）、期末定期試験（60点）の出来具合により総合評価。				
授業内の課題・提出方法	単語の書き取りテスト、会話練習を行います。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	文法・文型・翻訳などの宿題を確認したうえ、返却し、授業中講評します。				
担当者から一言	本講義では、平常授業中、ほぼ毎回書き取りテストを行い、会話暗記などの課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。必ずテキストを用意してください。				

授業科目名	中国語Ⅱ			科目コード	171108	授業コード	111603
担当教員	加納 光			科目ナンバリング	GEL1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	<p>この授業は中国語Ⅰを継続するものです。中国語Ⅰと同様、「書く」「聞く」「話す」の反復練習を通して、中国語の基礎学力の習得を目指します。また、引き続き、中国語初級文法の学習を進め、中国語の基礎固めをしていきます。</p> <p>コミュニケーション能力の向上を目指し、初級語彙および初級文法を取り入れた会話練習に多く時間を割く予定です。中国語に対する理解をさらに深め、中国語の運用能力に磨きをかけることを、この授業のねらいとします。なお、中国語母語話者の受講はできません。</p>						
到達目標	中国語の初級レベルの内容を理解し、それを書いたり、話したりすることができるようになることが、この授業の達成目標です。						
授業計画	<p>「中国語Ⅰ」からの継続</p> <p>第1講：ガイダンス、授業の概要、家庭訪問（1）</p> <p>第2講：家庭訪問（2）、買い物（1）</p> <p>第3講：買い物（2）、道案内（1）</p> <p>第4講：道案内（2）、中秋節（1）</p> <p>第5講：中秋節（2）、食事の前は（1）</p> <p>第6講：食事の前は（2）、第1～5講の復習（1）</p> <p>第7講：第1～5講の復習（2）</p> <p>第8講：手作り料理（1）</p> <p>第9講：手作り料理（2）、カニの季節（1）</p> <p>第10講：カニの季節（2）、スキー場で（1）</p> <p>第11講：スキー場で（2）、おみやげ（1）</p> <p>第12講：おみやげ（2）、空港まで（1）</p> <p>第13講：空港まで（2）、第6～12講の復習（1）</p> <p>第14講：第6～12講の復習（2）</p> <p>第15講：総復習とまとめ</p> <p>定期試験</p> <p>注 授業内容、進度はクラスの状態に応じて、変更する場合があります。 毎回実施する、発音、会話練習には積極的にチャレンジしてください。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>1）教 材：『日中いぶこみ交差点 エッセンス版』（朝日出版社）、相原茂 他</p> <p>2）副教材：『中国語の文法書』（同学社）</p> <p>3）辞 書：『中国語辞典』（光生館）</p> <p>4）参考書：『中国語はじめての一步』（ちくま新書）</p>						
事前・事後学習	授業の予習、復習、課題、宿題は必ず行ってください（予習90分＋復習90分）。加えて日頃から、中国語を聴いたり、話したりするように心がけてください（毎日30分以上）。						
成績評価方法	学期末試験60%、小テスト20%、課題、宿題（採点后返却します）20%をもとにして、総合的に評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内の課題や宿題は、Moodleないしは次回の授業の際に直接手渡し、いずれかの方法により提出していただきます。いずれの方法かは、授業時にその都度指示をします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題、宿題などの提出物は採点后返却しフィードバックします。						
担当者から一言	予習、復習を欠かさないようにして積極的に講義に臨んでください。常に旺盛な勉学意欲を忘れずに、中国、中国語に対する興味、関心を持ち続けていってください。なお、授業中の私語、中座は原則禁止します。						

授業科目名	中国語Ⅱ			科目コード	171108	授業コード	111803
担当教員	吉山 青翔			科目ナンバリング	GEL1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本講義は中国語の入門編ではなく、すでに中国語の入門程度の知識を修得した学習者に向け、前学期で開講した「中国語Ⅰ」に続き、基礎中国語の学習を展開します。						
到達目標	前学期の「中国語Ⅰ」と合わせて履修すれば、中国語をより学ぶための文法的な基礎と中国語会話の基本的なスキルを身につけることができるでしょう。						
授業計画	第1講 ガイダンス、中国語Ⅰの復習 第2講 中国語の選択疑問文、形容詞述語文、動詞過去経験表現、「还是」の用法 第3講 復習と小テスト、会話「你吃过日本料理吗」 第4講 中国語述語文、比較の表現、助動詞「要」の用法、前置詞「跟」の用法 第5講 復習と小テスト、会話「你比照片漂亮」 第6講 中国語助動詞「可以」、動詞の重ね型、方向補語、連動文、お金の言い方 第7講 復習と小テスト、会話「这个多少钱」 第8講 中国語の動作の完了実現表現「了」、前置詞「从」「得」「在」の用法 第9講 復習と小テスト、会話「去北京站怎么走」 第10講 中国語年月日曜日の言い方、状態変化と新事態発生の表現 第11講 復習と小テスト、会話「今天几月几号」 第12講 中国語辞書の使い方 第13講 中国語総合チャレンジ「閲覧と翻訳」1 ユーモア：「助听器」「二十年后的我」 第14講 中国語総合チャレンジ「閲覧と翻訳」2 漫画：「考试」「外面吃」 第15講 総復習						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト 相原茂他『日中いぶこみ交差点』（エッセンシャル版）（朝日出版社、2019年） 参考資料 王青翔（＝吉山青翔）・栄隈真人司共著『徹底復習式 きょう忘れてもあした覚える 実用中国語』（東洋書店、2013年）						
事前・事後学習	授業前に90分ほどをかけて予習して、授業後にも90分ほどをかけて復習してください。						
成績評価方法	平常授業中に行われる書き取りテスト等（40）と期末定期試験（60点）の出来具合により総合評価。						
授業内の課題・提出方法	単語の書き取りテスト・会話練習・丸暗記を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	文法・文型に関する宿題を確認したうえで、返却し、授業中講評します。						
担当者から一言	本講義では平常授業中にほぼ毎回書き取りテストを行い、会話など暗記課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。必ずテキストを用意してください。						

授業科目名	ポルトガル語 I			科目コード	171109	授業コード	111404
担当教員	フェリペ フェハリー			科目ナンバリング	GEL1007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係（日本-ブラジル間の交流関係）の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地（約150万の日経ブラジル人がいます）です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。						
到達目標	ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。 ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 アルファベットと発音 第3講 挨拶と自己紹介 第4講 名詞の性と数 第5講 冠詞と数字 第6講 ser動詞（1） 第7講 ser動詞（2） 第8講 所有表現（1） 第9講 所有表現（2） 第10講 所有表現（3） 第11講 gostar動詞 第12講 規則動詞（1） 第13講 規則動詞（2） 第14講 規則動詞（3） 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	Vamos falar Português - Edição Revisada 『ブラジルポルトガル語を話そう！改訂版』 重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari（朝日出版社） （2, 300円＋税）ISBN 978-4-255-55505-8						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで、授業で出された課題や宿題を行う（毎週約60分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 小テスト：20% 定期試験：50%						
授業内の課題・提出方法	授業で宿題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業で宿題のチェックを行います。						
担当者から一言	ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう！						

授業科目名	ポルトガル語Ⅱ			科目コード	171110	授業コード	111804
担当教員	フェリペ フェハリー			科目ナンバリング	GEL1008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業は前学期の「ポルトガル語Ⅰ」の続きです。日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係（日本－ブラジル間の交流関係）の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地（約150万の日経ブラジル人がいます）です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。						
到達目標	ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。 ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。						
授業計画	第1講 前期の総合復習 第2講 前置詞 第3講 不規則動詞：ir 第4講 不規則動詞：terとfazer 第5講 不規則動詞：poder 第6講 不規則動詞：querer 第7講 estar動詞 第8講 ser動詞とestar動詞の違い 第9講 現在分詞と現在進行形 第10講 規則動詞の過去形（1） 第11講 規則動詞の過去形（2） 第12講 規則動詞の過去形（3） 第13講 様々な表現（1） 第14講 様々な表現（2） 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	Vamos falar Português - Edição Revisada 『ブラジルポルトガル語を話そう！改訂版』 重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari（朝日出版社） （2, 300円＋税）ISBN 978-4-255-55505-8						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで、授業で出された課題や宿題を行う（毎週約60分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 小テスト：20% 定期試験：50%						
授業内の課題・提出方法	授業で宿題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業で宿題のチェックを行います。						
担当者から一言	ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう！						

授業科目名	日本語中級 I			科目コード	171113	授業コード	115303
担当教員	安田 由紀子			科目ナンバリング	GEL9003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能—読む、書く、聞く、話す—を学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、読解能力の強化をおこないます。与えられた読み物より内容を読み取り、文章の意図を考え、内容分析を進めていきます。						
到達目標	著書やメールや手紙など、活字での提示の場合の内容理解を深め、相手の言いたいことをはかり知る能力を身につけることを目標とする。						
授業計画	第1講 合同ガイダンス 第2講 文章読解① 語彙学習① 第3講 文章読解② 語彙学習② 第4講 文章読解③ 語彙学習③ 第5講 文章読解④ 語彙学習④ 第6講 文章読解⑤ 語彙学習⑤ 第7講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第12講 文章読解⑥ 語彙学習⑥ 第13講 文章読解⑦ 語彙学習⑦ 第14講 文章読解⑧ 語彙学習⑧ 第15講 文章読解⑨ 語彙学習⑨ 定期試験 * 授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験 のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習して いきます。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子ほか著 『日本語能力試験問題集 N1（N2）語彙 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。						
事前・事後学習	読み物にはいろいろな専門用語をはじめとする語彙、文法などが織り込まれています。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりとめておきましょう（90分）。						
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点后返却します）50%、期 末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを 心がけること。 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、 原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。						

授業科目名	日本語中級Ⅱ			科目コード	171114	授業コード	115703
担当教員	安田 由紀子			科目ナンバリング	GEL9004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能—読む、書く、聞く、話す—を学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、読解能力の強化をおこないます。与えられた読み物より内容を読み取り、文章の意図を考え、内容分析を進めていきます。						
到達目標	著書やメールや手紙など、活字での提示の場合の内容理解を深め、相手の言いたいことを活字からはかり知る能力を身につけることを目標とする。						
授業計画	第1講 合同ガイダンス 第2講 文章読解① 語彙学習① 第3講 文章読解② 語彙学習② 第4講 文章読解③ 語彙学習③ 第5講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第6講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 文章読解④ 語彙学習④ 第11講 文章読解⑤ 語彙学習⑤ 第12講 文章読解⑥ 語彙学習⑥ 第13講 文章読解⑦ 語彙学習⑦ 第14講 文章読解⑧ 語彙学習⑧ 第15講 文章読解⑨ 語彙学習⑨ 定期試験 ＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験 のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習して いきます。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子（ほか著）『日本語能力試験問題集 N1（N2）語彙 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子（ほか著） その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。						
事前・事後学習	読み物にはいろいろな専門用語をはじめとする語彙、文法などが織り込まれています。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりとめておきましょう（90分）。						
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点后返却します）50%、期 末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを 心がけること。 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、 原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。						

授業科目名	日本語上級 I			科目コード	171115	授業コード	113201
担当教員	加納 光			科目ナンバリング	GEL9005		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能—読む、書く、聞く、話す—を学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、新聞やインターネットなどの情報をもとに、より高度な読解能力を身につけることを、そのねらいとします。また、就職後に役立つ日本語の応用能力も高めていきます。						
到達目標	この授業では、雑誌、新聞、インターネットなどのより高度な情報を読み、その内容が理解できるようになることを、到達目標とします。 （＊日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる）						
授業計画	第1講 合同ガイダンス （クラス分けアンケートも含む） 第2講 文章読解① 語彙学習① 第3講 文章読解② 語彙学習② 第4講 文章読解③ 語彙学習③ 第5講 文章読解④ 語彙学習④ 第6講 文章読解⑤ 語彙学習⑤ 第7講 文章読解⑥ 語彙学習⑥ 第8講 文章読解⑦ 語彙学習⑦ 第9講 文章読解⑧ 語彙学習⑧ 第10講 文章読解⑨ 語彙学習⑨ 第11講 文章読解⑩ 語彙学習⑩ 第12講 文章読解⑪ 語彙学習⑪ 第13講 文章読解⑫ 語彙学習⑫ 第14講 文章読解⑬ 語彙学習⑬ 第15講 文章読解⑭ 語彙学習⑭ まとめ 定期試験 ＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験 のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習して いきます。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子（ほか著）『日本語能力試験問題集 N1（N2）読彙 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子（ほか著、その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。						
事前・事後学習	授業で扱う新聞記事やインターネットニュースなどについて、事前に 内容を確認したり、関連記事を読んでおくようにするなど、授業に臨 むにあたり十分な準備をおこなうこと（90分）。授業後は、内容を振り返り、問題点や不明点などをもう一度調べ直し、理解を深めておくこと（90分）。						
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点后返却します）50%、期 末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	授業での課題はMoodle、あるいは授業の際直接手渡しで返却する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業での小テスト、課題は採点后返却します。						
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを 心がけること。遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、 原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。						

授業科目名	日本語上級Ⅱ			科目コード	171116	授業コード	113601
担当教員	加納 光			科目ナンバリング	GEL9006		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能—読む、書く、聞く、話す—を学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、新聞やインターネットなどの情報をもとに、より高度な読解能力を身につけることを、そのねらいとします。また、就職後に役立つ日本語の応用能力も高めていきます。						
到達目標	この授業では、雑誌、新聞、インターネットなどのより高度な情報を読んで、その内容が理解できるようになることを、到達目標とします。 （＊日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる）						
授業計画	第1講 合同ガイダンス（クラス分けアンケートも含む） 第2講 文章読解① 語彙学習① 第3講 文章読解② 語彙学習② 第4講 文章読解③ 語彙学習③ 第5講 文章読解④ 語彙学習④ 第6講 文章読解⑤ 語彙学習⑤ 第7講 文章読解⑥ 語彙学習⑥ 第8講 文章読解⑦ 語彙学習⑦ 第9講 文章読解⑧ 語彙学習⑧ 第10講 文章読解⑨ 語彙学習⑨ 第11講 文章読解⑩ 語彙学習⑩ 第12講 文章読解⑪ 語彙学習⑪ 第13講 文章読解⑫ 語彙学習⑫ 第14講 文章読解⑬ 語彙学習⑬ 第15講 文章読解⑭ 語彙学習⑭ まとめ 定期試験 ＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験 のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習して いきます。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 『日本語能力試験問題集 N1（N2）読彙 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。						
事前・事後学習	授業で扱う新聞記事やインターネットニュースなどについて、事前に 内容を確認したり、関連記事を読んでおくようにするなど、授業に臨 むにあたり十分な準備をおこなうこと（90分）。授業後は、内容を振り返り、問題点や不明点などをもう一度調べ直し、理解を深めておくこと（90分）。						
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点后返却します）50%、期 末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	授業での課題はMoodle、あるいは授業内に直接手渡しで提出していただきます。どの方法によるのかは、その都度指示をします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の課題は採点后返却します。						
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを 心がけること。 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、 原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。						

授業科目名	コンピュータリテラシー			科目コード	171201	授業コード	112301
担当教員	田中 伊知郎			科目ナンバリング	GEI1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	4.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	コンピュータの実習を中心とした授業です。コンピュータの「読み書き能力」の習熟に重点を置きます。 具体的には、仕事をする上でよく使われているワープロと表計算ソフトを中心に実習します。授業は、実際にデータを入力して加工する実習を主体に行います。教員が質問に答えて個別指導を行う形で実習は進みます。毎回実習の提出物がありますから、それで習熟度がチェックされます。						
到達目標	ワープロソフトWord2021と表計算ソフトExcel2021の基本的な機能に習熟し、ビジネス文書の作成ができるようになること。 両者を連携し、ネット検索した情報をグラフにまとめ、グラフ入りの説得力の高い文書ができるようにします。						
授業計画	第1講 ガイダンスとテストによるコンピュータ習熟度の判別 第2講 Word①：文字の入力 第3講 Word②：文書の作成 第4講 Word③：編集・表の作成・画像の挿入 第5講 Word④：自分で調べたレポートの作成 第6講 メール：携帯メールとの連携・他の授業を含めた課題提出の仕方 第7講 メール：エチケット 第8講 Excel①：データの入力、ワークシートの編集 第9講 Excel②：グラフの作成 第10講 Excel③：グラフの編集と表計算 第11講 Excel④：基本的な関数と条件関数 第12講 Excel⑤：データベース機能 第13講 Excel⑥：Wordとの連携：グラフ入りレポートの作成 第14講 自分で調べて、グラフ入りレポートを作る。 第15講 PowerPoint：利用法とプレゼンテーションの実践						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト（必須）「30時間でマスターWord&Excel 2021」実教出版 1000円 教科書が無いと実習が出来ません。						
事前・事後学習	習うより慣れろという内容なので授業に毎回出席して実習に励んでください。また、Office 365のスマホ版の使い方も教授しますので、スマホや自宅のPCでも学習(30分ほどの復習を週2回行うのが効率的)を進めるようにしてください。						
成績評価方法	実習は、印刷して完了しますので、その印刷物を毎回採点して、その合計点が成績となります。定期テストは行いません。						
授業内の課題・提出方法	印刷物として、授業末に提出します。オンラインになった場合は、メール等での提出も可能とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、そこを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	コンピュータ教室での実習を中心とした科目です。毎回の授業は前回までの授業の積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が難しくなるので、できるだけ、毎回出席してください。						

授業科目名	情報倫理			科目コード	171202	授業コード	111608
担当教員	田中 伊知郎			科目ナンバリング	GEI1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	インターネットとネット上の各種サービスの発展により、世界中の人々が直接に繋がる新しい社会が形成され、またデジタル技術の進展により、高品位の著作物を皆で共有し楽しめるようになりました。ネット上に出来たこの新しい社会は人間社会を根本から変えようとしていますが、情報の非対称性の問題が生じ、ネットに詳しくない人が被害を受けるようになっています。この状況での守り方を身につけてもらいます。						
到達目標	自己に関する情報の使用は自分自身が決めるプライバシーの原則をどのように守るかの理解と、創造物(著作物)は対価を払い、有料で使うことが、創造の発展につながることを実践を理解してもらいます。						
授業計画	第1講 ガイダンス：IT環境での守り方) 第2講 ネット産業の繁栄その裏側 第3講 不正を働く者の実態 第4講 ウィルスなど不正を働く者への対抗 第5講 通信販売と個人認証：特に、生体認証 第6講 暗号の限界：通信販売の利用の目安 第7講 現代の情報の性質 第8講 プライバシーの原則 第9講 購買履歴分析 第10講 ターゲット広告の拒絶 第11講 創造物の有料利用：著作権 第12講 創造物の二次使用：著作権の保護 第13講 恣意的情報への対処：なぜ広告はすたれたのか 第14講 メディアリテラシー 第15講 まとめ 定期試験 持ち込み不可						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントをつけて、合格するまでやり直してもらいます。実践課題60% 定期試験 40%						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	情報の非対称性から、ネットに詳しい人は、簡単にいろいろな情報を手にできますが、それは他の人のプライバシーを侵す危険があります。そのことをしっかり意識してもらいます。						

授業科目名	情報科学	科目コード	171203	授業コード	114301
担当教員	池田 幹男	科目ナンバリング	GEI1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	近年、デジタル化の急速な発展とインターネットによる高速な情報拡散によって、情報処理は急速に変化してきました。情報処理について理解することがますます重要になってきています。この授業では、パーソナルコンピュータ、スマートフォン、インターネットなどで行われている情報通信の現在の状況を学びます。				
到達目標	現代の情報処理技術の概要を理解する。				
授業計画	第1講 ガイダンス 人間はどうやって情報を伝えているか 第2講 情報メディア 第3講 身の回りの情報機器 第4講 コンピュータシステム 第5講 文字符号化 第6講 アナログからデジタルへ 第7講 マルチメディア（オーディオ、画像、ビデオ） 第8講 インターネット 第9講 WWW 第10講 SNS 第11講 ビッグデータと人工知能 第12講 生体認証 第13講 暗号化とセキュリティ 第14講 デジタルトランスフォーメーション（DX） 第15講 情報処理の将来 定期試験				
テキスト・教材（参考文献含む）	指定しない。教材はMoodleを通じて呈示します。				
事前・事後学習	教育支援システム(Moodle)に呈示されている資料や参考サイトを見て予習(90分)し、インターネットを通じて関連項目を調査して復習(90分)します。				
成績評価方法	教育支援システム(Moodle)を使用したディスカッション等での授業参加 30%、Moodleでの課題小テスト30%、定期テスト40%で評価します。				
授業内の課題・提出方法	Moodleを通じて、ディスカッションしたり、課題を提出したりします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて評価等のフィードバックします。				
担当者から一言	情報通信の発展と変化は非常に速いので、常に変化に対応できるように情報を集めるように心がけてください。				

授業科目名	情報と職業			科目コード	171204	授業コード	111208
担当教員	井岡 幹博			科目ナンバリング	GEI1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本講義では、事例を通して情報システムと社会とのかかわり方を学び、情報システム関連の職業に関する職業観を持つことを目的とします。そのために、コンピュータやネットワークが社会インフラやビジネスの場面で、どのように活用されているかを学びます。情報システムの発達により、社会の仕組みや仕事の仕方が変わる中で、人間社会とコンピュータ、ネットワークとの望ましい関係も考えていきたいと思います。						
到達目標	ITパスポート試験のストラテジ系およびマネジメント系の問題を解けるレベルを目指す。						
授業計画	第1講：ガイダンス、iPhoneのビジネスモデル 第2講：情報のデジタル化 第3講：インターネット 第4講：インターネットビジネス アマゾン 第5講：インターネットビジネス アマゾンと楽天のビジネスモデルの違い 第6講：デジタル社会と製造 SCM① 第7講：デジタル社会と製造 SCM② 第8講：知的財産権とビジネス 産業財産権 第9講：知的財産権とビジネス 著作権 第10講：情報セキュリティ① 第11講：情報セキュリティ② 第12講：自動識別技術 第13講：Googleのビジネスモデル 第14講：GAFAと個人情報保護 第15講：まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリント配布。						
事前・事後学習	情報技術およびその利用に関する新聞記事の熟読（予習90分）。各回で課されるレポート課題を作成すること（復習90分）。						
成績評価方法	レポート50%、定期試験50% レポート課題に問題があればフィードバックします。						
授業内の課題・提出方法	毎回レポート課題を提出してもらいます。提出場所は、Moodleを予定していますので、自己登録してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle内で個別にフィードバックします。						
担当者から一言	急速に進む情報化は、ビジネス環境はもちろん、私たちの生活自体も大きく変え、大きな影響を与えています。ニュース番組などで具体的な例を見ながら、情報システム進化の方向やその影響を一緒に考えましょう。						

授業科目名	アプリケーション演習 I			科目コード	171205	授業コード	113803
担当教員	池田 幹男			科目ナンバリング	GEI1005		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	Word は、卒業後の実社会では必須の道具です。単に文書を作成するだけではない Word の様々な機能が使えるなることを目指します。						
到達目標	Word の便利な新機能を実際に使って、実社会での使い方を身につけることを到達目標とします。さらに、講義を終えれば、MOS Word の資格取得試験の準備が整うようにします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 文書の作成 第3講 文書の管理 第4講 文字・段落の書式設定 第5講 セクションの書式設定 第6講 表やリストの作成と変更 第7講 引用文献 第8講 図表の管理 第9講 文書パーツ 第10講 SmartArt 第11講 画像の挿入 第12講 MOS word 模擬試験問題 1 第13講 MOS word 模擬試験問題 2 第14講 MOS word 模擬試験問題 3 第15講 MOS word 模擬試験問題 4						
テキスト・教材（参考文献含む）	MOS攻略問題集 Microsoft Word 日経BP社 MOS, Office のバージョンによって変わります。						
事前・事後学習	大学や個人所有のPCで、テキストの練習問題の予習・復習およびテキストの模擬試験を繰り返し行ってください。（週180分）						
成績評価方法	毎回の課題（60％）、模擬試験演習（40％）で評価します。定期テストは実施しません。						
授業内の課題・提出方法	Moodle を通じて課題を提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle を通じて適宜、提出物にコメントを付けてフィードバックします。						
担当者から一言	人数制限があるので、初回は必ず出席してください。						

授業科目名	アプリケーション演習Ⅱ			科目コード	171206	授業コード	114111
担当教員	柳澤 翔士			科目ナンバリング	GEI1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	Wordと使いこなす技術は、ビジネスシーンにおいて必須のスキルです。Word2019を使いこなす技術と知識の習得を目指す。						
到達目標	Word2019を実社会で活用できる技術と知識の習得を目標とする。受講後はMOS Word 2019の資格取得を目指せるレベルになることを目指す。						
授業計画	1. ガイダンス・基礎知識 2. 文書の作成 3. 文書の管理 4. 文字・段落の書式設定 5. セクションの書式設定 6. 表やリストの作成と変更 7. 引用文献 8. 図表の管理 9. 文書パーツ 10. SmartArt 11. 画像の挿入 12. MOS word 2019模擬試験問題 1 13. MOS word 2019模擬試験問題 2 14. MOS word 2019模擬試験問題 3 15. MOS word 2019模擬試験問題 4 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります						
テキスト・教材（参考文献含む）	佐藤 薫 著 「MOS攻略問題集Word 365&2019」 日経BP ￥2200						
事前・事後学習	テキストでの予習(90分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)						
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 模擬試験・定期試験60%						
授業内の課題・提出方法	学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。						
担当者から一言	Wordを使った文書作成において必要となる知識・技術について共に学びましょう。						

授業科目名	四日市学			科目コード	171301	授業コード	115201
担当教員	鬼頭 浩文、李 修二、岡 良浩、永井 博			科目ナンバリング	GEC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	この講義は、四日市市を対象として、地域の社会、歴史、文化、自然、産業、環境などの現状を学び、この地域の将来の発展方向を考えることをねらいとしています。四日市を深く知ることを通し、地域社会の抱える課題を見つけ、それを市民・企業・行政などがどのように解決するのか、学んでいきます。また、四日市の伝統・文化・芸術について触れ、多面的に四日市について考える機会とします。なお、フィールドワークでは、交通費や入館料など、2,000円～5,000円ほどが自己負担になります。						
到達目標	講義は9回にわたる様々なテーマの座学、2つのフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、この地域の様子や現在の課題を積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになることです。						
授業計画	第1講(4/7) ガイダンス+フィールドワークの説明(鬼頭) 第2講(4/14) 「地域と宗教的文化・伝統」(李;ゲスト 北島義信) 第3講(4/21) 「四日市公害に向き合う」(鬼頭;ゲスト 四日市公害と環境未来館職員) 第4講(4/28) 「四日市の産業」(岡) 第5講(5/12) 「ふるさと・四日市の文学者たち」(永井) 第6講(5/19) 「四日市の抱える今日的課題～人権問題～」(李) 第7講(5/26) 「四日市の歴史」(永井;ゲスト 四日市市博物館学芸員) 第8講(6/2) 「四日市市の発信～シティプロモーション戦略～」 (鬼頭;ゲスト 四日市市職員) 第9講(6/9) 「四日市の文化財を保存・活用」(鬼頭;ゲスト講師 四日市市職員) 第10～12講 フィールドワーク①「四日市市博物館で学ぶ」 第13～15講 フィールドワーク②「四日市で学ぶ」 * 講師都合や感染の状況によっては、内容が変更になることがあります。 ■10～12週目 フィールドワーク①「四日市市博物館で学ぶ」 6月中旬～7月中旬の間で博物館でのフィールドワークを行い、ワークシートを完成させる。 ■13～15週目 フィールドワーク②「四日市で学ぶ」 6月中旬から7月中旬の間で自由に日程を決め、設定したコースの神社や寺などを街あるきし、指定したチェックポイントで自撮りした写真とレポートをMoodleに提出する。						
テキスト・教材(参考文献含む)	とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。						
事前・事後学習	次回講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報をみる準備学習を約1時間すること。また、講義で配布された資料などを使った振り返り学習も約1時間する。また、フィールドワークに2日間、その課題作成に6時間ほどを要する。						
成績評価方法	成績評価は、1～9週目に課す簡単なリアクションペーパー各200字程度(45%)、2回のフィールドワークに関するレポート(30%)、学期末試験(25%)で総合評価します。						
授業内の課題・提出方法	テーマごとに課題を設定し小レポートを提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通して課題に対するフィードバックをします。						
担当者から一言	四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでほしい。						

授業科目名	地域社会の歴史			科目コード	171302	授業コード	115705
担当教員	浅井 雅			科目ナンバリング	GEC1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	地域の歴史・文化を知ること、政治だけでない人々の営みを理解し、自分たちも未知なる社会に立ち向かう態度を先人たちの経験を追体験することにより養う。						
到達目標	1. 地域社会の歴史・文化に関する知識を身につける。 2. 知識を活用し、発信できる力を身につける。 3. 地域社会から日本や世界の課題を探り、検討する姿勢を身につける。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 時代区分等歴史の基礎知識 3. 考古 4. 古代（1） 5. 古代（2） 6. 中世（1） 7. 中世（2） 8. 中世（3） 9. 近世（1） 10. 近世（2） 11. 近世（3） 12. 近世（4） 13. 近代（1） 14. 近代（2） 15. まとめ 期末レポート						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義資料については、電子もしくは紙で毎回配布する。 参考図書については、授業中に提示する。						
事前・事後学習	事前学習については、新聞の地域面、タウン誌あるいは広報、行政のHP等を通して、日頃から地域情報・地域文化に関する情報に触れ、考える機会を設けること。（60分） 事後学習については毎回の講義に関して不明な点を残さないよう調べておくこと。また、講義に関する事柄を自ら調べ、視野を広げる機会を設けてほしい。（60分）						
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝30% 期末レポート＝70% なお、2/3以上の出席がない場合は採点の対象外とする。（病欠・公欠等は、別途相談のこと。）						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、MoodleにGoogleフォームのリンク先を毎回上げる。 期末レポートもMoodle内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出とのこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（携帯・メールなども含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	市民教育			科目コード	171303	授業コード	115305
担当教員	フェリペ フェハリー			科目ナンバリング	GEC1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	マイケル・サンデルによると、「公共哲学」の目的が日常生活にある政治的及び法的問題や矛盾を見出し、道徳哲学の立場から現代社会を分析することです。本講義の目的は、「哲学」の公共性の歴史の学びながら、倫理的な生活への道具としての「哲学」を考えることです。						
到達目標	哲学の立場から、現代社会の問題を議論すること。						
授業計画	第1講 ガイダンス・「公共哲学」とは何か 第2講 マイケル・サンデルにおける「公共哲学」 第3講 日常生活の哲学 第4講 道徳と倫理 第5講 エートス 第6講 「力」と「責任」 第7講 権威主義と民主主義 第8講 人権の誕生 第9講 多元主義 第10講 ジェンダー 第11講 マイノリティー 第12講 動物の権利 第13講 SDGs の問題 第14講 これからの哲学 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、教員が資料を配布する。						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで（毎週約90分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。						
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50%						
授業内の課題・提出方法	授業で小レポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
担当者から一言	真剣に哲学を教える人、学ぶ人、研究する人は必ず哲学的に生活していると思いますか？一緒に現代社会における哲学の価値と「公共哲学」の意味を探しましょう。						

授業科目名	人権論	科目コード	171304	授業コード	115501
担当教員	岩崎 恭典	科目ナンバリング	GEC1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。				
授業のねらい	前学期の「人間たれ1」に引き続き、本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。				
到達目標	1. 本学の建学の精神を理解する。 2. 満30周年を迎えた本学の歴史を、満75周年を迎えた学校法人暁学園の歴史を、昭和・平成・令和・平成という時代とともに振り返り、今後の社会に生きていく力とは何かについて理解を深める。 3. 各分野の専攻やスキル科目、地域志向科目等本学の特徴的な講義、また、学友会主催事業等についての理解を深める。				
授業計画	第1講で、講師のスケジュールを確定させたうえで、改めて詳細な講義計画を示す。 第1講 ガイダンス 「人間たれ」Ⅰの振り返り、ⅠとⅡの違いについて 第2講 UD(ユニバーサルデザイン)について ① (NPO法人UDほっとねっと伊藤さん) 第3講 UD(ユニバーサルデザイン)について ② (NPO法人UDほっとねっと石山さん) 第4講 本学の建学の精神について 第5講 暁学園・四日市大学の歴史 昭和時代の暁学園 第6講 暁学園・四日市大学の歴史 平成時代・令和の四日市大学 第7講 本学の建学の精神と君たちの将来 人口減少社会 第8講 本学の建学の精神と君たちの将来 シンギュラリティ、Society5.0 第9講 人口減少社会を生きる力 第10講 PBLとは何か-祭りや鉄道を素材として 第11講 環境問題と総合政策-ゴミ問題をテーマとして 第12講 新任教員は語る① 何をどう勉強してきたか 第13講 新任教員は語る② 何をどう勉強してきたか 第14講 新任教員は語る③ 何をどう勉強してきたか 第15講 一年間の総まとめ 改めて「建学の精神」について 定期試験				
テキスト・教材（参考文献含む）	できるだけレジメと資料を配布する。				
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（1日30分以上）。				
成績評価方法	出席することを基本として、時折実施する小テスト（50%）、定期試験の成績（50%）により評価する。				
授業内の課題・提出方法	ほぼ毎回提出してもらう小レポートは時間内に解答できるものとする予定である。回答時間がない場合には、翌週までにレポートボックスまで提出してもらう。また、感想・岩崎あるいは大学に対する質問・意見等については、「大福帳」の往復によって意思疎通を図るものとする。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、「大福帳」、後学期試験答案については、個人別にまとめたうえで、後学期の二年生演習授業の担当者を通じて返却するものとする。				
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。				

授業科目名	地域社会と環境			科目コード	171305	授業コード	115308
担当教員	野呂 達哉			科目ナンバリング	GEC1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、その事例として「里山の衰退」と「獣害問題」、「外来生物問題」を取りあげます。これらの問題の背景や現状、また、地域でどのような取り組みが行われているのか理解することを目標とします。						
到達目標	農村の過疎化や都市への人口集中、通勤圏としての郊外の開発は「獣害問題」や「外来生物問題」、「生物多様性の減少」の背景ともなっています。これらは地域の問題というだけでなく全国的な課題でもあります。ディスカッションを通じて、身近な環境問題としてこれらを理解することを目指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 地域社会と環境問題 第3講 農村と里山 第4講 里山の自然と維持管理 第5講 里山の衰退と獣害問題 第6講 里山の再利用とエコツーリズム 第7講 郊外の自然と身近な生物の減少と消失 第8講 都市の自然と生物多様性 第9講 外来生物問題 第10講 ペットの遺棄と地域ネコ 第11講 グローバル化と感染症問題 第12講 都市化とエキゾチックペット由来の新たな外来生物 第13講 地域住民による外来生物対策 第14講 地域住民による生物調査と保全の取り組み 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「里山の環境学（武内和彦ほか）東京大学出版会，2001」、「都市で進化する生物たち（メノ・スヒルトハウゼン）草思社，2020」「野生動物問題への挑戦（羽山伸一）東京大学出版会，2019」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業に対する積極性（50%）、期末試験（50%）を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な環境問題の題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
担当者から一言	環境問題は複雑な現代社会を背景として生じてきた問題ですが、問題解決のためには地域社会とそこで生活する個人の参加が不可欠です。問題解決のために学生の積極的な参加を望みます。						

授業科目名	地域防災			科目コード	171306	授業コード	115306
担当教員	鬼頭 浩文			科目ナンバリング	GEC1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	<p>この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指す。この資格は、就職においても有利になる。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘する。</p> <p>* 5月の週末3日間(18時間)は、外部からの受講生も参加する「防災士養成講座」に参加することをもって5週分の講義とする。</p> <p>* テキスト・受験料などの実費13,000円が必要です。</p> <p>* 防災士試験に合格すると、別途5,000円の登録費用が必要です。</p>						
到達目標	この講義を通して、大規模災害時に自分や家族の命を守り、復旧・復興に向けた企業や地域などでの活動をリードできる人材になるのが目標である。						
授業計画	<p>対面：ガイダンス(テキスト販売や書類配布)、第5～10講。 オンデマンド：その他の講義</p> <p>1 4/7 ガイダンス(対面)／補講1；近年の主な自然災害（以下、オンデマンド） 2 4/14 第1講；地震・津波／第2講；気象災害・風水害／第9講；行政の災害対策 3 4/21 第7講；ハザードマップ／補講2；耐震補強／第20講；災害ボラ／第17講；自主防災 4 4/28 第11講；復旧・復興／第12講；災害医療／第18講；避難所 5 5/12 ★普通救命講習（場所：体育館）＊3・4時間目 6 5/13 午前；防災士養成講座（会場研修）① 7 5/20 午前；防災士養成講座（会場研修）② 8 5/20 午後；防災士養成講座（会場研修）③ 9 5/27 午前；防災士養成講座（会場研修）④ 10 5/27 午後；防災士養成講座（会場研修）⑤ 11 5/26 第3講；土砂災害／第4講；火山／第5講；火災 12 6/2 第6講；予報・警報／第8講；災害情報／第10講；行政 13 6/9 第13講；ライフライン／第14講；事業継続／第15講；地震・津波への備え 14 6/16 第16講；風水害・土砂災害への備え／補講3；損害保険 15 6/23 第19講；多様性／第21講；防災士に期待される活動／補講4；各種訓練 ★8月5日(土)午後に防災士試験を実施する。 ★日程は変更することがある。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	『防災士教本』日本防災士機構 テキスト代は、実費負担¥13,000に含まれる。						
事前・事後学習	OD動画は、講目ごとに分けてある。講目ごとに事前にテキストを30分ほどかけて読んでから動画の視聴をし、指示に従ってマーカーを引き、視聴後に重要箇所を履修確認レポートにまとめてもらう。また、週末の集中講義で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験までに必ず15～20時間の復習をすること。						
成績評価方法	講義で学んだことをまとめる履修確認レポート(60%)、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果(40%)から、総合的に成績をつける。						
授業内の課題・提出方法	テキストの各項目について重要箇所をまとめる履修確認レポートを書き、Moodleで提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正してフィードバックする。						
担当者から一言	講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。						

授業科目名	地域連携特別講義 a		科目コード	171307	授業コード	116502
担当教員	倉田 英司		科目ナンバリング	GEC1007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。					
授業のねらい	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。					
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。					
授業計画	<p>10月上旬 「ガイドンス」 13：00-14：00 現状把握と課題解決の考え方 14：10-15：10 ご当地グルメを活用した町おこし 15：20-17：00 グループワーク</p> <p>10月中旬 「三重県の基礎情報を学ぶ」 13：00-15：30 展示見学・講義 15：40-17：00 グループワーク</p> <p>10月下旬 「食を活かした観光開発」 10：00-12：00 施設見学・体験 12：00-13：00 昼食・移動 13：00-14：00 農を活かした観光開発 14：10-16：10 グループワーク</p> <p>11月下旬 「食と観光を踏査する」 10：00-16：10 フィールドワーク</p> <p>12月上旬 「食と観光を考える」 13：00-17：00 グループワーク</p> <p>12月中旬 「食と観光を発表する」 13：00-16：00 成果発表会 16：00-17：00 講評・まとめ ※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況や受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。</p>					
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じて資料等を配布する場合があります）					
事前・事後学習	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。					
成績評価方法	①グループワーク等への取組姿勢 60% ②成果発表レポート 40% ※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。					
授業内の課題・提出方法	成果発表の内容について、レポートを提出してもらう。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィールドワークで出た意見については、適宜コメントを行う。					
担当者から一言	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずです。他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。					

授業科目名	経営学			科目コード	171401	授業コード	113704
担当教員	川崎 綾子			科目ナンバリング	GLAS1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本講義では、経営学の諸理論を理解し身につけることで、受講生の経営学の研究能力とリーダーとしての資質を醸成する。経済社会や企業に潜む問題を自ら発見し、解決する能力の育成を目指す。						
到達目標	経営の理論的な用語を駆使し、企業社会の問題解決に自ら分析的に取り組むことができる。 文献などの資料から必要な証拠を収集し、説得性の高い論理的なレポートの作成能力をもつ。						
授業計画	第1講 ガイダンス／単位取得に関する注意事項 第2講 経営の目的（1）／顧客価値の提供 第3講 経営の目的（2）／価値提供のための組織づくり 第4講 組織と不確実性 第5講 人のマネジメント（1） 第6講 人のマネジメント（2） 第7講 組織デザインと分業（1）／外部業者の活用 第8講 組織デザインと分業（2）／アウトソーシングと製品のモジュラー化 第9講 組織デザインと統合 第10講 様々な取引形態／取引コストと信頼 第11講 資源依存理論 第12講 提携の様々な形／製作委員会とプロデューサー 第13講 商品開発 第14講 流通のしくみ 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書は指定しない。資料を配布する。						
事前・事後学習	レポートへの解答、書籍やインターネットの閲覧などを通して、理論的用語の予習や復習、マネジャーの立場における課題解決の練習に取り組むことが望ましい（毎週3時間程度）。						
成績評価方法	中間レポート 50% 最終レポート（レポート試験）50%						
授業内の課題・提出方法	中間および最終レポートはmoodleから提出すること。 毎回の出席確認の質問は講義内で紙提出してもらう予定。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては、講義中にコメントする。 優秀な中間レポートは、講義中に紹介する場合がある。						
担当者から一言	院生レベルのレポートを要求しますが、経営学は1から教えますので大丈夫です。 ※2回以上、私語の注意を受けた人には、原則単位を認めません。 経営は目的達成のために持続的に事を行うことです。生活にもお役に立てれば幸いです。						

授業科目名	経済学	科目コード	171402	授業コード	112801
担当教員	鬼頭 浩文	科目ナンバリング	GLAS1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	ここでは、経済学の基礎的思考方を学ぶため、映像による事例を紹介し、その背後にある経済の仕組みや動きについて説明していく。受講生には、映像や解説の内容をノートテイクするためのレジュメを配布する。映像や解説をメモしながら授業が進み、授業終了直後に完成したレジュメをスマホで撮影しMoodleに提出する。遅刻したり、他ごとをしていた部分は確実に減点されるので、90分の講義に集中しなければならなくなる。また、できるだけ教室の中を動き、学生からの発言を求め、時にはディスカッションの時間を設ける。				
到達目標	経済学の基本的知識を映像から体感し、経済社会の背後にある仕組みを理解して将来の仕事や生活に役立つ知識を身に着けることが到達目標である。				
授業計画	1：ガイダンス、感染症が経済に与えた影響から経済の仕組みを学ぶ 2：コロナ禍で地域の金融機関が果たした事例から経済を知る 3：金融制度の表側と裏側を知る 4：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み① 5：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み② 6：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み① 7：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み② 8：日本経済における「働き方」の変化 9：文化・スポーツなどの経済活動 10：税の仕組みを知る（四日市市税務署） 11：企業経営の事例から経済を学ぶ① 12：企業経営の事例から経済を学ぶ② 13：インバウンド・外国人と日本経済 14：経済のいまを映像で知る 15：復習とレポート試験の説明				
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。				
事前・事後学習	この講義は、復習が重要である。講義後にプリントに書き込みをした内容を2～3時間かけて振り返り、理解できないところは次回の講義で必ず質問をすること。また、期末試験に向け、10時間ほどは振り返り学習をすること。				
成績評価方法	毎回Moodleに提出するレポート(75%)、対面・持ち込み不可で実施する学期末試験(25%)により、総合的に評価する。				
授業内の課題・提出方法	毎回レジュメにノートを取り、写真に撮影してMoodleに提出する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle上で課題に対するフィードバックを行う。				
担当者から一言	社会に出て役立つ経済の知識を獲得できる講義を目指す。				

授業科目名	政治学	科目コード	171403	授業コード	112201
担当教員	吉川 和挟	科目ナンバリング	GLAS1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	<p>この授業では政治制度や政府の役割について扱い、政治関連科目受講のための基礎知識を獲得することを目的とします。</p> <p>誰もが「政治」という言葉を知っており、当たり前のように使っています。それほど私たちの生活と政治は不可分に結びついたものとなっていますが、一方で政治を身近に感じるという人は残念ながらあまり多くないでしょう。</p> <p>この講義では、可能な限り身近な例を参照しつつ、日ごろ目にする政治ニュースに少しでも関心を抱き、自分事として考えてもらうための手助けを行います。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主に日本の政治制度についての基本的用語や知識を理解し、他の政治系科目を履修するための基礎知識を獲得する ・一人の市民として、各種媒体の政治ニュースについて理解できるようになる。 				
授業計画	01. ガイダンス/政治学とは 02. 政治のとらえ方 03. 国家という枠組み 04. 政治体制 05. 選挙と投票 06. 政党と政党システム 07. 政権とアカウンタビリティ 08. 執政・立法・司法 09. 政策過程と官僚制・利益団体 10. 連邦制と地方制度 11. 安全保障と平和 12. 国際政治経済 13. 国際社会と集団・個人 14. シティズンシップ 15. デモクラシー 定期試験				
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・砂川庸介、稗田健志、多湖淳「政治学の第一歩〔新版〕」有斐閣（2020） ・田村哲樹、松元雅和、乙部延剛、山崎望「ここから始める政治理論」有斐閣（2017）				
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）				
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：50% ・定期テスト（自筆ノートのみ持ち込み可）：50%				
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。				
担当者から一言	他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じることがあります。				

授業科目名	社会学	科目コード	171404	授業コード	111301
担当教員	三田 泰雅	科目ナンバリング	GLAS1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。私たちは他者と関わり合って社会を作っています。一方で人間は社会によって作られる側面もあります。私たちはどのように社会を作り、そして社会に作られているのか。この両面を明らかにすることで社会の仕組みを考えてゆく授業です。				
到達目標	社会学的なものの見方や考え方を身につける				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 規範と価値 第3講 自分とは何だろうか 第4講 スポーツから近代社会を考える 第5講 人は集団をつくる 第6講 家族とは何だろうか 第7講 ジェンダーのはたらき 第8講 格差と社会階層 第9講 なぜ学校に行くのか 第10講 都市を生きる 第11講 国家と国民社会 第12講 医療と健康 第13講 環境を考える 第14講 社会的排除 第15講 社会学の誕生				
テキスト・教材（参考文献含む）	<参考文献> 出口剛司（2019）『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.				
事前・事後学習	1日10分以上かけて新聞やニュースに目を通す				
成績評価方法	平常点45%，期末試験55%。 平常点は各回の授業の参加度とミニツツペーパーの内容で評価します。				
授業内の課題・提出方法	各授業内でミニツツペーパーを提出。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニツツペーパーの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。				
担当者から一言	社会はどんなふう to 動いているのか、私たちが生きているこの社会のしくみを一緒に考えてゆきましょう。				

授業科目名	ジェンダー論			科目コード	171405	授業コード	112702
担当教員	高田 晴美、三田 泰雅			科目ナンバリング	GLAS1005		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	ジェンダーの問題とは、性差別的な問題から、差別とまではいかないけれども理不尽に思う人が出てくるという問題まで、様々あります。それだけに、解決方法も、制度やルールを変えていけば解決するものから、意識変革をしていかないと無理なものまで様々。社会通念や慣習の中でのジェンダーが、個人としての生きにくさにつながっていることをまずは知り、意識してもらいたい。その上で、ではどうすればいいのかを考えていきましょう。授業は2名の教員（高田・三田）で実施します。						
到達目標	1 ジェンダーとは何か、基本概念が説明できる。 2 社会の中にあるジェンダーに気づき、問題として意識することができる。 3 性別ではなく、個人を基礎とする考え方に立って行動できる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、ジェンダーバイアス（高田） 第2講 ネーミング問題（高田） 第3講 〈女らしさ〉の罫—女はつらいよ（高田） 第4講 ハッピーエンドとプリンセス—ポストフォーディズムとジェンダー（三田） 第5講 家制度と選択的夫婦別姓問題（高田） 第6講 おばあさんは川へ洗濯に？—近代社会の性別役割分業（三田） 第7講 不払い労働、見えない家事問題（高田） 第8講 メディアにおけるジェンダー表現①—フィクション編（高田） 第9講 メディアにおけるジェンダー表現②—CM・広告編（高田） 第10講 〈男らしさ〉の罫—男もつらいよ—男性学の視点（三田） 第11講 続く男らしさの罫—男性性とホモソーシャルな関係（三田） 第12講 それでも僕であるために—弱者男性論（三田） 第13講 身体にまつわる問題（高田） 第14講 ジェンダーに関わるハラスメント（高田） 第15講 恋愛にまつわる〈女性学〉〈男性学〉（高田） 講義の順番は入れ替わる可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。						
事前・事後学習	（授業前）日頃からニュースなどに目を通しておく。（毎日20分程度） （授業後）学んだ内容を復習し、世の中の様々な場面に、授業で取り上げた問題にひっかかることがないか見つけ、考える。（40分）						
成績評価方法	毎回の小レポート 50% 定期試験 50%						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義の終わりに、小レポート（コメント）を書いて提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート（コメント）については、適宜、講義でコメントを返し、さらなる深化をはかります。						
担当者から一言	「女性学」「男性学」の視点を持った2名の教員が、それぞれの持ち味を生かして分担します。ジェンダーを多角的に学べるチャンスです。						

授業科目名	メディアリテラシー			科目コード	171406	授業コード	111307
担当教員	前川 督雄			科目ナンバリング	GLAS1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	<p>メディアリテラシーとは社会に溢れる様々なメディアを読み解き、それぞれのメディアを介して伝えられる情報の背景や意味を評価できる能力を言う。そして、メディアを通じて適切にコミュニケーションをとることのできる能力でもある。</p> <p>社会のなかでのメディアの有り様は、変革が続いている。今のメディア状況の概要を知るとともに、生まれ育った社会、世代、人生経験によって当たり前と思うことが互いに異なることに気づくこと、そして、メディアの向こうにある存在との付き合い方を考えることを手助けする授業となる。</p>						
到達目標	現代社会に展開されている多様なメディアの特徴と危険性を知るとともに、自身が一個人として、社会人として責任あるメディア行動をとる見識を得る。						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス／メディアとは／メディアリテラシーとは</p> <p>第2講 デジタルネイティブ</p> <p>第3講 Society5.0／DX～フィンテック</p> <p>第4講 国家・ネット起業が握る個人情報</p> <p>第5講 メタバース／XR</p> <p>第6講 メディアエコロジー</p> <p>第7講 スマホ依存</p> <p>第8講 特別講義（外部講師等）</p> <p>第9講 AIとの付き合い方</p> <p>第10講 レガシーメディアとの付き合い方</p> <p>第11講 SNSでのふるまい</p> <p>第12講 インターネットとマスメディア</p> <p>第13講 音・光・身体</p> <p>第14講 コミュニケーションの実質</p> <p>第15講 まとめ</p> <p>（内容・順序を変更することがあります）</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>テキストはありません。</p> <p>必要に応じて資料を配布します。</p>						
事前・事後学習	各自の1日の中で、スマホでネットを見たり新聞やテレビを視聴する時間がどれくらいあるかなど、メディアと接する行動を事前に把握しておいてください（90分）。毎回の講義の後での自分のメディア行動を振り返り、考えを深めてください（90分）。						
成績評価方法	<p>定期試験を行いません。</p> <p>受講態度、学習意欲、小レポートを総合して評価する。</p>						
授業内の課題・提出方法	授業内に小レポートを課し、原則として教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。						
担当者から一言	特になし。						

授業科目名	社会福祉概論			科目コード	171407	授業コード	111204
担当教員	李 修二			科目ナンバリング	GLAS1007		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	社会福祉とは、現代社会を生きる人々にとって無くてはならない事柄の一つと言えます。そうした社会福祉の理念や考え方を学び、さらに社会福祉の歴史、対象、制度について基本的な理解を得ることをねらいとした授業となります。授業の後半では、より具体的に、社会福祉の主要な分野での現状と今後の課題についても掘り下げて学ぶことをねらいとします。						
到達目標	社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉についての正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。						
授業計画	1. ガイダンス、社会福祉の理念 2. 社会福祉の歴史 イギリス(1) 3. 社会福祉の歴史 イギリス(2) 4. 社会福祉の歴史 イギリス(3)<映画教材視聴> 5. 社会福祉の歴史 アメリカ、ドイツ、スウェーデン、日本 6. 少子化・高齢化をめぐる日本と世界(1) 7. 少子化・高齢化をめぐる日本と世界(2) 8. 日本の社会保障をめぐる現状と国際比較(1) 9. 日本の社会保障をめぐる現状と国際比較(2) 10. 資本主義経済の歴史的変化と福祉国家 11. これからの社会保障(1) 12. これからの社会保障(2) 13. 医療への新たな視点(1) 15. 医療への新たな視点(2) 15. 持続可能な福祉社会に向けて 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	書き込み式の講義ノート毎回プリントにして配布します。他にテキストは使用しません。 参考文献： 武川正吾『福祉社会（新版）』2011年、有斐閣 広井良典『人口減少社会のデザイン』2019年、東洋経済						
事前・事後学習	毎回の授業後、復習課題の小レポートを書いてもらい、次の授業回までに提出してもらいます。また、必ず前回分の講義ノートを復習して授業にのぞんでください。（復習、45分以上） さらに、毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイトなどでの社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習、45分以上）						
成績評価方法	毎授業ごとの小レポート課題で30%評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の試験で70%評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題の小レポートは、Moodleを通じて提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の小レポートの評価基準はガイダンス時に説明します。また小レポートやその他の質問等には、Moodleを通じて、評価結果や応答をフィードバックします。						
担当者から一言	社会福祉の考え方や知識は今日きわめて重要かつ有用なものとなっています。ぜひ関心を持って、しっかり学習してください。細かな知識を覚える必要はありません。意味や意義を少しでも深く理解するように学んでください。						

授業科目名	日本国憲法			科目コード	171408	授業コード	112202
担当教員	中西 紀夫			科目ナンバリング	GLAS1008		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	憲法は、国内法では最高法規であり、すべての法律の基本法であるといえます。したがって、憲法を基本に法律や命令が作られるため、日本の法秩序の維持につながっているのです。また、憲法に違反する国の行為は違憲となりますので、最近では、日本版NSC（国家安全保障会議）の創設が国民の知る権利への侵害にならないか、あるいは、集団的自衛権の解釈変更による安保関連法制定の問題などが議論されています。このように、憲法も新たな局面を迎えていますので、しっかりと認識を深めてもらいたいと思っております。						
到達目標	大学での一般教養課程で履修対象の社会科学系列科目の中に「憲法」が加えられているのは、すべての法律の基本法というだけでなく、将来どの方向に進むにせよ、立派な社会人として世の中に貢献していくのに重要な教養であると考えられているからです。したがって、各項目の内容把握だけでなく、できるだけ多くの規定を認識できるようになってもらいたいと考えています。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 憲法の機能 第3講 天皇と国民の関係 第4講 国民の三大義務 第5講 基本的人権とその種類 第6講 環境権（判例的考察） 第7講 憲法上の権利と義務 第8講 法の下での平等 第9講 絶対平和主義 第10講 国家機密と国民の知る権利 第11講 平等な投票にするための権利義務 第12講 行政救済 第13講 国際私法 第14講 憲法改正問題 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）						
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくとういでしょう。						
成績評価方法	成績は、次のような配点配分です。 受講態度 30%：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。 定期試験 70%：試験は論述形式で、すべて持込可です。						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	法学			科目コード	171409	授業コード	115602
担当教員	中西 紀夫			科目ナンバリング	GLAS1009		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	法学の発達の歴史を通して、法律と人との関わりについて学びます。すなわち、「法とは何か」という素朴な疑問から講義を始めていく予定です。講義形式は法に慣れ親しんでもらうため、特に六法（憲法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法）の由来あたりから説明し、これらの法律の概要を歴史的経緯を踏まえて、現代社会の様々な問題と照らし合わせながら講義します。もちろん、骨子や規定の理解のために、一方的な講義形式のみの形にならないように工夫をしていきます。						
到達目標	社会科学系の学部で「法学」が中心的な教養科目に位置付けられているのが多いのは、各方面の指導者養成等のための単位取得要請科目であるというだけでなく、みなさんの将来の生活の糧となる学問であるということではないかと思えますので、その視点に立って講義を進めていきたいと考えています。最終的な到達目標としては、常に法律的な視点に立って物事を見れるようになることを目指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 六法の意味、社会規範 第3講 実定法と自然法、法源 第4講 制定法の体系、法の形式による分類 第5講 法の種別（国内法）、国内法と国際法 第6講 公法と私法、裁判による権利の実現 第7講 法の適用、法解釈における問題点 第8講 権利と義務、権利義務の主体と客体 第9講 罪刑法定主義 第10講 法と裁判（裁判の仕組み） 第11講 民事裁判、刑事裁判、行政裁判 第12講 司法権の独立と公開主義 第13講 自由心証主義、今日までの裁判の課題 第14講 裁判員制度とその課題 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）						
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくとういでしょう。						
成績評価方法	成績は、次のような配点配分です。 受講態度 30%：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。 定期試験 70%：試験は論述形式で、すべて持込可です。						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	民法入門			科目コード	171410	授業コード	113801
担当教員	土志田 佳枝			科目ナンバリング	GLAS1010		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	この講義は、実際に新聞やテレビなどで報道された事件や問題、身近な紛争（トラブル）を取り上げ、解決方法を考察しながら、民法の全体像を理解していくことを目的とします。新聞を下宿で購読していなくとも、テレビを持っていなくとも、今ではインターネットやSNSを通じて世界中のニュースを日本語で読めるようになりました。普段から、パソコンや携帯電話のアプリを通じて、様々な話題に興味を持って接してください。						
到達目標	新聞やテレビの報道で接した事件や問題、紛争を解決するために、民法からどのような妥当な結論を引き出せるだろうか考え、さらに解決方法を自らの筆で文章にまとめることを到達目標としたいと思います。したがって、授業には筆記用具を持参してください。なお、法令についてはオンラインで最新の条文に触れるようにしてください（e-gov法令検索「民法」「民事訴訟法」「家事事件手続法」「法の適用に関する通則法」など）。						
授業計画	<p>予習には教科書の指示した範囲を通読します。復習には授業で学習した条文や用語を確認して定着を図ります。</p> <p>1民法と民法典（予習90分：第1章）（復習90分）</p> <p>2権利と義務（予習90分：第2章の1）（復習90分）</p> <p>3契約1債権・債務（予習90分：第2章の2）（復習90分）</p> <p>4契約2未成年（予習90分：第3章）（復習90分）</p> <p>5後見（予習90分：第4章）（復習90分）</p> <p>6所有権と占有（予習90分：第5章）（復習90分）</p> <p>7時効（予習90分：第6章1消滅時効）（復習90分）</p> <p>8不法行為と不当利得（予習90分：第6章2法定利率）（復習90分）</p> <p>9事務管理（予習90分：第6章3約款）（復習90分）</p> <p>10婚姻（予習90分：第6章4サービス契約）（復習90分）</p> <p>11離婚（予習90分：第6章5自然災害と契約法）（復習90分）</p> <p>12親子関係（予習90分：第7章）（復習90分）</p> <p>13養子縁組（予習90分：おわりに）（復習90分）</p> <p>14相続（予習90分：相続法改正資料）（復習90分）</p> <p>15講義のまとめ（予習90分：これまでの復習）（復習90分）</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>参考文献： 内田貴『民法改正—契約のルールが百年ぶりに変わる』（筑摩書店・2011）ISBN 978-448006634</p> <p>参考文献は新書と電子書籍で入手可能ですが、必ずしも購入の必要はありません。グローバル化の影響は皆さんの学が民法にも及んでいます。近年の法改正にあわせて、わかりやすい本が次々出版されています。ぜひ図書館で手に取ってみてください（大学図書館の図書を探す https://ci.nii.ac.jp/books/）。</p>						
事前・事後学習	予習には教科書の指示した範囲を通読します（90分）。復習には授業で学習した条文や用語を確認して定着を図ります（90分）。詳細は授業計画を参照してください。						
成績評価方法	定期期末試験（50％）と平常点（50％：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。						
授業内の課題・提出方法	課題は教室で受け取る予定です。提出日や書式などについては教室で案内します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	定期期末試験（50％）と平常点（50％：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。						
担当者から一言	講義の内容に関する質問は、教室で受け付けています。そのほか、授業時間外学習を支援する目的で、不明な点があれば授業時間外でも回答ができるよう、メール等の手段により質問を受け付ける予定です。						

授業科目名	倫理学			科目コード	171501	授業コード	113806
担当教員	フェリペ フェハリー			科目ナンバリング	GLAH1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	アリストテレスは『政治学』において、「人間は社会的な動物である」と述べました。それは人間が共存し、他の動物には見られない協力することができると意味です。本講義の目的が社会学の根本的な問題を学び、現代社会の問題を分析することです。						
到達目標	主な社会学者の思想を学びながら、現代社会の特色を多面的・多角的に捉えます。						
授業計画	第1講 ガイダンス・社会学とは何か 第2講 社会学の目標 第3講 古代におけるポリス 第4講 国家の誕生 第5講 社会契約論 第6講 コントにおける社会学 第7講 唯物弁証法 第8講 階級闘争 第9講 イデオロギーの時代 第10講 冷戦と歴史の終わり 第11講 新自由主義とメリトクラシー 第12講 現代社会学の問題 ① 第13講 現代社会学の問題 ② 第14講 社会学の将来 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、教員が資料を配布する。						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで（毎週約180分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。						
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50%						
授業内の課題・提出方法	授業で小レポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
担当者から一言	社会的動物として、授業で協力し社会思想史を勉強しましょう。						

授業科目名	哲学	科目コード	171502	授業コード	113401
担当教員	フェリペ フェハリー	科目ナンバリング	GLAH1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	哲学においては、過去・現代を問わず、同じ問題が異なった形で出て来ている。本講義の目的は、古代ギリシャ以降2500年以上にもおよぶ哲学（philosophia）の根本的な問題を様々な哲学者の立場から明らかにすることである。 また、本講義では哲学の立場から現在社会の問題を考え、自らの力で「哲学は何のためにあるのか」という問いの答えを探す。				
到達目標	現代社会の問題を考えながら、哲学の伝統的な問題について議論すること。				
授業計画	第1講 ガイダンス・「哲学」とは何か 第2講 哲学の起源 第3講 哲学の三つの伝統 第4講 西洋と東洋 第5講 無知の知 第6講 洞窟の比喻 第7講 現実とは何か 第8講 ファルサファ 第9講 中世哲学 第10講 理性主義 第11講 近代哲学 第12講 超越とは何か 第13講 懐疑的解釈学 第14講 現代哲学 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、教員が資料を配布する。				
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで（毎週約90分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。				
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50%				
授業内の課題・提出方法	授業で小レポートを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。				
担当者から一言	本当の知識は無知から生まれます。これは2400年以上前のソクラテスの考えです。世界を理解するには、私たちも同じように、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。				

授業科目名	文学	科目コード	171503	授業コード	111405
担当教員	永井 博	科目ナンバリング	GLAH1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	この講義では、近代日本、あるいは現代世界の反戦文学・反戦思想を取り上げる。安倍内閣による、いわゆる安全保障関連法案の参議院での可決・成立は2015年9月19日のことだった。日本はより戦争をしやすい国になっているのであり、平和憲法の理念が揺らいでいるのだ。そしてロシアのウクライナ侵攻は2022年2月のことだった。このような現代の状況の中で、近代日本、あるいは19世紀から20世紀の世界で唱えられた反戦文学・反戦思想を振り返ることで平和を構築する道について考えてみたい。				
到達目標	近代の貴重な精神的遺産である反戦文学・反戦思想をともに読むことで、平和な世界をいかに実現していくかについての考え方を学ぶことが目標である。				
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日露戦争概説 第3回 与謝野晶子「君死にたもうことなかれ」 第4回 陸羯南、主戦七博士の日露戦争主戦論 第5回 トルストイ「汝悔い改めよ」 第6回 幸徳秋水「戦争来」 第7回 内村鑑三の日露戦争非戦論 第8回 前半のまとめと復習（グループワーク） 第9回 ヴェトナム戦争概説 第10回 ボブ・ディラン「風に吹かれて」 第11回 武満徹・谷川俊太郎「死んだ男の残したものは」 第12回 日本国憲法第9条 第13回 加藤周一ほか「9条の会」 第14回 核戦争と「文学者の反核声明」 第15回 全体のまとめと復習（グループワーク） 定期試験				
テキスト・教材（参考文献含む）	プリントなどの資料を配布する。				
事前・事後学習	普段から新聞やテレビやインターネットなどで、日本、アジア、そして世界の現在の戦争に関する報道に接しておくこと。講義では明治から昭和までの反戦文学・反戦思想を取り上げるが、常に現代の状況にも注意を払う必要があるからである。（90分） また、講義で取り上げる与謝野晶子や内村鑑三などのテキストは、それぞれのテキストの原文の一部であることも多い。図書館などで簡単に読むことができるのでその全部を自分で読むこと。（90分）				
成績評価方法	受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。提出物は評価を付けたうえで翌週以降の講義で返却する。				
授業内の課題・提出方法	ほぼ各回の終わりに講義の内容のまとめと、それに関する意見、質問などを簡単に書いて提出してもらう。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたミニ・レポートは、総評的なコメントとともに点数をつけて翌週に返却する。				
担当者から一言	この講義のテーマは反戦文学・反戦思想であり、取り上げる題材は主として日本の近代文学・現代文学である。しかし「日本」にも「文学」にもこだわらず「外国」や「音楽などの文学以外のいろいろな表現」も取り上げるつもりである。				

授業科目名	文章表現論	科目コード	171504	授業コード	113210
担当教員	永井 博	科目ナンバリング	GLAH1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	日本語に限らず、ことばについて学ぶということは、それによって生きる人間についての理解を深めるということである。それは単に文法や単語を覚えたりするだけのものではなく、ことばで生きている人間のものの考え方や感じ方を学ぶことである。私たちが日本語を学ぶ時も、日本語で考え、感じ、生きている人たちのものの考え方や感じ方を学ぶのである。このような理解に立って受講者全員で「文章」による「表現」の技術を磨きたい。なお、この永井のクラスは留学生を対象とし、添削指導の都合上、人数制限をすることがある。				
到達目標	ことばについてさまざまな視点から理解を深めつつ、文章を書くことで自分の考えや感じ方をいかに人に伝えるか、そのトレーニングをし、文章を書く力をつけることを目標にしたい。				
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 原稿用紙の使い方① 第3回 原稿用紙の使い方②（実習） 第4回 推敲のしかた① 第5回 推敲のしかた②（実習） 第6回 テーマの決め方 第7回 資料の探し方① 第8回 資料の探し方②（実習） 第9回 論理的文章の書き方① 第10回 論理的文章の書き方②（実習） 第11回 文章作成の実際①（実習） 第12回 文章作成の実際②（実習） 第13回 文章作成の実際③（実習） 第14回 文章作成の実際④（実習） 第15回 文章作成の実際⑤（実習） 定期試験				
テキスト・教材（参考文献含む）	プリントなどの資料を配布する。				
事前・事後学習	予習としては、漢字の小テストに備えてテスト範囲の漢字を練習しておくこと。（90分） 復習としては、教員の添削を経て返却された作文の課題について、訂正された箇所の正しい書き方を自分で振り返っておくこと。（90分） また、文章の書き方についての本はたくさん市販されているので、自分でいくつか読んでみる。				
成績評価方法	漢字小テスト30%、定期試験50%、提出物20%を目安に総合的に判断する。提出物は添削して翌週以降の講義で返却する。				
授業内の課題・提出方法	毎回作文を書いて時間の終わりに提出してもらう。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された作文は添削して翌週の講義の時に返却する。				
担当者から一言	ドリルや小テスト、説明文の書き方を練習したものなど、ほぼ毎回提出物を出してもらうので、積極的に出席すること。教室に来て、自分なりに考え、文章を書く練習をすれば得るものはきっとある。				

授業科目名	文章表現論			科目コード	171504	授業コード	112207
担当教員	杉谷 克芳			科目ナンバリング	GLAH1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	<p>日本語の正しい文章表現力を身につけることは、大学生のみならず、社会人にとっても欠かすことのできない必須項目の一つです。そして、それは、自分自身の大きな財産になります。</p> <p>日本語という言葉の特徴を客観的に捉え直し、日本語の文章表現力に更なる磨きをかけることを、この授業のねらいとします。</p> <p>なお、この授業は留学生以外の者を対象とし、添削指導の都合上人数制限をすることがあります。</p>						
到達目標	この授業では、大学生に相応しいレベルで自分の考えを論理的に組み立て、それを正しく文章化することができるようになることを、到達目標とします。						
授業計画	<p>第1講：ガイダンス</p> <p>第2講：言葉と表現を知ろう、その1（同音異義語、同訓異義語）</p> <p>第3講： " その2（同音異義語、同訓異義語）</p> <p>第4講： " その3（四字熟語）</p> <p>第5講： " その4（慣用表現、ことわざ、故事成語）</p> <p>第6講： " その5（慣用表現、ことわざ、故事成語）</p> <p>第7講：日本語の作文技術 その1</p> <p>第8講： " その2</p> <p>第9講： " その3</p> <p>第10講：書いてみよう、その1</p> <p>第11講：書いてみよう、その2</p> <p>第12講： " その3</p> <p>第13講： " その4</p> <p>第14講： " その5</p> <p>第15講：まとめ</p> <p>* 授業内容と進度は、場合によって変更することがあります。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>適宜プリント教材を配付します。</p> <p>①米田明美ほか『大学生のための日本語表現実践ノート（改訂版）』（風間書房、1000円＋税）</p> <p>②本多勝一『日本語の作文技術』（朝日文庫）660円</p>						
事前・事後学習	予習としてテキストを読み次回の学習内容を理解しておくこと（90分）。また、授業後には復習として学習した内容をしっかり確認しておくこと（90分）。						
成績評価方法	講義内の小テスト50%、提出物（小論文）50%を目安に総合的に判断する（定期試験は行わない）。						
授業内の課題・提出方法	小論文を遅れずに提出すること。提出場所はMoodleの所定のフォルダです。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物は添削して翌週以降の講義で返却する。						
担当者から一言	日本語の表現能力を向上させるための授業です。日本語の表現力を向上させるためには、普段から日本語文を読むこと、考えを文章化すること、さらに、様々な分野の語彙と多様な表現を増やす努力が不可欠です。私語、中座、携帯の使用は原則禁止とします。授業内での意欲的な取り組みを期待しています。						

授業科目名	文化論	科目コード	171505	授業コード	115604
担当教員	富田 与、三田 泰雅、高田 晴美、永井 博	科目ナンバリング	GLAH1005		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	私たちの日常空間のほとんどは、誰かが何かを表現した表象で構成されています。この講義では、4人の担当教員がそれぞれの専門と関心から、図像（絵画、写真）、テキスト（小説、談話）そしてその組みあわせであるマンガ、アニメ、映画などを材料に、表象読解の理論（イコノロジー、記号論、ジェンダー論、フェミニズム論、テキスト理論など）と実践を紹介します。				
到達目標	表象文化の考え方を踏まえながら、言語や図像による表現を読み解く能力を身に付ける。				
授業計画	第1講：表象文化とは 富田 第2講：表象の考え方 富田 第3講：「病のアレゴリー」「病」を巡る表象（1） 富田 第4講：「厄払い」「病」を巡る表象（2） 富田 第5講：「〈病〉を〈業〉として機能させる物語」「病」を巡る表象（3） 高田 第6講：「〈メンヘラ〉を芸術に昇華する」「病」を巡る表象（4） 高田 第7講：「病んでいるのは誰か」「病」を巡る表象（5） 三田 第8講：「街路の表象 バンクシーを中心に」「病」と「戦争」を巡る表象 富田 第9講：「戦いの性別役割分業」「戦争」を巡る表象（1） 三田 第10講：「男性性の檻」「戦争」を巡る表象（2） 三田 第11講：「女性が戦争を語るということ」「戦争」を巡る表象（3） 高田 第12講：テキスト理論の基礎 永井 第13講：「捕虜の表象その1」「戦争」を巡る表象（4） 永井 第14講：「捕虜の表象その2」「戦争」を巡る表象（5） 永井 第15講：「井上哲次郎の捕虜言説」「戦争」を巡る表象（6） 永井				
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは特に指定しません。				
事前・事後学習	授業中に出された課題を作成してください（180分）。				
成績評価方法	授業内の課題（30%）と最終レポート（70%）で評価します。				
授業内の課題・提出方法	授業内の課題はmoodleに提出してください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必用に応じて授業の中でコメントします。				
担当者から一言	講義に参加しながら教員が気づいていない事を見つけてください。そして新しい見方を提案してみてください。表象文化と一緒に楽しんでみましょう。				

授業科目名	教育学			科目コード	171506	授業コード	111604
担当教員	長谷川 誠			科目ナンバリング	GLAH1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	教育学概論は、教育が抱える社会的な課題や、社会変化に伴うさまざまな教育問題について検討することを目的とします。例えば、いじめや発達障害、不登校、若者の就労問題等、幼児、児童期から青年期にかけて生じる諸問題に対する教育的な支援や指導の在り方について考えていきます。そして、学校と家庭、地域等、教育を取りまく社会について、その相互メカニズムを理解しながら、学校教育に対する社会的期待や批判等について客観的に考えられるようになることを目指します。						
到達目標	教育を取り巻く諸問題を整理し、社会における教育の在り方への興味をより具体的なものとして意識し、議論できることを目指していきます。教育と社会の関わりについて学ぶことを通して、社会の変化が学校教育に与える影響を理解し、それによって生じる様々な教育課題を社会的に考察することで、現象を客観的に捉える力を養います。						
授業計画	第1講：教育とは何か 第2講：教育と社会 第3講：学歴社会の成立と変貌 第4講：日本の教育政策の動向-諸外国との比較から- 第5講：教育をめぐる格差問題 第6講：いじめ問題 第7講：不登校の課題と対応 第8講：特別な支援を必要とする子どもへの対応 第9講：懲戒と体罰 第10講：情報社会と教育 第11講：グローバル化と教育 第12講：リスク社会の進展と教育 第13講：若年層就労問題① 第14講：若年層就労問題② 第15講：まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。適宜プリントを配布します。 参考文献：原 清治、山内 乾史（2019）『新しい教職教育講座 教職教育編③ 教育社会学』ミネルヴァ書房 2, 200円						
事前・事後学習	・教育に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分）。						
成績評価方法	・課題試験60%（授業で扱った教育課題に対する理解度、教育の在り方に対する自らの興味・関心の明確性・具体性） ・平常点40%（リアクションペーパーの内容についてのコメント、質問の記述の的確性）						
授業内の課題・提出方法	課題：授業内で実施するリアクションペーパー						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	翌週の授業にて適宜コメントします						
担当者から一言	積極的な授業への参加を期待しています。 現代の教育課題について一緒に考えていきましょう。						

授業科目名	日本史概論			科目コード	171507	授業コード	115304
担当教員	浅井 雅			科目ナンバリング	GLAH1007		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	歴史的事項を文化・思想などを中心として様々な面から捉え、その実態にアプローチし、当該時代の特質を理解するとともに、未知なる社会に挑んできた先人たちの知恵を追体験することにより、新たな見方を提供したい。						
到達目標	1. 歴史を様々な側面から見ることで、新たな見識を得、未知なる社会への想像力を育み、視野を広げることができる。 2. 「常識」を疑い、自分の力で物事を考え、根拠をもって議論する力を持つことができるようになる。 3. 歴史と文化・思想の繋がりを理解することができる。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 時代区分等歴史の基礎知識 3. 考古 4. 古代（1） 5. 古代（2） 6. 中世（1） 7. 中世（2） 8. 中世（3） 9. 近世（1） 10. 近世（2） 11. 近世（3） 12. 近世（4） 13. 近代（1） 14. 近代（2） 15. まとめ 期末レポート						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示するが、歴史の教科書等があれば持参のこと。						
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。（60分～90分）						
成績評価方法	毎回の授業後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝45% 期末レポート＝55% なお、2/3以上の出席がない場合は採点の対象外とする。（病欠・公欠等は、別途相談のこと。）						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、MoodleにGoogleフォームのリンク先を毎回上げる。 期末レポートもMoodle内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出とのこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（携帯・メールなども含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	世界史概論			科目コード	171508	授業コード	112602
担当教員	浅井 雅			科目ナンバリング	GLAH1008		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	歴史を単なる為政者の歴史としてとらえるのではなく、様々な側面からとらえ、その実態にアプローチし、当該時代の特徴を理解するとともに新たな見方を発見していく。						
到達目標	歴史を暗記科目としてとらえるのではなく、そこにある因果関係や影響を考察し、さらには先人たちの営みや知恵を感じ取ること。また、それらを我々の生活に活かしていくことが最終目標である。						
授業計画	1. ガイダンス、歴史の基礎知識等 2. 政治・行政の概要 3. 戦前の政治・行政（1） 4. 戦前の政治・行政（2） 5. 戦前の政治・行政（3） 6. 戦後の政治・行政（1） 7. 戦後の政治・行政（2） 8. 戦後の政治・行政（3） 9. 産業・経済（1） 10. 産業・経済（2） 11. 産業・経済（3） 12. 社会・文化（1） 13. 社会・文化（2） 14. 社会・文化（3） 15. まとめ 期末レポート						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示するが、歴史の教科書等があれば持参のこと。						
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。（60分～90分）						
成績評価方法	毎回の授業後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝45% 期末レポート＝55% なお、2/3以上の出席がない場合は採点の対象外とする。（病欠・公欠等は、別途相談のこと。）						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、MoodleにGoogleフォームのリンク先を毎回上げる。 期末レポートもMoodle内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出とのこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（携帯・メールなども含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	科学的思考論			科目コード	171601	授業コード	112405
担当教員	吉山 青翔			科目ナンバリング	GLAN1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本講義は、近代西欧科学思想史を中心として、古代から近代までの科学史の通史の探求を通じて、自然科学的な思考方法を展開します。						
到達目標	自然科学の全体的な姿を歴史的に把握する。 科学技術と人間社会との関係や、近代社会にもたらす諸問題に関する思考、解決に導くための思想的な理論基礎を築くことができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 古代オリエント科学の概観 第3講 古代ギリシア科学の概観 第4講 アリストテレスの自然学 第5講 中世の科学と近代大学の誕生 第6講 近代科学の開始：コペルニクスの地動説の成立 第7講 地動説をめぐって科学と宗教の闘争：ガリレオ裁判 第8講 万有引力法則の発見と近代力学の成立 第9講 理髪師から近代解剖学へ 第10講 血液循環説の確立と近代医学の成立 第11講 酸素の発見と近代化学の成立 第12講 進化論の確立と近代生物学の成立 第13講 蒸気エネルギーの発見と産業革命、そして、近代環境問題の発生 第14講 女性の自然科学領域への進出と環境科学の誕生 第15講 総括 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト とくになし。授業の内容に合わせて参考資料を指定・配布します。						
事前・事後学習	授業前に1時間半ほどをかけて指定された資料を読み、予習しておき、授業後にも1時間ほど授業の内容を確認してください。						
成績評価方法	中間テスト（30点）・期末定期試験（70点）により総合評価。						
授業内の課題・提出方法	授業の内容に関連するミニレポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらったレポートを、次の授業で講評します。						
担当者から一言	1) 本講義は一般教養科目ですので、公務員試験などの資格試験に直接役に立ちません。 2) 授業中、板書の量が多くて、ノートを取らない者は本講義に不向きであります。						

授業科目名	自然科学概論			科目コード	171603	授業コード	113402
担当教員	田中 伊知郎			科目ナンバリング	GLAN1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	個人を扱うのが文学で、ムラの人々のような集団を議論するのが社会学や文化人類学ですが、さらに大きな集会的な見方をするのが自然科学です。それは人間だけでなく、物質やその関係などの自然現象全体に広がります。そして、経済活動でも同じ動きが見られます。それらはどのように変化するかを説明します。						
到達目標	文学のように個人を扱うのではなく、集団としての見方を獲得します。さらに、たし算や掛け算などと違う自然の変化の仕方を見通す能力を身につけます。						
授業計画	第1講 ガイダンス：自然観察の有益性 第2講 自然現象と人間の思いの違い 第3講 事実 第4講 仲間(人間社会)から自然へ 第5講 個別でなく集団で考える：集合(分類からの実習) 第6講 自然数から連続量へ 第7講 指数の導入：細菌の増殖 第8講 桁数と指数(計算実習) 第9講 日常の指数：複利と物価(計算実習) 第10講 借金と情報の非対称性(ローン計算実習) 第11講 客観的な関係である関数：一次関数と予測可能性の実習 第12講 指数関数：立ち上がりの早さ(グラフ作成実習) 第13講 ゆらぎ 第14講 統計的比較と有意確率) 第15講 まとめ：自然科学の客観性 定期試験 持ち込み不可						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	講義内各回の終わりに練習問題(実習：実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントをつけて、合格するまでやり直してもらいます。 実践課題60% 定期試験 40%						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	できるだけ日常的な言葉で説明します。実践課題の結果、理解の浅いところは、講義を修正して再度行い、より深い理解に努力します。						

授業科目名	数学概論			科目コード	171604	授業コード	112203
担当教員	金岩 稔			科目ナンバリング	GLAN1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	高度な数学を学ぶための基礎力を養う講義です。 特に数学的な考え方を理解することに重点をおく。						
到達目標	（１）数学的な物の考え方ができるようになる。 （２）基礎的な数学を理解する。						
授業計画	1 ガイダンス 2 分離量と連続量 3 正と負 4 代数 5 図形 6 円 7 複素数 8 合同式 9 関数 10 極限 11 回転 12 微分 13 積分 14 微分方程式 15 まとめと確認課題						
テキスト・教材（参考文献含む）	配布資料						
事前・事後学習	予習：講義の予定内容を高校までの教科書で予習する。 復習：講義中に行った演習を各自で完答できるようにする。						
成績評価方法	出席（50％）最終課題（50％）						
授業内の課題・提出方法	講義時間中に回収						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	事務を通して返却						
担当者から一言	数学の考え方を理解すると、数学に対する苦手意識がやわらぐと思います。なるべく式を使わないでわかりやすい講義を目指します。						

授業科目名	化学概論		科目コード	171605	授業コード	111302
担当教員	牧田 直子		科目ナンバリング	GLAN1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	高校で化学を学んでいない、もしくは文系の学生向けの化学の授業ではあるが、高校では論理的な説明が成されず暗記科目になりがちな部分を大学の化学で補うことで、化学の考え方を学ぶ。化学は物質を扱う学問であり、「化学の目＝物質を見る目」を養うことがこの授業のねらいである。身の回りも自分自身も物質でできており、それらを学ぶ化学は実生活に役立つ実学である。健康で快適な生活のため、持続可能な社会の実現のために何を選ぶのか。物質面からの道標が化学であり、ぜひ学んでもらいたい。					
到達目標	「元素の周期表からの確かな情報を引き出す」 「化学の目＝物質を見る目」を養うためには、元素の周期表の学習は欠かせない。物質は元素で構成されており、元素の一覧表である周期表から非常に多くの情報を読み取ることができる。物質の構成元素わかれば、その物質の性質を予測する手がかりになる。周期表を使いこなせるようになる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、化学の学び方 第2講 物質とは何か 第3講 身の回りの物質 第4講 物質の性質 第5講 物質の状態 第6講 原子と電子軌道 第7講 電子配置と周期表 第8講 化学結合 1 第9講 化学結合2、物質質量 第10講 気体と溶液の性質 第11講 化学反応 第12講 酸と塩基 第13講 酸化と還元 第14講 光 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書： 日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編「『化学』入門編 ― 身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ」化学同人（2007）、2160円（税込）					
事前・事後学習	化学は積み上げ科目であり、土台（先に学習したこと）が大事になる。教科書をよく読み、わからないままにしないことが重要である。 (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する（90分）。 (2) 教科書を読む（60分）。各回の講義に該当する教科書のページ数を記載した講義計画を初回の授業で配布する。予習のポイントは宿題プリントに記載する。 (3) ノートの見直し、まとめ（30分）。 関連科目（環境情報学部）は「環境化学」、「自然調査法」、「環境基礎実験」など。特に環境情報学部の学生は、「環境化学」の前にこの科目を履修することが望ましい。					
成績評価方法	宿題プリント（13回分）：25%、定期試験：75%					
授業内の課題・提出方法	(1) 演習プリント：その日の授業の理解度と出席を確認することが目的であり、毎回授業中に取り組む。 提出方法-授業終了後に教室で提出する。 (2) 宿題プリント：授業の復習と次回の予習を含めた内容で第2講から13回分課す。 提出方法-翌週の授業開始後10分以内に教室で提出する。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された演習プリントと宿題プリントは、翌週の授業で返却する。 宿題の評価は正解率ではなく、解答率（問題数に対する解答数）に準じて採点し、プリントに明記する。					
担当者から一言	講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。					

授業科目名	地学概論	科目コード	171606	授業コード	111101
担当教員	森 康則	科目ナンバリング	GLAN1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害など、実際の地学的事象を交えながら、学びます。				
到達目標	地球の成り立ちや、その構造を理解するとともに、それらを構成する岩石の特徴や、地震や火山などの活動に伴う地層の成り立ちなど、あらゆる地学的自然現象を網羅的に理解します。				
授業計画	第1講 ガイダンス・地学とは 第2講 地球の構造と形状 第3講 岩石と鉱物 1 第4講 岩石と鉱物 2 第5講 化石 第6講 地質年代 1 第7講 地質年代 2 第8講 堆積作用 第9講 プレートテクトニクス 第10講 地震 第11講 火山 第12講 自然災害 1 第13講 自然災害 2 第14講 地下水 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。				
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、講義資料をもとに内容を復習してください（90分）。各講義の小テストや定期試験は、講義内容あるいはそれに関連する内容から出題します。				
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 5点×15回＝75点 （遅刻、早退は減点の対象になります） （2）定期試験 25点 計 100点				
授業内の課題・提出方法	各回の講義の最後に小テストを行い、提出を求めます。その際、講義内容に関する質問なども受け付け、評価の対象とします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回の講義の最初に、採点された小テストを返却し、答え合わせを行うとともに、質問に対する回答やコメントを行います。				
担当者から一言	高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を進めます。講義の中で受講者に発言を求める場面が多々ありますので、積極的な姿勢を期待します。				

授業科目名	生物学概論			科目コード	171607	授業コード	114801
担当教員	田中 伊知郎			科目ナンバリング	GLAN1007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	自然科学のうち生物学が扱うことを、はっきりさせて行きます。まず、生物の活動に必要なエネルギーについて、次に、生物がどのように情報を処理するのか(生理学的な情報と遺伝学的な情報)を明らかにしていきます。						
到達目標	人類の諸問題を考える上で、土台となる人間についての知識を養う。人間の生物としての特徴が生活や社会にどのように影響するのか理解する。						
授業計画	第1講 ガイダンス・自然に働きかける人間：大学周辺の森の見学(フィールドワーク) 第2講 生物のエネルギー：代謝 第3講 光合成：エネルギーの生産 第4講 呼吸：エネルギーの活用 第5講 生体物質：反応できる窒素 第6講 タンパク質：安定した生体物質 第7講 RNA：即時処理のための核酸(形を理解する実習) 第8講 遺伝的情報：安定した核酸であるDNA 第9講 遺伝子：DNA内の情報システム 第10講 遺伝子発現の情報処理 第11講 生物の環境応答：刺激の受容 第12講 生理的情報：刺激伝達と神経システム 第13講 生理的情報の統合：興奮と抑制 第14講 環境への反応：効果器の代表としての筋肉 第15講 行動：統合された反応 定期試験 持ち込み不可						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	実践課題60% 定期試験 40%						
授業内の課題・提出方法	講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われていながら誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。						

授業科目名	生物と進化			科目コード	171608	授業コード	111410
担当教員	田中 伊知郎			科目ナンバリング	GLAN1008		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	自然科学のうち生物学が扱う分野の視点をはっきりさせて行きます。まず、生物が、お互いに地球上でどのようなかわり合いを持って生きているのか明らかにしていきます(生態系)。次に、百万年単位の長い時間で見ると、生き物の生き方(姿かたちや行動パターン)は変わっていきます(進化)。特に、人類がどのように変化してきたのか明らかにしていきます。						
到達目標	環境問題を考える上で、土台となる知識(生物のエネルギー生産・生態系)を養う。人間の生物としての特徴を進化の視点から理解する。						
授業計画	第1講 ガイダンス・自然環境と人間：大学周辺の森の見学(フィールドワーク) 第2講 生態系：動物と植物の関係 第3講 生態系：草食動物と肉食動物 第4講 生態系：肉食動物と食物連鎖(海中) 第5講 生態系：疎水性物質の生物濃縮 第6講 生態系：環境との相互作用・日本の植生の特徴 第7講 生態系：採集狩猟社会と環境変化 第8講 生態系：農業の特徴 第9講 進化の定義 第10講 進化：分岐年代 第11講 進化：化石から見た人類進化・骨の意味するもの(人類の特徴の作図実習) 第12講 進化：化石から見た人類進化・祖先の運動パターン(腕渡りの作図実習) 第13講 進化：直立二足歩行の起源(腕渡りとの関係の作図実習) 第14講 進化：人類進化のまとめ 第15講 進化：ダイナミックな進化の示唆 定期試験 持ち込み不可						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点や化石や遺跡などの画像を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	実践課題60% 定期試験 40%						
授業内の課題・提出方法	講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントをつけて、合格するまでやり直してもらいます。授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、対応するノートの部分も示し、そこを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	生物同士や生物と外部環境のかかわり合いの 패턴を知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われていながら誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。						

授業科目名	環境論	科目コード	171609	授業コード	112604
担当教員	吉山 青翔	科目ナンバリング	GLAN1009		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	この講義では、環境に関する基本的な概念と含意を明らかにしたうえで、環境問題史・環境運動史・環境思想史」の探求を通して、受講者に環境問題の全体像を把握させ、環境問題の解決に対する基本的な思想的基礎を据えさせることを目指します。				
到達目標	環境問題の全体像を把握し、自分の環境観を形成する。				
授業計画	第1講 ガイダンス：環境論の仕組み及び課題 第2講 「自然」の定義と仕組み 第3講 「環境」の定義と仕組み 第4講 「文化」の定義と仕組み 第5講 「人間」の定義及び「自然」「環境」「文化」との関連性 第6講 環境に関する人類の認識1：ヒポクラテスによる医学上の見解 第7講 環境に関する人類の認識2：C. ダーウィンによる生物学上の見解 第8講 中間テスト 第9講 環境に関する人類の認識3：C. ベルナールによる生理学上の見解 第10講 環境に関する人類の認識4：C. ラッツェルによる地理学上の見解 第11講 科学と技術の結合、及び蒸気エネルギーの発見 第12講 蒸気エネルギーの実用化と産業革命、及び近代環境問題の発生 第13講 環境に関してレイチェル・カーソンと「ローマ・クラブ」の警告 第14講 国連「人間環境宣言」と環境保護運動のグローバル化 第15講 総括：環境問題の解決に対する思想的基礎：環境倫理学 定期試験				
テキスト・教材（参考文献含む）	参考資料 フランク・ユケッター著、和田佐規子訳『ナチスと自然保護』（築地書館株式会社、2015年）、その他（随時に授業内容に関する資料指定・配布します）。				
事前・事後学習	授業前に次回の授業内容を確認し、授業後に授業の内容を確認してください。				
成績評価方法	中間テスト（30点）・期末定期試験（70点）により総合評価。				
授業内の課題・提出方法	授業の内容に関するミニレポートを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらったレポートを、次回の授業で講評します。				
担当者から一言	この講義は板書がやや多いので、ノートを取ることが苦手な者には不向きです。				

授業科目名	心理学	科目コード	171610	授業コード	114601
担当教員	田中 伊知郎	科目ナンバリング	GLAN1010		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	情報処理理論と自然科学に基づく認知心理学の視点から、私たちが外界から得る情報の特徴を解説します。この人類に特徴的な過程を明らかにすることと、もう一つ人類が普遍的に行っている「相手に理解してもらえぬ情報伝達(教えること)」とはどういうものかを明らかにすることを講義のねらいとします。				
到達目標	生物として、および神経系の情報処理から生じる「表現と伝達における人類の特性」を理解してもらいます。また、単に情報を発信しても相手が理解することは、ほとんどありません。人類の特性に基づく相手にわかってもらえる情報伝達の実践を到達目標にします。				
授業計画	第1講 ガイダンス・視覚情報：色彩 色の対処理 第2講 視覚情報・色彩 赤と青を同時に使わない(実習) 第3講 視覚情報・色彩 表現(映像・絵画)における補色の利用 第4講 視覚情報・色彩 色鉛筆で絵を描きます(実習) 第5講 視覚情報・形 両眼視 第6講 視覚情報・形 アフォーダンス 第7講 視覚情報・アフォーダンス 実習1 ポケの効果 第8講 視覚情報・アフォーダンス 実習2 空気遠近を用いた作画(実習) 第9講 実験心理学からみた学習 第10講 個体学習と社会学習の違い 第11講 社会学習における課題 第12講 人類における「教えること」の成立（レポート課題の配布） 第13講 理解できるコミュニケーションの基礎となる同情と共感 第14講 実験心理学の技法・統計：因子分析を例にして 第15講 レポート返却(コメント付き)・講評 定期試験 各自のコメントに関連した問題				
テキスト・教材（参考文献含む）	なし				
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを予習として調べてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。				
成績評価方法	講義中の実践課題40% レポート 40% 定期試験 20% 講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。レポートはコメントをつけて以降の講義で返却します。				
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。				
担当者から一言	教育は一方の情報の発信でなく、双方の情報の通信によって達成されます。実践課題をすぐに評価するなど、みなさんの対応から授業の流れを機動的に変えて、よりよい理解を目指します。				

授業科目名	キャリア基礎Ⅰ			科目コード	171701	授業コード	111501
担当教員	岡 良浩			科目ナンバリング	GECC1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。						
授業のねらい	この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、皆さんの将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。「キャリア基礎Ⅰ」では、とりわけ就職をとりまく社会環境がどのようなものかを理解することを主なねらいとします。具体的には、働き方や地域の産業・経済、労働者の権利や大学生の雇用・求人の情勢などを理解します。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。						
到達目標	以下の3つが目標です。 ① 働く意義について考える。 ② 就業環境について理解する。 ③ 採用試験の基礎知識を習得する。						
授業計画	第1講 ガイダンス／キャリアをどう考えるか 9/25 第2講 課題と実習（社会人基礎力①） 10/2 第3講 課題と実習（社会人基礎力②） 10/9 第4講 知っておきたい採用試験の基礎① 10/16 第5講 知っておきたい採用試験の基礎② 10/23 第6講 働き方はどうなっているか 10/30 第7講 経営者によるキャリア講演会 11/6 第8講 課題と実習 11/13 第9講 知っておきたい採用試験の基礎③ 11/20 第10講 働く者の権利 11/27 第11講 知っておきたい採用試験の基礎④ 12/4 第12講 知っておきたい採用試験の基礎⑤ 12/11 第13講 大学生の雇用と求人の情勢 12/18 第14講 キャリアサポートセンターについて 1/15 第15講 まとめ 1/22						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはクラス担当教員から配付します。 毎回の講義には必ず持参してください。						
事前・事後学習	予習：あらかじめテキストを読んでおくこと（90分）。 復習：講義の内容や課題を復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	期末試験 50%、平常点（受講態度および課題の取り組み姿勢） 50%						
授業内の課題・提出方法	授業内で適宜課題を課します。提出は授業形態に応じて教室内で提出あるいはForms・Moduleを用いた提出を行います。毎回の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題は、コメントをつけて返却あるいは全体で講評を行います。						
担当者から一言	就職は卒業までに必ず考えなければならない事柄です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。						

授業科目名	キャリア基礎Ⅱ			科目コード	171702	授業コード	111103
担当教員	岡 良浩			科目ナンバリング	GECC1002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。						
授業のねらい	<p>この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。</p> <p>「キャリア基礎Ⅱ」では、自己分析・自己PRを中心にを行います。自己分析とは「どんなシゴトがしたいか」「どんなシゴトが自分に向いているか」「どんな会社に行きたいか」を自覚することをいいます。ここでは初めて自己分析・自己PRを行う学生を前提にその手法を学びながら自己分析・自己PRを行っていただきます。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。</p>						
到達目標	<p>以下の4つの到達目標があります。</p> <p>① 自己分析のさまざまな方法を習得し、実際に行ってみること。</p> <p>② 自己PRの方法を学習し、自らの自己PRを考えてみること。</p> <p>③ 履歴書やエントリーシートを作成すること。</p> <p>④ 採用試験の基礎を習得すること。</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス／自己分析のすすめ 4/10</p> <p>第2講 自己分析実習①適性をみる 4/17</p> <p>第3講 知っておきたい採用試験の基礎⑥ 4/24</p> <p>第4講 自己分析実習②過去の自分をふりかえる 5/8</p> <p>第5講 自己分析実習③他者の意見を聞く 5/15</p> <p>第6講 知っておきたい採用試験の基礎⑦ 5/22</p> <p>第7講 自己分析実習④未来の自分を考える 5/29</p> <p>第8講 自己分析実習⑤自己PRを考える 6/5</p> <p>第9講 知っておきたい採用試験の基礎⑧ 6/12</p> <p>第10講 業界・企業研究のすすめ 6/19</p> <p>第11講 企業研究実習 6/26</p> <p>第12講 知っておきたい採用試験の基礎⑨ 7/3</p> <p>第13講 履歴書・エントリーシートを書く（実習）① 7/10</p> <p>第14講 履歴書・エントリーシートを書く（実習）② 7/17</p> <p>第15講 知っておきたい採用試験の基礎⑩ 7/24</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>テキストはクラス担当教員から配付します。</p> <p>毎回の講義には必ず持参してください。</p>						
事前・事後学習	<p>予習：あらかじめテキストを読んでおくこと（90分）。</p> <p>復習：講義の内容や課題を復習しておくこと（90分）。</p>						
成績評価方法	<p>期末試験50%、平常点（受講態度および課題の取り組み姿勢）50%</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>授業内で適宜課題を課します。提出は授業形態に応じて教室内で提出あるいはForms・Moduleを用いた提出を行います。毎回の指示に従ってください。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>授業内の課題は、コメントをつけて返却あるいは全体で講評を行います。</p>						
担当者から一言	<p>自分を客観的に見つめ直し、将来を考えるよい機会です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。</p>						

授業科目名	キャリア基礎Ⅲ			科目コード	171703	授業コード	111702
担当教員	岡 良浩			科目ナンバリング	GECC1003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。						
授業のねらい	キャリア基礎Ⅲでは、具体的な就職活動を想定し、企業説明会・エントリー・面接など、ひととおりの就職活動を模擬的に体験することを主な内容とします。就職活動中は、学生ではなく、社会人としての行動が要求されます。このようなビジネスマナーについても演習を行います。全体を通して、実際の就職活動に向けて学生が自信を持てるように個別指導を行っていきます。また、就職活動の方法は毎年変化していくため、新しい面接の手法なども積極的に取り入れ、対応方法についても勉強していきます。						
到達目標	<p>模擬的な就職活動を行うことによって以下の5つの能力を養うことが目標です。</p> <p>① キャリア基礎Ⅱで行った自己分析・自己PRを実践的にブラッシュアップすること</p> <p>② 就職活動を行うための経済・社会・企業の情報収集方法を身につけること</p> <p>③ 就職活動に関するビジネスマナーを身につけること</p> <p>④ グループディスカッション・面接・プレゼンなどの方法を学ぶこと</p> <p>⑤ 全体として社会人としての言動や表現力を身につけること</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス／グループディスカッション①9/25</p> <p>第2講 グループディスカッション②10/2</p> <p>第3講 グループディスカッション③10/9</p> <p>第4講 日本・東海地方の産業・経済はどうなっているか10/16</p> <p>第5講 新聞を読む10/23</p> <p>第6講 新聞を読む（実習）10/30</p> <p>第7講 ビジネスマナー①（面接）11/6</p> <p>第8講 模擬合同企業説明会11/13</p> <p>第9講 エントリーシートの作成①11/20</p> <p>第10講 模擬面接（実習）①11/27</p> <p>第11講 模擬面接（実習）②12/4</p> <p>第12講 ビジネスマナー②（書類の送付、メール・電話対応）①12/11</p> <p>第13講 プレゼン面接（実習）②12/18</p> <p>第14講 プレゼン面接（実習）1/15</p> <p>第15講 まとめ1/22</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはクラス担当教員から配付します。 毎回の講義には必ず持参してください。						
事前・事後学習	<p>予習：あらかじめテキストを読んでおくこと（90分）。</p> <p>復習：講義の内容や課題を復習しておくこと（90分）。</p>						
成績評価方法	期末試験50%、平常点（受講態度および課題の取り組み姿勢）50%						
授業内の課題・提出方法	授業内で適宜課題を課します。提出は授業形態に応じて教室内で提出あるいはForms・Moduleを用いた提出を行います。毎回の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題は、コメントをつけて返却あるいは全体で講評を行います。						
担当者から一言	3年生では就職ガイダンスがはじまります。ここで勉強したことを生かして、失敗を恐れず行動することが何より重要です。果敢にチャレンジしてください。						

授業科目名	ボランティア活動 a		科目コード	171801	授業コード	116105
担当教員	倉田 英司		科目ナンバリング	GESC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。					
授業のねらい	社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。 ※ボランティア活動aの単位修得後、bを取得する。					
到達目標	1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。 2. 主体的な行動力を身に付け、社会を良くするために考察する力をつける。 3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける					
授業計画	1 対象となる活動 ① ボランティアセンターで紹介するボランティア活動 ② 別に大学の審査により認められたボランティア活動 2 単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。） 3 活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期 4 事前申請 参加予定の1か月前、既に参加した場合は終了後1か月後に「ボランティア活動内容書」（教務課に置いてある）を教学課に提出すること。 5 単位認定申請 実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の1月末日まで） ① ボランティア活動a単位認定申請書 ② ボランティア活動団体発行の証明書 ③ 活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度） 注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。					
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。					
事前・事後学習	（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。 （事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。					
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。					
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。					
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。					

授業科目名	ボランティア活動 b			科目コード	171802	授業コード	116106
担当教員	倉田 英司			科目ナンバリング	GESCI002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。						
授業のねらい	社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。 ※ボランティア活動aの単位修得後、bを取得する。						
到達目標	1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。 2. 主体的な行動力を身に付け、社会を良くするために考察する力をつける。 3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける						
授業計画	1 対象となる活動 ① ボランティアセンターで紹介するボランティア活動 ② 別に大学の審査により認められたボランティア活動 2 単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。） 3 活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期 4 事前申請 参加予定の1か月前、既に参加した場合は終了後1か月後に「ボランティア活動内容書」（教務課に置いてある）を教学課に提出すること。 5 単位認定申請 実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の1月末日まで） ① ボランティア活動b単位認定申請書 ② ボランティア活動団体発行の証明書 ③ 活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度） 注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。						
事前・事後学習	（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。 （事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。						
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。						
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。						
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。						

授業科目名	国際協力研修			科目コード	171803	授業コード	116501
担当教員	岩崎 祐子			科目ナンバリング	GESC1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。						
授業のねらい	<p>青年海外協力隊、NGO（非政府団体）、国際ボランティア等の海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶ場を提供します。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象となります。</p> <p>海外で実際に行われている社会貢献活動の体験を通じ、国際的な視野を広げることも目的としています。</p>						
到達目標	<p>1 国際的な社会貢献活動について理解を深めます。</p> <p>2 国際感覚を身に付けます。</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 第2講 事前研修 第3講 事前研修 第4講 海外現地研修 第5講 海外現地研修 第6講 海外現地研修 第7講 海外現地研修 第8講 海外現地研修 第9講 海外現地研修 第10講 海外現地研修 第11講 海外現地研修 第12講 海外現地研修 第13講 海外現地研修 第14講 海外現地研修 第15講 海外研修の振り返り ※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。</p> <p>※大学外の海外研修に参加する場合は、海外協力活動への参加の事前申請を行って下さい。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	外務省（日本）ホームページ、タイ政府観光庁（日本語サイト）のホームページのタイ情報を参照してください。						
事前・事後学習	<p>事前：参加する活動や団体、研修実施国に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと。（90分）</p> <p>事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも間を通すこと。（90分）</p>						
成績評価方法	<p>四日市大学の海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。海外研修中の参加意欲（50%）活動日誌・レポート（50%）</p> <p>大学外の活動の場合は、終了後に活動した団体の証明書（様式自由）および活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。活動日誌（50%）レポート（50%）</p> <p>※評価（単位）は、次年度前学期につきます。</p>						
授業内の課題・提出方法	海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	海外研修の振り返りの機会を設定します。						
担当者から一言	<p>2024年2月にタイで1週間の研修を実施する予定です。四日市大学の研修参加希望者は説明会に必ず参加してください。研修終了後は、大学の広報活動に協力してください。</p> <p>※研修には研修参加費が必要です。</p> <p>※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。</p>						

授業科目名	インターンシップ			科目コード	171804	授業コード	116104
担当教員	鬼頭 浩文			科目ナンバリング	GESC1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。						
授業のねらい	<p>大学の長期休暇などで合計10日間をフルタイムで就労体験する。正職員と同じ責任と目線で就労体験を行う。この体験は、ハードな実習になるので、安易な受講は避けてほしい。</p> <p>■インターンシップを履修するための条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3か月以上のアルバイトの経験（週2日以上 of 定期アルバイト）があること ・基本的なマナーが身についており、コミュニケーション能力が高いこと ・どのような研修をしたいのか、明確な目標があること 						
到達目標	正職員と同じ目線で仕事を捉え、業務の全般を把握できること。						
授業計画	<p>★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること</p> <p>★詳細は、履修要綱に記載</p> <p>4月：説明会（CSC主催）…スケジュール詳細説明／申込用紙配布</p> <p>4月末：申込用紙を提出 ⇒ 書類選考の合格者を発表</p> <p>5月中旬～下旬：面接 ⇒ 面接の合格者を発表</p> <p>5月下旬：ガイダンス…受入企業一覧配付/希望研修先用紙配付/事前研修についての連絡等</p> <p>6月下旬：研修先マッチング開始 ⇒ 研修先決定</p> <p>7月中旬：事前研修…マナー研修/インターンシップ中の心得等</p> <p>7月下旬：直前ガイダンス…研修中の諸注意/事後研修についての連絡等</p> <p>8～9月上旬：インターンシップ研修</p> <p>11月：事後研修…レポート提出</p> <p>12月頃：単位認定</p> <p>* 春期休業期間等にインターンシップ研修を行う場合のスケジュールなどは、担当教員が個別に対応する。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。						
事前・事後学習	講義計画に記述した通り、研修前に計10時間ほどの準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。						
成績評価方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価。						
授業内の課題・提出方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後にレポートを提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価・フィードバックする。						
担当者から一言	明確な目標がない学生は、受講を認めない。安易な考えで受講することは、絶対にしないでほしい。なお、実習は平日昼の正社員と同じ勤務になる。当然、アルバイトやクラブ活動で欠席することは認められない。						

授業科目名	社会調査入門			科目コード	172101	授業コード	113207
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	GSSR1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	現実の社会をとらえる方法の一つに社会調査がある。社会調査で何がわかるのか、なぜ社会調査が必要なのか。授業ではこうしたことを考えてゆく。これまでに行なわれた調査の実例を紹介し、社会調査の方法、目的に合わせた方法の選択、調査結果の解釈について学ぶ。社会調査の基本的知識を身につけ、社会調査の役割を理解することがねらいである。						
到達目標	社会調査の基本的知識を身につける						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査の目的と意義 3 社会調査の歴史① 4 社会調査の歴史② 5 質的調査と量的調査 6 社会調査の種類と方法 7 サンプリングの発展 8 公的統計の意義と活用 9 量的な社会調査の例① 10 量的な社会調査の例② 11 質的な社会調査の例① 12 質的な社会調査の例② 13 実験的方法の例 14 社会調査をめぐる環境 15 社会調査の倫理 必要に応じてグループワークを行います。						
テキスト・教材（参考文献含む）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社。						
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）						
成績評価方法	平常点30%、中間試験15%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラム「A」科目です。 学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	社会調査の技法			科目コード	172102	授業コード	113606
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	GSSR1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業の目的は、社会調査の企画・設計から実施、分析・公表にいたる一連のプロセスを知り、注意すべき点を理解することです。特にサンプリング方法と調査票の作成は、グループワークなどを通して実践的に修得をはかります。						
到達目標	社会調査によるデータの収集・分析について、基礎的な知識を身につける。						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査における問いと仮説 3 社会調査の種類と方法 4 社会調査の企画と設計 5 量的調査の方法 6 サンプリングの考え方 7 サンプリングの方法 8 調査票の作成 9 質問文の作り方 10 量的調査の実施 11 調査データの整理 12 量的データの分析 13 質的調査の方法 14 質的データの分析 15 調査の倫理 必要に応じてグループワークを行います。						
テキスト・教材（参考文献含む）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社。						
事前・事後学習	新聞・ニュースに目を通す（1日10分） 授業のノートを見返す（1日10分）						
成績評価方法	平常点30%、中間試験15%、期末試験55%。 平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートの質問などは翌週以降の授業でコメントします						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラム「B」科目です。 学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	データ分析の基礎			科目コード	172103	授業コード	114701
担当教員	田中 伊知郎			科目ナンバリング	GSSR1003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を学びます。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を明らかにしていきます。社会調査士認定に関するC科目に相当します。						
到達目標	相関係数など基礎的統計概念、擬似相関の概念などを身に着けて、実際のデータに適用できるようにします。また、因果関係と相関関係が区別できるようにします。						
授業計画	第1講 ガイダンス：平均値が便利なこと(買い物で使っている)の確認 第2講 度数分布表の作成：いろいろな値段のある回転寿司屋さん 第3講 いろいろな代表値(中央値・最頻値・分散・標準偏差) 第4講 既存統計資料の読み方と使い方 第5講 量的データと伴って変わる量 第6講 比例と1次関数 第7講 1次関数のグラフの拡張：散布図 第8講 Excelを使つての散布図の作成 第9講 1次関数と相関係数 第10講 Excelを使つての相関係数の求め方 第11講 相関係数の性質 第12講 データの性質の拡張：質的データ 第13講 データの入力と照合(統計的資料を使つて) 第14講 クロス集計(質的データにおける関連性)の説明 第15講 相関関係・関連性と因果関係の違い：擬似相関と実験計画 定期試験 持ち込み不可 第2講から第14講までパソコン・スマホなどを使つての実習となります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできない場合は、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	パソコン教室の実習形式で行います。パソコン(スマホでも)を使うと、統計解析がスムーズに進むとわかってもらいます。						

授業科目名	統計的分析			科目コード	172104	授業コード	113805
担当教員	田中 伊知郎			科目ナンバリング	GSSR1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、推測統計学の基礎的な知識を学びます。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、サンプリングの理論、属性相関係数（クロス表の統計量）、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎などを明らかにしていきます。社会調査士認定に関するD科目に相当します。						
到達目標	量的データにおける相関係数の利用・質的データにおけるクロス集計の利用をパソコン実習で身に付けます。さらに、正規分布しているデータの平均値の検定などを使い、集団を分けるもの(要因)を見つける力を養います。						
授業計画	第1講 ガイダンス：平均値・中央値と度数分布の確認 第2講 サンプリング：標本と母集団の関係とヒストグラムの作成 第3講 正規分布：確率論の基礎、ゆらぎ(分散)の概念の獲得 第4講 正規分布かの検定(Kolmogorov-Smirnov検定) 第5講 平均値の差の検定：二つの正規分布か、同じ分布か：実習 第6講 分散分析(3要因への検定の拡張)と効果量 第7講 分散分析の実習 第8講 一次関数と相関係数：Excelを使つての求め方 第9講 相関係数の性質と回帰分析 第10講 データの性質の拡張・測定の尺度としての順位変数など 第11講 ノンパラメトリック検定(正規分布でない場合) 第12講 クロス集計(質的データにおける関連性)の説明と実践・ 第13講 クロス集計の実践：質的アンケートと円グラフ 第14講 クロス集計の検定(正確確率検定など) 第15講 クロス集計の検定：実習 定期試験 持ち込み不可 第2講から第15講までパソコン(スマホなど)を用いた実習となります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	パソコン教室の実習形式で行います。パソコン(スマホなど)を使うと、統計解析がスムーズに進むとわかってもらいます。平方根の計算などが入りますので、数学の知識が必要となります。						

授業科目名	データ解析の技法			科目コード	172105	授業コード	115801
担当教員	古山 歩			科目ナンバリング	GSSR1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	複雑な現代社会を読み解く方法の一つに、数量データを用いた多変量解析がある。本講義では多変量解析の基本的な考え方や代表的な技法の本質を理解し、それらを活用するための基礎力を身につけることを目的とする。						
到達目標	(1) 多変量解析に必要な基礎力を身につける。 (2) 回帰分析をはじめとした主要な解析法について理解する。 (3) 回帰分析をはじめとした主要な解析法を実行し、結果を適切に評価できるようになる。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 数学の基礎 3. データ解析のためのExcelの基本操作 4. データ準備1 データサンプリング・まとめ方 5. データ準備2 データの表し方・読み方 6. 統計の基礎知識の復習1 確率分布 7. ミニテスト・統計の基礎知識の復習2 基礎的な統計検定 8. 回帰分析1 回帰分析の考え方・単回帰の実行 9. 回帰分析2 回帰分析の精度評価 10. 重回帰分析 11. ミニテスト・二項ロジスティック回帰分析 12. 分散分析 13. 共分散分析 14. クラスタ分析 15. まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書：なし、適宜資料を配布する 参考書：倉田博史著「大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる」KADOKAWA（2017年） 栗原伸一・丸山敦史著「統計学図鑑」オーム社（2018）						
事前・事後学習	予習：インターネットなどのニュースで統計データの内容について確認する（60分）。 復習：講義中の実習課題の見直しと不備の修正を行う（30分）						
成績評価方法	講義中の実習課題（20%）、講義中のミニテスト（30%）、定期試験（50%）、必要に応じてフィードバックします。						
授業内の課題・提出方法	適宜指示する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中の実習課題、講義中のミニテストを必要に応じてフィードバックする。						
担当者から一言	データ解析は、市場調査をはじめとしたあらゆるところで行われています。本講義では様々なデータ解析手法についてパソコンのExcelを用いた実践を通して、解析スキルの習得を目指します。						

授業科目名	フィールドワーク論			科目コード	172106	授業コード	113406
担当教員	倉田 英司			科目ナンバリング	GSSR1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本授業は、フィールドワークにおける調査手法の選択と設計、分析結果の示し方に関する技法の習得を目的とする。講義ではデータ分析、聞き取り調査、参与観察に注目し、フィールドワークに関する報告書の内容や実際に行われた事例などを紹介することで、フィールドワークの概念を理解してもらう。また、調査目的に応じた質問項目の設計について、ディスカッションを通して学生間で考えてもらう。						
到達目標	調査に必要な独自の質問項目表を作成することができる。						
授業計画	1. ガイダンス 2. フィールドワークとは 3. フィールドワークによる調査事例 4. 目的に応じたフィールドワーク手法と対象地区 5. 地区内の現状把握手法（データ分析） 6. 地区内の課題把握手法（データ分析） 7. 地区内の現状把握手法（聞き取り調査） 8. 地区内の課題把握手法（聞き取り調査） 9. 地区内の現状把握手法（参与観察） 10. 地区内の課題把握手法（参与観察） 11. 地区内の現状・課題に関する分析結果の示し方 12. 調査結果の考察手法 13. 調査結果を踏まえた提言手法 14. 最終レポートのガイダンス 15. まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。						
事前・事後学習	各章のレポート作成（180分）。						
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ①講義への参加度（発言等）：30% ②各回のレポート：30% ③最終レポート：40% 各回のレポートは講義の中で発表してもらう。 最終レポートは希望者には返却する。						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義後にレポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは次回講義時に、適宜コメントする。						
担当者から一言	知識提供だけでなく、地域を読み解く力を養成します。 フィールドワーク調査やインタビューに関する書籍なども活用しながら、自分らしい読み解き方を考えていきましょう。						

授業科目名	社会調査実習 1			科目コード	172107	授業コード	112402
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	GSSR1007		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	社会調査を実施して成果物を作成する技法の習得を目的とする。とくに、以下の4つの項目を重点的に、実習を運営してゆく。(1)テーマに沿って、問いと仮説をたてる。(2)先行研究を調べる。(3)調査票を作成する。(4)データの分析を通してレポートを執筆する。本実習を履修することにより、これまでに習得してきた社会調査の基礎を、実践的に理解すること、調査分析スキルの基礎強化を図ること、などが期待できる。						
到達目標	本実習の履修者には、自らの問いをもとにして、先行研究を整理することが求められる。そして調査をつうじて得られたデータを、適切な方法を用いて分析し、考察を加えて成果の形にまとめることで、社会調査の一連の過程を学ぶことができる。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 問題の整理 3. 対象について学ぶ 4. 問いを立てる 5. 先行研究をさがす 6. 先行研究の検討(1) 7. 先行研究の検討(2) 8. 仮説の形成 9. 調査項目の洗い出し 10. 調査表作成の基礎 11. 調査票の作成(1) 12. 調査票の作成(2) 13. 調査票の完成 14. 調査の実施 15. まとめ 必要に応じてグループワークを行います。						
テキスト・教材（参考文献含む）	<参考文献> 大谷信介ほか編著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房、2013						
事前・事後学習	報告準備をする（90分以上）						
成績評価方法	実習への参加度50%、期末レポート50%						
授業内の課題・提出方法	不定期に中間報告の機会を設けます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告内容をもとに全員でディスカッションします。						
担当者から一言	この科目は、社会調査士養成ユニットのうち3科目以上の単位を取得していることが履修条件です。 社会調査士資格カリキュラム「G」科目です。なお資格取得には、同年度に「社会調査実習2」の単位も取得する必要があります。						

授業科目名	社会調査実習 2			科目コード	172108	授業コード	112802
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	GSSR1008		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	社会調査を実施して成果物を作成する技法の習得を目的とする。以下の5項目に重点を置いて運営してゆく。(1)テーマに沿って、問いと仮説をたてる。(2)先行研究を調べる。(3)調査票を作成する。(4)データを分析する。(5)レポートを執筆する。本実習を履修することにより、これまでに習得してきた社会調査の基礎を、実践的に理解すること、調査分析スキルの強化を図ること、などが期待できる。						
到達目標	本実習の履修者には、自らの問いをもとにして、先行研究を整理することが求められる。そして調査をつうじて得られたデータを、適切な方法を用いて分析し、考察を加えて成果の形にまとめることで、社会調査の一連の過程を学ぶことができる。						
授業計画	1. ガイダンス 2. データの整理 3. データ入力(1) 4. データ入力(2) 5. データ分析の基本 6. データの分析(1) 7. データの分析(2) 8. 分析結果の報告(1) 9. 分析結果の報告(2) 10. 分析結果の報告(3) 11. レポートのまとめ方 12. 報告原稿の発表(1) 13. 報告原稿の発表(2) 14. 報告原稿の発表(3) 15. 報告書の作成 必要に応じてグループワークを行います。						
テキスト・教材（参考文献含む）	<参考文献> 大谷信介ほか編著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房、2013.						
事前・事後学習	報告準備（90分以上）						
成績評価方法	成績評価方法：実習への参加度50%、期末レポート50%						
授業内の課題・提出方法	不定期に報告機会を設けます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告内容をもとに全員でディスカッションします。						
担当者から一言	この科目は、社会調査士養成ユニットのうち3科目以上の単位を取得していることが履修条件です。 社会調査士資格カリキュラム「G」科目です。なお資格取得には、同年度に「社会調査実習1」の単位も取得する必要があります。						

授業科目名	公務のための数的推理			科目コード	172201	授業コード	113804
担当教員	高田 晴美			科目ナンバリング	GSPO1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	皆さんが苦手としがちな科目であり、しかし、出題数も多く、公務員 1 次試験を突破するには絶対に得点源にしなければならない重要科目が「数的推理」です。数学というと難しく感じるかもしれませんが、数的推理に必要な数学の知識は、殆どが中学レベルです。努力すれば手ごたえを得やすい科目でもありますから、粘り強くコツコツと学習を積み重ねていくことが重要です。この講義では、数的推理の殆どのテーマについて、基本から中級レベルまで、解法のインプットから始めて問題を実際に解くというアウトプットまで行います。						
到達目標	1 数的推理の出題パターンとその解法を知る。 2 今後、自力で学習を進めていくためのベースとなる学力を身に付ける。						
授業計画	第 1 講 ガイダンス、整数の性質 第 2 講 剰余系の問題、n 進法 第 3 講 比と割合 第 4 講 方程式と不等式① 第 5 講 方程式と不等式② 第 6 講 濃度 第 7 講 仕事算、ニュートン算 第 8 講 年齢算、平均算など 第 9 講 集合 第 10 講 速さ① 第 11 講 速さ② 第 12 講 速さ③ 第 13 講 場合の数 第 14 講 確率 第 15 講 数列 定期試験 順番は入れ替わる可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベストNEO 数的推理／資料解釈』エクスピア出版（2021 年）1, 650 円						
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で、課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次の授業で行います。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための判断推理			科目コード	172202	授業コード	113405
担当教員	高田 晴美			科目ナンバリング	GSPO1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公務員試験の教養科目のうち、「判断推理」は、高校までの学習内容からは外れた、公務員試験独特の科目です。理数系ではありますが、パズルのような問題が大部分であるため、解法の知識も必要ですが、それとともに、試行錯誤しながら論理的に考えていく思考力と粘り強さが要求されます。また、時間をかけずに要領よく解答するためのコツも必要であり、様々なタイプの問題に慣れておく必要もあります。講義では、各テーマについて基本的な解法を示した上で、実際に問題演習にあたり、自力で解くための学力を養成します。						
到達目標	1 判断推理の解法を一通り身に付ける。 2 論理的な思考能力と、解答のために試行錯誤をする力を養う。 3 今後、自力で学習を進めていけるだけのベースとなる学力を身に付ける。						
授業計画	第1講 ガイダンス、順序関係 第2講 順序関係 第3講 位置関係 第4講 対応関係 第5講 試合 第6講 数量関係 第7講 命題と論理 第8講 真偽 第9講 暗号と規則性 第10講 操作・手順 第11講 パズル問題 第12講 移動と軌跡 第13講 立体図形 第14講 展開図 第15講 サイコロと位相 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト NEO 判断推理』エクシア出版（2021年）1, 650円						
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元（授業でやったあたり）について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%						
授業内の課題・提出方法	毎回、授業の終わりに課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次回の授業で行います。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための現代文			科目コード	172203	授業コード	115704
担当教員	高田 晴美			科目ナンバリング	GSPO1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公務員試験科目のうちの「文章理解（国語分野）」の「現代文」のところと「資料解釈」の2科目について、問題演習を行います。「文章理解（国語）」では出題パターンの紹介とともに、どういうところに着目すべきかを解説します。「資料解釈」は出題数は少ないですが、出題タイプが限られるので、対策を取れば確実に得点源にできます。採用試験だけでなく、その後の公務員の仕事にも必要な能力でもありますから、得意科目にしていきましょう。						
到達目標	1 「文章理解（国語分野）」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。 2 「資料解釈」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。						
授業計画	第1講 ガイダンス、現代文①——内容把握 第2講 現代文②——内容把握 第3講 現代文③——要旨把握 第4講 現代文④——要旨把握 第5講 現代文⑤——文章整序 第6講 現代文⑥——文章整序 第7講 現代文⑦——空欄補充 第8講 資料解釈①——実数 第9講 資料解釈②——実数 第10講 資料解釈③——割合・構成比 第11講 資料解釈④——割合・構成比 第12講 資料解釈⑤——指数・増加率 第13講 資料解釈⑥——指数・増加率 第14講 資料解釈⑦——特殊な問題 第15講 資料解釈⑧——特殊な問題 定期試験 なお、この科目はオンデマンドで行います。						
テキスト・教材（参考文献含む）	● 瀧口雅仁『公務員試験 文章理解 すぐ解ける〈直観ルール〉ブック〔改訂版〕』実務教育出版（2020年） ● 畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベストNEO 数的推理／資料解釈』エクシア出版（2021年）（「公務のための数的推理」と同テキスト）						
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元（授業でやったあたり）について、以下のことをしておくこと。 ・（特に「資料解釈」では）講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%						
授業内の課題・提出方法	課題は講義の中で説明します。 Moodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、授業もしくはMoodleで示します。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象としています。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための政治学			科目コード	172204	授業コード	113508
担当教員	小林 慶太郎			科目ナンバリング	GSPO1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	<p>わたしたちが、役所の人（公務員）に何かをして貰おうとする時、それはどのような仕組みに基づいて、どのように進められるのでしょうか。そしてその背景には、どのような国の仕組みや権力構造、プロセス、歴史があるのでしょうか。</p> <p>この授業ではこうした、地域で公務につく際に必要となってくる政治的な知識について、学生諸君が、過去の公務員採用試験などの問題を解きながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします</p>						
到達目標	市役所・警察・消防等の公務員採用試験の政治的分野の問題を、確実に解ける程度の知識を身につけることが、この授業の到達目標です。						
授業計画	第1講 ガイダンス：この授業の進め方 第2講 三権分立と法の支配 第3講 議院内閣制 第4講 国会 第5講 内閣 第6講 官僚制と行政 第7講 裁判所 第8講 地方自治 第9講 直接請求権 第10講 選挙 第11講 政党政治 第12講 政治理論 第13講 各国の政治制度 第14講 国際政治 第15講 時事問題 定期試験 ※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学（改訂第3版）」実務教育出版（2022年）1, 500円＋税 ※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。						
事前・事後学習	必ず予習・復習（各90分）をしてください。なお、講義内容の理解のためにも、出来るだけ、この講義の履修に先立って全学共通教育科目の「政治学」を履修するようにしてください。また、日頃から、テレビや新聞の政治ニュースに目を通すことを心掛けてください。						
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する小テストの提出状況：30% ・定期試験（持込不可）：70%						
授業内の課題・提出方法	毎回小テストを実施し、授業中に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小テストは採点し、次の授業時に返却・解説を行います。						
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。						

授業科目名	公務のための経済学			科目コード	172205	授業コード	112601
担当教員	鬼頭 浩文			科目ナンバリング	GSPO1005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この講義では、公務員や金融機関、大学院などをを目指す学生に対して、経済学の知識をわかりやすく伝授する。具体的には、職業人として必要な経済を見る力を身につけることと、企業の就職試験や公務員の教養試験における経済学分野の問題を解くための勉強を行う。できる限り、受験テクニックだけでなく、実際の社会の仕組みについても学ぶ。						
到達目標	経済学の基本的知識を理論的に理解し、試験問題の解答を導き出す能力を身につけることが到達目標である。						
授業計画	<p>1回目のガイダンスは教室に集まってもらい、全ての回のレジュメを配布します。その後の講義はオンデマンド型授業になります。OD授業を一時停止や複数再生しながら内容を理解し、レジュメにノートテイクしてください。なお、課題はテキストの指定した範囲の説明部分を自分なりにノートにまとめ、問題は解くだけでなく解答をみて重要なポイントをノートにまとめてください。課題は、それぞれB5ノートで5ページ以上になるよう、しっかりとまとめてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（基礎数学復習と一次関数の演習問題） 2. 無差別曲線と消費者の行動① 3. 無差別曲線と消費者の行動②＜課題①＞ 4. 企業の行動① 5. 企業の行動②＜課題②＞ 6. 需要の価格弾力性① 7. 需要の価格弾力性②＜課題③＞ 8. 市場メカニズムと安定性＜課題④＞ 9. 比較優位の理論① 10. 比較優位の理論②＜課題⑤＞ 11. 財政政策・金融政策① 12. 財政政策・金融政策②＜課題⑥＞ 13. 公共財の供給① 14. 公共財の供給②＜課題⑦＞ 15. その他の経済学の問題演習 						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学〔改訂第3版〕」実務教育出版（2022年）1, 500円＋税</p> <p>※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。</p>						
事前・事後学習	指示した練習問題にトライして、理解できない問題は次回の講義で質問できるように準備をしておくこと。7回の課題には、各3～5時間ほどを要するので、計画的に取り組むこと。この講義は、全学共通教育科目の「経済学」単位取得後の受講が好ましい。						
成績評価方法	授業を理解した上で課題(7回を予定)を提出すること。その上で、課題50%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	独学で勉強するテキストの個所を精読し、ノートにまとめを書き、練習問題を解くだけでなく解説の重要個所もまとめ、写真にしてMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してMoodleを経由してフィードバックを行う。						
担当者から一言	公務員試験・社会科学系大学院では、経済学の知識は必須である。内容はとても難しいが、パワーポイントなどで分かりやすく解説する。オンデマンド型授業であるが、毎週のOD講義を決まった曜日・時間帯に視聴し、すぐにノートを提出、課題にも計画的に取り組むこと。						

授業科目名	公務のための法学			科目コード	172206	授業コード	113206
担当教員	中西 紀夫			科目ナンバリング	GSPO1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公務員試験対策の法学という形ではありますが、法理論や法制度の基礎的知識はもちろんのこと、憲法上の権利等も問題を解きながら認識を深めていきます。本講義では、大卒程度の警察官や消防官を対象としたテキストを使用しますが、必要に応じて市役所等の試験に出題される問題にも対応したいと思います。当然、たくさん問題を解いていきますが、答え合わせでも出来るだけ分かりやすい解説になるように工夫をしていきたいと思っています。						
到達目標	法学や憲法の基本的な内容を論理的に理解したうえで、公務員試験の問題に対応できる能力を身につけることです。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 法の特質、法の分類、法の支配、法の解釈 第3講 大日本国憲法と日本国憲法の特徴、国民主権、平和主義、憲法改正の手続き 第4講 人権の発達、基本的人権の原理 第5講 日本国憲法における基本的人権の種類 第6講 人権の享有主体性、平等権、自由権、社会権 第7講 参政権と請求権、新しい人権と国民の義務 第8講 要約（これまでの確認） 第9講 民法、刑法、その他の法律 第10講 主な社会学者とその業績、社会集団の分類、現代社会の諸特質 第11講 労働三権、労働三法、近年の労働事情と労働問題 第12講 社会保障、高齢社会、少子社会 第13講 地球環境問題 第14講 資源・エネルギー問題 第15講 要約（これまでの確認） 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	資格試験研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学〔改訂第3版〕』実務教育出版（2022年）1, 650円（税込）必要に応じて、プリントでも補足します。 ※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の3科目共通です。						
事前・事後学習	その日に扱う内容は出来るだけテキストを事前に読んでおくと、もう一度説明を聞くことで更に頭に入りやすいですし問題の正解率も上がりますので、是非、お願いしたいと思います。ニュース、新聞記事のチェックも忘れないようにしましょう。（毎回の予習90分と復習90分）						
成績評価方法	小テスト 30%：授業中に行う小テストは採点をして2週間以内に返却します。受講態度等も含みます。 定期試験 70%：択一式や用語を書く問題が中心で、テキストや資料等の持込は不可です。						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちららも臨機応変な対応が必要になることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	公務のための人文科学			科目コード	172207	授業コード	114401
担当教員	浅井 雅			科目ナンバリング	GSPO1007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	幅広い人文科学の知識を問題演習を通じて学ぶ。公務員試験を目指す者のみならず、様々な業種の就職試験における一般教養も学べる授業となる。						
到達目標	教養としての人文科学を十分に理解し、確実に身につける。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 日本史 (1) 3. 日本史 (2) 4. 日本史 (3) 5. 世界史 (1) 6. 世界史 (2) 7. 世界史 (3) 8. 地理 (1) 9. 地理 (2) 10. 地理 (3) 11. 地理 (4) 12. 思想 (1) 13. 思想 (2) 14. 文化・芸術 (1) 15. 文化・芸術 (2) 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 人文学 改訂第3版』実務教育出版、2022年、1500円＋税 その他、電子もしくは紙でプリントを配布する場合もある。						
事前・事後学習	事前に次回の授業に向け当該範囲を予習しておく。（60分） 事後には、授業の内容・範囲について理解を深める。（60分）						
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらった小レポート（コメントペーパー）＝30% 期末試験＝70% なお、2/3以上の出席がない場合は採点の対象外とする。（病欠・公欠等は、別途相談のこと。）						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、MoodleにGoogleフォームのリンク先を毎回上げる。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（携帯・メールなども含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	公務のための自然科学			科目コード	172208	授業コード	111304
担当教員	高田 晴美			科目ナンバリング	GSPO1008		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公務員試験の「自然科学」の内容は高校レベルの「物理」「化学」「生物」「地学」です。これらは特に文系の受験生にとっては元々知識があまりないため学習困難なのですが、丸々捨てるわけにもいきません。しかし、的を絞って学習すれば、それなりに得点ができるようにはなれます。この講義では、自然科学の頻出テーマについて、特に自力では学習しづらい単元を中心に、広く浅く知識のインプットをした上で、過去問の演習を行います。						
到達目標	公務員試験の自然科学の問題のうち、簡単なものなら解ける程度の知識、学力を身に付ける。						
授業計画	第1講 ガイダンス、物理① 第2講 物理② 第3講 物理③ 第4講 物理④ 第5講 化学① 第6講 化学② 第7講 化学③ 第8講 化学④ 第9講 地学① 第10講 地学② 第11講 地学③ 第12講 地学④ 第13講 生物① 第14講 生物② 第15講 生物③ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 自然科学 改訂第3版』実務教育出版（2018年）1, 650円（税込） その他、適宜プリントを配布。						
事前・事後学習	次週の講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	定期試験（資料持込不可） 70% 課題 30%						
授業内の課題・提出方法	授業で課題プリントを配布します。 Moodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解答解説は、授業で示します。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための英文理解			科目コード	172209	授業コード	114605
担当教員	ゴードン リース			科目ナンバリング	GSPO1009		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	現在、日本では、公務員試験のための決まった英語カリキュラムは存在しない。この講座では公務員試験によく出るテーマ、自然科学、経済、社会、についての英語の記事を毎回読んで、ディスカッションを行います。						
到達目標	1. 英語の読解力を向上させる。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 英文法の基礎を身につける。						
授業計画	1. Guidance/Course introduction/Profile 2. Sports 3. Special Occasions 4. Families 5. Japan Quiz 6. Love and Marriage 7. Life History 8. Leisure 9. College Life 10. On Vacation 11. Out and About 12. Rules 13. Folk Tales 14. News and Events 15. Review- Final test						
テキスト・教材（参考文献含む）	Living Grammar Atsuko Yamamoto Seibido 978-4-7919-7227-2						
事前・事後学習	In addition to homework assignments, after each class spend 60 minutes reviewing handouts, textbook exercises and videos. Students should also spend about 30 minutes reading ahead in the text for the next lesson.						
成績評価方法	学習態度 30% 課題・小テスト 30% Speaking tests (2) 20% 定期試験 20% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
担当者から一言	対面授業を予定しています。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがあります。 1. 5回以上欠席すると単位がもらえない。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選となります。 3. テキストがないと欠席扱いになります。						

授業科目名	公務のための論文・面接			科目コード	172210	授業コード	112303
担当教員	小林 慶太郎			科目ナンバリング	GSPO1010		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	<p>わたしたちが、役所の人（公務員）に何かをして貰おうとする時、それはどのように伝えられ、どのように進められるのでしょうか。どのように伝えれば、間違いが生じにくいのでしょうか。</p> <p>この授業では、こうした地域で公務につく際に必要となってくるコミュニケーションスキルについて、学生諸君が、実際に小論文を書いたり面接の練習をしたりしながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします。</p>						
到達目標	市役所・警察・消防等の公務員採用試験の論文や面接試験を、確実にクリアできる程度のスキルを身につけることが、この授業の到達目標です。						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス：この授業の進め方 第2講 文章の書き方（実習） 第3講 面接の心構え（実習） 第4講 論文のテーマ（実習） 第5講 面接の態度（実習） 第6講 論文の構成（実習） 第7講 面接での性格PR（実習） 第8講 論文の文体（実習） 第9講 面接での志望動機（実習） 第10講 論文の論旨（実習） 第11講 面接での経験PR（実習） 第12講 論文の論拠（実習） 第13講 集団面接での受け答え（実習） 第14講 論文のまとめ方（実習） 第15講 集団討論（実習）</p> <p>※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使いません（必要に応じてプリントを配布する場合があります）						
事前・事後学習	毎回宿題を課しますので、必ずやってきてください（60分）。なお、より良い論文や面接への応答のためにも、出来るだけ、日頃から、テレビや新聞のニュースに目を通し、社会に広く目を向けることを心掛けてください（毎日20分以上）。						
成績評価方法	<p>無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題等への取り組み状況：45% ・講義時に指示する宿題の提出状況：30% ・受講態度：25% 						
授業内の課題・提出方法	<p>宿題は授業の冒頭で提出してもらいます。</p> <p>また、授業中にも、口頭で応える課題や書いてもらう課題を課します。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>口頭での課題に対しては、その場で適宜指導します。</p> <p>文書で提出された課題・宿題は、毎回添削して返却します。</p>						
担当者から一言	この講義は、公務員試験に間に合うよう、6月上旬までの期間に集中して週2回実施します。履修の際には注意してください。なお、履修する以上は、真剣な態度で受講して下さい。						

授業科目名	ビジネスマナー		科目コード	172301	授業コード	115601
担当教員	長野 ゆき子		科目ナンバリング	GSHM1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	<p>本講義は、ビジネスマナーの初歩を学びます。</p> <p>ビジネスマナーは一つのスキルではありますが、その本質は人間関係です。</p> <p>そこでまずは、日常の良好な人間関係をどう作っていくかを学びます。</p> <p>そのうえで、一般的なマナーを学びます。表現には、言葉（言語）以外に、身振り・手振りといった非言語コミュニケーションも含まれます。</p> <p>この応用としてビジネスマナーがあります。</p> <p>職場内やお客様との間でのさまざまなシーンを想定して、ビジネスマナーの基本を学びます。</p> <p>講師は、実務経験者で企業向けに学外講師を務めている方です。</p>					
到達目標	<p>社会人としてのビジネスマナーを実践的に学ぶことです。</p> <p>① 人間関係づくりを学ぶこと。</p> <p>② 一般的なマナー（言語・非言語）を習得すること。</p> <p>③ シーンごとのビジネスマナーの基礎を習得すること。</p>					
授業計画	<p>① 9 / 2 9 ガイダンス人間関係づくり① チームワークと価値交流</p> <p>② 1 0 / 6 人間関係づくり② コミュニケーションとは</p> <p>③ 1 0 / 1 3 人間関係づくり③ パフォーマンス学</p> <p>④ 1 0 / 2 0 人間関係づくり④-1 話し方・聞き方・考え方</p> <p>⑤ 1 0 / 2 7 人間関係づくり④-2 話し方・聞き方・考え方</p> <p>⑥ 1 1 / 3 一般的なマナー①-1 敬語</p> <p>⑦ 1 1 / 1 0 一般的なマナー①-2 敬語</p> <p>⑧ 1 1 / 1 7 一般的なマナー②-1 表情・声・身体表現</p> <p>⑨ 1 1 / 2 4 一般的なマナー②-2 表情・声・身体表現</p> <p>⑩ 1 2 / 1 ビジネスマナー① 職場のルール・報連相</p> <p>⑪ 1 2 / 8 ビジネスマナー② 受付・案内・席次・訪問時のマナー</p> <p>⑫ 1 2 / 1 5 ビジネスマナー③ 一般文書とビジネス文書 (メールと書類の書き方の違い、封筒の書き方)</p> <p>⑬ 1 2 / 2 2 ビジネスマナー④ プレゼンテーション (グループワーク・発表)</p> <p>⑭ 1 / 1 2 ビジネスマナー⑤ クレーム対応 (グループワーク・発表) ケーススタディ (場面に応じた対応)</p> <p>⑮ 1 / 1 9 ビジネスマナー 総まとめ</p>					
テキスト・教材 (参考文献含む)	<p>テキストは以下を使用するので購入すること (購入方法は講義中に別途指示します)。</p> <p>有限会社幸プランニング発行</p> <p>『コミュニケーション&マナー』～自己表現を身につけコミュニケーションを磨く～</p> <p>1 9 8 0 円。</p>					
事前・事後学習	<p>予習：毎回テキストをあらかじめ読んでおくこと。</p> <p>復習：毎回の授業で学んだ技術、振り返りの小テストを事後学習すること。</p> <p>留学生はNI向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身に付けておくことが望ましいです。</p>					
成績評価方法	<p>定期試験 5 0 % 参加態度および小テスト 5 0 %。</p> <p>小テストは講義の振り返りとして課します。</p> <p>また、次回の講義で前回の内容を振り返ります。</p>					
授業内の課題・提出方法	<p>講義の最後に、講義内容の重点事項を理解度確認のため、小テストをします。</p> <p>解答を明示し解説した後、丸つけ採点をし、小テスト用紙を講義終了後に回収します。</p>					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>次回講義の始めに、前回講義内容・小テスト内容の振り返り授業をして</p> <p>理解度・定着度を確認します。</p>					
担当者から一言	<p>ビジネスマナーは、社会で生きていくための必須の資質です。</p> <p>授業は、外部講師による実践的な講義です。</p> <p>「学生時代に先んじてビジネスマナーを学びたい」と思う学生は、意欲的に是非受講してください。</p>					

授業科目名	サービス経営論			科目コード	172302	授業コード	111411
担当教員	岡 良浩			科目ナンバリング	GSHM1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	<p>この講義はサービス業を念頭においた経営の基礎を学びます。</p> <p>日本では、経済に占めるサービス業の割合が年々増加しておりGDPの3／4を占めると言われています。サービス業は、製造業と違って、形のない扱いにくい性質を価値として販売するため、仕組み自体が製造業とは異なります。</p> <p>本講義では、このようなサービスの経営学を総合的に学びます。また社会人の考え方の基礎としての「7つの習慣」についても副読します。サービス業に関わらず社会人に求められる資質を理解し習慣づけることを目指します。</p>						
到達目標	<p>以下の2つを目標とします。</p> <p>1. サービス業の特徴や経営の特徴を理解すること。</p> <p>2. サービス業を含めた社会人に求められる資質を理解し、習慣づけることを行うこと。</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス／7つの習慣①インサイド・アウト</p> <p>第2回 サービス業の産業構造と経営的特徴</p> <p>第3回 7つの習慣②主体的である</p> <p>第4回 サービス業の事例（1）リッツカールトン</p> <p>第5回 7つの習慣③終わりを思い描くことから始める</p> <p>第6回 サービスの事例（2）クロネコヤマト</p> <p>第7回 7つの習慣④最優先事項を優先する</p> <p>第8回 サービスの事例（3）TESSEN（新幹線清掃チーム）</p> <p>第9回 7つの習慣⑤WIN-WINを考える</p> <p>第10回 ものづくりの3S、サービスのQSC</p> <p>第11回 7つの習慣⑥まず理解に徹しそして理解される</p> <p>第12回 サービス・マーケティング</p> <p>第13回 7つの習慣⑦シナジーを創り出す</p> <p>第14回 IT・ロボットとサービス</p> <p>第15回 まとめ／7つの習慣⑧刃を研ぐ</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>副読書（7つの習慣）は、冊子としてお渡しします。</p> <p>その他は特にテキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。</p>						
事前・事後学習	<p>予習：資料を読んで理解しておくこと（90分）</p> <p>復習：小レポートの実施（90分）</p>						
成績評価方法	<p>授業への参加態度（含む講義中の小レポート）40%</p> <p>期末試験 60%</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>講義中の小レポートは以下のように毎回課します。教学ポストに提出いただきます。</p> <p>1. 講義の回：キーワードとコメントの提出</p> <p>2. 7つの習慣の回：習慣の意味と自分の振り返り</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小レポートは講義中に講評しコメントをつけて返却します。						
担当者から一言	特にありません。						

授業科目名	販売士講座	科目コード	172303	授業コード	114113
担当教員	山川 和美	科目ナンバリング	GSHM1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	消費者ニーズが多様化・個性化しています。“消費者が何を求めているのか”ということ、流通業界ではあらゆる手段を用いて模索しています。このような時代にあって注目されているのが流通業界で唯一の公的資格「リテールマーケティング（販売士）」です。この知識・スキルは流通・小売業界で活躍したい人は大変役立ちます。もちろん多様な分野にも活用出来ます。私達にとって親しみのあるコンビニエンスストアなど題材に、お店の売れる仕組みや、マーケティング、店舗運営、売場づくりなど幅広くビジネスの基礎を学びます。				
到達目標	<p>目標は以下の3点です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 流通業界（小売・卸売業）の知識・スキルの基礎を理解する。 ● 店舗の売上・利益が上がる仕組みを理解する。 ● 店舗側の視点で考えることができる人材を目指す。 				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 講義の概要 第2講 ストアオペレーションのポイント① 第3講 ストアオペレーションのポイント② 第4講 ストアオペレーションのポイント③ 第5講 小売業の類型のポイント① 第6講 小売業の類型のポイント② 第7講 小売業の類型のポイント③ 第8講 マーチャンダイジングのポイント① 第9講 マーチャンダイジングのポイント② 第10講 販売・経営管理のポイント① 第11講 販売・経営管理のポイント② 第12講 販売・経営管理のポイント③ 第13講 リテールマーケティングのポイント① 第14講 リテールマーケティングのポイント② 第15講 まとめ 定期試験</p>				
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>なし（必要に応じてプリントを配布します） 【参考文献】日本商工会議所・全国商工会連合会編「販売士3級ハンドブック（2冊セット）」カリアック（2019年）</p>				
事前・事後学習	<p>予習：日頃からテレビや新聞など小売業界に関連したニュースに目を通す。（1日15分） 復習：学んだ内容を復習し、ショッピングセンターやコンビニエンスストアなどに出かけた時に授業の検証に心がけること。（90分）</p>				
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により評価します。 ・課題60点、定期試験40点</p>				
授業内の課題・提出方法	課題：毎回の講義で簡単な課題を提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題・提出物は返却しませんが、内容について取りまとめ、適宜授業でフィードバックします。				
担当者から一言	店舗経営の視点でお店の見方が変わり買物が楽しくなりますよ。				

授業科目名	ビジネスコミュニケーション			科目コード	172304	授業コード	112401																																																																
担当教員	長野 ゆき子			科目ナンバリング	GSHM1004																																																																		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択																																																																
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。																																																																						
授業のねらい	本科目では、ビジネスコミュニケーションの上級者をめざして、さまざまな技術を実践的に学んでいただきます。 経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を2006年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）です。 企業人となるためにはこの社会人基礎力が求められます。 講義では、とりわけ対顧客を意識した接客技術・説明力・説得力・プレゼンテーションに重点を置いた内容となります。 実務経験者で学外の企業研修講師の多彩な話から、企業人としてのコミュニケーションを実践的に学んでいただきます。																																																																						
到達目標	コミュニケーションスキルを実践的に学び 社会で生きるための土台であり必要不可欠である「人間関係作りの基本」を身に付けます。																																																																						
授業計画	<table><tr><td>①</td><td>4 / 1 1</td><td>ガイダンス</td><td></td></tr><tr><td>②</td><td>4 / 1 8</td><td>接客マナー「おもてなし」</td><td>「おもてなしとマナーの違い」</td></tr><tr><td>③</td><td>4 / 2 5</td><td>パフォーマンス学</td><td>場と関わりの自己表現</td></tr><tr><td>④</td><td>5 / 9</td><td>おもてなしの接客技術①</td><td>第一印象</td></tr><tr><td>⑤</td><td>5 / 1 6</td><td>おもてなしの接客技術②</td><td>接客力</td></tr><tr><td>⑥</td><td>5 / 2 3</td><td>おもてなしの接客技術③</td><td>電話・レター・メール</td></tr><tr><td>⑦</td><td>5 / 3 0</td><td>おもてなしの接客技術④</td><td>社会的ルールとモラル</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>「コンプライアンス・リスク管理」</td></tr><tr><td>⑧</td><td>6 / 6</td><td>コミュニケーションスキル①</td><td>心理学TA</td></tr><tr><td>⑨</td><td>6 / 1 3</td><td>コミュニケーションスキル②</td><td>アサーション</td></tr><tr><td>⑩</td><td>6 / 2 0</td><td>コミュニケーションスキル③</td><td>コーチングの基本</td></tr><tr><td>⑪</td><td>6 / 2 7</td><td>ビジネススキル①</td><td>説明力・説得力</td></tr><tr><td>⑫</td><td>7 / 4</td><td>ビジネススキル②</td><td>合意形成</td></tr><tr><td>⑬</td><td>7 / 1 1</td><td>ビジネススキル③</td><td>プレゼンテーションⅠ</td></tr><tr><td>⑭</td><td>7 / 1 8</td><td>ビジネススキル④</td><td>プレゼンテーションⅡ</td></tr><tr><td>⑮</td><td>7 / 2 5</td><td>総復習</td><td>おもてなしの取り組みとは</td></tr></table>							①	4 / 1 1	ガイダンス		②	4 / 1 8	接客マナー「おもてなし」	「おもてなしとマナーの違い」	③	4 / 2 5	パフォーマンス学	場と関わりの自己表現	④	5 / 9	おもてなしの接客技術①	第一印象	⑤	5 / 1 6	おもてなしの接客技術②	接客力	⑥	5 / 2 3	おもてなしの接客技術③	電話・レター・メール	⑦	5 / 3 0	おもてなしの接客技術④	社会的ルールとモラル				「コンプライアンス・リスク管理」	⑧	6 / 6	コミュニケーションスキル①	心理学TA	⑨	6 / 1 3	コミュニケーションスキル②	アサーション	⑩	6 / 2 0	コミュニケーションスキル③	コーチングの基本	⑪	6 / 2 7	ビジネススキル①	説明力・説得力	⑫	7 / 4	ビジネススキル②	合意形成	⑬	7 / 1 1	ビジネススキル③	プレゼンテーションⅠ	⑭	7 / 1 8	ビジネススキル④	プレゼンテーションⅡ	⑮	7 / 2 5	総復習	おもてなしの取り組みとは
①	4 / 1 1	ガイダンス																																																																					
②	4 / 1 8	接客マナー「おもてなし」	「おもてなしとマナーの違い」																																																																				
③	4 / 2 5	パフォーマンス学	場と関わりの自己表現																																																																				
④	5 / 9	おもてなしの接客技術①	第一印象																																																																				
⑤	5 / 1 6	おもてなしの接客技術②	接客力																																																																				
⑥	5 / 2 3	おもてなしの接客技術③	電話・レター・メール																																																																				
⑦	5 / 3 0	おもてなしの接客技術④	社会的ルールとモラル																																																																				
			「コンプライアンス・リスク管理」																																																																				
⑧	6 / 6	コミュニケーションスキル①	心理学TA																																																																				
⑨	6 / 1 3	コミュニケーションスキル②	アサーション																																																																				
⑩	6 / 2 0	コミュニケーションスキル③	コーチングの基本																																																																				
⑪	6 / 2 7	ビジネススキル①	説明力・説得力																																																																				
⑫	7 / 4	ビジネススキル②	合意形成																																																																				
⑬	7 / 1 1	ビジネススキル③	プレゼンテーションⅠ																																																																				
⑭	7 / 1 8	ビジネススキル④	プレゼンテーションⅡ																																																																				
⑮	7 / 2 5	総復習	おもてなしの取り組みとは																																																																				
テキスト・教材（参考文献含む）	講義資料・プリントを配ります。また、参考図書として、有限会社幸プランニング発行『コミュニケーション＆マナー』～自己表現を身につけコミュニケーションを磨く～1, 980円を購入することが望ましいです。																																																																						
事前・事後学習	予習：次の講義内容について出された課題を調べておくことです。 復習：毎回の授業で学んだ技術と振り返りの小テストを事後学習することです。																																																																						
成績評価方法	定期試験 5 0 % 参加態度および小テスト 5 0 %。 小テストは、講義の振り返りとして課します。 また、次の講義で前回の内容を振り返ります。																																																																						
授業内の課題・提出方法	講義の最後に、講義内容の重点事項を理解度確認のため、小テストをします。 解答を明示し解説した後、丸つけ採点をし、小テスト用紙を講義終了後に回収します。																																																																						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回講義の始めに、前回講義内容・小テスト内容の振り返り授業をして理解度・定着度を確認します。																																																																						
担当者から一言	この授業は、外部講師による実践的なコミュニケーション技術を学びます。 オペレーション演習を受講する前提となります。意欲的な学生を期待します。 「ビジネスマナー」を先行して履修していることが望ましいです（必須ではありません）。																																																																						

授業科目名	グローバルコミュニケーション		科目コード	172305	授業コード	111504
担当教員	富田 与		科目ナンバリング	GSHM1005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	この講義では、「遠く」に住む人あるいは「遠く」から来た人と、自分の「近く」でコミュニケーションを行うための考え方を見ていきます。ここで「遠く」、「近く」というのは必ずしも空間的距離の問題だけではなく、価値観、生活様式、宗教など生活世界を構成する様々な局面での距離感も含まれます。文化人類学の考え方を手掛かりに、他者との対話を継続していくための方策を考えていきたいと思います。					
到達目標	文化人類学の理論を対話の実践に応用する能力を身に付ける。					
授業計画	第1講：ガイダンス、コミュニケーションとは 第2講：自然と知識 第3講：技術と環境 第4講：呪術と科学 第5講：現実と異世界 第6講：モノと芸術 第7講：贈り物と負債 第8講：貨幣と信用 第9講：国家とグローバリゼーション 第10講：戦争と平和 第11講：子どもと大人 第12講：親族と名前 第13講：ケアと共同性 第14講：市民社会と政治 第15講：まとめ					
テキスト・教材（参考文献含む）	『文化人類学の思考法』（村松圭一郎、中川理、石井美保編）世界思想社 1800円					
事前・事後学習	毎回、予習用の課題を出すのでテキストに従って課題を作成してください。（180分）					
成績評価方法	講義への参加度（発言等）：30% 講義期間中のレポート：30% 最終レポート：40%					
授業内の課題・提出方法	講義期間中の予習課題は、講義中に指名して発表してもらおうのでいつでも発表できるように準備しておいてください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義内での発表にその都度コメントします。指名時に発表の準備ができていない場合は、その時間は欠席扱いとします。					
担当者から一言	コミュニケーション技術の発達は、お互いの理解促進よりむしろ対立の顕在化を引き起こしているように見えます。技術では克服しにくい距離感の存在とそれへの対応を考えてみましょう。					

授業科目名	オペレーション演習		科目コード	172306	授業コード	116102
担当教員	永井 博、川崎 綾子、岡 良浩		科目ナンバリング	GSHM1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	サービス業の中心となる技術である接客技術を、現地研修を通して身につけることが本講義のねらいである。ホテルや旅館などの宿泊施設、土産物店やレストランなどの物販・飲食店、その他の観光関連事業は接客が仕事の最前線である。客から言えば、接客に当たる店員の「おもてなし」の態度・印象、それを支える知識や技術がその店のすべてであると言っても過言ではない。その技術は座学だけではすべてを身につけることはできない。実際にホテル・土産物店・レストランなどの現場の業務を体験しながらノウハウを身につけてもらう。					
到達目標	サービス業の中心である接客技術を身につけることが目標である。					
授業計画	<p>受け入れ先企業において、夏季休暇中に15コマ相当の研修を行う。</p> <p>前期授業期間中に事前説明会を行い、受け入れ企業を決定する。受講を希望する学生は事前説明会に必ず出席すること。</p> <p>受け入れ企業が決まるまで夏季休暇中の予定を空けておくこと。（受け入れ先の調整に当たっては学生の私的な都合は考慮しない。）</p> <p>参考までに、2022年度の受け入れ企業とそれぞれの実習期間をあげておく。</p> <p>伊勢忍者キングダム（8月11日～8月15日／8月16日～8月20日）</p> <p>鳥羽国際ホテル（8月11日～8月15日／8月18日～8月22日／8月25日～8月29日／9月1日～9月5日）</p> <p>戸田家（8月18日～8月22日）</p> <p>志摩スペイン村（8月25日～8月29日）</p> <p>鳥羽わんわんパラダイスホテル（8月25日～8月29日）</p> <p>鳥羽シーサイドホテル（8月27日～8月31日）</p>					
テキスト・教材（参考文献含む）	大学からは特になし。受け入れ先企業から資料が配布される場合がある。					
事前・事後学習	<p>2年生前期の「ビジネスコミュニケーション」を履修していないと受講できません。（同時履修は可能）</p> <p>予習：上記「ビジネスコミュニケーション」で学習した接客技術の基礎事項を復習しておくこと。（90分相当）</p> <p>復習：研修内容を整理すること。（90分相当）</p>					
成績評価方法	研修の態度70%、課題レポート30%。必要に応じてフィードバックします。					
授業内の課題・提出方法	実習中に実習先の指導担当者あての「日報」を提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	実習先の指導者から「日報」にフィードバック・コメントがある。					
担当者から一言	研修だが客からは企業の業務である。社会人の自覚をもって臨むこと。説明会に欠席、遅刻の場合、頭髪や服装に問題がある場合、日本語能力が著しく不足する留学生は参加させないことがある。コロナで緊急事態宣言などが出た場合には予定変更もある。9月卒業予定者は実習終了前に卒業になることがあるので履修できない。					

授業科目名	ビジネスマネジメント			科目コード	172307	授業コード	111306
担当教員	奥原 貴士、岩崎 祐子			科目ナンバリング	GSHM1007		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義の第2講～第6講（担当：岩崎）は、企業側の立場からみたコーポレートファイナンス（企業の資金調達）の基礎を学びます。 次に、ビジネスをマネジメントするには企業の会計情報を利用する知識が必要になります。そこで本講義の後半（第7講～第15講、担当：奥原）では、企業の売上高・純利益などの会計情報を用いて、企業の収益性・安全性・生産性・不確実性などの経営分析を行う方法について学習します。そして、これら経営分析の結果と株価との関係についても調査します。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポレートファイナンスの基本を理解する ・経営分析の方法を理解する。 ・企業の会計情報を使用して経営分析を行うことができる。 ・経営分析の結果と株価との関係を考察できる。 						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 企業の資金構成 第3講 コーポレートファイナンスの実際 第4講 銀行の役割と課題 第5講 外部講師（企業経営者）による講義 第6講 中間試験 第7講 経営分析の視点と方法 第8講 収益性の分析 第9講 収益性の分析 第10講 収益性の分析 第11講 安全性の分析 第12講 安全性の分析 第13講 安全性の分析 第14講 生産性の分析 第15講 不確実性の分析 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義資料は毎回プリントを配布する。 (参考文献) 桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社。						
事前・事後学習	事前：新聞や雑誌などを読んで、企業経営について学ぶ（90分） 事後：授業の復習と関連情報の収集（90分） 普段から新聞や雑誌などを読んで、この企業の経営はうまくいってそうだと、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、というように企業の経営状態に関心をもつようにしてください。						
成績評価方法	平常点（授業への積極的な参加、授業内レポートなど）40% 中間試験20% 授業内レポート（第7講～第15講の間に行う） 定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	適宜指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートなど課題は適宜コメントをします。						
担当者から一言	本講義で学習する経営分析の知識は社会に出てから自社やライバル企業の経営状態を分析する際に不可欠です。すなわち、ビジネスの世界で活躍するために必要な知識です。 進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。						

授業科目名	マーケティング演習	科目コード	172308	授業コード	111810
担当教員	岡 良浩、岩崎 祐子	科目ナンバリング	GSHM1008		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	<p>この科目では、マーケティングに必要なスキルを実践的に学びます。</p> <p>マーケティングとは、「顧客のニーズに合ったものを、最適な形で提供される市場を作り出すための活動」のことを言います。その内容は様々ありますが、「顧客のニーズは何か」が起点となります。その意味で、マーケティング＝市場調査と思っていただいても良いでしょう。</p> <p>ここではMicrosoft Formを用いて、アンケート調査と集計を体験します。単純集計・クロス集計や報告書作成を演習します。</p> <p>この体験を踏まえて、実際の企業を想定した市場調査を考えていただきます。</p>				
到達目標	<p>到達目標は以下の3点です。</p> <p>①市場調査の一連の技法を身につけること (調査票設計→配布→回収→集計・分析→提案)</p> <p>②市場調査の分析結果を発表する能力を身につけること</p> <p>③実際の企業を想定した市場調査を企画できる能力をつけること</p>				
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 マーケティングと市場調査の基礎理解</p> <p>第3回 Microsoft Formsの使い方</p> <p>第4回 Microsoft Formsによるアンケートの設計と回答</p> <p>第5回 エクセルを使った単純集計</p> <p>第6回 エクセルを使ったクロス集計</p> <p>第7回 報告書の作成</p> <p>第8回 仮設を設定した市場調査の設計</p> <p>第9回 市場調査の実施</p> <p>第10回 市場調査の集計</p> <p>第11回 報告書の作成</p> <p>第12回 報告書の確認</p> <p>第13回 報告書の発表</p> <p>第14回 市場調査の実際</p> <p>第15回 まとめ</p>				
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは特に指定せず、毎回Moodle上に資料を提示します。				
事前・事後学習	<p>予習：配付資料をあらかじめ読んでおくこと。(90分)</p> <p>復習：学んだ技法を復習し、身につけておくこと。(90分)</p>				
成績評価方法	<p>毎回の課題提出 30%</p> <p>報告書および発表 40%</p> <p>定期試験（レポート試験）30%</p>				
授業内の課題・提出方法	毎回、Moodle内で課題を課し提出いただきます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題は、授業内で適宜参照し、コメントします。 その都度、理解度を確認しながらすすめます。				
担当者から一言	<p>原則、コンピュータ室で演習を行います。</p> <p>希望者が多数の場合は抽選になることがあります。</p> <p>欠席すると課題がわからなくなるので、欠席しないでください。</p>				

授業科目名	おもてなし特別講義 a			科目コード	172309	授業コード	113407
担当教員	岩崎 祐子、岡 良浩			科目ナンバリング	GSHM1009		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義は、サステナブル経営企業の成功事例を、総合的に理解することを目的とする。おもてなし経営が成功しているのは、個々の技術要素というより、総合力が勝っているからだと思われる。このような総合力を見ることがこの講義のねらいである。 企業においては、経営理念や事業目標がどのように企業内に反映されているか、そのポイントはどこにあるかなど、三重県内の経営者層を招聘して伺う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナブル経営の成功事例を理解する。 ・成功事例から、成功の要因や他事業への応用（普遍化）を考察する。 						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 サステナブル経営とは 第3回 外部講師による講義 第4回 外部講師（企業経営者）による講義 第5回 外部講師（企業経営者）による講義 第6回 外部講師（企業経営者）による講義 第7回 授業中レポート 第8回 外部講師（企業経営者）による講義 第9回 外部講師（企業経営者）による講義 第10回 外部講師（企業経営者）による講義 第11回 授業中レポート 第12回 外部講師（企業経営者）による講義 第13回 外部講師（企業経営者）による講義 第14回 企業レポート作成 第15回 企業レポート発表（プレゼンテーション） 定期試験 第4-6, 8-10, 12, 13回 グループワーク、第15回 プレゼンテーション ※日程は変更する可能性があります。 ※外部講師の講演企業・日程などの詳細は、第1回ガイダンス時に配布します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使用せず、毎回、資料を配付します。 参照資料として三重県「三重のサステナブル経営アワード」のホームページを参照してください。						
事前・事後学習	日頃から、企業経営、サステナブル経営に関するニュースに目を通すようにして下さい（30分、週3日以上）。授業内容を復習して、さらに他の事例研究もおこなってください（90分）。						
成績評価方法	授業中に作成するレポート（40%）、グループワーク・発表（30%）、定期試験（30%）により評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業中にレポートを作成します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。						
担当者から一言	ビジネスマナーを重視します。経営者とコミュニケーションをとるため、講演後はグループワークを行ない、経営者に向けて発表を行ないます。多くの経営者との出会いは、これから社会に出る学生にとっていい経験になりますし、就職活動にも役立ちます。						

授業科目名	おもてなし特別講義 b			科目コード	172310	授業コード	114815
担当教員	池田 幹男、岩崎 祐子、岡 良浩			科目ナンバリング	GSHM1010		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	様々な情報技術を使用した「おもてなし」サービスの効率化について理解します。また、最後に応用としてデジタルサイネージ向けの短い広告を作成します。						
到達目標	情報技術を利用したサービス産業の効率化について理解する。 PowerPoint を利用した短い広告作成を通じて、情報技術のサービス業での応用実践につなげる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 「おもてなし」と情報技術 第3講 おもてなしとロボット 第4講 おもてなしサービスの事例研究(へんなホテルを中心として) 第5講 観光資源としてのロボット 第6講 インターネットとクラウドシステム 第7講 キャッシュレス決済 第8講 ビッグデータ 第9講 AI (音声合成、音声認識) 第10講 AI (対話システム、翻訳、ディープラーニング) 第11講 デジタルサイネージ 第12講 サイネージ向けコンテンツ作成(1) 第13講 サイネージ向けコンテンツ作成(2) 第14講 サイネージ向けコンテンツ作成(3) 第15講 フリーディスカッション						
テキスト・教材（参考文献含む）	教材は、教育支援システム（Moodle）を通じて呈示します。						
事前・事後学習	観光産業を中心としたサービス産業や、人工知能・クラウド・ロボットなどの情報通信技術に関するニュースや情報を日常的に調査してください。（毎日30分）						
成績評価方法	授業態度30%、教育支援システムを通じたノート提出やディスカッション 30%、最終レポート40%で採点します。定期試験は実施しません。						
授業内の課題・提出方法	教育支援システム(Moodle)でディスカッションを行い、課題、レポートを提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教育支援システム（Moodle）を通じてフィードバックします。						
担当者から一言	この授業は単なる教員が行う講義ではなくて、皆さんが自ら参加する形式で進めていきます。授業中や教育支援システムを通じたフリーディスカッションへの積極的な参加や発言を期待しています。						

授業科目名	観光英語Ⅱ			科目コード	172402	授業コード	111710
担当教員	ゴードン リース			科目ナンバリング	GSET1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	This course is a continuation of 観光英語Ⅰ. However, while 観光英語Ⅰ is concerned with English used when traveling abroad, 観光英語Ⅱ focuses on "hospitality" English, or English that is used to describe Japanese culture and life in Japan to foreign travelers.						
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 観光英語の知識を身に付けるとともに、日本文化をより深く理解する。						
授業計画	1. Course introduction/guidance 2. Restaurant (Breakfast and Fast Food) 3. Restaurant (Breakfast and Fast Food) 4. Sightseeing 5. Sightseeing 6. Shopping 7. Shopping 8. Transportation 9. Transportation 10. Problems and Complaints 11. Problems and Complaints 12. Traveling in Japan 13. World Heritage Site- presentation preparation 14. World Heritage Site- presentation preparation 15. World Heritage Site- student presentations (Submit report on World Heritage Site)						
テキスト・教材（参考文献含む）	English for Tourism- Basic 観光英検センター Sanshusha 9784384334371 2, 200 yen						
事前・事後学習	After each class, spend 60 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises we covered in the lesson. Then spend about 30 minutes reading ahead and preparing for the following class.						
成績評価方法	World Heritage Site- presentation 20% Homework/quizzes 30% Speaking tests 20% 学習態度						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
担当者から一言	この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 1. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 2. テキストがないと欠席扱いになります。						

授業科目名	コンピュータ英語 I			科目コード	172403	授業コード	113205
担当教員	柴田 啓文			科目ナンバリング	GSET1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	コンピュータやインターネットに関わる英語の基礎を広く学びます。 それぞれの授業は、はじめに英文ニュース（BBC NewsかAljazeera）を読み、次にその日のテーマを学びます。 AIチャットボット（予定）と担当者が、英語だけではなく、ExcelやPythonおよび、各テーマの理解と学習を支援します。						
到達目標	1.英文ニュースを理解する基礎力をやしないます。 2.ExcelやPythonを英語で学ぶ基礎力をやしないます。 3.画像処理に関わる英語の基礎力をやしないます。 4.インターネット上の英語動画を聞き取るための英語力の基礎をやしないます。 5.インターネット上の英語情報を利用した自己学習の方法をやしないます						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の内容と評価の説明、教育支援システムの利用法 第2回 ニュースの英語の基礎（以降毎回）、翻訳サイトと英語辞書の使用法 第3回 ChatGPT（予定）の英語の基礎：使用法と会話法 第4回 Excelの英語の基礎：簡単な計算 第5回 Pythonの英語の基礎：Google Colaboratoryの使用法 第6回 プログラムを独学するための英語の基礎。 第7回 データ処理の英語の基礎：Pythonの使用法 第8回 写真処理の英語の基礎：GIMPの基礎 第9回 写真処理の英語の基礎：GIMPによる写真の処理 第10回 イラスト作成の英語の基礎：Inkscapeの基礎 第11回 イラスト作成の英語の基礎：Inkscapeによるイラスト作成 第12回 暗号通貨や株の英語の基礎 第13回 プログラムの英語の基礎：エディターの使用法 第14回 プログラムの英語の基礎：Python、JavaScript、Rustの比較 第15回まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト 使用しません。インターネット上の英文を読みます。						
事前・事後学習	ニュース、映画、音楽、スポーツ、プログラム、英語など、関心のある話題の英文、動画を毎日30分学んでください。						
成績評価方法	成績評価方法 平常点50%と学期末試験50%により評価します。平常点は、毎回のノート（主にExcel）の提出や小テストなどによります。						
授業内の課題・提出方法	授業ノートや小テストやフォーラムは教育支援システムを利用します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	すべて教育システムのコースのGrades、あるいはForumに表示します。						
担当者から一言	各回の内容を見ると難しそうに感じるかもしれませんが、基礎から学びますので、事前にプログラムやExcelの知識は必要ありません。また、特別な英語の知識も必要ありません。						

授業科目名	コンピュータ英語Ⅱ			科目コード	172404	授業コード	113605
担当教員	柴田 啓文			科目ナンバリング	GSET1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	コンピュータやインターネットに関わる英語を広く学びます。 それぞれの授業は、はじめに英文ニュース（BBC NewsかAljazeera）を読み、次にその日のテーマを学びます。 AIチャットボット（予定）と担当者が、英語だけではなく、ExcelやPythonおよび、各テーマの理解と学習を支援します。						
到達目標	1.英文ニュースを理解する力をやしません。 2.ExcelやPythonを英語で学ぶ力をやしません。 3.画像処理に関わる英語の力をやしません。 4.インターネット上の英語動画を聞き取るための英語力をやしません。 5.インターネット上の英語情報を利用した自己学習の方法をやしません。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の内容と評価の説明、教育支援システムの利用法 第2回 ニュースの英語（以降毎回）、翻訳サイトと英語辞書の使用法 第3回 ChatGPT（予定）の英語：使用法と会話法 第4回 Excelの英語：計算 第5回 Pythonの英語：Google Colaboratoryの使用法 第6回 プログラムを独学するための英語。 第7回 データ処理の英語：Pythonの使用法 第8回 写真処理の英語：GIMPの基礎 第9回 写真処理の英語：GIMPによる写真の処理 第10回 イラスト作成の英語：Inkscapeの基礎 第11回 イラスト作成の英語：Inkscapeによるイラスト作成 第12回 暗号通貨や株の英語 第13回 プログラムの英語：エディタの使用法 第14回 プログラムの英語：Python、JavaScript、Rustの比較 第15回まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	使用しません。インターネット上の英文を読みます。						
事前・事後学習	ニュース、映画、音楽、スポーツ、プログラム、英語など、関心のある話題の英文、動画を毎日30分学んでください。						
成績評価方法	平常点50%と学期末試験50%により評価します。平常点は、毎回のノート（主にExcel）の提出や小テストなどによります。						
授業内の課題・提出方法	授業ノートや小テストやフォーラムは教育支援システムを利用します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教育システムのコースのGradesおよびForumに表示します。						
担当者から一言	各回の内容を見ると難しそうに感じるかもしれませんが、基礎から学びますので、事前にプログラムやExcelの知識は必要ありません。また、特別な英語の知識も必要ありません。						

授業科目名	英語表現 I			科目コード	172405	授業コード	114110
担当教員	ゴードン リース			科目ナンバリング	GSET1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	パフォーマンスやプレゼンテーションを通じて、学生の英語コミュニケーション能力の向上を図る事がこの講座の狙いです。 In this course we will work on improving our English presentation and performance skills. We will use a textbook. Students will be expected to make short presentations in English.						
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。						
授業計画	1. Guidance/ Radio Thriller 2. Radio Thriller- Group performance 3. Presentation Structure 4. Presentation Skills 5. Slow Food 6. Slow Food 7. Slow Food- group presentation 8. How to arrange a presentation setting 9. Listing 10. Listing 11. My Favorite Restaurant 12. My Favorite Restaurant 13. Classification 14. Classification 15. Final presentation- 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	Winning Presentations Akira Morita Seibido 2, 750 yen 978-4791934249						
事前・事後学習	In addition to any homework assignments, after each class try to spend about 60 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises that were covered in the lesson. In addition, try and spend about 30 minutes reading ahead for the following class						
成績評価方法	学習態度 30% Presentations and performances 30% Homework and quizzes 20% Final presentation 20%						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
担当者から一言	対面授業を予定しています。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがあります。ご了承ください。 1. 5回以上欠席すると単位がもらえない。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選となります。 3. テキストがないと欠席扱いになります。						

授業科目名	英語表現Ⅱ			科目コード	172406	授業コード	113802
担当教員	ゴードン リース			科目ナンバリング	GSET1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	This course is a continuation of 「英語表現Ⅰ」。パフォーマンスやプレゼンテーションを通じて、学生の英語コミュニケーション能力の向上を図る事がこの講座の狙いです。 In this course we will work on improving our English presentation and performance skills. We will use a textbook. Students will make short presentations an						
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。						
授業計画	1. Course introduction and guidance 2. The Killers- Radio drama 3. The Killers- Radio drama 4. The Killers- Radio drama 5. Final performance- The Killers- Radio drama 6. Process presentation 7. Process presentation 8. Demonstration speech-preparation 9. Demonstration speech-preparation 10. Demonstration speech 11. The War of the Worlds 12. The War of the Worlds 13. Movie review-preparation 14. Movie review-preparation 15. Final presentation- Movie review						
テキスト・教材（参考文献含む）	Winning Presentations Akira Morita Seibido 2, 750 yen 978-4791934249						
事前・事後学習	Spend about 60 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises covered in the previous class, as well as spend 30 minutes reading aloud and studying the skits introduced in class.						
成績評価方法	学習態度 30% 課題・小テスト 30% Presentations and performances 40%						
授業内の課題・提出方法	クラスの担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 1. 5回以上欠席すると単位なし。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 3. テキストがないと欠席扱いになります。						

授業科目名	ビジネス英語 I			科目コード	172407	授業コード	112302
担当教員	樋口 晶子			科目ナンバリング	GSET1007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	基礎的なレベルの英語を使い、実際のビジネスの場で使える表現や対応について学びます。ビジネスやフォーマルな場でのマナーや常識を英語を通して知ることにより、適切な対応とは何かを考えます。						
到達目標	1. 基礎的な英語を使ったフォーマルな表現を学ぶ。 2. フォーマルな場で、相手を不快にさせない対応について理解する。 3. 自分の意見をアピールし、相手と交渉する手法を学ぶ。 4. TOEIC(L/R) 450～550点程度に相当する英語力獲得をめざす。						
授業計画	第1講 ガイダンス Introduction、Chapter 1/ 自己紹介・スモールトーク (2-1) 第2講 Chapter 1/ 自己紹介・スモールトーク(2-2) 第3講 Chapter 2/ オフィスの案内 (2-1) 第4講 Chapter 2/ オフィスの案内 (2-2) 第5講 Chapter 3/ 電話表現1（基本表現・メモの取り方）(2-1) 第6講 Chapter 3/ 電話表現1（基本表現・メモの取り方）(2-2) 第7講 Chapter 4/ 電話表現2（予定を決める・予定変更をする）(2-1) 第8講 Chapter 4/ 電話表現2（予定を決める・予定変更をする）(2-2) 第9講 Chapter 5/ 簡単なスピーチ・プレゼンテーション1 (2-1) 第10講 Chapter 5/ 簡単なスピーチ・プレゼンテーション2 (2-2) 第11講 Chapter 6/ ビジターの来日・旅程の確認 (2-1) 第12講 Chapter 6/ ビジターの来日・旅程の確認 (2-2) 第13講 Chapter 7/ プレゼンテーション2・観光のアドバイス (2-1) 第14講 Chapter 7/ プレゼンテーション2・観光のアドバイス (2-2) 第15講 実践練習（プレゼンテーションまたは電話対応） 定期試験 テキスト以外にも、適宜プリントや動画などを使用し、上記の単元に関連する内容を補足します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト：『Politeness in Business Context』（三修社） 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 辞書の使用を奨励します。						
事前・事後学習	適宜、課題と小テストを出します。 1 事前学習：小テストの準備と単語学習（30分）、授業内容の予習（60分） 2 事後学習：課題と単語学習（30分）、授業内容の復習（60分）						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 50％ 定期試験 50％ ※出席率は、「学習態度」に含みます。また、授業中のマナー、積極性は特に重視します。						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
担当者から一言	ビジネスの現場を想定して、大人としての礼儀を守り、まじめに学習に取り組んでください。授業中のマナーは、評価の際に重視します。						

授業科目名	ビジネス英語Ⅱ			科目コード	172408	授業コード	112701
担当教員	樋口 晶子			科目ナンバリング	GSET1008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	「ビジネス英語Ⅱ」を継続し、基礎的なレベルの英語で、実際のビジネスの場で使える表現や対応について学びます。英語を通してフォーマルな場での適切な対応について学びを深め、相手を不快にさせずに自分の意見を伝える手法について考えます。						
到達目標	1. 基礎的な英語を使ったフォーマルな表現を学ぶ。 2. フォーマルな場で、相手を不快にさせない対応を工夫する。 3. 自分の意見をアピールし、相手と交渉する手法を磨く。 4. TOEIC(L/R) 450～550点程度に相当する英語力獲得をめざす。						
授業計画	第1講 ガイダンス Chapter 8/ 採用1（応募者の条件）(2-1) 第2講 Chapter 8/ 採用1（応募者の条件）(2-2) 第3講 Chapter 9/ 採用2（面接の英語）(2-1) 第4講 Chapter 9/ 採用2（面接の英語）(2-2) 第5講 Chapter 10/ 会議1（賛成の仕方・司会の表現）(2-1) 第6講 Chapter 10/ 会議1（賛成の仕方・司会の表現）(2-2) 第7講 Chapter 11/ 会議2（反対の仕方・緩和表現）(2-1) 第8講 Chapter 11/ 会議2（反対の仕方・緩和表現）(2-2) 第9講 Chapter 12/ 苦情への対応 (2-1) 第10講 Chapter 12/ 苦情への対応 (2-2) 第11講 Chapter 13/ 謝罪 (2-1) 第12講 Chapter 13/ 謝罪 (2-2) 第13講 Chapter 14/ さまざまな挨拶 (2-1) 第14講 Chapter 14/ さまざまな挨拶 (2-2) 第15講 実践練習（模擬会議または模擬面接） 定期試験 テキスト以外にも、適宜プリントや動画などを使用し、上記の単元に関連する内容を補足します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト：『Politeness in Business Context』（三修社）【「ビジネス英語Ⅰ」と同じ】 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 辞書の使用を奨励します。						
事前・事後学習	適宜、課題と小テストを出します。 1 事前学習：小テストの準備と単語学習（30分）、授業内容の予習（60分） 2 事後学習：課題と単語学習（30分）、授業内容の復習（60分）						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 50％ 定期試験 50％ ※出席率は、「学習態度」に含みます。また、授業中のマナー、積極性は特に重視します。						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
担当者から一言	ビジネスの現場を想定して、大人としての礼儀を守り、まじめに学習に取り組んでください。授業中のマナーは、評価の際に重視します。						

授業科目名	検定英語 I	科目コード	172409	授業コード	111406
担当教員	武藤 和成	科目ナンバリング	GSET1009		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	検定英語のねらいは、実践的な4技能（聴く、話す、読む、書く）を総合的な英語力として高めることにあります。特に、「聴く」力は大切で、話しを聞くことができれば物事はスタートしません。「聴くことができる」ということを大切に、英語の総合力を育成します。				
到達目標	各人のスタート位置で、検定英語の到達目標は俯瞰できます。堅苦しく考えないで、自分のスタート位置から推測すると、8月の段階では1～2段階向上していた、と実感できるように展開されるのが「検定英語」です。無理なく、無駄なく、各自の持ち味を大切に総合的な英語力、役に立つ英語を自分のものにしましょう。高校期までの到達度を気にする必要はありません。あなたの英語への心がけが大切です。				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス テキスト Unit 1 と「リーディング」、そして「英文法」に関する問題</p> <p>第2講 から 第15講 まで 同じ展開</p> <p>各講義でのUnitでは、リスニングを積極的に導入し、「聴く力」を中心に総合的な英語力を形成します。聞く力に自信がなくても、英語に慣れることによって、自然の流れの中で英語力が身についていきます。</p>				
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは KINSEIDO SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L and R TEST INTERMEDIATE を使用する予定です。その他については、資料として適宜配布します。				
事前・事後学習	事前学習よりも事後学習が大切です。事後学習で語彙力、解釈力等をアップさせて下さい。				
成績評価方法	<p>1 講義への出席が第1に重要です。</p> <p>2 上記1がクリアできていれば、定期試験で成績・評価が算出されます。</p>				
授業内の課題・提出方法	課題等は講義の中で指示します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	事例に応じて説明、指示します。				
担当者から一言	<p>「検定」にこだわる必要は全くありません。</p> <p>使える英語、英語力を高める講座と認識してもらえば結構です。</p> <p>気楽に「英語力」を高める、と思って下さい。</p>				

授業科目名	検定英語Ⅱ			科目コード	172410	授業コード	111805
担当教員	武藤 和成			科目ナンバリング	GSET1010		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	検定英語のねらいは、実践的な4技能（聴く、話す、読む、書く）を総合的な英語力として高めることにあります。特に、「聴く」力は大切で、話しを聞くことができれば物事はスタートしません。「聴くことができる」ということを大切に、英語の総合力を育成します。						
到達目標	各人のスタート位置で、検定英語の到達目標は俯瞰できます。 堅苦しく考えないで、自分のスタート位置から、8月の段階では1～2段階向上していた、と実感できるように展開されるのが「検定英語」です。無理なく、無駄なく、各自の持ち味を大切に総合的な英語力、役に立つ英語を自分のものにしましょう。高校期までの到達度を全く気にする必要はありません。要するに、あなたの英語への心がけ次第です。						
授業計画	第1講 ガイダンス テキスト Unit 1 と「リーディング」、そして「英文法」に関する 問題 第2講から 第15講まで 同じ展開 各講義でのUnitでは、リスニングを積極的に導入し、「聴く力」を中心に総合的な英語力を形成します。「聴く力」に自信がなくても、英語に慣れることによって、自然の流れの中で英語力が身についていきます。						
テキスト・教材（参考文献含む）	使用予定の教材が改定となるようです。後日、提示します。						
事前・事後学習	事前学習よりも事後学習が大切です。事後の学習で語彙力、解釈等をアップさせて下さい。						
成績評価方法	1 講義への出席が第1に重要です。 2 上記1がクリアできていれば、定期試験で成績・評価が算出されます						
授業内の課題・提出方法	課題等は講義の中で指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じて適宜指示します。						
担当者から一言	語学学習の基本は、「習うより慣れよ」です。軽い、楽な気持ちで「聴く、話す、読む、書く」の原則を繰り返すことによって英語を身につけましょう。						

授業科目名	メディアツールa			科目コード	172501	授業コード	115203
担当教員	西尾 秀樹			科目ナンバリング	GSMD1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe illustratorを使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。						
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。						
授業計画	1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説） 3.描画の基本（図形ツール・レイヤー・カラーパレット など） 4.色の基本（CMYK/RGB・面と線 など） 5.自由曲線1（ベジェ曲線の基本） 6.自由曲線2（下絵をトレースして着色） 7.文字の入力・アウトライン（ロゴタイプ作成） 8.その他ツール（グラフ・フィルター など） 9.Webデータと印刷用データについて 10.画像の配置とレイアウト（Photoshopとの連動） 11.デザインデータ作成時の機能活用について 12.デザイン・レイアウトの実践（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会						
テキスト・教材（参考文献含む）	実習内容に応じて、教員からデータを配布します。						
事前・事後学習	デザインやレイアウトのヒントや参考は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 意識して眼にするだけでも自分自身の引き出しへの蓄積は変わってきますので、良いと思ったもののストックや自分ならどうするかを考えて接してください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。						
成績評価方法	授業内提出課題の3-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%						
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。						
担当者から一言	思考をグラフィック的に具現化できると表現も広がりますし、将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	メディアツールb			科目コード	172502	授業コード	115608
担当教員	西尾 秀樹			科目ナンバリング	GSMD1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe Photoshopを使ったグラフィック（画像処理）アプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。						
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。						
授業計画	1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説） 3.解像度について（Web/DTPデータの違い・カラーモードなど） 4.色調整・サイズ調整 5.選択範囲作成1（画像の切り抜き） 6.選択範囲作成2（背景変更・合成 など） 7.画像修正・コラージュ・変形・拡大縮小 8.ペイント・色変換 9.文字入力・加工 10.illustratorとの連動 11.フィルター・その他ツール 12.デザインの実践（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1（自身のスマートフォンで撮影した画像を使用） 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会						
テキスト・教材（参考文献含む）	実習内容に応じて、教員から画像データを配布します。						
事前・事後学習	綺麗な画像や加工された画像は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 「これ面白い画像だな」とか「どうやって作ったんだろう」という気付きが作品の幅を広げますので、眼にした画像から何かを感じる習慣を意識してみてください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。						
成績評価方法	授業内提出課題の4-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%						
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。						
担当者から一言	Webの活用には画像は重要な要素です。画像の加工・修正ができるだけでも使用できる画像は格段に増えます。将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、Webサイト更新・広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	メディアツールc	科目コード	172503	授業コード	112103
担当教員	田中 麻衣	科目ナンバリング	GSMD1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	この授業はAdobe Premiere Proを使用し、動画編集技術を学ぶ授業です。				
到達目標	Premiere Proを触ったことがない、編集ソフトを触ったことがない初心者が最終的には映像作品の制作ができるようになることが目標です。				
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：色んな種類の映像を楽しむ 第3回：Premiere Pro 「初期設定」 第4回：Premiere Pro 「基本操作1」 第5回：Premiere Pro 「基本操作2」 第6回：Premiere Pro 「応用編1」 第7回：Premiere Pro 「応用編2」 第8回：実習1 第9回：実習1（編集） 第10回：実習2 第11回：実習2 第12回：実習2（編集） 第13回：最終課題制作（企画&撮影） 第14回：最終課題制作（編集） 第15回：最終課題制作（編集）				
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じてプリントを配布します。				
事前・事後学習	みなさんには映像を制作してもらいます。ですので、どのような映像作品があるか、どのように作品ができているのかを自分なりに考えながら、YoutubeやTVドラマ、CM、映画を一日1本みることを事前準備とします。				
成績評価方法	最終的に一人1作品を制作していただきます。 その作品の出来栄と授業に対する意欲、各授業での課題の出来栄などを総合評価し成績を出します				
授業内の課題・提出方法	授業の度に、課題を出します。 課題とはどのようなものか例えば、事前学習で見た映像制作に対してのレポートなど。 提出は、その日中、または、次の授業までに提出できる課題を出します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバックは、提出してもらい、直接本人と話しをしながら、提出物へのフィードバックとします。また、教師からだけでなく、同じ授業を受けている仲間からのフィードバックをする場合もあります。				
担当者から一言	楽しみながら、一緒に学びましょう。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。				

授業科目名	メディアツールd			科目コード	172504	授業コード	112605
担当教員	柳澤 翔士			科目ナンバリング	GSMD1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義では、Macをつかった音楽制作についてgarageBandや、LogicProXといったアプリケーションを使って第一歩から学びます。						
到達目標	コンピュータを使った音楽制作の基礎知識と、作品制作における技術を身に着ける。						
授業計画	<p>・講義ではMac(GarageBand, Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習)</p> <p>1.ガイダンス・基礎知識 2.コンピュータをつかった音楽制作とは 3.音楽の基礎 4.ループ音源を組み合わせる1※ 5.ループ音源を組み合わせる2※ 6.楽譜を音にする1※ 7.楽譜を音にする2※ 8.エフェクトとは 9.MixDownとは※ 10.生音の加工1※ 11.生音の加工2※ 12.効果音の世界1※ 13.効果音の世界2※ 14.音作品製作1※ 15.音作品制作2※ 定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>データ保存用にUSBメモリーや外付けSSD(16GB USB3.0規格以上推奨)を必ず用意してください。</p> <p>必要な資料は適時配布します。</p>						
事前・事後学習	<p>実習ではMacを使用します。Windowsとは操作が異なるので、Mac教室(5201)で実際に使用して予習を行ってください。授業中にできなかった課題をすることで、早く慣れる事ができるでしょう(90分)</p> <p>音楽をしっかり聴きこみ、どういう音で構成されているのかというのを気にしておく事。分析しながら曲を聴きこむ(90分)</p>						
成績評価方法	<p>受講態度30%(課題に取り組む姿勢・受講の態度)</p> <p>作品提出30%</p> <p>レポート・定期試験40%</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>学内サーバーの指定フォルダに提出</p> <p>授業外では、Moodleやメールを利用。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>講評が必要なものは、当日・翌週に講評。</p> <p>質問などのフィードバックは適時行う。</p>						
担当者から一言	<p>音楽制作は難しいイメージがありますが、第一歩から音楽制作を学びます。</p> <p>共に音楽を学びましょう。</p> <p>※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。</p>						

授業科目名	Webデザインa			科目コード	172505	授業コード	111605
担当教員	堀内 敬弘			科目ナンバリング	GSMD1005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業ではWebデザインに必要なツール「Adobe Illustrator」を主に用いたデザインワークの学習を行います。一連のプロセスを学習し、業界のワークフローの根幹に触れることで業界への関心を高めてもらうことがこの授業の狙いです。						
到達目標	この授業では、学生諸君がWebデザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、イラストレーターを用いた簡易的なWebサイトデザイン操作ができるようになる事を到達目標としています。						
授業計画	Macを用いた演習を行います。 第1講 <ガイダンス> 先生の自己紹介/今後の講義内容、試験について/今、WEBデザインに求められていること/体験してみよう 第2講 Web デザインとは /Web サイトの構造 第3講 実践の準備をしよう / Adobe Illustrator 基本演習 (1) 第4講 Adobe Illustrator 基本演習 (2) 第5講 Adobe Illustrator 基本演習 (3) 第6講 Adobe Illustrator 基本演習 (4) 第7講 Adobe Illustrator 基本演習 (5) 第8講 Adobe Illustrator 基本演習 (6) 第9講 Adobe Illustrator 基本演習 (7) 第10講 Adobe Illustrator 基本演習 (8) 第11講 Adobe Illustrator 基本演習 (9) 第12講 Adobe Illustrator 基本演習 (10) 第13講 Adobe Illustrator 応用演習 (1) 第14講 Adobe Illustrator 応用演習 (2) 第15講 Adobe Illustrator 応用演習 (3)						
テキスト・教材（参考文献含む）	特になし						
事前・事後学習	毎講義ごとに行った操作方法やショートカットキーなどをその場でメモしていただき、復習しておくこと						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・授業時に教える操作方法やショートカットキーの理解度及び受講態度：20% ・全授業終了後に提出する課題の提出状況及びクオリティ・理解度：80% ・定期試験：定期試験はありません						
授業内の課題・提出方法	提出物：講義を通して作成する基礎演習データおよび応用演習データ 提出方法：講義時にデータにて提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	成績登録にてフィードバック						
担当者から一言	本講義はメディアツールaの事前受講が前提となっております。メディアツールaを受講し、よりデザインの業界へ興味のある学生は是非受講してみてください。 先生と一緒にデザインの難しさも達成感も全て楽しみながら授業しましょう。						

授業科目名	Webデザインb	科目コード	172506	授業コード	111209
担当教員	堀内 敬弘	科目ナンバリング	GSMD1006		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	この授業ではWebデザインaで学習したデザインツールのスキルを活かしてより実際の現場に近いWebデザイン業務を疑似体験しながらデザインまでのプロセスをチーム（コロナウィルスの感染状況や受講人数により個人で行う場合もございます。）で学びます。				
到達目標	この授業では、学生諸君がWebデザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、簡易的なWebサイトデザインができるようになる事を到達目標としています。				
授業計画	Macを用いた演習を行います。 第1講 ガイダンス 最新Webデザインのトレンド / お気に入りのWEBサイト集め 第2講 チーム決めと架空クライアントによる要望の発表とコンセプトメイキング 第3講 ワイヤフレーム制作① 第4講 ワイヤフレーム制作② 第5講 デザイン制作① 第6講 デザイン制作② 第7講 デザイン制作③ 第8講 デザイン制作④ 第9講 デザイン制作⑤ 第10講 デザイン制作⑥ 第11講 デザイン制作⑦ 第12講 デザイン制作⑧ 第13講 デザイン制作⑨ 第14講 プレゼンテーション準備 第15講 プレゼンテーション/投票・評価/まとめ				
テキスト・教材（参考文献含む）	特になし				
事前・事後学習	・毎講義ごとに行った操作方法やショートカットキーなどをその場でメモしていただき、復習しておくこと ・インターネットを用いて、WEBデザイン参考サイトなど制作に必要な資料のリサーチ、ストック				
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・チーム制作時における協調性や積極的な態度：30% ・全授業終了後に提出する課題の提出状況、プレゼン力、及びクオリティ・理解度：80% ・定期試験：定期試験はありません				
授業内の課題・提出方法	提出物：講義を通して作成する基礎演習データおよび応用演習データ 提出方法：講義時にデータにて提出				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	成績登録にてフィードバック				
担当者から一言	Webデザインaを受講済みの学生のみ履修できます。 Webデザインの授業の集大成でもあります。Webデザインaで学習したデザインスキルを活かしてチームで1つのWebページのデザインキャンプを作り上げる大変さと楽しさを体験しましょう。				

授業科目名	Webプログラミングa			科目コード	172507	授業コード	114604
担当教員	片山 清和			科目ナンバリング	GSMD1007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	ホームページ作りを通してWebの仕組みとプログラミングの基礎を学びます。具体的には、HTMLの基本タグを使うことでホームページの論理構造を記述し、スタイルシートを使うことでホームページのレイアウト・デザインを記述することを学びます。						
到達目標	HTMLの基本タグやスタイルシートを使った簡単なホームページが作れる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、WWWとWeb 第2講 HTML概要 第3講 画像とリンク 第4講 箇条書き 第5講 表組み 第6講 入力フォーム 第7講 CSS概要 第8講 見出しと段落 第9講 boxモデル 第10講 ヘッダー 第11講 表のスタイリング 第12講 問合せフォーム 第13講 Webサイト制作（1） 第14講 Webサイト制作（2） 第15講 Webサイト制作（3）						
テキスト・教材（参考文献含む）	<テキスト> 赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書〔改訂2版〕」 技術評論社						
事前・事後学習	講義前には、該当部分のテキストを読んで理解して来ること（60分） 講義後には、学習した内容を復習し、もう一度演習を行うこと（120分）。 本講義の内容をふまえ、発展した内容を「Webプログラミング2」で学習します。						
成績評価方法	<評価> 「提出物」（55%）、「作品」（45%）						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業で作成したコードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 提出物はその場でチェックし、問題点のある提出物は受理しません。						
担当者から一言	プログラミングはコンピュータの基本を学ぶために必須です。 各講義では演習問題を解きます。授業中に終わらない場合は宿題となります。 積み重ねの内容なので、演習問題をしっかり行い、理解してから進むようにしてください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。						

授業科目名	Webプログラミングb	科目コード	172508	授業コード	113404
担当教員	池田 幹男	科目ナンバリング	GSMD1008		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	この授業では主にJavaScriptを使用したプログラミングを学びます。特に、Webページの基本であるHTMLやCSSと連携してそれら进行操作するプログラミングや、CanvasAPIを使用したグラフィック进行操作するプログラミング、イベントハンドラーを使用したプログラミングについて学びます。				
到達目標	JavaScriptによる動的なWebページの制作、スタイルの操作、簡単なグラフィックプログラムが出来るようになることを目標にします。				
授業計画	<p>Windows PCを用いた演習を行います。</p> <p>第1講 ガイダンス Moodle の使用法</p> <p>第2講 JavaScript を使用した動的なウェブページの例</p> <p>第3講 アウトプットの基本</p> <p>第3講 JavaScript の文法と基本的な機能①</p> <p>第4講 JavaScript の文法と基本的な機能②</p> <p>第5講 JavaScript の文法と基本的な機能③</p> <p>第6講 JavaScript の文法と基本的な機能④</p> <p>第7講 インプットとデータの加工①</p> <p>第8講 インプットとデータの加工②</p> <p>第9講 一歩進んだテクニック①</p> <p>第10講 一歩進んだテクニック②</p> <p>第11講 JQuery入門</p> <p>第12講 Canvas API ①</p> <p>第13講 Canvas API ②</p> <p>第14講 応用課題①</p> <p>第15講 応用課題②</p> <p>授業はいずれも P Cを用いた実習です。</p>				
テキスト・教材（参考文献含む）	『確かな力が身につく JavaScript 「超」入門』第二版、狩野 祐東 著、SBクリエイティブ刊、ISBN978-4-8156-0157-7、定価2480円＋税 必要な教材はMoodleでも提示します。				
事前・事後学習	教育支援システムを通じて提示する例題や課題、Mozilla developer での解説や例を予習（毎週90分）復習として例題をもとに新しいプログラムを自分の力で作る（毎週90分）ことを推奨します。				
成績評価方法	毎回の授業の演習課題（70％）と、授業への参加態度（30％）で評価します。定期テストは実施しません。				
授業内の課題・提出方法	教育支援システム（Moodle）に毎回課題を提出します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教育支援システム（Moodle）を通じてフィードバックします。				
担当者から一言	「Webプログラミングa」の単位を事前に修得することを勧めます。学ぶことが多いので、予習と復習をしっかりと行い、頭の中で知識を整理していかないと、訳が分からなくなります。また、自分でプログラムを作成しないと身に付きません。				

授業科目名	インターネット論			科目コード	172509	授業コード	112406
担当教員	柳澤 翔士			科目ナンバリング	GSMD1009		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持っておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。						
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。						
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ 1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります						
テキスト・教材（参考文献含む）	増井 敏克 著 「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社 ￥2300＋税						
事前・事後学習	テキストでの予習(90分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)						
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%						
授業内の課題・提出方法	学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。						
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。Web技能検定3級レベルの知識を得られるような講義を目指す。						

授業科目名	政策科学入門			科目コード	471001	授業コード	113302
担当教員	永井 博			科目ナンバリング	PFC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけるための基礎的な知識や技術を修得する。						
授業のねらい	この講義では総合政策学部の専門教育科目を履修する準備をします。教員が分担して、政治、経済、国際社会、現代社会の諸問題について講義します。すでに高校までに学修した内容も含まれますが、大学生になった今、あらためて各テーマについてよく理解するようにして下さい。この講義で説明される用語は基本中の基本なのでしっかりと覚えるようにしましょう。						
到達目標	学部専門教育科目を学んでいくための基本的な用語や考え方を理解できるようになること。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 現代の政治 ① 第3回 現代の政治 ② 第4回 現代の政治 ③ 第5回 現代の政治 ④ 第6回 現代の経済 ① 第7回 現代の経済 ② 第8回 おさらいの回 第9回 現代の経済 ③ 第10回 現代の経済 ④ 第11回 現代の国際社会 ① 第12回 現代の国際社会 ② 第13回 現代社会の諸課題 ① 第14回 現代社会の諸課題 ② 第15回 専攻ガイダンス * 授業の順番は入れ替わることがあります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは特にありません。教員から資料が配布されます。参考文献として次のものを挙げておきます。 井堀利宏『教養としての政治経済学』（総合法令出版） 中島岳志『自分ごとの政治学』（NHK出版） 山崎広明他『詳説 政治・経済』（山川出版社）						
事前・事後学習	普段から新聞やインターネットなどのメディアで、政治・経済・国際問題などの記事を読んでおくこと。（1日20分） 毎回の授業で課された課題レポートに取り組むこと。（90分）						
成績評価方法	講義への参加意欲、講義で課す課題レポートなど（75%）、定期試験（25%）で総合評価します。						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に関連した課題レポートを課すので、それに取り組むこと。 レポートの提出は、講義のあったその週の金曜日の16:00までで、提出方法はmoodleを予定しています。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	それぞれの回の担当教員からレポートの内容に関して総合的なコメントをフィードバックします。						
担当者から一言	4年間の学部専門科目の学修の基本となる大切な必修科目です。欠席や遅刻したりせず毎回必ず出席し、しっかりと15週学んでください。						

授業科目名	総合政策論 I			科目コード	471002	授業コード	112501
担当教員	吉川 和挟			科目ナンバリング	PFC2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	<p>いくつかの政策領域を事例として用いつつ、地域における政策問題解決のプロセスに関する知識を身に着けることを目的とします。</p> <p>政策問題の解決は登場するアクターも、関連制度・法律なども多岐にわたり、一律の解決方法があるわけではありません。</p> <p>本講義では、防災・消防・町並み保存などに関する実際のケースを取り上げつつ、各ケースの中でどのような問題が生じたのか、どのように解決されたのかを扱います。</p> <p>この講義を通して、身近な問題への関心と感度が高まり、問題解決への糸口を見つけ出すための考え方を身に着けることを期待し</p>						
到達目標	・政策学に関する基本的な事項・考え方を理解できる						
授業計画	01. ガイダンス/政策とは何か 02. 政策プロセスとアクター 03. 地域における政策 04. 地域の防災政策（事例1） 05. 地域の消防政策（事例2） 06. 医療行政（事例3） 07. 外国人集住都市（事例4） 08. 町並み保存（事例5） 09. 清掃事業（事例6） 10. エネルギー政策（事例7） 11. 環境政策（事例8） 12. 空き家政策（事例9） 13. 公共政策と市民 14. 政策と法律 15. 政策と文脈 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・佐野 亘 (監修)、山谷清志 (監修)、焦従勉(編集)、藤井誠一郎(編集)「政策と地域」ミネルヴァ書房 (2020) ・石橋章市朗、佐野亘、土山希美枝、南島和久著「公共政策学」ミネルヴァ書房 (2018)						
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）						
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：50% ・定期テスト（自筆ノートのみ持ち込み可）：50%						
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。						
担当者から一言	他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じることがあります。						

授業科目名	総合政策論Ⅱ			科目コード	471003	授業コード	116101
担当教員	岡 良浩			科目ナンバリング	PFC2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	<p>総合政策とは、経済学や法学といった特定の学問領域のことではなく、まず社会的な課題があり、それを色々な人や組織がそれぞれに持てる力を合わせて解決する、あるいはその解決策を見出していこうとすることです。</p> <p>この講義では、総合政策学部の各教員が、それぞれ専門としている領域を念頭に、その内容を講義するものです。なおこの講義は、事前に収録された動画を視聴するオンデマンド方式で行います。</p>						
到達目標	<p>以下の3つを掲げています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. それぞれの教員の領域を理解すること 2. 総合政策のもつ分野の多様性を理解すること 3. 今後自らが専攻する分野や指導教員などを見定めること 						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス／未来を拓く中小企業の役割（岡良浩）</p> <p>第2講 会計情報と株価（奥原貴士）</p> <p>第3講 人生の抽象化-学問する意味-（川崎綾子）</p> <p>第4講 選挙・代表制民主主義と「くじ引き民主主義」（小林慶太郎）</p> <p>第5講 文学作品や文学現象、文化現象を説明すること（高田晴美）</p> <p>第6講 自由貿易がもたらす効果について（鶴田利恵）</p> <p>第7講 リアリティの境界（富田与）</p> <p>第8講 環境基本法のとらえ方（中西紀夫）</p> <p>第9講 正義とは何か（フェリペフェハリー）</p> <p>第10講 未婚化のゆくえ（三田泰雅）</p> <p>第11講 米国野球界の人材育成（若山裕晃）</p> <p>第12講 まちづくりのプロデュース（鬼頭浩文）</p> <p>第13講 地域の学びと文化（浅井雅）</p> <p>第14講 地域の歴史・文化とまちづくり（倉田英司）</p> <p>第15講 公共政策と価値の多様性（吉川和挟）</p> <p>※日程・内容などは変更する場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	特に使用しません。（講義中に教員がプリントを配布することがあります。）						
事前・事後学習	<p>事前学習：新聞やニュースに目を通しておくこと（90分）</p> <p>事後学習：各講で課された小レポートを作成すること（90分）</p>						
成績評価方法	各講で課す小レポート（75%）期末試験（25%）						
授業内の課題・提出方法	オンデマンドで配信された動画を視聴後に、各講で課された小レポートを作成し、提出いただきます。提出は学内の教育支援システムMoodleで提出いただく予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小レポートの点数を各自に採点するとともに、全体の講評をMoodle内で掲示します。						
担当者から一言	この講義は、総合政策学部の教員がオムニバスに毎回登壇し、それぞれの専門領域について総合政策の観点から講義するものです。この講義を通じて、ご自身の専攻分野や関心領域を見定めてください。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	471101	授業コード	114201
担当教員	奥原 貴士			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	企業の財務諸表は、企業の業績の優劣や潜在能力を映し出しているが、こうした会計情報を読み取るには、財務諸表がどのようにして作成されているのかを理解していなければなりません。そこで本講義は、会計・簿記の基礎知識を習得することを目的とします。そして、会計情報を利用して基礎的な経営分析を行います。また、日商簿記検定等の資格取得も目指します。						
到達目標	会計・簿記の基本的な知識を習得し、財務諸表を的確に読み取ることができるようになる。企業の財務諸表を用いて基礎的な経営分析ができるようになる。これらを到達目標とします。これらは、専門演習での学習のベースとなります。また、日商簿記検定等の資格取得も目指していきます。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 会計・簿記の学習 第3講 会計・簿記の学習 第4講 会計・簿記の学習 第5講 会計・簿記の学習 第6講 会計・簿記の学習 第7講 会計・簿記の学習 第8講 会計・簿記の学習 第9講 会計・簿記の学習 第10講 会計・簿記の学習 第11講 経営分析の基礎 第12講 経営分析の基礎 第13講 経営分析の基礎 第14講 経営分析の基礎 第15講 経営分析の基礎						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはゼミが進んでから指定する。 講義資料はプリントを適宜配布する。 （参考文献） 谷武幸・桜井久勝・北川教央編著『1からの会計(第2版)』中央経済社(2021)。 『合格テキスト日商簿記3級』、『同2級』TAC株式会社。						
事前・事後学習	新聞や雑誌などで企業の会計数値（売上高や利益額など）を見て、この企業の経営はうまくいってそうだと、こちらの企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください。（毎日30分以上）						
成績評価方法	平常点（授業への積極的な参加、発表内容、発言回数など） 80% 課題レポート 20%						
授業内の課題・提出方法	授業内の課題についてはその都度指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題・発表・発言については適宜コメントをします。						
担当者から一言	会計・簿記の講義回数に関しては、受講生との話し合いにより決めます。 発表、ディスカッションへの積極的な参加を希望します。 日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。						

授業科目名	基礎演習 a	科目コード	471101	授業コード	114202
担当教員	川崎 綾子	科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	<p>プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。</p>				
授業のねらい	<p>本演習では経営学の2つの顔（理論と実践）を理解した上で、経営学者としての思考を養う。経営学では実践的な経営活動を、抽象的な理論で説明することが求められるが、優秀な経営者や経営学者は、理論と実践を往還する能力を備えている。</p> <p>本演習では、理論を紐解く鍵としての「抽象化」に対する理解を深めた上で、理論と実践を往還する能力を養う。また発表に対する意見交換を通して、議論する力や論理的な思考を身につける。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経営学的に思考する能力（具体を抽象化する能力）を養う。 ・論拠に基づいた説得力のあるレジюмеを作成できるようになる。 ・発表や議論の技術を身につける。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス -発表する章の決定 2 お金と経営学 3 人生の抽象化 -抽象的な人と具体的な人 4 経営学者の思考 -理論ドリブンと現象ドリブン 5 社会人の方々は今こそ経営理論を学ぶべき 6 メモの魔力を持てば世界に敵はいない-序章 7 日常をアイデアに変える -第1章 8 思考を深める -第2章 9 自分を知る -第3章 10 夢をかなえる -第4章 11 メモは生き方である -第5章 12 論文の準備（産業選択、資料整理）-論文の構造 13 とにかく書いてみる 14 発表と議論（1） 15 発表と議論（2） 				
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>前田裕二(2018)『メモの魔力』幻冬舎 ISBN：978-4344034082</p>				
事前・事後学習	<p>第7～11回：毎回、教科書を1章ずつ読む。 発表担当者は、任意の章の内容を要約したレジюмеを基に発表する。</p> <p>発表の担当者は、時間をかけて準備すること（発表前の1週間は数時間/1日）。 教員になったつもりで、学生に分かりやすい発表を心がける。 発表者以外も、教科書を事前に読み込んだ上で、関連情報（各章のキーワードのWeb上の説明、関連本など）を集めておくこと（1時間程度）。 各回の演習内容や議論を踏まえた上で、論文作成の準備を行う（毎週約1時間）。</p>				
成績評価方法	<p>発表：レジюмеの内容、発表の工夫、質疑応答への積極性 40% 毎回の態度：コメントの内容など 60%</p> <p>発表への質問だけでなく、感想も歓迎します。 ※ただし私語は厳禁。2回以上の注意で原則、単位不認定となります。 特に発表担当者は教員になったつもりで、責任ある行動を心がけてください。</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>発表のレジюмеは、ゼミの人数分（+教員提出用1部）を印刷して持参すること。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>発表や議論に関して、授業内で適宜コメントする。</p>				
担当者から一言	<p>抽象化の技術は、あらゆる文章の読み書きに役立ちます。人生の諸々を整理し、本当に大事なことを実現するためにも、必要となる技術です。理論とは何か、あなた自身の人生をどのようにマネジメントしていくのかについて、一緒に考えましょう。</p>				

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	471101	授業コード	114203
担当教員	小泉 大亮			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	本演習では、自身で学習・調査した内容を相手に説明や表現するスキルの向上をねらいとして、学習していきます。特に「健康とスポーツ」をテーマにして、テーマに関する資料や文献などの情報収集方法、レポートへのまとめ、プレゼンテーション資料の作成に至る発表スキルの向上を目指していきます。						
到達目標	1) 学術論文・統計資料の「検索」・「収集」・「分析」・「まとめ」など、論文やレポート作成に必要な基礎的なスキルを身につける。 2) プレゼンテーション技法（スライド作成やレジュメ作成）を身につける。 3) 健康スポーツ科学に関する基礎知識を習得する。						
授業計画	第1講 ガイダンス 演習の概要 第2講 健康増進とスポーツ 第3講 高齢期における身体運動 第4講 調査資料の検索方法について 第5講 調査資料の収集方法について 第6講 調査資料の整理方法について 第7講 学術論文・文献の読み方 第8講 文献のまとめ方と発表の練習 第9講 レポートの書き方・作成方法 第10講 レポートの作成・プレゼン資料の作成 第11講 レポートの作成・プレゼン資料の作成 第12講 発表・報告① 第13講 発表・報告② 第14講 発表・報告③ 第15講 授業のまとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	【参考文献】 竹島伸生、ロジャース・マイケル編「高齢者のための地域型運動プログラムの理論と実際」（有）ナッパ社（2006年）						
事前・事後学習	授業の際に、健康やスポーツに関する話題やトピックスなどを各々発表してもらうので、それらに関連する新聞記事や雑誌などを調べて、数分程度で発表できるようにまとめておくこと（準備学習 15分/日）発表資料やレポート作成などの課題があるので、授業までにしっかりと準備するように（60分）						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・授業への取り組み姿勢（レポート・発表などの準備）：50% ・レポート・発表：50%						
授業内の課題・提出方法	作成した資料等は、メール・moodleにて提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
担当者から一言	健康科学やスポーツ科学に関連する最新の話題やトピックスなどは、インターネットやマスメディアを通して広く情報発信されています。日頃から積極的な情報収集を心がけ、疑問や課題を追求しましょう。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	471101	授業コード	114204
担当教員	小林 慶太郎			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、将来、地域で活躍することを目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取り組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。						
到達目標	この演習では、地域の抱えている課題や問題などを知るために必要となる基本的な知識や技能を身につけることを、到達目標としています。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 フィールドの設定 第3講 地域を知るために必要なこと 第4講 RESASを使ってみよう 第5講 統計データを探してみよう 第6講 統計データの作られ方 第7講 地図に落とし込んでみよう 第8講 定量的な分析と定性的な分析 第9講 メディアから探る地域課題 第10講 新聞記事を活用しよう 第11講 地域の現状と課題 第12講 図書館を使ってみよう 第13講 本を読んでまとめてみる 第14講 著作権と研究倫理 第15講 地域課題の解決方策 ※ グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを中心に進めていきます ※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、内容が変更になる場合があります。 ※ 状況が改善していれば、夏休みにゼミ旅行も予定したいと思います。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません（必要に応じて、適宜プリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、何らかのことを調べたり整理したりレジュメを作成したりして来てもらいます（150分程度）。 また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいください（30分）。						
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・課題への取り組み状況：50% ・授業中の発言・受講態度：50%						
授業内の課題・提出方法	レジュメを作成して、授業時に配布してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。						
担当者から一言	一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！						

授業科目名	基礎演習 a	科目コード	471101	授業コード	114205
担当教員	高田 晴美	科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける				
授業のねらい	日常にあふれる様々な言葉や表現、物語は、人のどのような意識のもと発せられているのか。言葉や文化、作品の創作や享受の裏には、どのような時代状況・社会状況の反映があるのか。文化現象・流行や近現代の（広い意味での）文学作品を取り上げ、これらの分析を通して、人間・人生・人間関係のあり方、社会の模様について考えを深めることを試みます。作品等に向き合うことで、「読む」「調べる」「分析する」「問題を見つける」「論じる」「文章にまとめる」「口頭発表する」「議論する」といった能力を鍛えましょう。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読解力、解釈力、問題発見力、言葉に対する感性を養う。 ・自分の考えを文章にまとめて論じたレジュメを作成できるようになる。 ・口頭発表や質疑応答などの議論のスキルを身につける。 				
授業計画	第1講 ガイダンス、文学ネタで自己紹介プレゼン 第2講 流行している作品と社会と人々の心理の問題——皆で考える 第3講 流行している作品と社会と人々の心理の問題——発表① 第4講 流行している作品と社会と人々の心理の問題——発表② 第5講 小説A①——読む・意見交換 第6講 小説A②——発表・議論 第7講 マンガ①——読む・意見交換 第8講 マンガ②——発表・議論 第9講 句会 第10講 評論①——読む・意見交換 第11講 評論②——発表・議論 第12講 小説B①——読む・意見交換 第13講 小説B②——発表・議論 第14講 ビブリオバトル① 第15講 ビブリオバトル②				
テキスト・教材（参考文献含む）	演習で扱う作品のテキストは、プリントにして配布します。 その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。				
事前・事後学習	基本的には、2週で1セットとなっています。1週目はみんなでコメントを出し合い、2週目に発表担当者がレジュメを準備したうえで口頭発表します。発表担当者は相当の時間（発表前1週間は毎日数時間ずつ）をかけて準備をすること。発表担当者以外も、与えられたテキストを読み、それにまつわる情報（作者の情報、関連作品について等）を収集しておくこと（1時間程度）。				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・発表（レジュメ内容、口頭発表の仕方、質疑応答の様子） 40% ・毎回の取り組み姿勢（発言意欲、コメント内容など） 60% 原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。				
授業内の課題・提出方法	毎回のゼミで指示する。 発表者は、レジュメを作成し、人数分印刷をして持ってくること。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表に関しては、教員・学生全員でコメントし合い、議論をする。				
担当者から一言	文学作品や文学現象、文化現象に隠されている問題を見つけたり分析して説明をつけたりすること、普段自分から出会うことはなかなかない文学作品を読み、さらに読み解くこと、そしてそれを誰かと共有して語り合うことは、刺激的な体験となりえます。みんなで面白がりましょう。				

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	471101	授業コード	114206
担当教員	鶴田 利恵			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	この授業では、“マンガ”で描かれたテキストを使って基本的な経済学の考え方を理解します。経済学は、「難しそうな言葉や複雑な計算がたくさん出てきそうだ」と思われがちですが、いくつかのキーワードを理解しておけば、数学ができなくても十分に理解できる学問です。また、そのようにして習得した経済学的な思考を使って、現実に行き起きている経済問題について考えていく力をつけてもらうことが、この授業のねらいです。授業では鶴田の解説だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。						
到達目標	まずは、何がわからないかを声に出してみましょう。その上で、経済学の基本的な考え方を習得し、テレビや新聞で報道されている経済問題を理解し、さらにその問題について自分の意見を言えるようになることを、到達目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 経済学って何をしようとする学問なの？ 第3講 モノの値段は何をもとに決まっている？ 第4講 「コスト＝費用」についての経済学的な考え方とは？ 第5講 マクロ経済学・ミクロ経済学って何？ 第6講 ニュースでよく出てくるGDP（国内総生産）って何？ 第7講 「日本はデフレ」ってどういう意味？ 第8講 ケインズって誰？ レポート提出① 第9講 「超低金利政策」って何？ どうしてそんなことするの？ 第10講 消費したほうがいいのか？ それとも貯蓄したほうがいいのか？ 第11講 財政政策って何？ 第12講 そもそもお金って何？ 第13講 金融政策って何？ 第14講 良いインフレと悪いインフレがあるらしい？ レポート提出② 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	コピーを配布します。 使用テキスト：井堀利宏「大学4年間の経済学がマンガでざっと学べる」KADOKAWA（2017年）1, 200円（税抜き）						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。授業後、その日読んだマンガのテキストを必ず読み返し、どんなことを話し合ったかを思い出す（90分以上）。						
成績評価方法	授業内での報告や発言内容70%、レポート（2回）30%。						
授業内の課題・提出方法	毎回授業内で簡単なレポートを書いて提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内でのレポートの結果や質問などについては適宜説明します。						
担当者から一言	わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	基礎演習 a	科目コード	471101	授業コード	114207
担当教員	富田 与	科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	必修
授業の位置づけ	<p>プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。</p> <p>調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。</p>				
授業のねらい	<p>この演習では国際情報の性質を考えていきます。実際の授業では、具体的な報道記事を材料に、「誰が、何を、どう表現し」、それを「誰が、どのように受容したか」を、できるだけ一次資料にまで遡って分析し、その上で、入手できた資料を使いオリジナルの記事を作成してみましょう。最後の2回ではオリジナルの記事の合評会を予定しています。作業は留学生と日本人学生の混成グループにより進めることとし、作業中の使用言語は日本語と英語のみとします。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一次資料に遡れる調査能力の獲得 2. 資料に基づくレポート作成能力の獲得 3. 多言語コミュニケーション能力の獲得 4. プレゼンテーション能力の獲得 				
授業計画	<p>第1講：ガイダンス</p> <p>第2講：報道記事を解剖する（講義）</p> <p>第3講：出来事を選択</p> <p>第4講：記事の持ち寄り</p> <p>第5講：記事の選択（グループ作業）</p> <p>第6講：記事の解剖（グループ作業）</p> <p>第7講：情報源の特定（グループ作業）</p> <p>第8講：資料の抽出（グループ作業）</p> <p>第9講：資料の持ち寄り</p> <p>第10講：資料の評価</p> <p>第11講：記事作成のための資料選択（グループ作業）</p> <p>第12講：オリジナル記事の構成（グループ作業）</p> <p>第13講：オリジナル記事の作成（グループ作業）</p> <p>第14講：合評会</p> <p>第15講：合評会</p>				
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>テキストは特に指定しません。</p>				
事前・事後学習	<p>各回の内容に応じて、次のような準備が必要になります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 材料とする報道記事の検索（1時間） 2. 報道記事の分析（1時間半） 3. 一次資料の調査（2時間） 4. 発表資料の作成（2時間） 				
成績評価方法	<p>授業中に発表してもらった課題（50%）を評価の対象とし、グループ作業への参加度（50%）を加味して総合評価とします。</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>授業中に指示した課題は、すべて、何らかの形で、授業中に発表してもらいます。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>発表についてはその場でコメントします。また、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。</p>				
担当者から一言	<p>ひとつの報道記事には、いくつかの別の主体の判断や認識が含まれているのが一般的です。イメージと感情に偏りがちが最近の国際情報環境のなかで、細部にこだわった情報の読み取りを一度経験しておくことで、報道記事の見方もきっと変わると思います</p>				

授業科目名	基礎演習 a	科目コード	471101	授業コード	114208
担当教員	中西 紀夫	科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探索する能力を身につける。				
授業のねらい	この演習では、まず、自己紹介によるスピーチの練習から始めていきたいと考えております。最近の学生で多くみられる傾向として、メールなどでの簡単な会話は問題ないのですが、実際の面と向かっての会話は、苦手な学生が多いように思えますので、この点の改善には、各講のテーマに関係なく意識して時間を使いたいと思います。ここでは、ニュースや新聞などで話題となっているような社会問題を素材として扱います。				
到達目標	各自が設定したテーマに基づき、資料収集が出来ることはもとより、きちんとしたレジユメの作り方や報告方法までを到達目標とします。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 自己紹介（スピーチの練習） 第3講 資料の収集方法 第4講 レジユメの形式について 第5講 各自が注目した社会問題を意見交換（グループワーク） 第6講 研究テーマと概要を報告し、ミニレポートで提出 第7講 レジユメによる報告および意見交換① 第8講 レジユメによる報告および意見交換② 第9講 レジユメによる報告および意見交換③ 第10講 レジユメによる報告および意見交換④ 第11講 レジユメによる報告および意見交換⑤ 第12講 レジユメによる報告および意見交換⑥ 第13講 研究の進捗状況を報告し、ミニレポートで提出 第14講 討論会（テーマは多数決で決める） 第15講 まとめ、研究レポート提出				
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献等は、必要に応じて紹介します。資料は適宜、配付します。				
事前・事後学習	毎日、新聞を読むこと（1日20分）はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。				
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度 50% 発表内容 30% レポート 20%				
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告で使ったレジユメや提出したレポートについては、その都度、指導します。				
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。				

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	471101	授業コード	114209
担当教員	フェリペ フェハリー			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。						
到達目標	芸術（文学、映画や音楽など）、科学や日常生活にある哲学の影響を認知し、現代社会において、哲学の役割を議論すること。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 哲学とは何か 第3講 哲学と私 第4講 古代哲学：ソクラテス以前 第5講 古代哲学：ソクラテス 第6講 古代哲学：プラトン 第7講 古代哲学：アリストテレス 第8講 中世哲学：新プラトン主義 第9講 中世哲学：スコラ哲学 第10講 近代哲学：ルネサンス 第11講 近代哲学：デカルト 第12講 近代哲学：スピノザ 第13講 近代哲学：ライブニッツ 第14講 哲学論文の書き方 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	『哲学用語図鑑』 田中正人（プレジデント社） （1, 800円＋税）ISBN 978-4-8334-2119-5						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読みます（毎週約60分）。 レポートを作成し、発表の準備をします（毎週約60分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 研究発表：20% 最終レポート：50%						
授業内の課題・提出方法	学生は研究の発表を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
担当者から一言	世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。 この演習では学生みなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。						

授業科目名	基礎演習 a	科目コード	471101	授業コード	114210
担当教員	三田 泰雅	科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。				
授業のねらい	この演習は、現実の出来事を手がかりに世の中の仕組みを考える「社会学」に関心をもつ人を対象にしています。基礎演習aでは論説文の書き方を学びます。論説文は、レポートはもちろんプレゼンテーションの基本でもあります。自分の考えを正確にわかりやすく伝える力を高めましょう。				
到達目標	文章を論理的に組み立てることができる。				
授業計画	1 ガイダンス 2 文章の書き方 3 文章の型を知る 4 型から文章を作る 5 文章の読み方 6 メモを取りながら読む 7 メモを活用する 8 文書資料の探し方 9 統計資料の探し方 10 レジюмеをつくる 11 レジюмеから文章へ 12 段落の構成 13 文の構成 14 接続詞を学ぶ 15 後学期ガイダンス				
テキスト・教材（参考文献含む）	<テキスト> 野矢茂樹（2018）『増補版 大人のための国語ゼミ』筑摩書房. 宮内泰介・上田昌文（2020）『実践 自分で調べる技術』岩波書店.				
事前・事後学習	各回の課題に取り組むこと（一日平均20分程度）				
成績評価方法	平常点100%。 平常点は各回の課題と授業への参加度で評価します。				
授業内の課題・提出方法	各回の課題は翌週の授業で提出。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題をもとに教員を含めた全員でディスカッションします。				
担当者から一言	原稿用紙のマスを埋めるだけの作文を卒業し、論理と構成を備えた文章作成能力を身につけましょう。				

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	471101	授業コード	114211
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	本演習では、スポーツ科学に関連した文献講読及び討論を通して、論文作成のための知識を養成する。						
到達目標	文献検索や資料作成等、研究を進めるための基礎的な手法を習得する。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 レポートのテーマ検討 第3講 レポートのテーマ検討 第4講 スポーツ科学とは 第5講 文献講読・討論 第6講 文献講読・討論 第7講 文献講読・討論 第8講 文献講読・討論 第9講 文献講読・討論 第10講 文献講読・討論 第11講 文献講読・討論 第12講 文献講読・討論 第13講 文献講読・討論 第14講 文献講読・討論 第15講 総括及び夏期休暇課題の説明						
テキスト・教材（参考文献含む）	特に指定しないが、適宜指示する。						
事前・事後学習	予習として、課題文献に関連した資料収集を実施しておくこと（90分）。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと（90分）。						
成績評価方法	課題文献の解説・要約（50%）、レポート（50%）。						
授業内の課題・提出方法	授業内、授業以外の時間でも、適宜。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポート等の評価は都度個別に開示する。						
担当者から一言	毎回担当者を決めて、課題文献の解説をしてもらう。学生の積極的な討論参加を期待する。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	471101	授業コード	114212
担当教員	鬼頭 浩文			科目ナンバリング	PSS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	自ら学び、情報収集し、論理的な文章を書き、わかりやすくプレゼンし、積極的に議論するという、大学生としての学びの基礎を身に付ける演習である。具体的には、前半は、パワーポイントを活用して各自設定したテーマについてプレゼン(スライド20枚程度で5分間の発表)する。後半は、新聞を読んで「手書き」で資料をまとめ、自分なりの考えをまとめる作業を行う。就職活動では、手書きで論文を書いたり、自己PRをしたりすることが多くなる。ゼミの後半では手書きで文章を綴る機会を多く持ち、自分を表現する能力を磨く。						
到達目標	人前で自分を表現する度胸をつけ、実際にプレゼンを完成させることを目標とする。また、アナログな手書きで自己表現する能力を身につけることも大切な目標である。						
授業計画	1. ガイダンス プレゼンテーションを練習(自己紹介と互いのコメント) 2. 顔写真入り自己紹介をPCで作成(PC教室) 3. プレゼンのテーマ決定(PC教室) 4. パワポ講義(ウィザードで流れをつくる)(PC教室) 5. 写真や図をネットから引用して貼り付け(PC教室) 6. パワーポイント作成作業(PC教室) 7. プレゼン仕上げ(PC教室) 8. 発表前半(報告5分+質疑応答5分)感想シートの記入(PC教室) 9. 発表後半(報告5分+質疑応答5分)感想シートの記入(PC教室) 10. 自己PRの練習 11. 専門基礎演習説明会 12. 手書きで文書作りⅠ 新聞を読んで 13. 手書きで文書作りⅡ プロジェクトXを観て 14. 手書きで文書作りⅢ 雑誌をよんでまとめる 15. 打ち上げ懇親会(お茶とお菓子とお話と)						
テキスト・教材(参考文献含む)	講義の中でプリントを配布する。						
事前・事後学習	ゼミは演習形式で各自が自分で課題に取り組むことになる。授業時間内では、課題の基本的な取り組み方を教員や学生間で議論するなどし、次の講義までに課題をまとめ上げることを繰り返していく。準備学習に必要な時間は、学生ごと、課題ごとに異なるが、15週間でトータル30～50時間を要する。						
成績評価方法	ゼミの中での議論、プレゼンのパフォーマンス(5割)や課題への取り組み(5割)により総合評価する。課題は、添削やコメントを記して返却する。						
授業内の課題・提出方法	テーマごとに完成させた課題をファイルか写真でMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に対して個別にコメントでフィードバックする。						
担当者から一言	大学での学修に必要な基本的なコミュニケーション、情報収集・整理などを、楽しく学んでいこう！						

授業科目名	基礎演習 b			科目コード	471102	授業コード	114606
担当教員	奥原 貴士			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	企業の財務諸表は、企業の業績の優劣や潜在能力を映し出しているが、こうした会計情報を読み取るには、財務諸表がどのようにして作成されているのかを理解していなければなりません。そこで本講義は、会計・簿記の基礎知識を習得することを目的とします。そして、会計情報を利用して基礎的な経営分析を行います。また、日商簿記検定等の資格取得も目指します。						
到達目標	会計・簿記の基本的な知識を習得し、財務諸表を的確に読み取ることができるようになる。企業の財務諸表を用いて基礎的な経営分析ができるようになる。これらを到達目標とします。これらは、専門演習での学習のベースとなります。また、日商簿記検定等の資格取得も目指していきます。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 会計・簿記の学習 第3講 会計・簿記の学習 第4講 会計・簿記の学習 第5講 会計・簿記の学習 第6講 会計・簿記の学習 第7講 会計・簿記の学習 第8講 会計・簿記の学習 第9講 会計・簿記の学習 第10講 会計・簿記の学習 第11講 経営分析の基礎 第12講 経営分析の基礎 第13講 経営分析の基礎 第14講 経営分析の基礎 第15講 経営分析の基礎						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはゼミが進んでから指定する。 講義資料はプリントを適宜配布する。 （参考文献） 谷武幸・桜井久勝・北川教央編著『1からの会計(第2版)』中央経済社(2021)。 『合格テキスト日商簿記3級』、『同2級』TAC株式会社。						
事前・事後学習	新聞や雑誌などで企業の会計数値（売上高や利益額など）を見て、この企業の経営はうまくいってそうだと、こちらの企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください。（毎日30分以上）						
成績評価方法	平常点（授業への積極的な参加、発表内容、発言回数など） 80% 課題レポート 20%						
授業内の課題・提出方法	授業内の課題についてはその都度指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題・発表・発言については適宜コメントをします。						
担当者から一言	会計・簿記の講義回数に関しては、受講生との話し合いにより決めます。 発表、ディスカッションへの積極的な参加を希望します。 日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。						

授業科目名	基礎演習 b			科目コード	471102	授業コード	114607
担当教員	川崎 綾子			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	<p>プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。</p>						
授業のねらい	<p>本演習では経営学の2つの顔（理論と実践）を理解した上で、経営学者としての思考を養う。経営学では実践的な経営活動を、抽象的な理論で説明することが求められるが、優秀な経営者や経営学者は、理論と実践を往還する能力を備えている。</p> <p>本演習では、理論と実践を往還する能力を養う。また発表に対する意見交換を通して、議論する力や論理的な思考を身につける。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経営学的に思考する能力（具体を抽象化する能力）を養う。 ・論拠に基づいた説得力のあるレジュメを作成できるようになる。 ・発表や議論の技術を身につける。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 前期のフィードバック（1） 3 前期のフィードバック（2） 4 問題意識 -今、考えるべき世の中の問題とは 5 問題の社会的意義の議論 6 資料収集（1）-先行研究 7 資料収集（2）-先行研究の深堀 8 資料収集（3）-事例研究 9 事例研究の発表（1） 10 事例研究の発表（2） 11 事例の考察 -具体の抽象化 12 考察の発表（1） 13 考察の発表（2） 14 解答の社会的意義の議論 15 まとめ-発表へのフィードバック 						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>前田裕二(2018)?『メモの魔力』幻冬舎 ISBN：?978-4344034082</p>						
事前・事後学習	<p>発表の担当者は、時間をかけて準備すること（発表前の1週間は数時間／1日）。 教員になったつもりで、学生に分かりやすい発表を心がける。 発表者以外も、前期の資料や教科書を事前に読んだ上で、関連情報（各回のキーワードのWeb上の説明など）を集めておくこと（1時間程度）。 各回の内容を復習し、自分の論文作成にどう役立てるかを考える（毎週約1時間）。</p>						
成績評価方法	<p>発表：レジュメの内容、発表の工夫、質疑応答への積極性 40% 毎回の態度：コメントの内容など 60%</p> <p>発表への質問だけでなく、感想も歓迎します。 ※ただし私語は厳禁。2回以上の注意で原則、単位不認定となります。 特に発表担当者は教員になったつもりで、責任ある行動を心がけてください。</p>						
授業内の課題・提出方法	発表のレジュメは、ゼミの人数分（+教員提出用1部）を印刷して持参すること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表や議論に関して、授業内で適宜コメントする。						
担当者から一言	抽象化の技術は、あらゆる文章の読み書きに役立ちます。人生の諸々を整理し、本当に大事なことを実現するためにも、必要な技術です。あなた自身の論文をどのようにマネジメントしていくのかについて、一緒に考えましょう。						

授業科目名	基礎演習 b	科目コード	471102	授業コード	114608
担当教員	小泉 大亮	科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。				
授業のねらい	本演習では、論文作成やプレゼンテーションの基礎的な能力を養成する。テーマとして、「健康」・「身体運動」を取り上げ、レポート作成、発表、討論を行う。				
到達目標	資料（書籍・雑誌・新聞記事・論文等）を整理し、レポートやプレゼンテーションにまとめめる。				
授業計画	第1講 ガイダンス 演習の進め方 第2講 自己紹介 第3講 資料の検索方法と資料の整理方法 第4講 プレゼンテーション資料の作成と発表方法 第5講 レポート・プレゼンテーション資料作成① 第6講 レポート・プレゼンテーション資料作成② 第7講 レポート・プレゼンテーション資料作成③ 第8講 レポート・プレゼンテーション資料作成④ 第9講 プレゼンテーション・質疑応答・討論 第10講 プレゼンテーション・質疑応答・討論 第11講 プレゼンテーション・質疑応答・討論 第12講 プレゼンテーション・質疑応答・討論 第13講 プレゼンテーション・質疑応答・討論 第14講 プレゼンテーション・質疑応答・討論 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献含む）	文献資料は、適宜、プリントして配布します				
事前・事後学習	論文抄読用の資料準備（90分） 発表用のレジュメやスライドの準備（90分）				
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・授業への取り組む姿勢（レポート・発表などの準備）：50% ・レポート・発表：50%				
授業内の課題・提出方法	作成した資料等は、メール・moodleにて提出してもらいます				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	質問や提出課題に関しては、授業中もしくはメールで回答します。				
担当者から一言	発表担当者は、責任を持って資料を準備するように。				

授業科目名	基礎演習 b			科目コード	471102	授業コード	114609
担当教員	小林 慶太郎			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、将来、地域で活躍することを目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取り組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。						
到達目標	この演習では、地域の抱えている課題や問題などを知り、それを解決・改善していくために必要となる基本的な知識や技能を身につけることを、到達目標としています。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 火事と救急出動 第3講 消防士と消防団員 第4講 防災・危機管理 第5講 事件と事故 第6講 警察と公安委員会 第7講 消防士・警察官になるために 第8講 公共事業と社会資本 第9講 地域経済と産業振興 第10講 スポーツと健康づくり 第11講 地元企業で働くために 第12講 子育てと福祉 第13講 文化・市民活動 第14講 多文化共生と人権 第15講 自治体行政職員になるために ※ グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを中心に進めていきます ※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況や、各人の興味関心などに応じて、内容が変更になる場合があります。 ※ 秋には大学祭での「四日市とんてき」の模擬店の出店と、東海北陸B-1グランプリin四日市へのボランティアスタッフとしての参加を、冬には他大学のゼミとの合同研究発表会「ジョイントセミナー」（有志のみ）を、それぞれ予定しています。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません（必要に応じて、適宜プリントを配布します） 【参考文献】 新藤宗幸「日曜日の自治体学」東京堂出版（2013年）、2, 200円＋税 大森彌、大杉寛「これからの地方自治の教科書 改訂版」第一法規（2021年）、2, 500円＋税						
事前・事後学習	毎回、何らかのことを調べたり整理したりレジュメを作成したりして来てもらいます（150分程度）。 また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいください（30分）。						
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・課題への取り組み状況：50% ・授業中の発言・受講態度：50%						
授業内の課題・提出方法	レジュメを作成して、授業時に配布してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。						
担当者から一言	一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！						

授業科目名	基礎演習 b	科目コード	471102	授業コード	114610
担当教員	高田 晴美	科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける				
授業のねらい	日本の近現代の文学作品を、前学期より学問的に分析していきます。前半は、元ネタがある作品について、元ネタとの違いを細かく比較・分析をすることで、作者の意図に迫るスキルも身につけます。後半は、文学作品を、単に作品だけを見るのではなく、時代状況、社会状況、そこで生きている作者本人という背景も踏まえた上で分析し、より作品に対する理解を深めて、そこから問題点を設定し自分なりの論点で論じる練習をします。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの論点で客観的・学術的に論じるスキルを向上させる。 ・自分の論を文章でまとめるスキルを向上させる。 ・口頭発表のスキルを向上させる。 				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 小説Aー作品について議論する 第3講 小説Aー元ネタと比較分析した上で作品を論じる① 第4講 小説Aー元ネタと比較分析した上で作品を論じる② 第5講 小説Aー元ネタと比較分析した上で作品を論じる③ 第6講 歌会 第7講 時代・社会と文学・文化との関係 第8講 小説Bー作品について議論する 第9講 小説Bー作品を論じる 第10講 小説Cー作品について議論する 第11講 小説Cー作品を論じる 第12講 小説Dー作品について議論する 第13講 小説Dー作品を論じる 第14講 小説Eー作品について議論する 第15講 小説Eー作品を論じる				
テキスト・教材（参考文献含む）	演習で扱う作品のテキストは、プリントにして配布します。 その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。				
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、次回までに読んでくるべき資料を配布するので、それを読む（約1時間）。 ・自分が発表を担当する回に向けて、少なくとも1週間前から入念な発表準備をする（毎日数時間×7日間）。 				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のコメントと受講態度 60% ・発表と質疑応答の内容 40% 原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。				
授業内の課題・提出方法	課題については、ゼミで指示します。 発表者は、レジュメを作成し、人数分印刷してゼミに持ってくること。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表に対して、教員や学生全員でコメントし合い、議論をします。				
担当者から一言	「基礎演習 a」では散発的に作品を読むという感じでしたが、「基礎演習 b」では元ネタとの比較をしたり、作家の人生や他の作品との関連を考えたりと、より深く学問的に作品と格闘します。あーだこーだと考え、議論することの楽しさを味わいましょう。				

授業科目名	基礎演習 b			科目コード	471102	授業コード	114611
担当教員	鶴田 利恵			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この授業では、経済に関する新聞記事を読んで、経済用語や理論を学ぶとともに、現在どんなことが問題となっているかについて考えていきます。						
到達目標	基本的な経済理論と、身の回りで話題になっている経済問題を理解する。 問題意識を持つ力をつける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 新聞記事を読む 第3講 新聞記事を読む 第4講 新聞記事を読む 第5講 新聞記事を読む 第6講 新聞記事を読む 第7講 新聞記事を読む 第8講 新聞記事を読む 第9講 新聞記事を読む 第10講 新聞記事を読む 第11講 新聞記事を読む 第12講 新聞記事を読む 第13講 新聞記事を読む 第14講 新聞記事を読む 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	新聞記事を用意します。						
事前・事後学習	前の週に渡した新聞記事を読んで、わからない用語を調べておくとともに、疑問点を3つ以上考えておく（90分以上）。 授業後、ディスカッションした内容についてまとめる（90分以上）。						
成績評価方法	課題の取り組み70%、授業内での発言内容30%						
授業内の課題・提出方法	授業の初めに全員に疑問点を板書してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	板書してもらった内容についてコメントします。						
担当者から一言	わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	基礎演習 b			科目コード	471102	授業コード	114612
担当教員	富田 与			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、論文作成を中心に考えます。前期までに考えてきた各自のテーマを論文のスタイルで表現してみましょう。その準備段階として、「一文作文」、「構成」、「一枚作文」という3つの作業を順番に進めます。最後には、足りないデータを探す方法を考えたいと思います。						
到達目標	自分で論文作成の準備ができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 研究テーマの確認 第3講 論文とは 第4講 論文の仕組み 第5講 「一文作文」の作成1 第6講 「一文作文」の作成2 第7講 「一文作文」から「構成」へ 第8講 「パラグラフ・ライティング」1 第9講 「パラグラフ・ライティング」2 第10講 「構成」から「一枚作文」へ1 第11講 「構成」から「一枚作文」へ2 第12講 「一枚作文」の合評会1 第13講 「一枚作文」の合評会2 第14講 追加データの確認 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは特に指定しません。						
事前・事後学習	毎時間、予習と復習を兼ねた課題を出します（180分）。						
成績評価方法	授業中に発表してもらった課題（50%）を評価の対象とし、グループ作業への参加度（50%）を加味して総合評価とします。						
授業内の課題・提出方法	授業中に指示した課題は、すべて、何らかの形で、授業中に発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表についてはその場でコメントします。また、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
担当者から一言	3年生では、自ら表現することを中心に考えていきます。						

授業科目名	基礎演習 b	科目コード	471102	授業コード	114613
担当教員	中西 紀夫	科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。				
授業のねらい	基礎演習 b では、基礎演習 a でも重視した新聞・TV のニュース・インターネットなどの トップページで扱われているような社会問題を素材とします。ここでは、自分が興味を持 ったテーマを可能な限り詳しく調べ、ある程度、高度な発表ができるようにすることを講 義のねらいとします。				
到達目標	社会における法律に関する諸問題を、ある程度、自分で思考し解決しようとする取っ掛か りの部分を身に着けることに重点を置いていきます。最終的な到達目標は、発表や意見交 換の方法を学ぶところまでを予定しています。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 社会問題①（スピーチの練習） 第3講 グループディスカッションの練習① 第4講 グループディスカッションの練習② 第5講 研究テーマと内容の報告① 第6講 研究テーマと内容の報告② 第7講 レジュメによる発表と質疑応答① 第8講 レジュメによる発表と質疑応答② 第9講 レジュメによる発表と質疑応答③ 第10講 レジュメによる発表と質疑応答④ 第11講 レジュメによる発表と質疑応答⑤ 第12講 社会問題②（発表の練習） 第13講 社会問題③（発表の練習） 第14講 意見交換の方法 第15講 まとめ、レポート提出				
テキスト・教材（参考文献含 む）	必要に応じて、資料を配付します。				
事前・事後学習	新聞やニュースで取り上げられた事件などの当該規定を、必要に応じ六法で調べるのはも とより、ジュリストなどの判例集もできるだけ読む習慣を身につけてください。（毎回、 予習90分と復習90分）				
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度 50% 発表内容 30% レポート 20%				
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。				
授業内の課題・提出物のフィ ードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。				
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ること なども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対 応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以 上は、集中して受講しましょう。				

授業科目名	基礎演習 b			科目コード	471102	授業コード	114614
担当教員	フェリペ フェハリー			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。						
到達目標	芸術（文学、映画や音楽など）、科学や日常生活にある哲学の影響を認知し、現代社会において、哲学の役割を議論すること。						
授業計画	第1講 ガイダンスと前期の復習 第2講 前期のフィードバック(1) 第3講 前期のフィードバック(2) 第4講 近代哲学：カント(1) 第5講 現代哲学：カント(2) 第6講 現代哲学：ヘーゲル(1) 第7講 現代哲学：ヘーゲル(2) 第8講 発表と議論（1） 第9講 発表と議論（2） 第10講 発表と議論（3） 第11講 発表と議論（4） 第12講 発表と議論（5） 第13講 発表と議論（6） 第14講 発表と議論（7） 第15講 発表のコメントやフィードバック						
テキスト・教材（参考文献含む）	『哲学用語図鑑』 田中正人（プレジデント社） （1, 800円＋税）ISBN 978-4-8334-2119-5						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読みます（毎週約60分）。 レポートを作成し、発表の準備をします（毎週約60分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 発表のコメント：20% 研究発表：50%						
授業内の課題・提出方法	学生は研究の発表を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研究発表については講義中にコメントします。						
担当者から一言	世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。 この演習では学生のみなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。						

授業科目名	基礎演習 b			科目コード	471102	授業コード	114615
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習は、世の中の仕組みを考える「社会学」に関心をもつ人を対象にしています。2年生の後学期は文章を読む力をのばすことに主眼をおき、文章を通して色々な社会の見方に触れていきます。						
到達目標	1. 文章を読み、内容を吟味できるようになる 2. レジюме作成の能力を身につける 3. 社会学の基本的な用語や考え方を身につける						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 論説文の読み方 第3講 短い文章を読む1 第4講 短い文章を読む2 第5講 文章を吟味する1 第6講 文章を吟味する2 第7講 レジюмеの作り方 第8講 報告と議論1 第9講 報告と議論2 第10講 報告と議論3 第11講 書評レポートの書き方 第12講 報告と議論4 第13講 報告と議論5 第14講 報告と議論6 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	<テキスト> 出口剛司（2019）『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.						
事前・事後学習	当日までに全員が指定された文献を読み、内容を理解しておくこと（1日15分）						
成績評価方法	各回の報告50%、授業への参加度50%で評価します。 ※原則として報告担当回に欠席すると単位を出しません。						
授業内の課題・提出方法	授業内で学生による報告があります。 報告者は人数分のレジюмеを印刷して授業に持参すること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告内容は全員でディスカッションします。						
担当者から一言	世の中の「あたりまえ」を疑うことが社会学の魅力です。学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	基礎演習 b			科目コード	471102	授業コード	114616
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	本演習は、スポーツ・運動・健康をテーマとして、レポート及び論文作成のための基礎的な能力養成を目的とする。						
到達目標	各種資料（書籍・雑誌・新聞記事・映像資料等）を整理し、レポートとしてまとめた上で発表する。その発表内容についてクラス全員で質疑応答や討論を重ねることによって、その後の研究テーマ選定へとつなげていく。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 レポート・論文の書き方 第3講 資料収集法 第4講 レポート作成（はじめに） 第5講 レポート作成（はじめに） 第6講 レポート作成（はじめに） 第7講 レポート作成（方法） 第8講 レポート作成（結果及び考察） 第9講 レポート作成（結果及び考察） 第10講 レポート作成（結果及び考察） 第11講 レポート発表・質疑応答・討論 第12講 レポート発表・質疑応答・討論 第13講 レポート発表・質疑応答・討論 第14講 レポート修正版完成 第15講 レポート修正版完成						
テキスト・教材（参考文献含む）	特に指定しないが、適宜指示する。						
事前・事後学習	予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（90分）。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと（90分）。						
成績評価方法	レポート（50%）、プレゼンテーション（50%）。						
授業内の課題・提出方法	授業内、授業以外の時間でも、適宜。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポート等の評価は都度個別に開示する。						
担当者から一言	学生の自主的なテーマ選定・資料収集・レポート作成・討論参加を期待する。						

授業科目名	基礎演習 b			科目コード	471102	授業コード	114617
担当教員	鬼頭 浩文			科目ナンバリング	PSS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける						
授業のねらい	自分を表現する能力を、具体的に自己PR大会などを通じて磨き上げる。また、新聞を使ったレポート作成やテーマ・課題を設定した小論文作成を行う。また、就職活動でよく質問される「大学時代に打ち込んだこと」を肉付けするために、積極的に課外活動を行う。具体的には、地域のイベントに実行委員として参加したり、大学祭などで学生が自ら企画して実行したりする。この演習は、専門演習の準備段階と位置づけ、コミュニケーション能力の向上とチームワーク作りにも力を入れていく。						
到達目標	新聞・テレビなどの報道を理解し、自分の力で考え、文章として書きあげる。そして、インパクトのあるプレゼンで魅力的に人に伝える能力を身に着けることが、この2年後期のわが鬼頭ゼミの到達目標である。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス；顔見せと自己紹介 2. 自己紹介を手書きで作ろう(A3用紙に手書きで作成) 3. 自己PR大会（一人5分で自己PR）① 4. 自己PR大会（一人5分で自己PR）② 5. 新聞を読もう①気になる記事をまとめる（手書きレポート800字） 6. 新聞を読もう②気になる記事について考えを書く（手書きレポート800字） 7. 新聞を読もう③気になる記事の考察（手書きレポート1200字） 8. 小論文作成特訓&ディスカッション①；400字原稿用紙×2枚「10年後の私」 9. 小論文作成特訓&ディスカッション②；小論文の発表と討論 10. 小論文作成特訓&ディスカッション③；400字原稿用紙×3枚「空気」 11. 小論文作成特訓&ディスカッション④；小論文の発表と討論 12. 小論文作成特訓&ディスカッション⑤；400字原稿用紙×3枚「時事問題から」 13. 小論文作成特訓&ディスカッション⑥；小論文の発表と討論 14. コミュニケーション能力を身につける演習 15. プレゼン能力を身に付ける演習 ★毎ゼミの最初の10分で、1週間に起こった時事問題についてディスカッションする。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは指定しない。必要に応じてプリントを配布する。						
事前・事後学習	ニュースや新聞、ネットなどから1週間の社会の動きを調べる学習に1時間ほどかけること。また、第8～13回の小論文作成特訓では、事前に課題の予告(どんな分野の課題を出すか)をするので、それに関してネットで2時間ほどをかけて調べておくこと。						
成績評価方法	ゼミの中での議論、プレゼンのパフォーマンス(5割)や課題への取り組み(5割)により総合評価する。課題は、添削やコメントを記して返却する。						
授業内の課題・提出方法	テーマごとに完成させた課題をファイルか写真でMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に対して個別にコメントでフィードバックする。						
担当者から一言	ゼミの無断欠席は厳禁。ジャージなど部活用の服装は禁止。鬼頭ゼミの誇りは、過去、就職を希望して活動した者が全てほぼ希望に近い就職を決めてきたことである。これは、ゼミ活動の中で身につけた人間力を人前で表現できる能力が発揮できたからと考える。積極的にゼミ活動に参加してほしい。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	471103	授業コード	114302
担当教員	奥原 貴士			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	財務会計や実証研究に関するテキストを輪読することで会計に関する専門的な知識を習得することを目的とします。また会計の学術論文についても輪読を行うことで、研究の内容を理解する能力を身につけることも目的とします。これら輪読では担当者が発表を行い、続いて全員でディスカッションをすることで理解を深めていきます。						
到達目標	会計や研究方法の専門知識を習得したうえで、卒業研究のテーマを見つけることを到達目標とします。加えて、発表のスキルを身につけること、積極的に発言できるようになることも目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 テキストの輪読（担当者の発表・ディスカッション） 第3講 テキストの輪読（担当者の発表・ディスカッション） 第4講 テキストの輪読（担当者の発表・ディスカッション） 第5講 テキストの輪読（担当者の発表・ディスカッション） 第6講 論文の輪読（担当者の発表・ディスカッション） 第7講 テキストの輪読（担当者の発表・ディスカッション） 第8講 テキストの輪読（担当者の発表・ディスカッション） 第9講 テキストの輪読（担当者の発表・ディスカッション） 第10講 テキストの輪読（担当者の発表・ディスカッション） 第11講 論文の輪読（担当者の発表・ディスカッション） 第12講 テキストの輪読（担当者の発表・ディスカッション） 第13講 テキストの輪読（担当者の発表・ディスカッション） 第14講 テキストの輪読（担当者の発表・ディスカッション） 第15講 卒業研究のテーマに関するディスカッション						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは適宜指定します。 論文は配布します。						
事前・事後学習	新聞や雑誌などで企業の会計数値（売上高や利益額など）を見て、この企業の経営はうまくいってそうだと、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください。そして、卒業研究のテーマの候補を考えてください。（毎日30分以上）						
成績評価方法	平常点（発表内容、発言回数など） 80% 課題レポート 20%						
授業内の課題・提出方法	授業内の課題についてはその都度指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題・発表・発言については適宜コメントをします。						
担当者から一言	発表、ディスカッションへ積極的に参加してください。 日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。 簿記、会計に関する講義で学習した内容を復習しておいてください。						

授業科目名	専門演習 a	科目コード	471103	授業コード	114303
担当教員	小泉 大亮	科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。				
授業のねらい	本演習では、健康スポーツ科学に関連した文献購読及び討論を通して、論文作成のための知識を養成していきます。主に「健康増進と身体運動」に関する文献を討論し、その内容について理解を深めていくことを演習のねらいとします。				
到達目標	健康スポーツ科学領域における研究デザインの作成、分析、発表の方法を修得する。				
授業計画	第1講 ガイダンス 演習の進め方 自己紹介を兼ねてスピーチ 第2講 健康スポーツ科学とは 第3講 関心のある身体運動の話題についてスピーチ① 第4講 関心のある身体運動の話題についてスピーチ② 第5講 健康・身体運動に関する論文抄読・討論①（グループディスカッション） 第6講 健康・身体運動に関する論文抄読・討論②（グループディスカッション） 第7講 健康・身体運動に関する論文抄読・討論③（グループディスカッション） 第8講 健康・身体運動に関する論文抄読・討論④（グループディスカッション） 第9講 研究テーマ文献の検索 第10講 研究テーマの決定 第11講 研究テーマに関する調査・分析 第12講 研究発表用レジュメ作成 第13講 研究発表用スライド作成 第14講 研究報告・質疑①（プレゼンテーション） 第15講 研究報告・質疑②（プレゼンテーション）				
テキスト・教材（参考文献含む）	なし（必要に応じて演習中に配布します）。				
事前・事後学習	論文抄読用の資料準備（45分） 発表用のレジュメやスライドの準備（45分）				
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・授業への取り組む姿勢（論文抄読・スライド作成・発表への準備）：50% ・プレゼンテーション資料・発表および討論：50%				
授業内の課題・提出方法	（課題）レジュメの作成、プレゼンテーション用の資料作成 （提出）口頭発表をもって、提出とします				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表の際に課題に対しての指導をします。				
担当者から一言	遅刻や私語は原則禁止します。				

授業科目名	専門演習 a			科目コード	471103	授業コード	114304
担当教員	小林 慶太郎			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	<p>プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。</p>						
授業のねらい	<p>この演習では、将来、地域で活躍することを目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取り組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。</p>						
到達目標	<p>この演習では、地域のしくみを知るとともに、仲間と協働して身近な地域の問題を発見し、その解決策を考えていく力を身につけることを、到達目標としています。</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 第2講 改めて地域の課題を考える 第3講 チームビルディングと協働 第4講 地方自治体に見る自治と協働 第5講 住民自治と団体自治 第6講 二元代表制と議会・首長の役割 第7講 計画・条例・予算 第8講 テーマとフィールド 第9講 現状の定量的把握 第10講 先行研究を探してみよう 第11講 新聞記事を探してみよう 第12講 著作権と研究倫理 第13講 現状と課題を整理してみよう 第14講 課題の絞り込み 第15講 研究計画を考える</p> <p>※ 第2講以降は毎回、プレゼンテーションとグループワーク、ディスカッションを行います。90分という授業時間の枠にとらわれることなく、3・4限目の連続で、3・4年生のゼミを合同で行っていきます。</p> <p>※ 各人の興味や新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、内容が変更になる場合があります。</p> <p>※ 状況が改善していれば、夏休みにゼミ旅行も予定したいと思います。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>テキストはありません（必要に応じて、適宜プリントを配布します）</p> <p>【参考文献】 新藤宗幸「日曜日の自治体学」東京堂出版（2013年）、2, 200円＋税 大森彌、大杉寛「これからの地方自治の教科書 改訂版」第一法規（2021年）、2, 500円＋税</p>						
事前・事後学習	<p>毎回、何らかのことを調べたり整理したりしレジュメを作成したりして来てもらいます（150分程度）。</p> <p>また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいください（30分）。</p>						
成績評価方法	<p>無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題への取り組み状況：50% ・授業中の発言・受講態度：50% 						
授業内の課題・提出方法	レジュメを作成して、授業時に配布してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。						
担当者から一言	一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！						

授業科目名	専門演習 a	科目コード	471103	授業コード	114305
担当教員	高田 晴美	科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	必修
授業の位置づけ	<p>プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。</p> <p>調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。</p>				
授業のねらい	<p>文学・文化を研究するゼミです。今期は今まで以上に学術的に、作品に向き合います。</p> <p>『ちびまる子ちゃん』の原作やアニメ、さくらももこの他作品について、先行研究（論文）も読んだ上で、多角的なテーマ設定で分析したり論じたりすることを学びます。また、後学期の研究発表会に向けて、グループでの研究発表の準備も始めます。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連情報を自分で調べ、考察する能力を身につける。 ・ 自分なりの論点で客観的・学術的に論じるスキルを向上させる。 ・ 自分の論を文章でまとめるスキルを向上させる。 ・ 口頭発表・質疑応答のスキルを向上させる。 				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス</p> <p>第2講 参考文献①について考える</p> <p>第3講 参考文献①に関連したテーマで発表する</p> <p>第4講 参考文献②について考える</p> <p>第5講 参考文献②に関連したテーマで発表する</p> <p>第6講 参考文献③について考える</p> <p>第7講 参考文献③に関連したテーマで発表する</p> <p>第8講 句会</p> <p>第9講 参考文献④について考える</p> <p>第10講 参考文献④に関連したテーマで発表する</p> <p>第11講 参考文献⑤について考える</p> <p>第12講 参考文献⑤に関連したテーマで発表する</p> <p>第13講 気になる作品・気になる文化現象について議論する</p> <p>第14講 研究テーマプレゼン</p> <p>第15講 研究テーマについて議論する</p>				
テキスト・教材（参考文献含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友原嘉彦編『ちびまる子ちゃんの社会学』（古今書院、2021年11月） ・ 配布プリント <p>その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。</p>				
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回までに読んでくるべきテキスト・資料を指示するので、それを読む（約1時間）。 ・ 自分が発表を担当する回に向けて、少なくとも1週間前から入念な発表準備をする（毎日数時間×7日間）。 				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回のコメントと受講態度 60% ・ 発表と質疑応答の内容 40% <p>原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>課題についてはゼミで指示します。</p> <p>発表者は、レジメを作成し、人数分印刷をしてゼミに持ってくること。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>発表などについて、教員や学生全員でコメントをし合い、議論を深めます。</p>				
担当者から一言	<p>「専門演習 a」では、作者や時代・社会状況など、作品の背景となる情報の調査や、先行研究についての調査など、より専門的な手法で1つの作品の分析を深め、新たな視点、切り口で考察する、より実践的な研究手法を体験します。学問の醍醐味を味わいましょう。</p>				

授業科目名	専門演習 a			科目コード	471103	授業コード	114306
担当教員	鶴田 利恵			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	このゼミでは、3年後期から本格的に取り組む卒業研究のテーマを探すことを目的とします。そのため各自が興味を持った経済に関する新聞記事を読んで、その内容、疑問に思ったことを報告しあい、全員でディスカッションします。						
到達目標	①広い視点から問題意識を持つ力を身につけること。 ②自分で感じたことを自分の言葉で表現できる力を身につけること。 ③チームワークを通じて考える力や貢献できる力を身に付けること。						
授業計画	第1講 ガイダンス、自己紹介 第2講 新聞記事の報告 第3講 新聞記事の報告 第4講 新聞記事の報告 第5講 新聞記事の報告 第6講 新聞記事の報告 第7講 新聞記事の報告 第8講 新聞記事の報告 第9講 新聞記事の報告 第10講 新聞記事の報告 第11講 新聞記事の報告 第12講 新聞記事の報告 第13講 新聞記事の報告 第14講 新聞記事の報告 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	適宜指示します。						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。ゼミ後は、指摘された内容をまとめておく（90分以上）						
成績評価方法	発表内容50%、質問やディスカッションへの取り組み50%						
授業内の課題・提出方法	毎回何が議論されたかについて簡単なレポートを書いてもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎回のレポートを授業の最後に提出してもらいます。						
担当者から一言	わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	専門演習 a	科目コード	471103	授業コード	114307
担当教員	富田 与	科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。				
授業のねらい	この演習では、「疑問を見つけ、それを問題提起に作り上げる」ことを考えていきます。「疑問を見つけ、それを問題提起に作り上げる」ためには、観察力と論理的思考が必要になります。授業では、現代アート作品（写真）を使って、「疑問」を見つけるための観察力の養い方を実践します。一方、論理的思考は文章を作成するなかで養われます。観察の中で見つけた「疑問」を文章で表現し、更に、関連の調査を通して、解答可能な「問題提起」に仕立てていくことにしたいと思います。				
到達目標	到達目標は「0.5秒で質問が作れるようになる」です。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 アートの写真①-1 第3講 アートの写真①-2 第4講 アートの写真②-1 第5講 アートの写真②-2 第6講 「疑問」を表現する 第7講 合評会① 第8講 合評会② 第9講 「疑問」から「問題提起」へ 第10講 「問題提起」を表現する 第11講 解答を探してみよう① 第12講 解答を探してみよう② 第13講 合評会 第14講 「問題提起」から「結論」までの構成 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは特に指定しません。				
事前・事後学習	各回の内容に応じて、次のような準備が必要になります。 1. 材料とする報道記事の検索（1時間） 2. 報道記事の分析（1時間半） 3. 一次資料の調査（2時間） 4. 発表資料の作成（2時間）				
成績評価方法	授業中に発表してもらった課題（50%）を評価の対象とし、グループ作業への参加度（50%）を加味して総合評価とします。				
授業内の課題・提出方法	授業中に指示した課題は、すべて、何らかの形で、授業中に発表してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表についてはその場でコメントします。また、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。				
担当者から一言	前期は誰かによって表現されたものを使って、表現されたことのエビデンスを考えました。後期は、表現の動機づけともいえる疑問について考えます。教員を質問攻めにして下さい。				

授業科目名	専門演習 a	科目コード	471103	授業コード	114308
担当教員	中西 紀夫	科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。				
授業のねらい	この専門演習では、現代社会における法の仕組みについての認識を深めることを、講義のねらいとしています。各講ごとのテーマは講義計画にも示してありますが、複雑で多岐にわたる社会問題ですので関心のあるテーマの一つを選んで研究報告してもらいます。また、この研究はこれで終わりではなく、できれば継続性をもって引き続き図書や新聞、さらにはインターネットなども利用しながら研究内容を充実させてもらいたいと思います。そのとっかかりになる演習になればと考えております。				
到達目標	これまでの演習で取得した知識を土台として、残りの大学生活においての各自の研究につながるものにしたいと考えています。また、就職活動などでも困らないように最新の社会問題についても取り上げます。最終的な到達目標は、各自が入手した資料や新聞等の関係資料も照らし合わせたうえで、レジюмеを基にした報告を行い、みんなで議論するところまでを考えています。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 研究テーマ及び報告の順番の決定等 第3講 法と裁判 第4講 民事裁判 第5講 刑事裁判 第6講 裁判員制度① 第7講 裁判員制度② 第8講 憲法改正問題 第9講 国家機密と国民の知る権利 第10講 国内法と国際法 第11講 公害・環境対策と法 第12講 有価証券① 第13講 有価証券② 第14講 独占禁止法 第15講 まとめ、レポート提出（研究報告したテーマで）				
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じて、資料を配付します。				
事前・事後学習	毎日、新聞を読むこと（1日30分）はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。				
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度 50% 発表内容 30% レポート 20%				
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。				
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座やスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。				

授業科目名	専門演習 a			科目コード	471103	授業コード	114309
担当教員	フェリペ フェハリー			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。						
到達目標	各自のテーマについて研究発表を行い、質疑を通していっそう研究の精度を高め、哲学の伝統に基づく人間と世界への洞察力を養います。 コメンテーター(予め決められた質問者)や出席者として質問し、議論することで、発表や討論の技法も学びます。 また説得的な発表を目指すことにより、言語による表現力も高まるはずです。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 現代哲学：ヘーゲルの影響 第3講 現代哲学：懐疑的解釈学 第4講 現代哲学：マルクス 第5講 現代哲学：ニーチェ 第6講 現代哲学：フロイト 第7講 現代哲学：20世紀の哲学 第8講 発表と議論（1） 第9講 発表と議論（2） 第10講 発表と議論（3） 第11講 発表と議論（4） 第12講 発表と議論（5） 第13講 発表と議論（6） 第14講 発表と議論（7） 第15講 発表のフィードバックやコメント						
テキスト・教材（参考文献含む）	『哲学用語図鑑』 田中正人（プレジデント社） （1,800円＋税）ISBN 978-4-8334-2119-5 『続・哲学図鑑（中国・日本・英米分析哲学）編』 田中正人（プレジデント社） （1,800円＋税）ISBN 978-4-8334-2234-5						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読みます（毎週約60分）。 レポートを作成し、発表の準備をします（毎週約60分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 発表のコメント：20% 研究発表：50%						
授業内の課題・提出方法	学生は研究の発表を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研究発表については講義中にコメントします。						
担当者から一言	世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。 この演習では学生みなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	471103	授業コード	114310
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、社会学の視点と社会調査の方法を用いて世の中の問題を考えます。はじめにゼミ全体のテーマを一つ用意し、本を読みます。その後いくつかのグループに分かれて、個別テーマを立てて調査を進めます。履修者はデータを集め、整理と分析を行なって成果を発表します。また他者の発表に対してコメントし、意見交換を行ないます。データの使い方を身につけ、他者と議論する力を養うことがこのゼミのねらいです。						
到達目標	①社会学的な見方や考え方を身につける ②データを収集・分析する力を身につける ③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける ④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 全体テーマの討論 第3講 ディスカッションするには 第4講 資料の探し方 第5講 資料を探す 第6講 文献の読み方 第7講 文献を読む 第8講 中間まとめ 第9講 文献の報告① 第10講 文献の報告② 第11講 文献の報告③ 第12講 文献の報告④ 第13講 文献の報告⑤ 第14講 卒業研究に向けて 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	<課題と評価> 報告回での報告30%、期末レポート20%、授業への参加度50% ※報告担当回に欠席した場合は、原則として単位を与えないので注意すること。						
事前・事後学習	報告内容に関する資料や文献に目を通しておくこと（1日20分）						
成績評価方法	報告回での報告30%、期末レポート20%、授業への参加度50% ※報告担当回に欠席した場合は、原則として単位を与えないので注意すること。						
授業内の課題・提出方法	授業内で学生による報告があります。 報告者は人数分のレジュメを印刷して授業に持参すること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告内容は全員でディスカッションします。						
担当者から一言	世の中の「あたりまえ」を疑うところが社会学の魅力です。途中で何度か3・4限を連続して行う場合があります。学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	471103	授業コード	114311
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	本演習では、2年次に取り組んだ研究を展開するために、追加の情報を収集し、論文の冒頭部分（はじめに）を作成し発表する。						
到達目標	文献検索、論文作成、プレゼンテーションを自分の意思で進める。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 関心のあるスポーツの話題についてスピーチ 第3講 2年次作成のレポートの振り返り 第4講 2年次作成のレポートの振り返り 第5講 論文作成準備（追加情報収集） 第6講 論文作成準備（追加情報収集） 第7講 論文作成準備（追加情報収集） 第8講 論文作成準備（追加情報収集） 第9講 論文作成準備（追加情報収集） 第10講 論文作成（はじめに） 第11講 論文作成（はじめに） 第12講 論文作成（はじめに） 第13講 論文中間発表・質疑応答・討論 第14講 論文中間発表・質疑応答・討論 第15講 総括及び夏期休暇課題の説明						
テキスト・教材（参考文献含む）	特に指定しないが、適宜指示する。						
事前・事後学習	予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（90分）。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと（90分）。						
成績評価方法	論文の進捗状況（50%）、プレゼンテーション（50%）。						
授業内の課題・提出方法	授業内、授業以外の時間でも、適宜。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポート等の評価は都度個別に開示する。						
担当者から一言	学生の積極的な研究及び討論への参加を期待する。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	471103	授業コード	114312
担当教員	鬼頭 浩文			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける						
授業のねらい	ゼミでは、就職も意識しながら、生きる力を身につけることが到達目標である。具体的には、自分を表現すること、就職に向けた資格取得、イベント参加、懸賞論文作成を行う。また課外活動として、ボランティアやイベント参加を通して「まちづくり」に参画しながら地域の問題点を考える。これは、書籍や資料だけではとらえきれない現場の実際の姿を知ることがゼミ活動の重要な要素となる。このゼミでは、テーマを設定し、自分で考え、調べ、結果を残すことができる能力を、懸賞論文の作成準備を通じて身につける。						
到達目標	自分の学生生活後半をどう送るか、しっかりと目標を設定して少しでも近づくことが到達目標である。						
授業計画	1. ガイダンス；自己紹介でプレゼン練習 2. 自己PRプレゼン動画を撮影(プレゼンに関連する写真を5枚ほど提出) 3. 時事問題に向き合う① 4. 時事問題に向き合う② 5. 時事問題に向き合う③ 6. 企業研究（インターンシップを通して社会を見るチカラを身につける）① 7. 企業研究（インターンシップを通して社会を見るチカラを身につける）② 8. 企業研究（インターンシップを通して社会を見るチカラを身につける）③ 9. 時事問題に向き合う④ 10. 時事問題に向き合う⑤ 11. 時事問題に向き合う⑥ 12. 時事問題に向き合う⑦ 13. 企業研究（インターンシップを通して社会を見るチカラを身につける）④ 14. 企業研究（インターンシップを通して社会を見るチカラを身につける）⑤ 15. まとめとフリーディスカッション ★毎ゼミの最初の10分で、1週間に起こった時事問題についてディスカッションする。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『図解まるわかり 時事用語2023-2024』新星出版社、¥1,100						
事前・事後学習	ニュースや新聞、ネットなどから1週間の社会の動きを調べる学習に週あたり1～2時間かけること。また、時事問題のテキストをしっかりと復習すること。						
成績評価方法	ゼミの中での議論、プレゼンのパフォーマンス(5割)や課題への取り組み(5割)により総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	テーマごとに完成させた課題をファイルか写真でMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に対して個別にコメントでフィードバックする。						
担当者から一言	鬼頭ゼミの誇りは、過去、就職を希望して活動した者が全てほぼ希望に近い就職を決めてきたことである。これは、ゼミ活動の中で身につけた人間力を人前で表現できる能力が発揮できたからと考える。積極的にゼミ活動に参加してほしい。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	471104	授業コード	114702
担当教員	奥原 貴士			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	専門演習aに続いて、財務会計や実証研究のテキストを輪読することで会計に関する専門的な知識を習得することを目的とします。また会計の学術論文についても輪読を行うことで、研究の内容を理解する能力を身につけることも目的とします。そして、実際に分析をしてその内容を発表します。これらでは担当者が発表を行い、続いて全員でディスカッションをすることで理解を深めていきます。卒業研究のテーマについては適宜話し合いを行います。						
到達目標	会計や研究方法の専門知識を習得したうえで、実際に分析ができるようになることを到達目標とします。そして、卒業研究のテーマを見つけることも到達目標です。加えて、発表のスキルを身につけること、積極的に発言できるようになることも目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 輪読と分析の発表（発表・ディスカッション） 第3講 輪読と分析の発表（発表・ディスカッション） 第4講 輪読と分析の発表（発表・ディスカッション） 第5講 輪読と分析の発表（発表・ディスカッション） 第6講 輪読と分析の発表（発表・ディスカッション） 第7講 輪読と分析の発表（発表・ディスカッション） 第8講 輪読と分析の発表（発表・ディスカッション） 第9講 輪読と分析の発表（発表・ディスカッション） 第10講 輪読と分析の発表（発表・ディスカッション） 第11講 輪読と分析の発表（発表・ディスカッション） 第12講 輪読と分析の発表（発表・ディスカッション） 第13講 輪読と分析の発表（発表・ディスカッション） 第14講 輪読と分析の発表（発表・ディスカッション） 第15講 卒業研究のテーマに関するディスカッション						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは適宜指定します。 論文は配布します。						
事前・事後学習	各自、分析を進めてください。また、新聞や雑誌などで企業の会計数値（売上高や利益額など）を見て、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください。そして、卒業研究のテーマの候補を考えてください。（毎日30分以上）						
成績評価方法	平常点（発表内容、発言回数など） 60% 課題レポート 40%						
授業内の課題・提出方法	授業内の課題についてはその都度指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題・発表・発言については適宜コメントをします。						
担当者から一言	発表、ディスカッションへ積極的に参加してください。 日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	471104	授業コード	114703
担当教員	小泉 大亮			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	本演習では、卒業研究のテーマの選定につなげることを目的とし、個人で自由に調査・研究テーマを設定し、資料をまとめて発表する。						
到達目標	発表テーマの選定、レポート作成、プレゼンテーションを自身でおこなえるようにする。						
授業計画	第1講 ガイダンス 演習の概要 第2講 研究テーマの検討① 第3講 研究テーマの検討② 第4講 資料情報収集① 第5講 資料情報収集② 第6講 レポート・PCプレゼンテーション作成① 第7講 レポート・PCプレゼンテーション作成② 第8講 レポート・PCプレゼンテーション作成③ 第9講 PCプレゼンテーション・質疑応答① 第10講 PCプレゼンテーション・質疑応答② 第11講 PCプレゼンテーション・質疑応答③ 第12講 PCプレゼンテーション・質疑応答④ 第13講 PCプレゼンテーション・質疑応答⑤ 第14講 PCプレゼンテーション・質疑応答⑥ 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。						
事前・事後学習	論文抄読用の資料準備（45分） 発表用のレジュメやスライドの準備（45分）						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・授業への取り組み姿勢（レポート・発表などの準備）：50% ・レポート・発表：50%						
授業内の課題・提出方法	プレゼンテーション用の資料を作成し、メールおよびmoodleで提出してもらいます						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
担当者から一言	発表担当者は、責任を持って資料を準備するように。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	471104	授業コード	114704
担当教員	小林 慶太郎			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	<p>プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。</p> <p>調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。</p>						
授業のねらい	<p>この演習では、将来、地域で活躍することを目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取り組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。</p>						
到達目標	<p>この演習では、数人のグループで協働して発見し探究した身近な地域の問題・課題とその解決策を、分かりやすく整理して人に伝える力を身につけることを、到達目標としています。</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 第2講 分かっていることと分かっていないこと 第3講 フィールドワークの準備 第4講 ヒアリング調査 第5講 調査結果の整理 第6講 論点整理 第7講 補充調査 第8講 ジョイントセミナーレジュメ完成 第9講 ジョイントセミナー動画資料作成 第10講 ジョイントセミナー直前リハーサル 第11講 ジョイントセミナー反省会 第12講 卒論最終報告 第13講 卒論発表会 第14講 学部カンファレンス準備 第15講 学部カンファレンス</p> <p>※ 基本的に毎回、プレゼンテーションとグループワーク、ディスカッションを行います。90分という授業時間の枠にとらわれることなく、3・4限目の連続で、3・4年生のゼミを合同で行っていきます。</p> <p>※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況や各チームの進捗状況などに応じて、内容が変更になる場合があります。</p> <p>※ 秋には大学祭での「四日市とんてき」の模擬店の出店と、東海北陸B-1グランプリin四日市へのボランティアスタッフとしての参加を、12月頭には他大学のゼミとの合同研究発表合宿「ジョイントセミナー」を、それぞれ予定しています。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません（必要に応じて、参考文献を紹介します）						
事前・事後学習	<p>毎回、何らかのことを調べたり整理したりしレジュメを作成したりして来てもらいます（150分程度）。</p> <p>また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいください（30分）。</p>						
成績評価方法	<p>無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題への取り組み状況：50% ・授業中の発言・受講態度：50% 						
授業内の課題・提出方法	レジュメを作成して、授業時に配布してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。						
担当者から一言	一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	471104	授業コード	114705
担当教員	高田 晴美			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける						
授業のねらい	文学・文化学のゼミです。研究発表会に向けて、研究テーマ（文学作品や文化現象など）を自分たちで設定し、調べる項目も自分たちで考え、様々な視点、手法でそのテーマについて取り組み、それを研究発表という形にすることを試みます。文学作品やサブカルチャーなどの文化現象には、興味深い研究の種が潜んでいます。それを自分たちで見つけて、調理することで、アイデアを生む力、調査能力、分析力、考察能力、論旨をまとめる力、プレゼン能力等、総合的な力を身につけることができるでしょう。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関連情報を自分で調べ、考察する能力を身につける。 ・自分なりの論点で客観的・学術的に論じるスキルを向上させる。 ・自分の論を文章やパワーポイントにまとめるスキルを向上させる。 ・口頭発表・質疑応答のスキルを向上させる。 						
授業計画	第1講 ガイダンス、研究テーマの確認 第2講 調査内容を発表・議論① 第3講 調査内容を発表・議論② 第4講 調査内容を発表・議論③ 第5講 調査内容を発表・議論④ 第6講 研究発表の流れを整理する 第7講 発表準備① 第8講 発表準備② 第9講 発表準備③ 第10講 ゼミ内中間発表会 第11講 さらに発表内容を練る① 第12講 さらに発表内容を練る② 第13講 発表練習① 第14講 発表練習② 第15講 研究発表会 研究発表準備の進捗状況次第では、進め方をアレンジする可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	設定したテーマにもよりますが、演習で扱う作品のテキストは、短い作品はプリントにして配布します。長い作品は購入するか図書館等で借りてください。その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。						
事前・事後学習	各自、毎回、調査をコツコツと進め、その報告や発表の準備をする（数時間）。						
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のコメントと受講態度 60% ・発表と質疑応答の内容 40% 						
授業内の課題・提出方法	毎回、全員で話し合っ、次までにやるべきことを決めます。 プリントにまとめたりする場合は、人数分印刷して、ゼミに持ってくる。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各自が準備した内容などについて、教員や学生全員でコメントし合い、議論を深めます。						
担当者から一言	「専門演習 b」では、「わかもの学会学部予選」での研究発表を想定して、グループで研究テーマ（作品、文化現象等）を設定し、色々な角度で調査したり分析して、何らかの論を立て、口頭発表・発表資料の準備を行います。文学研究は基本的には個人プレーなのですが、たまにはチームプレーも楽しんでみましょう。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	471104	授業コード	114706
担当教員	鶴田 利恵			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	前期で決定した研究テーマに沿って、それに関する文献や情報を収集し、分析と考察を行います。授業では各自の報告だけでなく、私を含めたみなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。						
到達目標	①広い視点から問題意識を持つ力を身につけること。 ②自分で感じたことを自分の言葉で表現できる力を身につけること。 ③チームワークを通じて考える力や貢献できる力を身に付けること。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 研究テーマの設定 文献収集の方法 第3講 収集した文献の確認 第4講 文献報告① 第5講 文献報告② 第6講 文献報告③ 第7講 文献報告④ 第8講 文献報告⑤ 第9講 文献報告⑥ 第10講 文献報告⑦ 第11講 文献報告⑧ 第12講 文献報告⑨ 第13講 文献報告⑩ 第14講 まとめ① 第15講 まとめ②						
テキスト・教材（参考文献含む）	適宜指示します。						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。ゼミの後は指摘された点をまとめて整理しておく（90分以上）。						
成績評価方法	文献収集の取り組み状況20%、研究報告内容50%、ディスカッションへの取り組み30%						
授業内の課題・提出方法	毎回何が議論されたかについて簡単なレポートを書いてもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎回のレポートを授業の最後に提出してもらいます。						
担当者から一言	わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	471104	授業コード	114707
担当教員	富田 与			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、卒業研究に向けた調査を中心とした作業と議論を進めていきます。作業は参加者各人で進めてもらいますが、議論を通じて、資料の妥当性を中心に資料批判をしていくことにしたいと思います。						
到達目標	必要な資料の探索と見つけた資料の資料批判ができるようになる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 研究テーマの確認 第3講 必要な資料の報告と検討 1 第4講 必要な資料の報告と検討 2 第5講 必要な資料の報告と検討 3 第6講 見つけた資料の報告と検討 1 第7講 見つけた資料の報告と検討 2 第8講 見つけた資料の報告と検討 3 第9講 再構想 1 第10講 再構想 2 第11講 必要な資料の報告と検討 1 第12講 必要な資料の報告と検討 2 第13講 一文作文の再構成 1 第14講 一文作文の再構成 2 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは特に指定しません。						
事前・事後学習	必要な調査を進め、報告の準備をする（180分程度）						
成績評価方法	授業中に発表してもらった課題（50%）を評価の対象とし、グループ作業への参加度（50%）を加味して総合評価とします。						
授業内の課題・提出方法	授業中に指示した課題は、すべて、何らかの形で、授業中に発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表についてはその場でコメントします。また、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
担当者から一言	各自のテーマに沿った調査を進めるなかで、そこで出会った「情報」の意味を問い続けてください。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	471104	授業コード	114708
担当教員	中西 紀夫			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この専門演習では、環境法の仕組みを理解することを講義のねらいとしています。各講ごとのテーマは講義計画にも示してある通りですが、複雑で多岐にわたる環境問題ですので関心のあるテーマを一つ選んで、研究報告をしてもらいます。これまでの演習でも指摘しておきましたが、ここで報告した研究はこれで終わりではなく、できるだけ継続性をもって認識を深めていってほしいと考えています。						
到達目標	到達目標としては、ここまでで取得した知識を土台として、卒業までの研究を視野に入れたものにしたいと考えています。前学期の演習では社会環境問題を素材としましたが、ここでは主に自然環境問題を素材とします。学問の構築だけでなく、就職活動でも困らないように最新の問題も議論し認識を深めます。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 研究テーマ及び報告の順番の決定 第3講 公害と法 第4講 環境法の捉え方 第5講 環境法の伝統的な法体系 第6講 公害・環境規制法① 第7講 公害・環境規制法② 第8講 環境対策と法規制の概要① 第9講 環境対策と法規制の概要② 第10講 エネルギー問題① 第11講 エネルギー問題② 第12講 環境アセスメント 第13講 廃棄物・リサイクル 第14講 まとめ、レポート報告（提出） 第15講 学部の研究発表会						
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じて、資料を配付します。						
事前・事後学習	毎日、新聞を読むこと（1日30分）はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。また、本学の情報センターも積極的に利用しましょう。						
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度 50% 発表内容 30% レポート 20%						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	471104	授業コード	114709
担当教員	フェリペ フェハリー			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。						
到達目標	各自のテーマについて研究発表を行い、質疑を通していっそう研究の精度を高め、哲学の伝統に基づく人間と世界への洞察力を養います。 コメンテーター(予め決められた質問者)や出席者として質問し、議論することで、発表や討論の技法も学びます。 また説得的な発表を目指すことにより、言語による表現力も高まるはずです。						
授業計画	第1講 ガイダンスと前期の復習 第2講 現代哲学：ハイデガー 第3講 現代哲学：現象学 第4講 現代哲学：全体主義 第5講 現代哲学：構造主義 第6講 現代哲学：ポスト構造主義 第7講 現代哲学：哲学と社会 第8講 発表と議論（1） 第9講 発表と議論（2） 第10講 発表と議論（3） 第11講 発表と議論（4） 第12講 発表と議論（5） 第13講 発表と議論（6） 第14講 発表と議論（7） 第15講 発表のフィードバックやコメント						
テキスト・教材（参考文献含む）	『哲学用語図鑑』 田中正人（プレジデント社） （1,800円＋税）ISBN 978-4-8334-2119-5 『続・哲学図鑑（中国・日本・英米分析哲学）編』 田中正人（プレジデント社） （1,800円＋税）ISBN 978-4-8334-2234-5						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読みます（毎週約60分）。 レポートを作成し、発表の準備をします（毎週約60分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 発表のコメント：20% 研究発表：50%						
授業内の課題・提出方法	学生は研究の発表を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研究発表については講義中にコメントします。						
担当者から一言	世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。 この演習では学生みなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	471104	授業コード	114710
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	<p>プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。</p> <p>多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。</p> <p>論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。</p>						
授業のねらい	<p>この演習では、4年次の卒業研究に向けて研究計画書を作成します。前学期に引きつづき、個別テーマを立てて調査を進めます。履修者は自分でデータや資料を集め、分析を行なって成果を発表します。また他者の発表を聞いてコメントし、意見交換を行ないます。データの使い方を身につけ、他者と議論する力を養うことがこのゼミのねらいです。</p>						
到達目標	<p>①社会的な見方や考え方を身につける ②データを収集・分析する力を身につける ③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける ④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 第2講 各自の関心を紹介する 第3講 データの扱い方 第4講 質的データの特徴 第5講 質的データの探し方 第6講 質的データの分析 第7講 中間報告会 第8講 量的データの特徴 第9講 量的データの探し方 第10講 量的データの分析 第11講 研究計画書の書き方 第12講 卒業研究報告① 第13講 卒業研究報告② 第14講 研究計画書の確認 第15講 卒業研究報告③</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p><参考文献> 白井利明・高橋一郎，2013，『よくわかる卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房。</p>						
事前・事後学習	報告内容に関する資料や文献に目を通しておくこと（1日20分）						
成績評価方法	<p>報告回での報告50%、授業への参加度50%として評価します。 ※報告担当回に欠席した場合、原則として単位を与えないので注意すること。</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>授業内で学生による報告があります。 報告者は人数分のレジュメを印刷して授業に持参すること。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告内容は全員でディスカッションします。						
担当者から一言	世の中の「あたりまえ」を疑うところが社会学の魅力です。途中で何度か3・4限を連続して行う場合があります。学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	471104	授業コード	114711
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	本演習では、卒業研究のテーマ選定を意識しつつ、これまで習得したスポーツ科学に関する知識を基に、論文を作成し発表する。						
到達目標	文献検索、論文作成、プレゼンテーションを自分の意思で進める。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 論文作成準備（追加情報収集） 第3講 論文作成準備（追加情報収集） 第4講 論文作成準備（追加情報収集） 第5講 論文作成（方法） 第6講 論文作成（方法） 第7講 論文作成（方法） 第8講 「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める 第9講 「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める 第10講 「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める 第11講 「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める 第12講 「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める 第13講 論文中間発表・質疑応答・討論 第14講 論文中間発表・質疑応答・討論 第15講 総括						
テキスト・教材（参考文献含む）	特に指定しないが、適宜指示する。						
事前・事後学習	予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（90分）。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと（90分）。						
成績評価方法	論文の進捗状況（50%）、プレゼンテーション（50%）。						
授業内の課題・提出方法	授業内、授業以外の時間でも、適宜。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポート等の評価は都度個別に開示する。						
担当者から一言	学生の積極的な研究及び討論参加を期待する。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	471104	授業コード	114712
担当教員	鬼頭 浩文			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける						
授業のねらい	このゼミでは、自由にテーマを設定し、自分で考え、調べ、結果を残すことができる能力を身につけ、就職活動につなげることが最大のテーマといえる。ゼミでは、就職も意識しながら、社会人として最低限持っていてほしい常識について学習する。具体的には、懸賞論文提出を目標に研究を進める。また、就職活動キックオフ(企業研究とインターンシップ参加)を通して社会を観る力を身につけることも重視していく。						
到達目標	社会との接点を持つこと、学生懸賞論文で受賞レベルに到達することを通じ、就職活動のキックオフにつなげる。						
授業計画	1. ガイダンス；夏休みを振り返り、今後のゼミ活動のビジョンをかためる 2. 懸賞論文執筆作業①（テーマ設定、情報収集と整理；PC教室） 3. 懸賞論文執筆作業②（草立ての完成；PC教室） 4. 懸賞論文執筆作業③（イントロとテーマ背景の作成；PC教室） 5. 懸賞論文執筆作業④（途中経過の報告会；PC教室） 6. 懸賞論文執筆作業⑤（論文執筆と添削指導；PC教室） 7. 懸賞論文執筆作業⑥（論文執筆と添削指導；PC教室）⇒提出（A4×8ページ） 8. 就職活動キックオフ懇談会 9. 就職活動ネット裏ワザ指導① 10. 就職活動ネット裏ワザ指導② 11. インターンシップにエントリー（社会を観る能力の養成）① 12. インターンシップにエントリー（社会を観る能力の養成）② 13. 時事問題に向き合う(新聞を読み込む)① 14. 時事問題に向き合う(新聞を読み込む)② 15. 時事問題に向き合う(新聞を読み込む)③						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。						
事前・事後学習	懸賞論文の作成作業は、講義の時間以外に20時間ほどをかけること。また、自分の進路を決めるためにネットや新聞から情報を集め(20時間ほどをかける)、人間力を高める。						
成績評価方法	ゼミの中での議論、プレゼンのパフォーマンス(5割)や課題への取り組み(5割)により総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	テーマごとに完成させた課題をファイルか写真でMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に対して個別にコメントでフィードバックする。						
担当者から一言	鬼頭ゼミの誇りは、過去、就職を希望して活動した者が全てほぼ希望に近い就職を決めてきたことである。これは、ゼミ活動の中で身につけた人間力を人前で表現できる能力が発揮できたからと考える。積極的にゼミ活動に参加してほしい。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	114402
担当教員	奥原 貴士			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	卒業論文に関する研究の発表を行い、その内容について全員でディスカッションを行うことで、研究内容を向上させていきます。加えて、実証研究や財務諸表分析のテキストを輪読することで研究に関する専門的な知識を習得することを目的とします。また会計の学術論文についても輪読を行うことで、先行研究の内容を知識として蓄積することも目的とします。これら輪読においても担当者が発表を行い、続いて全員でディスカッションをすることで理解を深めていきます。						
到達目標	実証研究や財務諸表分析の専門的知識を習得したうえで、卒業論文の作成を進めることを到達目標とします。加えて、発表のスキルを身につけること、積極的に発言できるようになることも目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 研究の発表、テキストの輪読 第3講 研究の発表、テキストの輪読 第4講 研究の発表、テキストの輪読 第5講 研究の発表、論文の輪読 第6講 研究の発表、テキストの輪読 第7講 研究の発表、テキストの輪読 第8講 研究の発表、テキストの輪読 第9講 研究の発表、論文の輪読 第10講 研究の発表、テキストの輪読 第11講 研究の発表、テキストの輪読 第12講 研究の発表、テキストの輪読 第13講 研究の発表、論文の輪読 第14講 研究の発表、テキストの輪読 第15講 卒業論文の内容に関するディスカッション						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは適宜指定します。 論文は配布します。						
事前・事後学習	各自の研究テーマに関する先行研究を読んで知識を深めてください。 そして、卒業論文の執筆を進めていってください（毎日60分以上）。						
成績評価方法	平常点（発表内容、発言回数など） 60% 卒業論文に関する研究の進捗状況 40%						
授業内の課題・提出方法	研究の発表をしっかりと行ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表・発言については適宜コメントをします。						
担当者から一言	研究をどんどん進めてください。 発表、ディスカッションへ積極的に参加してください。 日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	114403
担当教員	小泉 大亮			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	卒業研究にむけての研究指導。教員や他のメンバーと意見交換しながら卒業研究テーマを確定する。						
到達目標	卒業研究のテーマを確定し、論文作成や発表に向けた準備をする。						
授業計画	第1講 ガイダンス 演習の概要 第2講 研究テーマに関する意見交換① グループディスカッション 第3講 研究テーマに関する意見交換② グループディスカッション 第4講 研究テーマに関する意見交換③ グループディスカッション 第5講 研究テーマに関する意見交換④ グループディスカッション 第6講 卒業研究の概要作成① 第7講 卒業研究の概要作成② 第8講 卒業研究の概要作成③ 第9講 卒業研究の概要作成④ 第10講 卒業研究のスケジュール作成① 第11講 卒業研究のスケジュール作成② 第12講 研究の進捗状況報告① 第13講 研究の進捗状況報告② 第14講 研究の進捗状況報告③ 第15講 夏期休暇中の研究打ち合わせ						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	卒業論文用の資料準備（90分） 発表用のレジュメやスライドの準備（90分）						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・卒業研究の進捗・準備状況：50% ・レポート・発表：50%						
授業内の課題・提出方法	卒論の草稿を作成し、moodleで提出してもらいます						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
担当者から一言	発表担当者は、責任を持って資料を準備するように。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	114404
担当教員	小林 慶太郎			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探索する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、将来、地域で活躍することを目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取り組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。						
到達目標	この演習では、あらためて地域のしくみを学ぶとともに、自分自身で身近な地域の問題を発見し、その解決策を考えていく力を身につけることを、到達目標としています。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 改めて地域の課題を考える 第3講 チームビルディングと協働 第4講 地方自治体に見る自治と協働 第5講 住民自治と団体自治 第6講 二元代表制と議会・首長の役割 第7講 計画・条例・予算 第8講 テーマとフィールド 第9講 現状の定量的把握 第10講 先行研究を探してみよう 第11講 新聞記事を探してみよう 第12講 著作権と研究倫理 第13講 現状と課題を整理してみよう 第14講 課題の絞り込み 第15講 研究計画を考える ※ 第2講以降は毎回、プレゼンテーションとグループワーク、ディスカッションを行います。90分という授業時間の枠にとらわれることなく、3・4限目の連続で、3・4年生のゼミを合で行っていきます。 ※ 各人の興味や新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、内容が変更になる場合があります。 ※ 状況が改善していれば、夏休みにゼミ旅行も予定したいと思います。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません（必要に応じて、適宜プリントを配布します） 【参考文献】 新藤宗幸「日曜日の自治体学」東京堂出版（2013年）、2, 200円＋税 大森彌、大杉寛「これからの地方自治の教科書 改訂版」第一法規（2021年）、2, 500円＋税						
事前・事後学習	毎回、何らかのことを調べたり整理したりレジュメを作成したりして来てもらいます（150分程度）。 また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいください（30分）。						
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません（就職活動を言い訳にしないこと！）。 成績は次のような配分により評価します。 ・課題への取り組み状況：50% ・授業中の発言・受講態度：50%						
授業内の課題・提出方法	レジュメを作成して、授業時に配布してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。						
担当者から一言	一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	114405
担当教員	高田 晴美			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける						
授業のねらい	文学・文化学のゼミです。今期は各自、卒業論文の執筆に向けて、取り扱う作品や作家、文化現象を決め、テーマを設定し、論じていくための準備をしていきます。まずは各々が扱う作品もしくはその作家の別作品について、ゼミのメンバー皆で読みあい、議論することで、各自の卒業論文の論の手がかりを得てもらいたいと思います。皆さんの研究テーマに応じた、多種多様な作品を皆で読んで考えていきましょう。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文のテーマを自分で設定する。 ・地道なテキスト・文献読み、調査を行う ・論を立て、展開し、まとめる能力を養う。 ・みんなでディスカッションする能力を養う。 						
授業計画	第1講 ガイダンス、卒論について 第2講 卒論テーマプレゼン 第3講 参考文献リスト作成 第4講 卒論関連作品を読む・議論① 第5講 卒論関連作品を読む・議論② 第6講 卒論関連作品を読む・議論③ 第7講 卒論関連作品を読む・議論④ 第8講 卒論関連作品を読む・議論⑤ 第9講 句会 第10講 卒論中間報告① 第11講 卒論中間報告② 第12講 卒論中間報告③ 第13講 卒論中間報告④ 第14講 卒論中間報告⑤ 第15講 今後について						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト等については、適宜プリントを配布するか、購入してもらいます。各自、自分の卒業論文のためのテキスト読解や文献調査のために、図書館等の書籍を有効活用すること。						
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・次回扱う作品や文献について読んでくること（1時間程度） ・それと並行して、自分の卒業論文のための準備を進めていくこと（数時間） 						
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のコメントと受講態度 70% ・発表と質疑応答の内容 30% 						
授業内の課題・提出方法	毎回、ゼミで指示します。 必要に応じて、資料を準備し、人数分印刷してゼミに持ってくること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各自が準備してきたもの、発表内容などについて、教員や学生全員でコメントし合い、卒業研究の道筋を作っていきます。						
担当者から一言	ゼミを通じて、じっくりと自分の卒業論文のための準備をしていくとともに、並行して、他のメンバーの卒業研究の様子を知ること、研究のテーマやスタイル等の多様性も楽しみましょう。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	114406
担当教員	鶴田 利恵			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	3年間の大学生活の中で培ってきた知識をもとに各自で研究テーマを設定した上で、それに関する文献や情報を収集し、分析と考察を行います。授業では各自の報告だけでなく、私を含めたみなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。						
到達目標	自分で収集した文献をまとめて報告します。 最終的には専門演習 d において研究の成果を報告できるように積みかさねていきます。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 研究テーマの確認 第3講 文献報告① 第4講 文献報告② 第5講 文献報告③ 第6講 文献報告④ 第7講 文献報告⑤ 第8講 文献報告⑥ 第9講 文献報告⑦ 第10講 文献報告⑧ 第11講 論文の目次報告① 第12講 論文の目次報告② 第13講 論文の目次報告③ 第14講 論文の目次報告④ 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	適宜指示をします。						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。ゼミの後は指摘された点をまとめて整理しておく（90分以上）						
成績評価方法	文献収集の取り組み状況20%、研究報告内容50%、ディスカッションへの取り組み30%						
授業内の課題・提出方法	毎回何が議論されたかについて簡単なレポートを書いてもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎回のレポートを授業の最後に提出してもらいます。						
担当者から一言	わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	114407
担当教員	富田 与			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、プレゼンテーションの準備を中心に考えていきます。2年生の演習で進めた各自の研究テーマに関する調査をもとに、口頭によるプレゼンテーション資料を作成します。音声、文字、図像の違いを意識しながら、効果的なレジュメ、スライドの作り方や発表の構成を実践することに使いたいと思います。						
到達目標	自分のアイディアを効果的に相手に伝えることができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 研究テーマの確認 第3講 グループ分けの検討 第4講 口頭発表のメディア（音声、文字、図像） 第5講 メディアと内容の対応 第6講 口頭発表の準備1 第7講 口頭発表の準備2 第8講 口頭発表1 第9講 口頭発表2 第10講 口頭発表3 第11講 口頭発表4 第12講 TEDを参考に 第13講 再構想1 第14講 再構想2 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは特に指定しません。						
事前・事後学習	毎時間、予習と復習を兼ねた課題を出します（180分）。						
成績評価方法	授業中に発表してもらった課題（50%）を評価の対象とし、グループ作業への参加度（50%）を加味して総合評価とします。						
授業内の課題・提出方法	授業中に指示した課題は、すべて、何らかの形で、授業中に発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表についてはその場でコメントします。また、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
担当者から一言	3年生では、自分で表現する事を考えてみましょう。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	114408
担当教員	中西 紀夫			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この専門演習では、環境法を中心に扱います。とくに都道府県が制定する上乗せ条例等に関わる法的問題点や、国際標準化機構が発行するISO14001規格に関わる専門的な内容、さらには循環型社会構築のための知識を担当教員が実際に経験した実践的なノウハウも取り入れながら、現代の環境マネジメントシステムにもマッチできるように、できるだけ新しい素材を使いながら教授します。						
到達目標	これまでの演習で取得した知識を土台として、残りの大学生活においての各自の研究につながるものにしたいと考えています。また、社会人になってからでも必要不可欠となる学問の構築だけでなく、就職活動などでも困らないように最新の社会問題を議論することにも重点を置きたいと思います。最終的な到達目標は、全員が卒業研究に向けた進捗状況の報告を行い、経過報告としてレポートにまとめるところまでを考えています。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 条例による規制とその問題点① 第3講 条例による規制とその問題点② 第4講 ISO14001と環境法① 第5講 ISO14001と環境法② 第6講 循環型社会構築のために① 第7講 循環型社会構築のために② 第8講 卒業研究の進捗状況の報告① 第9講 卒業研究の進捗状況の報告② 第10講 卒業研究の進捗状況の報告③ 第11講 卒業研究の進捗状況の報告④ 第12講 卒業研究の進捗状況の報告⑤ 第13講 卒業研究の進捗状況の報告⑥ 第14講 卒業研究の進捗状況の報告⑦ 第15講 まとめ、レポート提出						
テキスト・教材（参考文献含む）	ガイダンスで指示します。						
事前・事後学習	毎日、新聞を読むこと（1日30分）はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。						
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度 50% 発表内容 30% レポート 20%						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や就職活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	114409
担当教員	フェリペ フェハリー			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。						
到達目標	各自のテーマについて研究発表を行い、質疑を通していっそう研究の精度を高め、哲学の伝統に基づく人間と世界への洞察力を養います。 コメンテーター(予め決められた質問者)や出席者として質問し、議論することで、発表や討論の技法も学びます。 また説得的な発表を目指すことにより、言語による表現力も高まるはずです。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 中国哲学 第3講 インド哲学 第4講 京都学派 第5講 日本哲学：西田幾多郎 第6講 日本哲学：田辺元 第7講 日本哲学：西谷啓治 第8講 発表と議論（1） 第9講 発表と議論（2） 第10講 発表と議論（3） 第11講 発表と議論（4） 第12講 発表と議論（5） 第13講 発表と議論（6） 第14講 発表と議論（7） 第15講 発表のフィードバックやコメント						
テキスト・教材（参考文献含む）	『続・哲学図鑑（中国・日本・英米分析哲学）編』 田中正人（プレジデント社） （1, 800円＋税）ISBN 978-4-8334-2234-5						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読みます（毎週約60分）。 レポートを作成し、発表の準備をします（毎週約60分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 発表のコメント：20% 研究発表：50%						
授業内の課題・提出方法	学生は研究の発表を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研究発表については講義中にコメントします。						
担当者から一言	世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。 この演習では学生のみなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。						

授業科目名	専門演習 c	科目コード	471105	授業コード	114410
担当教員	三田 泰雅	科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。				
授業のねらい	卒業研究の準備を行ないます。自ら文献を調べ、データを集め、ゼミ内で議論しながらデータの整理と分析を行なって成果を発表します。また、他者の発表に対してコメントし、意見交換します。この演習のねらいは、文章作成能力を高め、プレゼンテーション能力を磨き、議論する力を養うことです。				
到達目標	①社会的な見方や考え方を身につける ②データを収集・分析する力を身につける ③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける ④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける ⑤大学生としての文章作成能力を身につける				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 各自のテーマ設定 第3講 資料の探し方 第4講 文献を探す 第5講 先行研究の整理 第6講 卒業研究報告① 第7講 卒業研究報告② 第8講 中間まとめ 第9講 データの整理 第10講 データを分析する 第11講 分析結果の検討 第12講 卒業研究報告③ 第13講 卒業研究報告④ 第14講 卒業研究報告⑤ 第15講 まとめ 各報告についてはゼミ全員でディスカッションします。				
テキスト・教材（参考文献含む）	<参考文献> ケン・ブラマー著、赤川学監訳（2021）『21世紀を生きるための社会学の教科書』筑摩書房。				
事前・事後学習	報告内容に関する資料に目を通しておくこと（1日20分）				
成績評価方法	報告回での報告50%、授業への参加度50%として評価します。 報告担当回に欠席した場合は、原則として単位を与えないので注意すること。				
授業内の課題・提出方法	授業内で学生による報告があります。 報告者は人数分のレジュメを印刷して授業に持参すること。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告内容は全員でディスカッションします。				
担当者から一言	世の中の「あたりまえ」を疑うところが社会学の魅力です。途中で何度か3・4限を連続して行う場合があります。学生諸君の積極的な参加を期待します。				

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	114411
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	本演習では、卒業研究のテーマを確定し、これまで習得したスポーツ科学に関する知識を基に、論文を作成し発表する。これまでの研究概要について、教員や他のメンバーと意見を交換して、卒業研究のテーマを熟考していく。						
到達目標	卒業研究のテーマを決定し、文献検索、卒業論文作成、プレゼンテーションを自分の意思で進める。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 研究について簡単なスピーチ 第3講 研究について簡単なスピーチ 第4講 これまでの研究概要発表・意見交換 第5講 これまでの研究概要発表・意見交換 第6講 これまでの研究概要発表・意見交換 第7講 これまでの研究概要発表・意見交換 第8講 これまでの研究概要発表・意見交換 第9講 これまでの研究概要発表・意見交換 第10講 卒業研究テーマ決定・意見交換 第11講 卒業研究テーマ決定・意見交換 第12講 卒業研究テーマ決定・意見交換 第13講 卒業研究テーマ決定・意見交換 第14講 卒業研究テーマ決定・意見交換 第15講 総括及び夏期休暇課題の説明						
テキスト・教材（参考文献含む）	特に指定しないが、適宜指示する。						
事前・事後学習	予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（90分）。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと（90分）。						
成績評価方法	論文の進行状況（50%）、プレゼンテーション（50%）。						
授業内の課題・提出方法	授業内、授業以外の時間でも、適宜。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポート等の評価は都度個別に開示する。						
担当者から一言	学生の積極的な研究及び討論参加を期待する。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	114412
担当教員	鬼頭 浩文			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける						
授業のねらい	ゼミでは、就職指導もしながら、生きる力を身につけるさまざまな演習を行う。就職活動は、この専門演習cの時期と重なる。これをプラスに捉え、就職活動を通して社会を知り、自分について見つめなおし、内定を得た企業や日本社会のために自分がなすべきことを考える機会と考える。就職試験を通して企業の持つカルチャーを感じ、社会を自由自在に泳ぐ感性を身につけよう。社会のために役立つ仕事を見つけ、自己実現と生活の両立ができるよう、生きる力を強化しよう。						
到達目標	ゼミは就職活動のための研究で始まり、就職先が決定したものは社会に出る準備を整えることが到達目標となる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス；就職活動の中間報告会 2. エントリーシートに磨きをかける 3. 企業研究とディスカッション 4. 課題作成に向けた準備 5. 自分が進むキャリアの調査 6. 自分が進むキャリアの研究 7. 自分が進むキャリアに関する小論文を作成 8. 自分が進む業界の調査 9. 自分が進む業界の研究 10. 自分が進む業界に関する小論文の作成 11. 自分が就職する企業のライバルを調査 12. 自分が就職する企業のライバルを研究 13. 自分が就職する企業のライバルに関する小論文を作成 14. 研究発表会① 15. 研究発表会② 						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。						
事前・事後学習	課題をやり遂げることも大切だが、ニュースや新聞などから社会の動きを知り、就職にも役立つ準備学習・振り返り学習をする。これらの学習には、毎講義3時間ほどを要する。						
成績評価方法	ゼミの中での議論、プレゼンのパフォーマンス(5割)や課題への取り組み(5割)により総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	テーマごとに完成させた課題をファイルか写真でMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に対して個別にコメントでフィードバックする。						
担当者から一言	できるだけ早く内定をとり、社会に出るための準備をして、じっくり卒業研究に取り組んでほしい。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	471105	授業コード	114413
担当教員	松井 真理子			科目ナンバリング	PSS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける						
授業のねらい	3年次の研究で身に付けた研究基礎力をベースに、より発展的に自らの研究課題を明確にし、研究論文にまとめる準備を行います。また、そのプロセスでお互いの研究を共有し、学生同士の討論を通じて、コミュニケーション力も高めます。						
到達目標	1 自分の研究テーマを明確にする。 2 地域の課題と自分の研究テーマを結び付け、社会的な価値のある研究計画を作成する。 3 研究計画を作成し、研究に着手する。						
授業計画	第1講 ガイダンス・研究テーマの検討（1） 第2講 研究テーマの検討（2） 第3講 研究テーマの検討（3） 第4講 研究手法の検討（1） 第5講 研究手法の検討（2） 第6講 研究手法の検討（3） 第7講 研究計画の作成（1） 第8講 研究計画の作成（2） 第9講 研究計画の作成（3） 第10講 研究（1） 第11講 研究（2） 第12講 研究（3） 第13講 研究（4） 第14講 中間報告（1） 第15講 中間報告（2）						
テキスト・教材（参考文献含む）	教員が提供する教材を使います。 自分の研究テーマに沿って必要な文献を収集します。						
事前・事後学習	（授業前）日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度) 授業内容について事前に予習しておくこと(60分) （授業後）授業内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)						
成績評価方法	授業の取り組み姿勢 50% 中間報告の内容 50%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で進捗状況についてまとめたものを課題として提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。						
担当者から一言	自分の研究テーマを持ち、研究することで、学生生活の集大成をしましょう。						

授業科目名	専門演習 d			科目コード	471106	授業コード	114802
担当教員	奥原 貴士			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	卒業論文に関する研究の発表を行い、その内容について全員でディスカッションを行うことで、研究内容を向上させていきます。						
到達目標	研究のレベルが高い卒業論文を完成させることを到達目標とします。加えて、発表のスキルを身につけること、積極的に発言できるようになることも目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 卒業論文の進捗状況の報告 第2講 研究の発表（担当者の発表・ディスカッション） 第3講 研究の発表（担当者の発表・ディスカッション） 第4講 研究の発表（担当者の発表・ディスカッション） 第5講 研究の発表（担当者の発表・ディスカッション） 第6講 研究の発表（担当者の発表・ディスカッション） 第7講 研究の発表（担当者の発表・ディスカッション） 第8講 研究の発表（担当者の発表・ディスカッション） 第9講 研究の発表（担当者の発表・ディスカッション） 第10講 研究の発表（担当者の発表・ディスカッション） 第11講 研究の発表（担当者の発表・ディスカッション） 第12講 研究の発表（担当者の発表・ディスカッション） 第13講 研究の発表（担当者の発表・ディスカッション） 第14講 研究の発表（担当者の発表・ディスカッション） 第15講 研究の発表（担当者の発表・ディスカッション）						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストや論文に関しては適宜指定します。						
事前・事後学習	先行研究をしっかりと読んで、研究を進めてください（毎日90分以上）。						
成績評価方法	平常点（発表内容、発言回数など）50% 卒業論文50%						
授業内の課題・提出方法	研究の発表をしっかりと行ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表のつどコメントします。						
担当者から一言	発表、ディスカッションへ積極的に参加してください。 日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。						

授業科目名	専門演習 d			科目コード	471106	授業コード	114803
担当教員	小泉 大亮			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	本演習では、これまでの演習で身につけた知識や情報を利用し、卒業論文作成および卒業発表を展開する。						
到達目標	卒業論文を完成させる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 演習の概要 第2講 卒業研究進捗状況の報告① 第3講 卒業研究進捗状況の報告② 第4講 卒業研究進捗状況の報告③ 第5講 卒業研究進捗状況の報告④ 第6講 卒業研究進捗状況の報告⑤ 第7講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換① 第8講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換② 第9講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換③ 第10講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換④ 第11講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換⑤ 第12講 卒業研究発表 第13講 卒業研究発表 第14講 卒業研究報告会 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	適宜、指示をします						
事前・事後学習	卒業論文の作成（120分）						
成績評価方法	卒業論文 卒業論文発表会						
授業内の課題・提出方法	卒業論文の草稿は、moodleにて提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	卒業論文の作成に関しては、適宜、授業・メール等で回答していきます。						
担当者から一言	発表担当者は、責任を持って資料を準備するように。						

授業科目名	専門演習 d			科目コード	471106	授業コード	114804
担当教員	小林 慶太郎			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	<p>プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。</p> <p>調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。</p>						
授業のねらい	<p>この演習では、将来、地域で活躍することを目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取り組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。</p>						
到達目標	<p>この演習では、自ら発見し探究した身近な地域の問題・課題とその解決策を、分かりやすく整理して文章にまとめ人に伝える力を身につけることを、到達目標としています。</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 第2講 分かっていることと分かっていないこと 第3講 フィールドワークの準備 第4講 ヒアリング調査 第5講 調査結果の整理 第6講 論点整理 第7講 補充調査 第8講 ジョイントセミナーレジュメ完成 第9講 卒論中間発表 第10講 ジョイントセミナー直前リハーサル 第11講 ジョイントセミナー反省会 第12講 卒論最終報告 第13講 卒論発表会 第14講 学部カンファレンス準備 第15講 学部カンファレンス</p> <p>※ 基本的に毎回、プレゼンテーションとグループワーク、ディスカッションを行います。90分という授業時間の枠にとらわれることなく、3・4限目の連続で、3・4年生のゼミを合同で行っていきます。</p> <p>※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況や各チームの進捗状況などに応じて、内容が変更になる場合があります。</p> <p>※ 秋には大学祭での「四日市とんてき」の模擬店の出店と、東海北陸B-1グランプリin四日市へのボランティアスタッフとしての参加を、12月頭には他大学のゼミとの合同研究発表合宿「ジョイントセミナー」（有志参加）を、それぞれ予定しています。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません（必要に応じて、参考文献を紹介します）						
事前・事後学習	<p>毎回、何らかのことを調べたり整理したりしレジュメを作成したりして来てもらいます（150分程度）。</p> <p>また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいください（30分）。</p>						
成績評価方法	<p>無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題への取り組み状況：50% ・授業中の発言・受講態度：50% 						
授業内の課題・提出方法	レジュメを作成して、授業時に配布してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。						
担当者から一言	一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！						

授業科目名	専門演習 d			科目コード	471106	授業コード	114805
担当教員	高田 晴美			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける						
授業のねらい	文学・文化学のゼミです。今期はいよいよ、各自、卒業論文の完成に向けて具体的に研究を進めていきます。前期に引き続いて、めいめいが扱う作品もしくはその作家の関連作品について、ゼミのメンバー皆で読みあったり、中間発表の内容について議論することで、各自の卒業論文の参考にし、論文をまとめていきましょう。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文のテーマにそって、論旨を組み立てていく。 ・そのための地道なテキスト・文献読み、調査を行う。 ・論を「卒業論文」という形にまとめる。 						
授業計画	第1講 ガイダンス、卒論について 第2講 卒論テーマについて議論① 第3講 卒論テーマについて議論② 第4講 卒論テーマについて議論③ 第5講 卒論テーマについて議論④ 第6講 卒論テーマについて議論⑤ 第7講 歌会 第9講 卒業論文中間発表① 第10講 卒業論文中間発表② 第11講 卒業論文中間発表③ 第12講 座談会 第13講 座談会風小説を読む 第14講 卒業論文発表会&口頭試問 第15講 座談会ー卒業に際して						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト等については、適宜プリントを配布します。 各自、自分の卒業論文のためのテキスト読解や文献調査のために、図書館等の書籍を有効活用すること。						
事前・事後学習	自分の卒業論文のための準備と執筆を進めていくこと。（数十時間）						
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のコメントと受講態度 30% ・発表と質疑応答の内容 20% ・卒業論文 50% 						
授業内の課題・提出方法	毎回、ゼミで指示します。 必要に応じて、資料を作成し、人数分印刷してゼミに持ってくること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各自が準備してきたことに対して、教員や学生全員がコメントし合い、議論を深めます。						
担当者から一言	いよいよ卒業論文を執筆し、仕上げていきます。大学での学びの集大成です。情熱を傾けて、ひたむきに取り組んでいきましょう。そして、他のメンバーの研究にもアドバイスをし、切磋琢磨していきましょう。						

授業科目名	専門演習 d			科目コード	471106	授業コード	114806
担当教員	鶴田 利恵			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	前期で行った、文献や情報の収集とその報告を何度か繰り返して卒業研究を完成させていきます。各自による報告だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。						
到達目標	卒業研究の完成を目指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 卒業研究報告とディスカッション 第3講 卒業研究報告とディスカッション 第4講 卒業研究報告とディスカッション 第5講 卒業研究報告とディスカッション 第6講 卒業研究報告とディスカッション 第7講 卒業研究報告とディスカッション 第8講 卒業研究報告とディスカッション 第9講 卒業研究報告とディスカッション 第10講 卒業研究報告とディスカッション 第11講 卒業研究報告とディスカッション 第12講 卒業研究報告とディスカッション 第13講 卒業研究報告とディスカッション 第14講 卒業研究報告とディスカッション 第15講 3、4年生合同報告会						
テキスト・教材（参考文献含む）	適宜指示します。						
事前・事後学習	報告の準備とディスカッション後の整理						
成績評価方法	文献や情報収集などへの取り組み20%、研究報告の内容50%、ディスカッションへの取り組み30%						
授業内の課題・提出方法	卒業研究作成に関する進捗状況をまとめて、毎回報告してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	進捗状況や質問に対して、適宜コメントします。						
担当者から一言	大学4年間の集大成です。思いっきり楽しんで研究報告を完成させてください。						

授業科目名	専門演習 d			科目コード	471106	授業コード	114807
担当教員	富田 与			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、卒業論文の完成を目指します。これまでやってきた作業の繰り返しと、文章の作成を中心に進めていきます。						
到達目標	卒業論文の完成						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 一文作文の確認 第3講 一文作文から構成へ1 第4講 一文作文から構成へ2 第5講 草稿の報告と検討1 第6講 草稿の報告と検討2 第7講 草稿の報告と検討3 第8講 草稿の報告と検討4 第9講 作成論文の報告と検討1 第10講 作成論文の報告と検討2 第11講 作成論文の報告と検討3 第12講 作成論文の報告と検討4 第13講 発表会1 第14講 発表会2 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは特に指定しません。						
事前・事後学習	とにかく卒業論文を書き進めてください。（180分以上）						
成績評価方法	卒業研究の達成度 100%						
授業内の課題・提出方法	卒業論文を評価の課題とし、卒業論文については授業内で逐次コメントをする他、発表準備等でも個別に相談に乗ります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表についてはその場でコメントします。また、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
担当者から一言	4年のまとめを形に残すことを常に心がけてください。						

授業科目名	専門演習 d			科目コード	471106	授業コード	114808
担当教員	中西 紀夫			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	<p>プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。</p> <p>調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。</p>						
授業のねらい	<p>この専門演習では、全体としての指導というよりマンツーマンでの指導が多くなります。</p> <p>この演習はこれまでの集大成として精度の高い研究を目指しておりますので、ただ完成させるということだけでなく、社会人になってからでも自信をもって発信できるものにしていただきたいと考えております。そのため、第3講から第9講までは毎回、進捗状況をできるだけ細かく報告してもらい、素晴らしい研究発表となるように丁寧な指導をしたいと考えております。</p>						
到達目標	<p>到達目標としては、社会人になってからでも必要不可欠となる学問の構築はもとより、継続中の就職活動などでも困らないように最新の社会問題も議論できればと考えています。</p> <p>この演習によって、自信をもって社会人になっていただくための必要不可欠な法律知識を身につけ、その特徴を生かし、あらゆる場面で頼りにされる人材になるための土台をつくることができると考えています。</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス</p> <p>第2講 研究内容の確認及び指導</p> <p>第3講 研究の進捗状況報告及び指導</p> <p>第4講 研究の進捗状況報告及び指導</p> <p>第5講 研究の進捗状況報告及び指導</p> <p>第6講 研究の進捗状況報告及び指導</p> <p>第7講 研究の進捗状況報告及び指導</p> <p>第8講 研究の進捗状況報告及び指導</p> <p>第9講 研究の進捗状況報告及び指導</p> <p>第10講 研究発表会に向けた指導</p> <p>第11講 卒業研究の発表会</p> <p>第12講 卒業研究の発表会</p> <p>第13講 卒業研究の発表会</p> <p>第14講 まとめ、卒業研究論文の提出</p> <p>第15講 学部の研究発表会</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	適宜指示します。						
事前・事後学習	<p>発表者には、発表の一週間前の授業時間中までに、テーマと内容を簡単に報告してもらう。</p> <p>また、週6日は新聞やニュース等も含め1日に30分以上は学習すること。</p>						
成績評価方法	<p>成績は次のような評価配分です。</p> <p>受講態度 50%</p> <p>研究成果 50%</p>						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
担当者から一言	<p>授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や就職活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。有意義な卒業研究になるように、精一杯がんばりましょう。</p>						

授業科目名	専門演習 d			科目コード	471106	授業コード	114809
担当教員	フェリペ フェハリー			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	各自のテーマについて卒業論文の作成と発表を行い、質疑を通していっそう研究の精度を高め、哲学の伝統に基づく人間と世界への洞察力を養います。 コメンテーター(予め決められた質問者)や出席者として質問し、議論を行います。						
到達目標	本演習の目的は卒業論文を作成し、発表することです。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 大陸哲学 第3講 英米哲学 第4講 分析哲学 第5講 プラグマティズム 第6講 科学哲学 第7講 倫理の問題 第8講 卒業研究(1) 第9講 卒業研究(2) 第10講 卒業研究(3) 第11講 卒業論文の作成(1) 第12講 卒業論文の作成(2) 第13講 卒業論文の作成(3) 第14講 卒業論文発表会(1) 第15講 卒業論文発表会(2)						
テキスト・教材(参考文献含む)	『続・哲学図鑑(中国・日本・英米分析哲学)編』 田中正人(プレジデント社) (1,800円+税) ISBN 978-4-8334-2234-5						
事前・事後学習	卒業論文の準備をします(毎週約100分)。						
成績評価方法	受講態度:30% 相手の卒業論文のコメント:20% 卒業論文の発表:50%						
授業内の課題・提出方法	学生は卒業論文の作成と発表を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	面談や卒業論文の作成の指導を行います。						
担当者から一言	卒業まではあと少しだけです!頑張りましょう!						

授業科目名	専門演習 d			科目コード	471106	授業コード	114810
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。						
授業のねらい	この演習では、社会学の視点と社会調査の方法を用いて世の中の問題を考えます。 前学期に引きつづき、履修者は自ら調査しデータを集め、ゼミ内で議論しながらデータの整理と分析を行なって成果を発表します。また、他者の発表に対してコメントし、意見交換を行ないます。 最終的に卒業論文またはそれに準ずるレポートを執筆します。この演習のねらいは、文章作成能力を高め、プレゼンテーション能力を磨き、議論する力を養うことです。						
到達目標	①社会学的な見方や考え方を身につける ②データを収集・分析する力を身につける ③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける ④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける ⑤大学生としての文章作成能力を身につける						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 各自の進捗報告 第3講 目次の作成 第4講 目次の作成 第5講 文章の構成 第6講 卒業研究のディスカッション① 第7講 卒業研究のディスカッション② 第8講 中間報告会 第9講 卒業研究のディスカッション③ 第10講 卒業研究のディスカッション④ 第11講 卒業研究のディスカッション⑤ 第12講 卒業研究の発表① 第13講 卒業研究の発表② 第14講 論文指導 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	＜参考文献＞ 白井利明・高橋一郎，2013，『よくわかる卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房。						
事前・事後学習	報告内容に関する資料や文献に目を通しておくこと（1日20分）						
成績評価方法	卒業研究40%、ゼミでの報告30%、授業への参加度30%で評価します。 ※報告担当回に欠席した者は、原則として単位を与えないので注意すること。						
授業内の課題・提出方法	報告者は人数分のレジュメを事前に印刷して持参すること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告内容は全員でディスカッションします。						
担当者から一言	世の中の「あたりまえ」を疑うところが社会学の魅力です。途中で何度か3・4限を連続して行う場合があります。学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	専門演習 d			科目コード	471106	授業コード	114811
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。						
授業のねらい	本演習では、これまでに習得した知識や情報を活かして、計画的に卒業研究を展開していく。						
到達目標	卒業研究を展開し、卒業論文を完成させる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 卒業研究進捗状況報告・意見交換 第3講 卒業研究進捗状況報告・意見交換 第4講 卒業研究進捗状況報告・意見交換 第5講 卒業研究進捗状況報告・意見交換 第6講 卒業研究進捗状況報告・意見交換 第7講 卒業研究進捗状況報告・意見交換 第8講 卒業研究進捗状況報告・意見交換 第9講 卒業研究進捗状況報告・意見交換 第10講 卒業研究についてプレゼンテーション 第11講 卒業研究についてプレゼンテーション 第12講 卒業研究についてプレゼンテーション 第13講 卒業研究についてプレゼンテーション 第14講 卒業研究についてプレゼンテーション 第15講 総括						
テキスト・教材（参考文献含む）	特に指定しないが、適宜指示する。						
事前・事後学習	予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（90分）。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと（90分）。						
成績評価方法	研究内容（50%）、プレゼンテーション（50%）。						
授業内の課題・提出方法	授業内、授業以外の時間でも、適宜。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポート等の評価は都度個別に開示する。						
担当者から一言	毎回担当者を決めて、卒業研究について発表してもらう。学生の積極的な討論参加を期待する。						

授業科目名	専門演習 d			科目コード	471106	授業コード	114812
担当教員	鬼頭 浩文			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける						
授業のねらい	大学生活の最後の半年を、卒業研究を完成させることに専念したい。卒業研究(5000字程度の論文)は、懸賞論文をベースにより深く探求し、研究結果をプレゼン(パワーポイントで作成して発表)で人に伝えることを目標とする。なお、この演習と別に卒業論文(2万字程度)を書き上げて2単位の取得を目指す場合は、履修登録を別途することを忘れないように。詳しくは履修要綱を参照のこと。						
到達目標	卒業研究を完成させ、全員がゼミの中での発表会で頂点をめざして切磋琢磨することを通じ、考える力と伝えるパワーを修得する。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップor企業・業界研究)に向けた調査 3. 卒業研究執筆作業① 4. 卒業研究執筆作業② 5. 卒業研究執筆作業③ 6. 卒業研究中間発表 7. 卒業研究執筆作業④ 8. 卒業研究執筆作業⑤ 9. 卒業研究執筆作業⑥ 10. 卒論完成 11. プレゼン(レジュメA4×2ページ)準備 12. プレゼン完成 13. 研究発表会 14. 研究発表会 15. 学部研究発表会						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。						
事前・事後学習	卒業研究をやり遂げることも大切だが、ニュースや新聞などから社会の動きを知り、就職にも役立つ学習をする。これらの学習には、毎講義3時間ほどを要する。						
成績評価方法	ゼミの中での議論、プレゼンのパフォーマンス(5割)や卒業研究の評価(5割)により総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	テーマごとに完成させた課題をファイルか写真でMoodleに提出する。卒業研究は、教学課に印刷した完成品を提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	卒業研究の執筆に合わせ、助言を行う。						
担当者から一言	社会に出るための準備をしつつ、じっくり卒業研究に取り組んでほしい。						

授業科目名	専門演習 d			科目コード	471106	授業コード	114813
担当教員	松井 真理子			科目ナンバリング	PSS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける						
授業のねらい	前学期に引き続き、自分の研究計画に従い、4年間の学びの集大成となる研究を行います。						
到達目標	1 自分の進路や4年間の学びの集大成となる研究を完成させる。 2 調査・研究の手法や、論文の書き方を身に付ける。 3 これからの時代への視座を持つ。						
授業計画	第1講 ガイダンス・研究計画の確認 第2講 調査の方法・論文の書き方 第3講 卒業研究(1) 第4講 卒業研究(2) 第5講 卒業研究(3) 第6講 卒業研究(4) 第7講 卒業研究(5) 第8講 中間発表会 第9講 卒業研究(6) 第10講 卒業研究(7) 第11講 卒業研究(8) 第12講 卒業研究(9) 第13講 卒業研究発表会 第14講 ふりかえり 第15講 3年生研究発表会参加						
テキスト・教材（参考文献含む）	各自が探してきた資料が中心です。 適宜教員も必要な教材を提供します。						
事前・事後学習	（授業前）日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度) 授業内容について事前に予習しておくこと(60分) （授業後）学んだ内容を復習し、卒業研究に生かせるようにしておくこと(90分)						
成績評価方法	授業の取り組み姿勢 50% 卒業研究の内容 50%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で進捗状況についてまとめたものを課題として提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。						
担当者から一言	4年間の集大成を行います。これからの自分の進路に生かせる学びにします。						

授業科目名	地方自治論			科目コード	471201	授業コード	113702
担当教員	吉川 和挟			科目ナンバリング	PCD2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	<p>本講義では地方自治の制度と仕組み、役割などについて体系的に学びます。</p> <p>少子高齢化や人口減少が問題となっている現代において、地方自治体の役割はより大きくなり、その地域に根付いたより創造的な政策の提案が求められています。</p> <p>この講義を通して、皆さんが地方自治の担い手として地域にかかわっていく際の基礎知識を習得することを目指します。</p>						
到達目標	・地方自治に関する制度やしぐみを理解できる。						
授業計画	01. ガイダンス/地方自治「民主主義の学校」 02. 地方自治の現状 03. 首長 04. 議会 05. 地方公務員 06. 住民による統制 07. 条例制定 08. 地方自治体の組織編制 09. 地方自治体の権能と大都市制度 10. 地方税財政と予算 11. 中央政府と地方政府 12. 教育行政 13. 子育て行政 14. 高齢者福祉 15. 人口減少と地方自治 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・北村巨、青木栄一、平野淳一「地方自治論」有斐閣（2017）						
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）						
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：50% ・定期テスト（自筆ノートのみ持ち込み可）：50%						
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。						
担当者から一言	他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じることがあります。						

授業科目名	地域経済論	科目コード	471202	授業コード	112204
担当教員	岡 良浩	科目ナンバリング	PCD2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる				
授業のねらい	地域経済とは、日本では行政的区分である都道府県や経済的区分である首都圏・近畿圏などのことで、厳密に言えば『1つの国内を対象として、国民経済内部を地理的に分割した自立的な経済圏』のことを意味しています。このような地域の経済諸問題を対象とするのが地域経済学という学問分野です。この講義では地域経済学を概説します。				
到達目標	以下の3つを掲げています。 ①地域経済を理解する上で重要な基礎的概念を理解すること。 ②具体的な地域（中部圏）がどのような特徴をもった地域かということを理解すること ③地域経済政策の考え方を理解すること。				
授業計画	第1講 ガイダンス／地域の時代 第2講 地域とはなにか・都市とはなにか 第3講 経済学で地域をみる 第4講 地域経済の開放性 第5講 地域所得の決定 第6講 地域経済の成長 第7講 地域間格差 第8講 都市の成立と発展 第9講 中心地理論と都市システム 第10講 中部経済のポイント 第11講 名古屋の都市形成 第12講 三重県の経済をみる 第13講 地域経済政策（1） 第14講 地域経済政策（2） 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは特に使用せず、講義中に資料配付します。 （参考文献） 山田浩之他『地域経済学入門第3版』（有斐閣コンパクト）				
事前・事後学習	（予習）資料をあらかじめ読んでおいてください。経済学の応用分野ですから、経済学を復習しておいてください。（90分） （復習）講義中に理解度を確認する小テストを課します。（90分）				
成績評価方法	授業への参加態度（含む講義中の小テスト）20%、期末試験 80%				
授業内の課題・提出方法	ほぼ毎回、理解度の確認を兼ねて小テストを行います（教学ポストに提出）。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小テストは、コメントをつけて講義中に返却します。				
担当者から一言	経済学の言葉を使って地域を語れるよう、意欲のある学生の履修を期待します。				

授業科目名	政策過程論			科目コード	471203	授業コード	115502
担当教員	吉川 和挟			科目ナンバリング	PCD2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献できる人材になる。 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	<p>本講義では政策が作られ、実施され、終了するまでの問題解決プロセスを体系的に学びます。</p> <p>そして、各段階における基本的モデルを紹介しつつ、問題解決プロセスの全体像を見通すとともに、考慮しなくてはならない各種要素についても解説を行います。</p> <p>この講義を通して政策に関するニュースに対して自らの視点からの意見を提出できるようになることに加え、生活の中で直面する各種問題に対する問題解決能力を身に着けることを期待します。</p>						
到達目標	・ 政策のプロセスに関する全体的な知識を身に付けられている。						
授業計画	01. ガイダンス/公共政策とは何か 02. 政策過程の構造 03. 問題の発見と設定 04. 政策形成 05. 政策決定（1） 06. 政策決定（2） 07. 政策実施（1） 08. 政策実施（2） 09. 政策評価 10. 政策終了 11. 政策の成功と失敗 12. 政策分析 13. 政策デザイン 14. 政策と文脈 15. 政策と価値 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・ 秋吉貴雄著「入門 公共政策学」中公新書（2017） ・ 石橋章市朗、佐野亘、土山希美枝、南島和久著「公共政策学」ミネルヴァ書房（2018）						
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）						
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・ 講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：50% ・ 定期テスト（自筆ノートのみ持ち込み可）：50%						
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。						
担当者から一言	他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じることがあります。						

授業科目名	現代財政学			科目コード	471204	授業コード	111205
担当教員	鶴田 利恵			科目ナンバリング	PPT2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	この講義では、財政の基本的な理論や考え方、経済政策や社会保障制度、税の基礎理論と税制の仕組みについて、ミクロ経済学・マクロ経済学の両面から学んでいきます。また、現在の日本が抱えている財政上の諸問題についても適宜解説していきます。また、みなさんの意見や疑問を聞き、活発なディスカッションも行いながら進めていきます。						
到達目標	財政の基本的な考え方や仕組みを理解し、日本の財政政策について自分なりの意見を言える力を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 政府の役割 第3講 市場と政府 第4講 財政の仕組み 第5講 公共財 第6講 経済政策 第7講 社会保障制度 第8講 社会政策 第9講 税制の設計 第10講 直接税 第11講 間接税と税制改革 第12講 政府の借金 第13講 地方分権 第14講 公民連携 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	コピーを配布します。 使用テキスト：山重慎二「財政学」中央経済社ベーシックプラスシリーズ（2016年）2, 400円（税別）						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す（90分以上）。						
成績評価方法	授業態度20%、定期試験80%により評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回Moodleで小テストを実施します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果や授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	行政法			科目コード	471205	授業コード	115803
担当教員	小林 慶太郎、中西 紀夫			科目ナンバリング	PPT2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献できる人材になる。						
授業のねらい	<p>この授業では、行政と法の関係について扱っていきます。行政の様々な活動は、様々な法的な規範によって規定されています。</p> <p>講師として、現在四日市市の職員として働いている本学卒業生（清水さん、中村さん、室田さん、田端さん）にも登壇いただき、行政の最前線で、法的な規範がどのように使われているか、お話いただきます。将来、公務員になることを考えている学生はもちろんのこと、民間企業に就職する学生も、私たちの生活が、いかに法的な規範とは切っても切れない関係にあるのか学び取ってくれることを、ねらいとしています。</p>						
到達目標	法的な規範の効力や意義を知り、日常生活においても法的な規範の存在を意識できるようになることが、この授業の到達目標です。						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス～「行政法」について～（小林）</p> <p>第2講 法学の中の行政法（中西）</p> <p>第3講 法令と条例（小林）</p> <p>第4講 四日市市の産業と法規制（清水）</p> <p>第5講 選挙活動と公職選挙法（中村）</p> <p>第6講 都市計画と法律（清水）</p> <p>第7講 公共施設の指定管理（中村）</p> <p>第8講 新型コロナウイルス対策と法（清水）</p> <p>第9講 夜の街と法規制（室田）</p> <p>第10講 生活保護行政と法（室田）</p> <p>第11講 市民協働を促進するための条例（室田）</p> <p>第12講 文化行政と法（田端）</p> <p>第13講 観光・シティプロモーションと法（中村）</p> <p>第14講 公営ギャンブルと法（清水）</p> <p>第15講 行政・まちづくりと法規制（小林）</p> <p>定期試験（レポート提出）</p> <p>※ 講師の都合や新型コロナウイルスの影響などにより、日程や内容が変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使いません（必要に応じて資料を配布する場合があります）						
事前・事後学習	<p>日頃からテレビや新聞の地域・行政に関するニュースに目を通すこと（毎日30分以上）。</p> <p>講義内容のノートを見返して、不明な点などは、授業中に紹介する参考文献等で調べておくこと（60分）。</p>						
成績評価方法	<p>欠席4回以上の者には、原則、単位は与えません。なお、課題・宿題の提出内容が著しく酷い場合や、授業中に寝ているなど受講態度が悪い場合には、欠席扱いとすることがありますので注意してください。成績は以下の配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取組姿勢および講義時に指示する簡単な課題の提出状況：75% ・ 定期試験（レポート）：25% 						
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に対しては、以降の講義でコメントします。						
担当者から一言	<p>学問としての行政法だけではなく、実際の行政・まちづくり活動の視点から、法について講義を行います。</p> <p>※ 本科目は三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格の認定科目です。</p>						

授業科目名	行政学			科目コード	471206	授業コード	112703
担当教員	吉川 和挟			科目ナンバリング	PPT2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	<p>本講義では公共サービスの執行を担う行政について、その組織構造、歴史、機能などの基本的事項を体系的に学びます。</p> <p>行政機関の提供する公共サービスは私たちの生活になくてはならないものですが、それらがどのように決められ、どのように運用されているのかは普通に生活しているだけではなかなか見えてきません。</p> <p>この講義を通して、一人の市民として公共サービスがいかにして執行されているのかを理解し、自らの住む国・自治体の姿をより鮮明に理解することができるようになることを目指します。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政学に関する基本的な用語・概念などを理解できる ・ 日常の政策や行政に関するニュースなどを理解できる 						
授業計画	01. ガイダンス/行政学とは 02. 行政とは何か 03. 近代官僚制 04. 行政学の成立と展開 05. NPMとガバナンス 06. 執政制度 07. 行政組織制度 08. 公務員制度 09. 国と自治体の制度改革 10. 政策の調査と立案 11. 法律・条例 12. 予算制度 13. 政策の実施と評価 14. 行政活動と行政統制 15. 行政と地域コミュニティ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・ 伊藤正次、出雲明子、手塚洋輔「はじめての行政学［新版］」有斐閣（2022）						
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）						
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・ 講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：50% ・ 定期テスト（自筆ノートのみ持ち込み可）：50%						
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。						
担当者から一言	他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じることがあります。						

授業科目名	都市法	科目コード	471207	授業コード	115202
担当教員	中西 紀夫	科目ナンバリング	PPT3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。				
授業のねらい	本講義のねらいは、都市の公害・環境に関係する法の基礎を学ぶことです。つまり、国民に安全かつ健康で文化的な生活ができる快適な環境の都市をつくるための学びです。これは憲法25条の「生存権」や13条の「幸福追求権」との関係でも重要です。また、都市計画必要となる環境対策については現代社会の変化を踏まえながら、分かりやすく解説します。				
到達目標	本講義では、都市の公害・環境対策の関連法を体系的に理解することを目標としています。具体的には、時代別に学んでいくことにより、法の制定経緯および骨子を概観することにつながります。最終的には、都市の公害・環境対策に関わる仕事の実践的な法処理技術の取得まで対応できる人材育成を目指しています。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 公害と法 第3講 環境法の伝統的な法体系 第4講 憲法との関係 第5講 行政法との関係 第6講 民法との関係 第7講 刑法との関係 第8講 都市の環境対策と法規制 第9講 公害・環境規制法 第10講 都市開発と環境アセスメント 第11講 廃棄物・リサイクル対策 第12講 私法的な救済方法 第13講 条例による規制とその問題点 第14講 環境のための3R 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献含む）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）				
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、テキストを読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、上述の参考文献や自分に合った六法を購入しておくといでしょう。				
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度 30%：授業中に行うテキストの講読の出来や質問の受け答えはもとより、小テストの結果も含む。 定期試験 70%：すべて持込可				
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。				
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちららも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。				

授業科目名	政策法務	科目コード	471208	授業コード	111807
担当教員	中西 紀夫	科目ナンバリング	PPT3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。				
授業のねらい	自治体の政策に関わる法律の実務、すなわち自治体法務について学びます。憲法との関係を基本に置きつつ、民法や地方自治法などの法律の規定や行政実例を覚えることを繰り返していても、法処理技術（法務能力）を身につけることは困難であると考えられています。そこで、法律や条例を使いこなすために必要な「法的な捉え方」が身につくように工夫しながら、一方的な講義形式にならないような形にしていきたいと思います。				
到達目標	市役所等を目指している人にとって、就活時に法律や条例を実務上で使いこなせる能力、すなわち、法的な考え方が出来る学び方をしたというアピールをできるくらいになるまでの学力の修得を、教育目標としています。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 法的なものの考え方（1） 第3講 法的なものの考え方（2） 第4講 法律問題の考え方（1） 第5講 法律問題の考え方（2） 第6講 法の解釈適用～基礎編～（1） 第7講 法の解釈適用～基礎編～（2） 第8講 法の解釈適用～応用編～（1） 第9講 法の解釈適用～応用編～（2） 第10講 条例、規則、要綱 第11講 契約と行政処分のしくみ 第12講 行政手続のしくみ 第13講 自治体の組織のしくみ 第14講 法律問題の実際、条例の役割 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書：森幸二著『1万人が愛した（はじめての自治体法務テキスト）第一法規（2017年）2400円＋税（価格） 参考文献：吉田勉著『事例から学ぶ 実践！自治体法務・入門講座』学陽書房（2018年）2600円＋税（価格）				
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、テキストを読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、上述の参考文献や自分に合った六法を購入しておくとういでしょう。				
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度 30%：授業中に行うテキストの購読の出来や質問の受け答えはもとより、小テストの結果も含む。 定期試験 70%：すべて持込可				
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。				
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらから臨機応変な対応が必要になることもあります。中座や退室は私の許可を取って下さい。出席する以上は、集中して受講しましょう。				

授業科目名	地域産業論	科目コード	471209	授業コード	112102
担当教員	岡 良浩	科目ナンバリング	PCD2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。				
授業のねらい	<p>地域の将来を考えると、それぞれの地域の産業がどのように発展するかが重要であることは言うまでもありません。しかし産業構造が変化するなかで、地域の産業は一様ではありません。我が国では、地域の既存集積や資源を活用して、どのように産業を産み出していくかが重要になりつつあります。地域産業政策も、基盤整備型・産業誘致型の政策から、産業創造力を支える仕組みづくりが重要になりつつあります。</p> <p>本講義では、地域産業に関する緒論や産業立地論を解説するとともに、日本の産業地形成・地域産業政策を解説します。</p> <p>また講義時間の一部使っ</p>				
到達目標	<p>到達目標は、以下の3つです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域産業に関する緒論を理解する 2. 中部圏の主要な産業地形成を理解する 3. 地域産業政策を理解する 				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス／地域産業の緒論（1）ペティークラークの法則／産業分類</p> <p>第2講 地域産業の緒論（2）ホフマンの法則／ロストウの発展段階説／</p> <p>第3講 地域産業の緒論（3）工業化の終焉／産業空洞化</p> <p>第4講 産業立地論（1）工業立地論の概観／輸送費問題</p> <p>第5講 産業立地論（2）ウェーバー工業立地論</p> <p>第6講 産業立地論（3）商業立地論（ホテリングモデル）</p> <p>第7講 日本の産業地形成（1）概観</p> <p>第8講 日本の産業地形成（2）地場産業論／大都市産業論</p> <p>第9講 四日市の産業</p> <p>第10講 中部圏の産業</p> <p>第11講 地域産業政策</p> <p>第12講 企業見学（1）</p> <p>第13講 企業見学（2）</p> <p>第14講 企業見学（3）</p> <p>第15講 企業見学（4）</p> <p>※企業見学は、「地元企業魅力発見バスツアー」を行います（四日市市との連携授業）。前期後期試験の終了直後に実施を予定しています。参加人数に制限があります。別途自由見学コースも設定する予定です。</p> <p>※詳細は講義中にお知らせいたします。</p>				
テキスト・教材（参考文献含む）	特に使用せず、講義中に資料配布します。				
事前・事後学習	<p>配付資料に事前に目を通しておいください。（90分）</p> <p>講義中に課される小レポートを行ってください。（90分）</p>				
成績評価方法	学期末試験（60％）小レポート（20％）企業見学レポート（20％）				
授業内の課題・提出方法	講義中に小レポートを課します。教学ポストに提出いただくことを予定しています。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小レポートはコメントをつけて講義中に返却いたします。				
担当者から一言	講義を通じて、自分の故郷や関心のある地域をイメージし、どのような産業発展を経験し、どのような課題・展望があるかを考えるきっかけにしてください。				

授業科目名	地域開発論			科目コード	471210	授業コード	111606
担当教員	岡 良浩			科目ナンバリング	PCD2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる						
授業のねらい	この講義では、都市を中心に空間利用のあり方を考えます。そのねらいは大きくわけて以下の4つです。第1は、人類の長い歴史のなかで、都市がなぜ、どのように形成されていったのか（都市の原理）を理解することです。第2は、産業革命後の都市問題の発生と解決方法（近代都市計画）の形成過程を知ることです。第3は、現在の都市がどのような制度によって計画されているか（都市計画制度）を理解することです。第4は、これからの都市のあり方がどのように考えられているかということを理解することです。						
到達目標	到達目標としては、講義のねらいの4つ（都市の原理・近代都市計画・都市計画制度・都市のあり方）を理解し、まちづくりを空間利用という観点から考える基礎を身につけることを目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス／地域開発と都市 第2講 都市の時代（世界人口・都市人口） 第3講 世界の都市形成史（1）古代都市 第4講 世界の都市形成史（2）ローマ 第5講 日本の都市形成史 第6講 都市と人間（都市の原理） 第7講 近代都市計画の萌芽（1）都市問題と近代都市計画 第8講 近代都市計画の萌芽（2）田園都市論／近隣住区論 第9講 日本の都市計画制度（1）都市計画の内容／土地利用計画 第10講 日本の都市計画制度（2）都市計画事業（土地区画整理事業・市街地再開発事業） 第11講 これからの都市像～コンパクトシティを中心に～ 第12講 四日市の都市計画 第13講 まちづくりの事例 第14講 国土計画と国土形成計画 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	特に使用せず必要に応じて講義中に資料配布します。						
事前・事後学習	予習：テキストのあらかじめ指定した範囲を読んでおくこと（90分）。 復習：講義中に課される小テスト（作文）を行ってください（90分）。						
成績評価方法	講義中の小レポート（20%） 学期末の定期試験（80%）						
授業内の課題・提出方法	講義中に理解度を確認する小レポート（作文）を課します。教学ポストへの提出を予定しています。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小レポートは、コメントをつけて講義中に返却します。						
担当者から一言	都市は、日常生活にかかわる身近な場です。自分のふるさとや魅力あるまちを頭に思い浮かべながら、皆さんが都市づくりに関心を持つことを期待します。 本科目は三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格の認定対象科目です。						

授業科目名	地域福祉論	科目コード	471211	授業コード	115307
担当教員	柴田 啓文	科目ナンバリング	PCD2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。				
授業のねらい	地域の福祉にかかわる問題をデータに基づいて考察します。福祉について議論するとき、理念的、抽象的になりがちです。社会のあり方や人権にかかわることですから当然のことではありますが、福祉、特に地域福祉は地域の具体的な生活にかかわることですので、データの裏付けなしに議論することはできません。この講義では、地域福祉にかかわる資料、データを収集し、分析します。その際、ExcelやPythonを使用します。分析結果を文書にまとめたり、発表するためのWordやPowerPointの使用方法も紹介します。				
到達目標	福祉の理念を理解し、地域の現状を知り、あるべき地域福祉のあり方を自ら考える力を身につけます。また、そのために関係データを収集し、処理するスキルをやしないます。				
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の内容と評価(毎回の授業ノート提出はExcel)。登録希望者が多い場合は抽選。 第2回 教育支援システム(Moodleの使用方法) 第3回 COVID-21と世界 第4回 COVID-21と日本 第5回 COVID-21と地域 第6回 世界の人口と人口構成 第7回 日本の人口減少 第8回 日本の少子高齢化 第9回 日本の予算と福祉 第10回 地域の予算と福祉 第11回 Internet of ThingsとAIと福祉 第12回 生活保護の法規 第13回 生活保護の問題点 第14回 ベーシックインカム 第15回 まとめ				
テキスト・教材（参考文献含む）	使用しません。 授業ではインターネット上の地域福祉関連文書を利用します。				
事前・事後学習	福祉関連サイトを紹介しますので、毎日30分は各サイトを閲覧し、福祉についての最新の情報やデータを収集してください。また、授業で取り上げた各テーマについてのデータを集めてExcelやPythonで分析してください。				
成績評価方法	平常点50%と学期末試験50%により評価します。平常点は、毎回のノート(主にExcel)の提出と小テストなどによります。				
授業内の課題・提出方法	教育支援システムを使用します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストや提出ノートの得点は教育支援システムのコースの「評定」、あるいはフォーラムに表示されます。				
担当者から一言	コンピュータ教室での授業です。ExcelやPythonを使用しますが、基礎から説明しますので、事前にそれらの知識や技能は必要ありません				

授業科目名	社会保障論			科目コード	471212	授業コード	111808
担当教員	李 修二			科目ナンバリング	PCD2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する科目です。						
授業のねらい	この講義では、現代日本の社会保障における根本的な課題について学び、考えていきます。社会保障制度とは、少子高齢化を大前提とする今後の日本社会にとって、最も優先して取り組まれて行かなければならない事柄の一つになっています。そして、たとえば、日々の経済活動のかかなりの部分が、何らかの形で社会保障と関係するようにさえなっているのです。そこで、現行の日本の社会保障制度の基本的な仕組みや特徴と、そこでの課題を理解することが講義のねらいとなります。						
到達目標	この講義で学ぶ様々な社会保障制度がなぜ必要とされているのか、どのような経緯で成立させられてきたのか、そして、将来に向けてどのような課題があるのか。将来の日本の社会保障のあり方をめぐる意欲的な学説や見解に注目し、それらを学ぶことを通じて、社会保障論の要点を理解することが講義の到達目標となります。						
授業計画	第1講 ガイダンス、「人生前半の社会保障」とは～その1 第2講 「人生前半の社会保障」とは～その2 第3講 ライフサイクル論 第4講 日本の社会保障の特徴 第5講 社会保障をめぐる新しい課題 第6講 教育と社会保障 第7講 若者基礎年金構想 第8講 年金論 第9講 福祉国家および再分配論 第10講 定常型社会論と社会保障 第11講 資本主義論と社会保障 第12講 環境論と社会保障 第13講 総合政策論と社会保障 第14講 医療政策論～その1 第15講 医療政策論～その2 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト 書き込み式の講義ノートを毎回プリントにして配布します。他にテキストは使用しません。 参考文献 広井良典『持続可能な福祉社会』2006年、ちくま新書 広井良典『人口減少社会のデザイン』2019年、東洋経済 棕野美智子ほか『はじめての社会保障』2022年、有斐閣						
事前・事後学習	毎回の授業後、復習課題の小レポートを書いてもらい、次の授業回までに提出してもらいます。また、必ず前回の講義ノートを復習して授業にのぞんでください。（復習、90分以上） さらに、毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイトなどでの社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習、90分以上）						
成績評価方法	毎授業ごとの小レポート課題で30%評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の試験で70%評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題の小レポートは、Moodleを通じて提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の小レポートの評価基準はガイダンス時に説明します。また小レポートやその他の質問等には、Moodleを通じて、評価結果や応答をフィードバックします。						
担当者から一言	社会保障の知識は今日きわめて重要かつ有用なものとなっています。ぜひ関心を持って、しっかり学習してください。細かな知識を覚える必要はありません。意味や意義を少しでも深く理解するように学んでください。						

授業科目名	地域社会学			科目コード	471213	授業コード	111407
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	PCD2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この授業では地域社会を社会的に考える方法を学びます。地域社会を語る語彙と視点を身につけることが目標です。						
到達目標	地域を取り囲む社会的背景を理解する						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 都市の成長 第3講 都市の人間関係 第4講 都市空間の家族と親族 第5講 都市の社会集団 第6講 都市の類型 第7講 都市と不平等 第8講 家と村 第9講 グローバル化と地域社会 第10講 大学と地域 第11講 まとめ① 第12講 社会地図を作る① 第13講 社会地図を作る② 第14講 社会地図を作る③ 第15講 まとめ② 必要に応じてグループワークを行います。						
テキスト・教材（参考文献含む）	<参考文献> 森岡清志編『地域の社会学』有斐閣、2008年。						
事前・事後学習	新聞・ニュースに目を通す（1日20分）						
成績評価方法	平常点30%、中間試験30%、期末レポート40%。 平常点は授業への参加度とミニツツペーパーの内容で評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内でミニツツペーパーを記入し提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニツツペーパーの内容は翌週の授業内で適宜コメントします。						
担当者から一言	学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	環境社会学			科目コード	471214	授業コード	115605
担当教員	村田 静昭			科目ナンバリング	PCD2006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	人類は、優れた科学技術を生み出し大量の資源とエネルギーを使うことで、今ある安全・快適・便利な生活を享受してきました。しかしこのような光に照らされた繁栄に対する闇の側面として、自らが地球に働きかけた結果として生じた環境破壊が未来に深刻な影を落としています。授業では現在も継続・複雑化している環境破壊について学び、被害の軽減と新たな発生を防ぎ繁栄を持続・拡大させていくための知識を学びます。						
到達目標	公害を始めとする環境破壊の歴史（原因・広がり・加害者／被害者などの変遷）を知る。環境破壊抑制への取り組みと成果の歴史について理解する。 現在進行中で今後も拡大し得る環境破壊について回復と抑制を考察する。 より良い生活の獲得といった視点から環境破壊と開発とのバランスを考察する。 新たな環境破壊の発生について考え、未然抑止に必要な知識やプロセスを考察する。						
授業計画	第 1 講 ガイダンス （快適な環境とはどのようなものか） 第 2 講 環境破壊の歴史 1 公害の発生源・被害とその変遷 第 3 講 環境破壊の歴史 2 公害の背景にある時代的・社会的背景とその変遷 第 4 講 環境破壊の歴史 3 ローカルからグローバルへと被害の拡大と変遷 第 5 講 環境破壊の歴史 4 時間と世代を超えた被害の拡大 第 6 講 人類生存の脅威 1 淡水の確保 第 7 講 人類生存の脅威 2 疾病との戦いと葉 第 8 講 人類生存の脅威 3 食料と農業 第 9 講 人類生存の脅威 4 気候変動 第 10 講 便利で安全な生活を支える新材料 1 有機塩素化合物 第 11 講 便利で安全な生活を支える新材料 2 合成樹脂・合成繊維 第 12 講 科学技術の光と闇 第 13 講 未来への責任 1 地球温暖化との戦い 第 14 講 未来への責任 2 使う責任／使わない責任 第 15 講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。参考書として次の本を上げておきます。 「地図とデータで見る資源の世界ハンドブック」ベルナデット・メレンヌ＝シュマルケル著、蔵持不三也訳 原書房 2022年						
事前・事後学習	授業では皆さんとのディスカッションをできるだけ取り入れていきます。授業中に課題を出しますので次回の授業にはレポートとして提出してください。一部の学生さんには授業中にその内容を発表してもらいディスカッションします。この授業では日々の生活そのものも教材になりますから、授業中に扱った内容だけでなく関連するニュースや話題にも注意を払い考察を深めそれを自分の言葉（口頭・文章）で説明できるように心がけて下さい。						
成績評価方法	授業中での口頭による課題発表とレポート提出 50%・・・授業中に解説します 定期試験 50%・・・終了後講評します						
授業内の課題・提出方法	課題・提出方法・締め切りなどはその都度パワーポイントスライドにて伝えます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に関するコメントはその一部を授業時間中に説明します。						
担当者から一言	四日市市には四日市ぜんそくの克服に取り組んだ貴重な歴史があります。現在深刻化している環境問題に取り組むためにこのような歴史を学びます。関連してSDGsやCSRについても言及します。授業では高等学校における化学・物理・生物の基本的な内容が出てきますが、分からないことがあったらその場で質問してください。						

授業科目名	食とまちづくり			科目コード	471216	授業コード	115609
担当教員	小林 慶太郎			科目ナンバリング	PCP2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	この授業では、食とまちづくりについて扱っていきます。近年、まちづくりとの関係から注目されるようになってきている食文化。この授業では、食文化を通じたまちづくりの可能性について、各地域の食文化や取り組みの違いについて探求したり、実際の食を通じたまちづくり活動の現場を体験したりすることを通じて学びます。学生諸君が、まちづくり活動の実際を五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。						
到達目標	この授業では、学生諸君が、まちづくりの実際を知ることを経て、まちづくりについての自分なりの考え方を身につけることを、到達目標としています。						
授業計画	第1講 ガイダンス：まちづくりとは何だろう 第2講 四日市の特徴と魅力（グループワーク） 第3講 四日市の魅力を伝えるために（グループワーク） 第4講 食文化の多様性と地域 第5講 食と6次産業化 第6講 食と観光 第7講 食によるまちづくり 第8講 四日市とんてきと四日市 第9講～第14講 実習 東海北陸B-1グランプリin四日市（今秋開催予定、2日間）へのスタッフとしての参加を、授業6回分としてカウントする 第15講 食によるまちづくりの課題と可能性（グループワーク） 定期試験（レポート提出） ※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし（必要に応じて資料を配布する場合があります） 【参考文献】 俵慎一「B級ご当地グルメでまちおこし」学芸出版社（2011年）、1,900円＋税						
事前・事後学習	日頃から食やまちづくりに関するテレビや新聞のニュースに目を通すこと（90分／週）。 ご当地グルメなどの食に関する情報を積極的に収集すること（90分／週）。						
成績評価方法	3分の1以上欠席した学生には、原則として単位は与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・実習への取組姿勢：48% ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況：27% ・定期試験（レポート）：25%						
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。						
担当者から一言	履修希望者は、前学期中に開催する事前説明会に必ず出席するようにしてください。 なお、実習に参加できない学生は、出席要件を満たせないため、単位を取得できません。 履修する以上は、必ず参加するようにして下さい						

授業科目名	祭りとまちづくり		科目コード	471217	授業コード	112403
担当教員	岩崎 恭典、浅井 雅		科目ナンバリング	PCO2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。 幅広い人間力を身につける。					
授業のねらい	<p>地域の文化は、そこに生活する人々によって育まれている。しかし、高齢化や生活様式、価値観の多様化、そして、特にコロナ禍により、伝統文化の継承は、危機に瀕している場合が多い。</p> <p>この講義では、「大入道山車」（三重県指定有形民俗文化財）、富田の鯨船行事（ユネスコ文化遺産）、桑名・石取祭を事例として、伝統文化の保存・継承には、どのような課題があるか、保存・継承の持つ意味を、実際に祭りや保存活動に参加することにより、考えてもらおうとするものである。</p>					
到達目標	講義と実習を通じて、祭りの持つ意味と、祭りの果たす地域統合の役割について学び、自分自身がこれからの地域社会で何ができるのかを明確にすることを到達目標とする。					
授業計画	<p>第1講 ガイダンス、詳細な講義・実習計画の説明</p> <p>第2講 都市祭礼とは何か（浅井、岩崎）</p> <p>第3講 都市祭礼とまちづくり（浅井、岩崎）</p> <p>第4～8講担当者…前田憲司氏（芸能評論家）＋岩崎</p> <p>第4講 四日市祭の歴史</p> <p>第5講 四日市祭の現在</p> <p>第6講 四日市祭の課題</p> <p>第7講 保存継承の問題点と今後の課題 I</p> <p>第8講 保存継承の問題点と今後の課題 II</p> <p>第9講 岩戸山山車の復活 講義（岩戸山保存会会長）</p> <p>第10講 大入道山車の保存継承上の課題 講義（大入道保存会会長）</p> <p>第11講 富田鯨船の保存継承上の課題 講義（富田鯨船中島組会長）</p> <p>第12講 桑名石取祭りの保存継承上の課題 講義（桑名堤原祭車保存会会長）</p> <p>第13講 祭りの魅力について 講義（弥な屋店主）</p> <p>第14講 ここまでのまとめと実習の班分け（浅井、岩崎）</p> <p>第15-1講 現地実習① 7月23日 日曜日 午前 大入道の組み立てへの参加（岩崎引率）</p> <p>第15-2講 現地実習② 8月6日 日曜日 終日 大四日市祭 岩戸山山車、勢州丸鯨船、大入道山車、その他の山車の演技への参加（浅井、岩崎引率）</p> <p>第15-3講 現地実習③ 8月6日 日曜日 終日 桑名・石取祭り参加（岩崎引率）</p> <p>第15-4講 現地実習④ 8月14・15日 終日 富田鯨船行事参加（岩崎引率）</p> <p>後日、レポートを提出のこと</p>					
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。必要に応じてレジメを出す。					
事前・事後学習	<p>講義期間中については、専門家による講義もあるので、前回までの講義内容の復習をしておく必要がある。</p> <p>実習期間までに、間があるので、講義内容は実習までに復習しておくこと。</p> <p>また、形態の異なる4つの実習に参加するので、それぞれについて、復習が必要である（1日30分）。</p>					
成績評価方法	成績評価については、組立実習や祭りなどへの取り組み意欲（50%）、レポート（A4版3枚以上）の評価（50%）により行う。					
授業内の課題・提出方法	講義に際しては、課題に即した小レポートあるいは「大福帳」による感想のどちらかを毎回授業時間内に提出してもらう。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、「大福帳」については、次の授業時に振り返りを行いつつ、次の授業時に返却する。期末のレポートについては、返却を希望するものは、9月以降、申し出ること。					
担当者から一言	この講座は、四日市市中納屋町大入道保存会のご協力を得て過去15年にわたって開講しているものである。この間、多くの山車保存会が授業の場の提供を申し出ている。地域の祭りに主体的に参加してみようとする学生諸君の参加を望むところである。					

授業科目名	音楽とまちづくり			科目コード	471218	授業コード	114510
担当教員	鬼頭 浩文、前川 督雄			科目ナンバリング	PCO2006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる						
授業のねらい	四日市市では、「街は劇場、通りは舞台 主役はあなた♪」の合言葉のもと、2012年から、市民ボランティアが中心になって「四日市JAZZフェスティバル」が開催されています。この授業では、「四日市JAZZフェスティバル」を通じて街のにぎわいを創り出そうと取り組んでいる方々を講師に迎えて話を聞いたり、実際に現場に出かけて行ってボランティアスタッフとしてこの活動のお手伝いをしたりする予定です。学生諸君が、音楽イベントを通じたまちづくり活動の実際を五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。						
到達目標	音楽フェスの運営方法を実践的に学ぶとともに、音楽をまちづくりにつなげる仕組みや市民の活動について学び、ここで得た知識を使って、将来地域社会で活躍できる人材になることが目標である。						
授業計画	第1講（9/28）ガイダンス（鬼頭・前川） 第2講（10/5）JAZZフェスとまちづくり（実行委員長柳川さん）① 第3講（10/12）イベントに向けた心構えと詳細打ち合わせ（実行委員会 山川さん、鬼頭・前川）② （10/19は休みです） 第4～6講（10/21）現地実習（イベントの見学・スタッフ参加を3コマとしてカウント） 第7～10講（10/22）現地実習（イベントにスタッフとして参加＝4コマとしてカウント） 第11講（10/26）四日市JAZZフェスティバルの会場設営（実行委員会 堀木さん）③ 第12講（11/2）四日市JAZZフェスティバルの経費と協賛（実行委員会 阪さん）④ 第13講（11/9）四日市JAZZフェスティバルの発信とメディア（実行委員会 山川さん）⑤ 第14・15講（11/16・23） 人間と音、まつりによる伝統的共同体の組織化、環境音とまちづくりの内容を2コマで（前川）⑥⑦ （11/30以降は予備日） 定期試験（レポート提出） ※都合により講義計画が変更になる可能性があります。掲示等を見て見るようにしてください。なお、現地実習を遅刻・欠席した者には、クラブの試合等が理由であっても、原則として単位は与えません。忌引きや伝染病などの公欠にあたる理由が発生した場合は、課題などで代替することを検討します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	JAZZフェスのパンフレットと配布資料						
事前・事後学習	座学は必ず講義を1時間ほどかけて振り返り、7回の小レポートに取り組むこと。また、フィールドワークについて、記憶が消えないうちにパンフレットを見ながらイベントを数時間かけて振り返ること。						
成績評価方法	現地実習に取り組む姿勢・パフォーマンス30%、講義で課す課題40%（①～⑦）、定期試験（レポート）30%で総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	7回の課題を提出してもらう						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対するコメントを学生に返す						
担当者から一言	最も重要な現地実習に参加できない学生は、単位の修得が極めて困難になります。						

授業科目名	鉄道とまちづくり			科目コード	471219	授業コード	112705
担当教員	岩崎 恭典			科目ナンバリング	PCO2007		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。 幅広い人間力を身につける。						
授業のねらい	<p>自動車が移動手段として普通となっている北勢地域であるため、どの鉄道会社も、通勤・通学客の減少によって、苦境にあることは事実である。</p> <p>では、このまま、鉄道は消え去る運命にあるのだろうか。</p> <p>この講義では、今後の超高齢社会のなかでは、必要性が高まるに違いないはずの鉄道事業者たる三岐鉄道を素材として、その経営戦略を具体的に学ぶとともに、地域社会はどうあるべきか、公共交通体系はどうあるべきか、そのためには、企業とともに我々住民はどうあるべきかを、具体的に学ぼうとするものである。</p>						
到達目標	この講義を通じて、公共交通の重要性を知るとともに、そのために住民としてどう行動すべきかを知り、また、鉄道の利用者増を目指したさまざまなイベントのノウハウを取得することも到達目標とする。						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 開講の狙い 三岐鉄道の経営戦略 講義（担当者…岩崎）</p> <p>第2講 10月1日・日曜日を予定 現地見学 北勢線・三岐線を実際に乗り回し、ボランティア運営による施設（軽便鉄道博物館、庭箱バス、貨物鉄道博物館等）、東員駅のCTC等を見学する</p> <p>第3講 乗り回しツアーの感想・意見交換会</p> <p>第4講 鉄道とまちづくり 北勢地域の鉄道 講義（岩崎）</p> <p>第5講 三岐鉄道の鉄道事業概要 講義（㈱三岐鉄道鉄道部長及び担当者）</p> <p>第6講 コミュニティバスと鉄道との連携について 講義（東員町担当者）</p> <p>第7講 養老鉄道の場合 講義（㈱養老鉄道取締役）</p> <p>第8講 個別研究のテーマ出し</p> <p>第9講 テーマ別の研究班編成</p> <p>第10講 研究班ごとのグループワーク</p> <p>第11講 研究班ごとのグループワーク</p> <p>第12講 サンタ電車運行準備</p> <p>第13講 サンタ電車運行準備</p> <p>第14講 12月23日・土曜日を予定 北勢線サンタ電車運行</p> <p>第15講 グループワーク成果報告会・反省会、レポート提出</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	教材は、コピーにて配布する。希望者には、（㈱）三岐鉄道・四日市大学総合政策学部編「地域活性化に地方鉄道が果たす役割-三岐鉄道の場合」（2008年9月、交通新聞社）を貸し出す。						
事前・事後学習	地方鉄道の苦境、特に近隣のあすなろう鉄道や養老鉄道、伊賀鉄道の動向を伝える新聞記事、ネット情報を収集しておくように。イベント企画や事例研究の際に役立つであろう（1日30分）。						
成績評価方法	成績評価は、研究テーマへの取り組み意欲（50%）、成果報告のプレゼンテーション結果の評価（50%）により行う。						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義については「大福帳」を、現地視察やサンタ電車の運行を含むフィールドワークについては、レポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートについては、成績評価終了後に、希望者に返却する。毎回の講義については、「大福帳」を通じてフィードバックを行う。						
担当者から一言	この講座は、（㈱）三岐鉄道と沿線自治体の全面的な協力により実施されるものです。実際に、三岐鉄道の事業に触れて、鉄道の存続に賭ける社員や公務員の情熱を感じて下さい。講義、実習、ゼミ形式と様々な形式で行われますから、特に日程に注意するように。						

授業科目名	コミュニティ論			科目コード	471220	授業コード	115503
担当教員	倉田 英司			科目ナンバリング	PCO2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。 幅広い人間力を身につける。						
授業のねらい	この講義では、地域における住民主体の活動として、自治会・町内会・市民活動団体などを取り上げる。少子高齢化や人口増加などの社会構造の変化により、地域では様々な課題を抱えており、住民による活動も多様化してきている。講義では、住民による活動の歴史、実情、今後の方向性と課題について、各地の実例などを踏まえて整理する。また実習を通じて、住民による新たな活動、社会への生かし方について考える力を養成することを目的とする。						
到達目標	1. 住民による活動が果たすべき役割と個人としての関わり方について理解する。 2. 地域に合わせた活動の運営手法について考察する力をつける。 3. 住民による活動と関わる人々との交流により、より豊かな人間性を身につける。						
授業計画	1. ガイダンス、現地調査手法の提示と提出レポート詳細 2. 地域社会における現状と課題 3. 自治会・町内会の概要 4. 市民活動団体・NPO団体の概要 5. 住民活動と自治体 6. 事例研究に向けて 三重県における住民活動の概要 7. 事例研究に向けて 三重県における住民活動の現状① 8. 事例研究に向けて 三重県における住民活動の現状② 9. 事例研究 町内会のとりくみ実習 大学の所在する地元・八郷地区自治会連合会の「八郷フェスティバル」への参加 11月中旬の土・日曜日を予定 10. 事例研究 11. 事例研究 12. 事例研究 13. まとめ1 事例研究 報告会 14. まとめ2 事例研究 報告会 15. まとめ3 住民活動の役割 定期試験 ※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況や受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。						
事前・事後学習	事前学習では、地元のまちづくり活動を調べる (30分)。 住民活動に関連した図書を読む (60分)。 事後学習では、レジュメやノートを見直し必要事項を覚える。また、不明なキーワード等は、調べる (90分)。						
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 講義への出席は前提である。 ① 定期試験：55% ② 実地調査による住民団体活動に関するレポート45%						
授業内の課題・提出方法	事例研究として、住民団体活動に関するレポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートまた報告会では、適宜コメントする。						
担当者から一言	知識提供だけでなく、地域を読み解く力を養成します。 資料収集や現地での聞き取りも含めて幅広く調べることを心掛けるなど、積極的に参加してください。						

授業科目名	地方議会論			科目コード	471221	授業コード	112803
担当教員	吉川 和挟			科目ナンバリング	PCO2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	<p>地方議会は私たちにとって最も身近な政治の場である一方で、首長の陰に隠れその活動が見えずらいものです。</p> <p>本講義では地方議会の仕組みや、地方議員の活動などに触れつつ、なり手不足や不祥事などの負の側面ばかりが強調されがちな地方議会の役割を近時の議会運営の工夫なども取り入れつつ解説します。</p> <p>本講義を通して、私たちの代表としての地方議会に対する関心を高め、地方議会に関する各種ニュースを冷静に理解できるようになることを目指します。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方議会に関する基本的な知識を身に着ける ・ 自らの住む地域の地方議会の動向に関心を持って見つめることができる 						
授業計画	01. ガイダンス/地方議会の必要性 02. 地方議会のしくみ 03. 議会と長の関係 04. 会議のしくみと原則 05. 会議の議事運営 06. 委員会制度 07. 議員・議長・副議長 08. 議会にかかる法令 09. 地方議会の仕組みーまとめ 10. 議員の活動 11. 議員と選挙 12. 議員とカネ 13. 議会改革 14. 地方議会の新動向 15. 本講義のまとめ・復習 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武田正孝「図解よくわかる地方議会のしくみ〈改訂版〉」学陽書房（2022） ・ 辻陽「日本の地方議会-都市のジレンマ、消滅危機の町村」中央公論新社（2019） 						
事前・事後学習	<p>事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分）</p> <p>事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分）</p> <p>事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）</p>						
成績評価方法	<p>成績は以下の配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：50% ・ 定期テスト（自筆ノートのみ持ち込み可）：50% 						
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。						
担当者から一言	他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じることがあります。						

授業科目名	N P O 論			科目コード	471222	授業コード	115401
担当教員	小林 慶太郎、鬼頭 浩文			科目ナンバリング	PCO2005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	<p>この授業では、市民とまちづくりについて扱っていきます。まちづくりの担い手として注目されている市民。市民とはいったいどのような人々で、実際にどのような取り組みを行っているのでしょうか。</p> <p>この授業では、実際にまちづくりに携わっている市民の話も聞きながら、市民による取り組みの可能性や実情について学んでいきます。</p> <p>学生諸君が、まちづくり活動の実際を五感を通して学び感じ取り、将来まちづくりを担う人としての資質を磨いてくれることを、ねらいとしています。</p>						
到達目標	この授業では、学生諸君が、まちづくりの実際を知ることを経て、まちづくりについての自分なりの考え方を身につけることを、到達目標としています。						
授業計画	<p>第1講（小林）ガイダンス（授業の進め方）</p> <p>第2講（小林）「市民」とは何か</p> <p>第3講（小林）N P O と市民活動</p> <p>第4講（鬼頭）四日市JAZZフェスティバルとは</p> <p>第5講（鬼頭）市民によるイベント運営</p> <p>第6講（鬼頭）四日市JAZZフェスティバルと四日市大学</p> <p>第7講（鬼頭）イベント実施の波及効果</p> <p>第8講（鬼頭）ボランティアのすゝめ</p> <p>第9講（鬼頭）ボランティアセンターを活用しよう</p> <p>第10講（小林）まちおこしと市民活動団体</p> <p>第11講（小林）四日市とんてき協会の取り組み</p> <p>第12講（小林）B-1グランプリとは何か</p> <p>第13講（小林）津ぎょうざ小学校の取り組み</p> <p>第14講（小林）松阪・亀山・名張のまちおこし団体の取り組み</p> <p>第15講（小林）市民活動にチャレンジしてみよう（まとめ）</p> <p>※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使いません（必要に応じてプリントを配布する場合があります）。						
事前・事後学習	<p>日頃から地域やまちづくりに関するテレビや新聞のニュースに目を通すこと（90分／週）。</p> <p>ボランティアなどの市民の取り組みに関する情報を積極的に収集すること（90分／週）。</p>						
成績評価方法	<p>3分の1以上欠席した学生には、原則として単位は与えません。成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義時に指示する簡単な課題の提出状況：60% ・ 定期試験（レポート）：40% 						
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。						
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。						

授業科目名	マイノリティ政策			科目コード	471223	授業コード	112101
担当教員	小林 慶太郎			科目ナンバリング	PRP2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	<p>人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。</p> <p>多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。</p>						
授業のねらい	<p>ダイバーシティ（divercity）、あまり耳なじみのない言葉かもしれませんが。日本語では、多様性とも訳されます。この授業では、多様な人々が共生する社会「ダイバーシティ社会」について考えていきます。</p> <p>年齢・国籍・文化的背景、性的指向・性自認などの性のあり方、障がいの有無など身体や心の状態・・・私たちの社会に暮らしている人は千差万別で、一人ひとりに違いがあります。また、人生の中で置かれた状況や立場も、時により変わっていきます。</p> <p>この講義は、学生の皆さんがこうした社会の多様性に気づき、その多様性が認められ</p>						
到達目標	<p>この授業では、学生諸君が、日本の社会の多様性に関する基本的な知識を身につけ、ダイバーシティ社会の担い手に相応しい言動が出来るような人になっていくことを、到達目標としています。</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス：この講義の進め方</p> <p>第2講 世界がもし100人の村だったら</p> <p>第3講 民族と国民国家</p> <p>第4講 棲み分けか統合か ～諸外国のケースから～</p> <p>第5講 日本における少数民族政策</p> <p>第6講 もう一つの民族問題 在住外国人</p> <p>第7講 日本における在住外国人政策</p> <p>第8講 地域における在住外国人政策</p> <p>第9講 セクシュアルマイノリティと「L G B T」</p> <p>第10講 トランスジェンダーと性同一性障害</p> <p>第11講 同性愛・両性愛と異性愛</p> <p>第12講 地域におけるセクシュアルマイノリティ政策</p> <p>第13講 性感染症をめぐる差別とタブー</p> <p>第14講 ダイバーシティ経営</p> <p>第15講 ダイバーシティ社会の推進に向けて（グループワーク）</p> <p>定期試験</p> <p>※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>テキストは使いません（必要に応じてプリントを配布する場合があります）。</p> <p>【参考文献】</p> <p>小林慶太郎「L G B Tと自治体行政」時事通信社（2016年）、650円＋税</p>						
事前・事後学習	<p>日頃からテレビや新聞の社会ニュースに目を通すこと（毎日20分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと（40分）。</p>						
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度：30% ・ 定期試験（自筆ノートのみ持込可）：70% 						
授業内の課題・提出方法	<p>授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題を提出してもらいます。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>提出された課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。</p>						
担当者から一言	<p>遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。</p>						

授業科目名	環境政策			科目コード	471224	授業コード	111206
担当教員	鬼頭 浩文			科目ナンバリング	PRP2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる						
授業のねらい	環境を守ることはとても大切なことだが、環境改善の努力が他の環境破壊を生んだり、資源の無駄づかいを発生させたりすることがある。環境政策を考える場合、ある環境問題を解決する対策のメリットとデメリットを、総合的に冷静に比較することが求められる。この講義はオムニバス形式で進め、地元や海外のローカルな環境問題からグローバルな問題まで多面的に取り上げ、環境政策について学習していく。						
到達目標	環境問題の持つ難しさや環境改善の手法を多面的に理解することを通し、環境政策に関する問題を総合的に考える力を身につけ、最終的には地域の持続的発展に貢献する力を身に着けることが到達目標である。						
授業計画	4/10第1講 ガイダンス・ゴミ問題から環境政策を考える（岡） 4/17第2講 循環型社会とリサイクル①（岡） 4/24第3講 循環型社会とリサイクル②（岡） 5/8第4講 災害ゴミの処理（鬼頭） 5/15第5講 四日市公害と中国の大気汚染対策①（鬼頭） 5/22第6講 四日市公害と中国の大気汚染対策②（鬼頭） 5/29第7講 四日市公害と夜景クルーズ（ゲスト講師＝寺本） 6/5第8講 ICETTの取り組み（ゲスト講師＝ICETTより） 6/12第9講 地球温暖化の仕組みと現状（鬼頭） 6/19第10講 三重の地球温暖化対策（ゲスト講師＝三重県） 6/26第11講 映像で観る今日の環境政策の課題①（鬼頭） 7/3第12講 映像で観る今日の環境政策の課題②（鬼頭） 7/10第13講 映像で観る今日の環境政策の課題③（鬼頭） 7/17第14講 映像で観る今日の環境政策の課題④（鬼頭） 7/24第15講 まとめと講義の振り返り（鬼頭） ＊オムニバスのため、変更が予想されます。ユニバや掲示板に注意してください。						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義でプリントを配布する						
事前・事後学習	シラバスをもとにインターネットなどで事前に情報収集（毎回1時間程度）しておくことが望ましい。小レポートでは、講義を振り返るだけでなく、各自で事前に調べたこと、考えたことも踏まえ、書いてほしい。						
成績評価方法	小レポート5点×15回として全体の75%、学期末試験25%の配分で、総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	テーマごとに完成させた小レポートをMoodleなどで提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してコメントを書き、学生に届ける。						
担当者から一言	仕事の上でも、生活でも、とても大切な環境問題と政策を、多面的に学ぶのがこの講義の目的である。講義では、環境問題を冷静に幅広い視点で考える方法を身につけていく。						

授業科目名	観光政策			科目コード	471225	授業コード	116103
担当教員	千葉 賢、岡 良浩			科目ナンバリング	PRP2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける						
授業のねらい	総合政策とは、経済学や法学といった特定の学問領域のことではなく、まず社会的な課題があり、それを色々な人や組織がそれぞれに持てる力を合わせて解決する、あるいはその解決策を見出していこうとすることです。 この講義では、総合政策学部の各教員が、それぞれ専門としている領域を念頭に、その内容を講義するものです。なおこの講義は、事前に収録された動画を視聴するオンデマンド方式で行います。						
到達目標	以下の3つを掲げています。 1. それぞれの教員の領域を理解すること 2. 総合政策のもつ分野の多様性を理解すること 3. 今後自らが専攻する分野や指導教員などを見定めること						
授業計画	第1講 ガイダンス／未来を拓く中小企業の役割（岡良浩） 第2講 会計情報と株価（奥原貴士） 第3講 人生の抽象化-学問する意味-（川崎綾子） 第4講 選挙・代表制民主主義と「くじ引き民主主義」（小林慶太郎） 第5講 文学作品や文学現象、文化現象を解明すること（高田晴美） 第6講 自由貿易がもたらす効果について（鶴田利恵） 第7講 リアリティの境界（富田与） 第8講 環境基本法のとらえ方（中西紀夫） 第9講 正義とは何か（フェリペフェハーリ） 第10講 未婚化のゆくえ（三田泰雅） 第11講 米国野球界の人材育成（若山裕晃） 第12講 まちづくりのプロデュース（鬼頭浩文） 第13講 地域の学びと文化（浅井雅） 第14講 地域の歴史・文化とまちづくり（倉田英司） 第15講 公共政策と価値の多様性（吉川和挟） ※日程・内容などは変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	特に使用しません。（講義中に教員がプリントを配布することがあります。）						
事前・事後学習	事前学習：新聞やニュースに目を通しておくこと（90分） 事後学習：各講で課された小レポートを作成すること（90分）						
成績評価方法	各講で課す小レポート（75%）期末試験（25%）						
授業内の課題・提出方法	オンデマンドで配信された動画を視聴後に、各講で課された小レポートを作成し、提出いただきます。提出は学内の教育支援システムMoodleで提出いただく予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小レポートの点数を各自に採点するとともに、全体の講評をMoodle内で掲示します。						
担当者から一言	この講義は、総合政策学部の教員がオムニバスに毎回登壇し、それぞれの専門領域について総合政策の観点から講義するものです。この講義を通じて、ご自身の専攻分野や関心領域を見定めてください。						

授業科目名	経済政策			科目コード	471226	授業コード	113609
担当教員	鬼頭 浩文			科目ナンバリング	PRP2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる						
授業のねらい	ミクロ経済学の中心をなす企業や消費者の行動や市場メカニズムは、経済を理解する上で最も基本的なテーマになる。この講義では、企業や消費者がどのように行動し、それが経済に対してどのようなインパクトを持つのか考えていく。とくに「競争」については、日ごろ意識することが少ないため、ここで勉強することは社会に出てから大いに役立つと思う。理論的な考察も重要だが、ここでは参加・体験型のアクティブ・ラーニングも取り入れ、直感的・感覚的にミクロ経済学を学ぶ。						
到達目標	ミクロ経済の仕組みや動きについて深く理解し、社会人になって経済の動きを予想して対応できる能力を身に着けるのが目標である。						
授業計画	1：対面；ガイダンス：コロナ禍の地域経済① 2：OD；消費者の行動①個別需要曲線の理論；スタート 3：OD；消費者の行動②練習問題を解き、コラムを簡単に説明 4：OD；消費者の行動③コラムの復習をして、最後の問題を解かせる 5：OD；市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給① 6：OD；市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給② 7：OD；市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給③ 8：対面；独占禁止政策① 9：対面；独占禁止政策② 10：対面；独占禁止政策③ 11：対面；実際の独占禁止政策(講師：公正取引委員会) 12：対面；コロナ禍の地域経済② 13：対面；震災からの復興と地域経済① 14：対面；震災からの復興と地域経済② 15：対面；講義の振り返り						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。						
事前・事後学習	レポートや課題に取り組む準備学習・事後学習の時間を確保すること。必要な時間は、レポート各3時間(15時間)ほど、課題は各10時間ほど(20時間)が必要である。また、期末試験に向けて、授業全体を振り返る復習が10時間ほど必要である。						
成績評価方法	毎回Moodleで提出する課題(75%)、対面・持ち込み不可による学期末試験(25%)により、総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	レジュメの空白に授業の内容をノートテイクし、写真にしてMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してMoodleを経由してフィードバックを行う。						
担当者から一言	提出された課題によって理解度を厳しく判定する。楽しくて、かつ社会に出て役立つ何かを獲得できる講義を目指す。						

授業科目名	都市政策			科目コード	471227	授業コード	113111
担当教員	倉田 英司			科目ナンバリング	PRP2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	都市政策を知るには、現在どのような目的に向けて、都市政策が進められ、人々が関わっているのかについて把握することが求められる。都市施策の実態を知るために、都市政策の成り立ち、構造、仕組み、実態、課題等を体系的かつ論理的に学ぶ。これらの学びを通して、地域活動やまちづくりに関わる、政策遂行や社会動向に関心を持ち、組織や社会に生かせることを目指す。						
到達目標	地域の課題や活動、新聞記事やニュース内容、政策動向に関する図書について、理解が早まること。						
授業計画	1. ガイダンス、都市政策とは 2. 都市政策の歴史的変遷 3. 都市政策の構造と手法 4. 都市政策とハード面 5. 都市政策とソフト面 6. 「住宅」に関する都市政策 7. 「環境」に関する都市政策 8. 「観光」に関する都市政策 9. 「交通」に関する都市政策 10. 総合的な都市政策 11. 将来課題を見据えた都市政策 12. 都市・農村・山村・漁村連携を見据えた都市施策 13. 都市間連携による都市政策 14. 広域的連携による都市政策 15. 地域に求められる都市政策とは						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。						
事前・事後学習	事前学習では、毎日、新聞やニュースを見る（30分）。 地元のまちづくり活動を調べる(30分)。 政策動向に関する図書を読む（60分）。 事後学習では、レジュメやノートを見直し必要事項を覚える。また、不明なキーワード等は、調べる（90分）。						
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ① 講義時に提示する課題への提出状況及び受講態度 50% ② 定期試験時に提出する(これまでの講義に即した)レポート課題 50% なお、毎回提出してもらう課題については、次週回においてコメントする。						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義後にレポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは次回講義時、適宜コメントする。						
担当者から一言	三重県や全国の様々な地域を事例として、私たちの生活と密接関係にある都市政策とは何なのかを学びます。知識提供だけでなく、自分自身で地域を読み解く力を養成します。						

授業科目名	交通政策		科目コード	471228	授業コード	115603
担当教員	本部 賢一		科目ナンバリング	PRP2006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。					
授業のねらい	<p>地域の交通政策づくりは、生活交通だけでなく、地域福祉の課題でもあり、教育、地域コミュニティなど住民が地域で生きていく上での土台となる総合的な社会的政策づくりです。</p> <p>本講義では、交通政策づくりを進めるため、①「地域交通政策を考える上での基本的な認識と考え方」、②「まちづくり、福祉、教育、交通安全など地域の課題とともに交通問題を解決していこうとする各地の取り組み事例」、③「人口減少・高齢社会における地域交通政策に必要な要件とその政策を実現する運動の進め方」などについて学びます。</p>					
到達目標	<p>授業を受けた皆さんが、今後生活の拠点とされる地域での地域交通政策づくりに参加した際、地域の抱える問題の本質を見極めるとともに、他の地域における成功事例を参考にしながら、より良い政策提言を行なうことができる力を身につけることを到達目標としています。</p>					
授業計画	<p>第01講 ガイダンス、授業の概要 第02講 移動制約者が今後大量発生（地域交通が抱える課題） 第03講 地域交通をめぐる国の動き 第04講 地域交通をめぐる自治体の動き 第05講 地域交通政策づくりとその実現を自治体に移譲する必要について 第06講 総合交通政策を市民参加でつくりあげた岐阜市(1) 第07講 総合交通政策を市民参加でつくりあげた岐阜市(2) 第08講 総合交通政策を市民参加でつくりあげた岐阜市(3) 第09講 総合交通政策を市民参加でつくりあげた岐阜市(4) 第10講 地域協議会でつくりあげた木曽岬町生活交通システム 第11講 市町村を超えた地域交通を確保する南信州広域連合(1) 第12講 市町村を超えた地域交通を確保する南信州広域連合(2) 第13講 市町村合併後の住民の足を200円バスで確保した京丹後市(1) 第14講 市町村合併後の住民の足を200円バスで確保した京丹後市(2) 第15講 まとめ</p> <p>※本講義は、全講オンデマンド（ビデオ）授業で行います。 ※四日市大学教育支援システムMoodle上にコースを用意します。そこに欠ボタン（各講、時間割通りの時間帯に受講することを原則とする）、視聴ビデオ（Stream）のリンク、教材プリント＆参考資料のダウンロード、テストレポートの内容＆提出方法等が掲示されています。</p>					
テキスト・教材（参考文献含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストなし ・単元毎に教材プリント＆参考資料を配布→各自でMoodle上のコース画面よりダウンロード、印刷して使用。 ・教材プリントはところどころ空白になっており、未完成の状態となっています。ビデオを見ながら空白部分を埋める作業を行うとともにメモを取りましょう。教材プリントを完成させるためにはビデオをすべて見る必要があります。 					
事前・事後学習	<p>事前学習： 教材プリント、参考資料には全て目を通し、疑問点を整理しておきましょう（90分程度）。</p> <p>事後学習： 教材プリントを完成させるとともに、不明なキーワードをインターネットで検索しましょう。（90分程度）</p>					
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により総合的に評価します。※詳細はガイダンス時に説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元毎のミニテストレポート等：70% ・最終テストレポート：30% 					
授業内の課題・提出方法	<p>授業内の課題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元毎のミニテストレポート ・最終テストレポート <p>の2つがあります。どちらも試験スタイルのプリント原稿をMoodle上のコース画面よりダウンロードし、解答を記入したものを提出してもらいます。</p> <p>提出方法：</p> <p>共に教学課に用意された提出箱へ提出。提出期限はMoodleのコース画面上で確認の上、厳守してください。</p>					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・単元毎のミニテストレポートは点数＆総評を各自にメールでお知らせします。 ・最終テストレポートは定期試験の代わりですので点数＆総評はお知らせしません。 					
担当者から一言	<ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンド授業ですが時間割通りの時間帯に受講してください。Moodle上のコース画面に用意された「欠ボタン」で出席状況（出席、遅刻、欠席）を把握します。 ・ビデオは各講授業開始時以後、第15講授業終了時まで視聴可能ですので、欠席時でも受講できますし、何度でも見直すことができます。 					

授業科目名	都市計画論		科目コード	471229	授業コード	115102
担当教員	本部 賢一		科目ナンバリング	PRP3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。					
授業のねらい	<p>都市にかかわる様々な課題を把握し、よりよい将来を実現するために、都市そのものや、そこで暮らす人々に対して働きかけを行う行為が「都市計画」です。</p> <p>本講義では、都市計画に関連する制度ならびに都市環境計画について学びます。目まぐるしく変化していく社会や自然環境に対応するためには、都市計画に対する「考え方」そのものを変えていく必要があります。その手掛かりをどうつかむのか、ヒントを探るために、必ずしも成功例とはよべない事例も含め、具体的な事例を多く交えて学習していきます。</p>					
到達目標	<p>授業を受けた皆さんが、今後生活の拠点とされる地域での地域づくりまたはまちづくりに参加した際、既存の都市計画制度を活用できたり、変化する社会に対応できるよう、必要に応じて制度の改革にも取り組んでいくことができるような力を身につけることを到達目標としています。</p>					
授業計画	<p>第01講 ガイダンス、授業の概要 第02講 都市形成のメカニズム(1) 第03講 都市形成のメカニズム(2) 第04講 現代都市の問題 第05講 都市の進化とプランニング(1) 第06講 都市の進化とプランニング(2) 第07講 計画概念とプランナー(1) 第08講 計画概念とプランナー(2) 第09講 暮らしを支える都市 第10講 豊かな都市空間を考える(1) 第11講 豊かな都市空間を考える(2) 第12講 都市環境計画(1) 第13講 都市環境計画(2) 第14講 都市環境計画(3) 第15講 まとめ</p> <p>※本講義は、全講オンデマンド（ビデオ）授業で行います。 ※四日市大学教育支援システムMoodle上にコースを用意します。そこに欠席ボタン（各講、時間割通りの時間帯に受講することを原則とする）、視聴ビデオ（Stream）のリンク、教材プリント＆参考資料のダウンロード、テストレポートの内容＆提出方法等が掲示されています。</p>					
テキスト・教材（参考文献含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストなし ・単元毎に教材プリント＆参考資料を配布→各自でMoodle上のコース画面よりダウンロード、印刷して使用。 ・教材プリントはところどころ空白になっており、未完成の状態となっています。ビデオを見ながら空白部分を埋める作業を行うとともにメモを取りましょう。教材プリントを完成させるためにはビデオをすべて見る必要があります。 					
事前・事後学習	<p>事前学習： 教材プリント、参考資料には全て目を通し、疑問点を整理しておきましょう（90分程度）。</p> <p>事後学習： 教材プリントを完成させるとともに、不明なキーワードをインターネットで検索しましょう。（90分程度）</p>					
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により総合的に評価します。※詳細はガイダンス時に説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元毎のミニテストレポート等：70% ・最終テストレポート：30% 					
授業内の課題・提出方法	<p>授業内の課題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元毎のミニテストレポート ・最終テストレポート <p>の2つがあります。どちらも試験スタイルのプリント原稿をMoodle上のコース画面よりダウンロードし、解答を記入したものを提出してもらいます。</p> <p>提出方法：</p> <p>共に授業時に用意された提出箱へ提出。提出期限はMoodleのコース画面上で確認の上、厳守してください。</p>					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・単元毎のミニテストレポートは点数＆総評を各自にメールでお知らせします。 ・最終テストレポートは定期試験の代わりですので点数＆総評はお知らせしません。 					
担当者から一言	<ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンド授業ですが時間割通りの時間帯に受講してください。Moodle上のコース画面に用意された「欠席ボタン」で出席状況（出席、遅刻、欠席）を把握します。 ・ビデオは各講授業開始時以後、第15講授業終了時まで視聴可能ですので、欠席時でも受講できますし、何度でも見直すことができます。 					

授業科目名	からだところ			科目コード	471301	授業コード	112205
担当教員	杉崎 一美、別所 史子、大西 信行			科目ナンバリング	PSH2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。 幅広い人間力を身につける。						
授業のねらい	この授業では人のからだところの成り立ちと年齢に伴う変化について、発達の観点から学んでいく。発達とは一般に子どもが生まれ、大人になる過程での変化を指し、これには身長や体重、運動機能、知能や思考、感情、人間関係などの側面が含まれる。授業では誕生から死に至るまでの過程について、人間発達学及び生涯発達心理学の観点から概観する。また、からだところの健康の保持増進、メンタルヘルス不調の予防についても学ぶ。						
到達目標	1.人の発達に関する基礎知識について述べるができる。 2.人の発達に関する心理的な知識について述べるができる。 3.メンタルヘルスの保持増進について述べるができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、発達の基礎、ストレスとコーピング (杉崎) 第2講 こころのあらわれ成り立ち① (大西) 第3講 こころのあらわれ成り立ち② ディスカッション (大西) 第4講 こころの健康 (大西) 第5講 発達理論とその歴史的展開 (杉崎) 第6講 胎児期・新生児期の発達 (別所) 第7講 乳児期の発達 (別所) 第8講 幼児期の発達 (別所) 第9講 児童期の発達 ディスカッション (別所) 第10講 思春期の発達 (杉崎) 第11講 青年期の発達 (杉崎) 第12講 成人期の発達① (杉崎) 第13講 成人期の発達② ディスカッション (杉崎) 第14講 老年期の発達① (杉崎) 第15講 老年期の発達② (杉崎) 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	1.担当教員が配布する資料と授業内で教員が示すスライドを中心とする。 2.参考文献：舟島なをみ「看護のための人間発達学」第5版 医学書院						
事前・事後学習	1.日常生活やメディアから人間発達や精神健康について関連することを見つけ調べてみる（毎日20分） 2.授業で学んだ内容について疑問や興味をもったこと、さらに詳しく知りたいと思ったことを文献等で調べてみる（40分）						
成績評価方法	成績は以下のような配分により評価する。 1.レポート課題30% 2.定期試験70% 配布資料のみ持ち込み可とする。						
授業内の課題・提出方法	担当教員より授業内で伝えます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に質問を受けつけ、適宜、授業内で回答していきます。内容によっては次回の講義で説明を追加します。						
担当者から一言	学んだことを自分自身の過去から将来の成長発達と関連付けたり、メンタルヘルスのコントロールに活かすようにしましょう。 講義中の飲食、私語、許可のないスマホの閲覧などは原則禁止します。出席する以上は真剣な態度で受講して下さい。						

授業科目名	こころの科学			科目コード	471302	授業コード	115504
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	PSH2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	本講義では、対人関係の中で生きている人間の存在について、社会心理学的観点から検討する。社会的認知、対人相互作用、個人と集団等のトピックを取り上げ、社会と人間の関係についての理解を深める。						
到達目標	自分自身の存在と社会との関係性について考察を加え、今後の社会生活にいかせる実践的な知識を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 社会的認知 第3講 社会的認知 第4講 社会的影響 第5講 社会的影響 第6講 対人関係と対人相互作用 第7講 対人関係と対人相互作用 第8講 個人と集団 第9講 個人と集団 第10講 マスコミュニケーションの影響 第11講 マスコミュニケーションの影響 第12講 ソーシャルネットワーク 第13講 ソーシャルネットワーク 第14講 社会心理学を理解するために 第15講 社会心理学を理解するために						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献：「よくわかる社会心理学」ミネルヴァ書房 授業では、講義内容に沿った資料を配付する。						
事前・事後学習	予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、自己と他者、対人関係、集団、社会等に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。						
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。						

授業科目名	スポーツ政策論			科目コード	471303	授業コード	113701
担当教員	小泉 大亮			科目ナンバリング	PSH2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者やスポーツクラブのクラブマネジャーとしての必要なマネジメントの知識、心構えや法的知識等を学習する。						
到達目標	国家のスポーツ政策から自治体のスポーツ政策に至るまでの幅広い知識を身につけるとともに、様々な対象に応じたスポーツマネジメントを理解し、クラブマネジメントの実践に活かせるようにする。						
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 スポーツ行政とその関わり・スポーツ振興 第3講 競技スポーツ政策 第4講 健康体力政策・スポーツ基本計画と健康日本21 第5講 スポーツマネジメントとは・大学スポーツのマネジメント 第6講 子どもスポーツのマネジメント・障害者スポーツのマネジメント 第7講 高齢者スポーツのマネジメント・高齢者を取り巻く環境 第8講 中間テスト 第9講 地域スポーツを取り巻く環境 第10講 地域スポーツクラブの機能とその役割・スポーツ少年団について 第11講 総合型クラブについて・総合型クラブを取り巻く環境 第12講 総合型クラブの立ち上げ方式の分類・総合型クラブのマネジメント 第13講 総合型クラブの具体的な事例（設立から運営まで）・クラブマネジャーの位置づけ 第14講 総合型クラブの自主運営に必要な条件・スポーツとNPO・法人格の取得 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義内容に沿ったプリントを配布 【参考文献】 公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 柳沢和雄・清水紀宏・中西純司編「よくわかるスポーツマネジメント」ミネルヴァ書房						
事前・事後学習	シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと（90分） 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること（90分）						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示するミニレポート：50% ・中間試験・定期試験（授業内配布資料持込可）：50%						
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義時に提出を求めたミニレポートは5段階で評価し、個別に評価を報告します。						
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。						

授業科目名	スポーツ指導論			科目コード	471304	授業コード	111305
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	PSB2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者としての心構え、スポーツ指導者に必要な医学的知識、対象者に合わせたスポーツ指導法等を学ぶ。						
到達目標	スポーツ指導の基礎的知識と指導法を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 スポーツ指導者とは 第3講 指導者の心構え・視点 第4講 競技者育成プログラムの理念 第5講 スポーツと健康 第6講 スポーツ活動中に多いケガや病気 第7講 救急処置 第8講 指導計画の立て方 第9講 スポーツ活動と安全管理 第10講 中高年者とスポーツ 第11講 女性とスポーツ 第12講 障害者とスポーツ 第13講 プレイヤーと指導者の望ましい関係 第14講 ミーティングの方法 第15講 総括						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献：財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ指導に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。						
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業となる場合があります。						

授業科目名	スポーツトレーニング論			科目コード	471305	授業コード	111111
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	PSB2002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。体力トレーニングに関連する知識や発育発達期の特徴について学ぶ。						
到達目標	トレーニングについての基礎的知識とジュニアに対する指導法を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 体力とは 第3講 体力とは 第4講 トレーニングの進め方 第5講 トレーニングの進め方 第6講 トレーニングの種類 第7講 トレーニングの種類 第8講 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第9講 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第10講 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第11講 発育発達期に多いケガや病気 第12講 発育発達期に多いケガや病気 第13講 発育発達期のプログラム 第14講 発育発達期のプログラム 第15講 総括						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、トレーニングに関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。						
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業となる場合があります。						

授業科目名	スポーツ社会学			科目コード	471307	授業コード	113509
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	PSB2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	<p>本講義は、日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。</p> <p>現代では、スポーツが社会に及ぼす影響は大きい。我々の生活とスポーツ活動は密接に関わっており、社会制度や地域社会においてスポーツが果たす役割が増大している。最近では、スポーツの商業化が加速したことによりスポーツ産業の発展が著しいが、一方ではスポーツの商業主義を優先することにより、勝利至上主義などの社会病理現象が表出している。本講義では、関連する最新データを用いてスポーツの社会構造について学習する。</p>						
到達目標	近代から現代のスポーツ文化を社会学の観点から検討し、スポーツの社会構造と社会への影響を考察できる視点を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 スポーツの歴史と概念 第3講 スポーツ行政の仕組み 第4講 スポーツ振興策 第5講 スポーツ事業の効果的運営 第6講 スポーツ指導者論1 第7講 スポーツ指導者論2 第8講 スポーツ指導者論3 第9講 スポーツ施設管理論 第10講 スポーツ系理論 第11講 スキルとは何か 第12講 地域スポーツ経営論 第13講 スポーツとメディア 第14講 スポーツにおける逸脱行為 第15講 総括						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ社会学に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。						
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。						

授業科目名	スポーツ社会学			科目コード	471307	授業コード	113509
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	PSB2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	<p>本講義は、日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。</p> <p>現代では、スポーツが社会に及ぼす影響は大きい。我々の生活とスポーツ活動は密接に関わっており、社会制度や地域社会においてスポーツが果たす役割が増大している。最近では、スポーツの商業化が加速したことによりスポーツ産業の発展が著しいが、一方ではスポーツの商業主義を優先することにより、勝利至上主義などの社会病理現象が表出している。本講義では、関連する最新データを用いてスポーツの社会構造について学習する。</p>						
到達目標	近代から現代のスポーツ文化を社会学の観点から検討し、スポーツの社会構造と社会への影響を考察できる視点を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 スポーツの歴史と概念 第3講 スポーツ行政の仕組み 第4講 スポーツ振興策 第5講 スポーツ事業の効果的運営 第6講 スポーツ指導者論1 第7講 スポーツ指導者論2 第8講 スポーツ指導者論3 第9講 スポーツ施設管理論 第10講 スポーツ系理論 第11講 スキルとは何か 第12講 地域スポーツ経営論 第13講 スポーツとメディア 第14講 スポーツにおける逸脱行為 第15講 総括						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ社会学に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。						
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。						

授業科目名	スポーツ生理学	科目コード	471308	授業コード	113301
担当教員	小泉 大亮	科目ナンバリング	PSB2005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。				
授業のねらい	この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。ヒトが身体運動やスポーツを実施することによって、呼吸、循環、代謝、筋、血液、神経といった身体の諸機能がどのような応答、適応を示すのか、またそれらが環境条件の違いによってどのような影響を受けるのかを学習する。				
到達目標	スポーツや身体運動による身体の適応について理解し、実際のスポーツ実践やスポーツ指導の中で利用できることを目標とする。				
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 運動器と身体運動学 第3講 筋の構造と筋の生理学 第4講 筋の収縮様式とエネルギー供給 第5講 呼吸器系と運動 第6講 循環器系と運動① 第7講 循環器系と運動② 第8講 中間テスト 第9講 神経系と運動① 第10講 神経系と運動② 第11講 内分泌系・免疫能と運動 第12講 特殊環境下での運動 第13講 老化に伴う機能の低下 第14講 運動処方 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献含む）	講義内容に沿ったプリントを配布 【参考文献】 公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 Scott K. Powers, Edward T. Howley 「Exercise Physiology」 Human Kinetics				
事前・事後学習	シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと（90分） 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること（90分）				
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示するミニレポート：40% ・中間試験・定期試験（授業内配布資料持込可）：60%				
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します。				
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。				

授業科目名	健康スポーツ論			科目コード	471309	授業コード	111607
担当教員	小泉 大亮			科目ナンバリング	PSB2006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	健康科学やスポーツ科学の学習から具体的な健康スポーツ指導に必要な運動方法を身につけるとともに、様々な対象者に応じたスポーツ指導方法を学習する。						
到達目標	生涯スポーツ社会の実現に向けて、健康スポーツ科学の基礎知識と様々な対象者の特徴を理解し、スポーツ指導の際に必要な方法を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 生涯スポーツとは 第3講 健康の概念・ヘルスプロモーションとは 第4講 健康スポーツ政策 第5講 運動不足と健康障害 第6講 メタボリックシンドローム・認知行動療法 第7講 ロコモティブシンドローム 第8講 中間テスト 第9講 エアロビクス運動の理論 第10講 レジスタンス運動の理論 第11講 柔軟性運動の理論 第12講 バランス運動の理論 第13講 対象者に応じた健康スポーツ指導① 第14講 対象者に応じた健康スポーツ指導② 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義内容に沿ったプリントを配布 【参考文献】 竹島伸生編「ウエルビクスのすすめ」有限会社ナップ						
事前・事後学習	日頃から健康スポーツに関する話題を調べる（毎日20分程度） シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと（15分） 授業内容に関して適宜指示をするので、自身でまとめておくこと（40分）						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示するミニレポート：40% ・中間試験・定期試験（授業内配布資料持込可）：60%						
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します。						
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。 これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。						

授業科目名	スポーツ栄養学			科目コード	471310	授業コード	113608
担当教員	櫻井 智美			科目ナンバリング	PSB2007		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者に必要なスポーツ栄養学の基礎的知識を習得し、アスリートのパフォーマンス向上等をサポートできる栄養管理の理解を深める。						
到達目標	スポーツ栄養学の基礎知識を習得し、そのことについて説明できるようになる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 エネルギー産生栄養素（糖質・脂質・たんぱく質） 第3講 ビタミン・ミネラル 第4講 スポーツ選手の基本の食事 第5講 トレーニングとエネルギー消費量 第6講 スポーツ選手の身体組成 第7講 熱中症の予防と水分補給 第8講 目的別の食事 第9講 試合前後の食事 第10講 トレーニング時の食事 第11講 競技者に多く見られる栄養障害・女性アスリートの三主徴 第12講 サプリメントとエルゴジェニックエイド 第13講 ジュニア期の栄養管理 第14講 競技者の栄養教育のすすめ方 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義内容に沿った資料の提供 <参考文献> 公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅲ（公益社団法人 日本スポーツ協会） 新版コンディショニングのスポーツ栄養学 樋口満編著（市村出版） スポーツ栄養学 鈴木志保子著						
事前・事後学習	予習として、次の講義に際する内容を調べる。予習のための課題を課す場合がある（90分）復習として講義内容の資料等の見直し（90分）						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 講義時に指示する簡単なレポート課題の提出状況および受講態度：50% 定期試験：50%						
授業内の課題・提出方法	授業内に課題レポート用紙を配布。授業の最後に提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物等は、次項講義の際返却する。						
担当者から一言	遅刻や授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用などは、原則禁止します。 これらの事が守れない者には、退室を命じ、欠席扱いと致します。 オンデマンド型授業の際は、レポート課題の提出期限を遵守してください。						

授業科目名	アスリート育成論			科目コード	471311	授業コード	111806
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	PSP2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。競技スポーツ指導者としての心構えや競技スポーツ指導者に必要な諸知識について学ぶ。						
到達目標	アスリート育成のための高度な知識と指導法を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 競技者育成プログラムの理念に基づく展開 第3講 競技者育成と評価競技 第4講 競技者育成システムにおける指導計画 第5講 競技力向上のためにチームマネジメント 第6講 スポーツとIT 第7講 アスリートの健康管理 第8講 アスリートの内科的障害と対策 第9講 アスリートの外傷・傷害と対策 第10講 アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画 第11講 コンディショニングの手法 第12講 スポーツによる精神障害と対策 第13講 特殊環境下での対応 第14講 アンチドーピング 第15講 総括						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、アスリート育成に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。						
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、受講の意思が認められない場合は欠席扱いとする。						

授業科目名	スポーツ応用科学		科目コード	471312	授業コード	113208
担当教員	小泉 大亮		科目ナンバリング	PSP2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。					
授業のねらい	この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ科学に関する新しいエビデンスよりトレーニング指導に関する知識を習得する。					
到達目標	最新のトレーニング科学研究の成果に基づくトレーニング理論を理解し、スポーツ指導の現場に活かせることを目的とする。					
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 健康に関連する体力要素 第3講 身体運動学 第4講 トレーニング指導 -健康づくりを目指した運動指導について 第5講 トレーニングの基礎知識と筋力トレーニング 第6講 スピードトレーニング・持久力トレーニング 第7講 トレーニング計画①「トレーニングの目標設定」 第8講 トレーニング計画②「トレーニングプログラムの設計」 第9講 トレーニング計画③「疲労および回復」・「トレーニング環境の整備」 第10講 中間テスト 第11講 測定評価「テストの選択と実施の原則」 第12講 測定評価「身体組成の評価」 第13講 測定評価「筋力・筋パワー」「無酸素性能力・有酸素性能力」「測定結果の活用」 第14講 スキルトレーニングの原理・スキルの獲得過程について 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献含む）	講義内容に沿ったプリントを配布 【参考文献】 公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」					
事前・事後学習	シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと（90分）。 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること（90分）。					
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示するミニレポート：40% ・中間試験・定期試験（授業内配布資料持込可）：60%					
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します。					
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。 これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。					

授業科目名	スポーツメディカル論			科目コード	471313	授業コード	111503
担当教員	小泉 大亮			科目ナンバリング	PSP2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。身体運動学や運動生理学などのスポーツ医学に関する基礎知識を学習し、スポーツで起こる外傷や障害などの予防や治療、応急手当についての方法を理解する。						
到達目標	身体運動の重要性を医学的な面から理解し、スポーツの指導現場で実践できる能力を身につける						
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 スポーツ医学の基礎知識①「スポーツが心血管系に及ぼす影響」 第3講 スポーツ医学の基礎知識②「呼吸器系の機能と構造・スポーツと呼吸器系」 第4講 スポーツ医学の基礎知識③「体液と体温調節」 第5講 スポーツ医学の基礎知識④「スポーツと内分泌系」 第6講 スポーツ医学の基礎知識⑤「身体運動学・機能解剖」 第7講 加齢とスポーツ医学 第8講 中間テスト 第9講 スポーツ活動にみられる内科的トラブル（急性） 第10講 スポーツ活動にみられる内科的トラブル（慢性） 第11講 スポーツ外傷とスポーツ障害 第12講 スポーツで生じる外科的外傷・障害（上肢） 第13講 スポーツで生じる外科的外傷・障害（下肢） 第14講 救急処置（救急蘇生法） 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義内容に沿ったプリントを配布 【参考文献】 公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 目崎登「スポーツ医学入門」分光堂						
事前・事後学習	シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと（90分）。 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること（90分）。						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示するミニレポート：40% ・中間試験・定期試験（授業内配布資料持込可）：60%						
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します。						
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。 これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。						

授業科目名	地域スポーツ論	科目コード	471314	授業コード	113109
担当教員	小泉 大亮	科目ナンバリング	PSP2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。				
授業のねらい	この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。講義を通じて、スポーツクラブをマネジメントするための知識・技術の習得を目指す。また、「組織のあり方」、「コミュニケーション能力」を意識しながら、スポーツクラブだけでなく、集団活動の場に適應できる力を養う。				
到達目標	スポーツ場面における多様なニーズに対応方法、クラブ育成に関する知識を身につけ、クラブマネジメントの実践に役立てる。				
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 地域スポーツ組織の事業と運営 第3講 国家施策としての地域スポーツクラブ 第4講 クラブマネジャー・アシスタントマネジャーの位置づけと求められる能力 第5講 クラブマネジャー・アシスタントマネジャーの役割 第6講 中間テスト 第7講 クラブマネジャーに求められる能力「コミュニケーション・ロジカルシンキング」 第8講 クラブマネジャーに求められる能力「経営戦略」・「マーケティング」 第9講 クラブマネジャーに求められる能力「ヒト・組織のマネジメント」 第10講 クラブマネジャーに求められる能力「ホスピタリティ」・「施設の管理と運営」 第11講 クラブマネジャーに求められる能力「財務・会計」・「事業計画作成」 第12講 クラブ設立の準備・総合型クラブの自主運営に必要な条件 第13講 クラブの作り方・クラブの運営 第14講 総合型クラブ 事例クラブ紹介 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献含む）	講義に沿った授業資料をプリントして用意します。 【参考文献】 公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 公益財団法人日本体育協会編「公認アシスタントマネジャー養成テキスト」				
事前・事後学習	シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと（90分）。 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること（90分）。				
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示するミニレポート：50% ・中間試験・定期試験（授業内配布資料持込可）：50%				
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します。				
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。				

授業科目名	スポーツ実技			科目コード	471315	授業コード	111210
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	PSP2002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	この授業では、適度な運動量が得られレクリエーションにも利用しやすい各種スポーツを実施する。種目については、人数や学生の希望等を考慮しながら、状況に応じて選定する。また、序盤と終盤に体力テストを実施し、自分自身のデータを基に「スポーツ習慣による心身への効果」というテーマのレポートを作成する。						
到達目標	ルールを覚え、楽しく安全にスポーツを体験することによって、生涯スポーツによる健康維持増進を自ら実践できる能力及び習慣を身につける。						
授業計画	第1講：ガイダンス 授業の概要 第2講：体力テスト 第3講：体力テスト 第4講：実技 第5講：実技 第6講：実技 第7講：実技 第8講：実技 第9講：実技 第10講：実技 第11講：実技 第12講：体力テスト 第13講：体力テスト 第14講：実技 第15講：まとめ・レポート提出						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。 講義内容に沿った資料を配布する場合もある。						
事前・事後学習	予習として、授業以外の日にも、積極的に身体活動を実施しておくこと（90分）。復習として、授業内で実施した種目の動作について、動画サイト等も活用しながら確認しておくこと（90分）。						
成績評価方法	授業への参加姿勢・服装（50%）とレポートの内容（50%）で成績評価する。						
授業内の課題・提出方法	レポートを授業最終回に提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学期中の累積点数は、希望があれば本人にいつでも開示する。						
担当者から一言	学生の積極性に期待する。安全性を考慮し、スポーツ活動に適した服装（シューズも含む）で参加すること。 状況によって、オンライン授業となる場合があります。						

授業科目名	介護予防スポーツ			科目コード	471316	授業コード	115204
担当教員	池田 裕美子			科目ナンバリング	PHH2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。						
授業のねらい	<p>この授業のメインテーマは「地域社会と介護予防運動」です。</p> <p>現在、社会的問題にもなっている介護や認知症に関する知識を深め、介護現場は勿論、日常の運動不足解消など、様々な場面で活用することが出来る「介護予防運動・体操（元氣ダンス）」を習得します。</p> <p>具体的には、地域社会における介護予防の必要性、介護に関する基本的な知識や、高齢者が運動するうえで注意すべきこと、ダンスを実施するうえで必要なリズムの知識や指導方法などを学び、それらを生かし実際に体を動かして「元氣ダンス」の実技を行います。</p>						
到達目標	<p>講義過程を通じて、運動・音楽・介護予防・地域社会などについての知識を深めること。</p> <p>日本介護予防ダンス協会公認「学生3級ゼネラルアドバイザー」資格を取得することを目標とします。</p>						
授業計画	<p>第1講 学科① ガイダンス</p> <p>第2講 学科② 現代社会における「元氣ダンス」</p> <p>第3講 学科③ 色々な音楽・リズム(学科)</p> <p>第4講 学科④ 地域と介護予防</p> <p>第5講 学科⑤ 危険予測・回避・処置(学科)</p> <p>第6講 学科⑥ 学科総合</p> <p>第7講 講演 この地域での介護予防【講演】</p> <p>第8講 実技① 元氣ウォームアップ・元氣ベーシック(実技)</p> <p>第9講 実技② 元氣マンボ・元氣クールダウン(実技)</p> <p>第10講 実技③ 元氣ダンス指導法Ⅰ(実技)</p> <p>第11講 実技④ 元氣ダンス指導法Ⅱ(実技)</p> <p>第12講 実技⑤ 元氣ダンス指導法Ⅲ(実技)</p> <p>第13講 実習 【交流実習】</p> <p>第14講 試験 実技試験</p> <p>第15講 試験 学科試験</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>・テキスト 日本介護予防ダンス協会出版「ゼネラルアドバイザー教本」 2015年発行</p> <p>*テキストを購入しない場合は授業をうけることが出来ません。</p> <p>・プリント 必要に応じて配布します。</p>						
事前・事後学習	<p>地域包括ケア、高齢者の健康に関わるニュース等に関心を持ち積極的にチェックして下さい。（1日20分以上）</p> <p>毎回の講義内容の復習。特に実技内容は反復練習を望みます。（20分）</p>						
成績評価方法	<p>授業への積極性 30%</p> <p>毎回の小テスト・小レポート 30%</p> <p>実技試験・定期試験 40%</p> <p>授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>毎回、その日の授業内容に応じた小テストを行い、翌週の授業で解答の説明を行います。</p> <p>実技に関しては動画を使うなどして復習をしてもらいます。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>毎回の小テスト、実技動画などを使用し、不得意分野を確認・改善出来るようにしていきます。</p>						
担当者から一言	<p>学科も実技も参加型の授業です。</p> <p>「ダンス」とはありますが、音楽に合わせて身体を動かす「運動・体操」となりますので、技術は必要ありません。</p> <p>遅刻・授業中の中座・私語・飲食などは原則禁止しますが、明るく楽しく授業への積極性を求めます。</p>						

授業科目名	健康スポーツ実技	科目コード	471317	授業コード	111207
担当教員	小泉 大亮	科目ナンバリング	PHH2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。幅広い人間力を身につける				
授業のねらい	健康の維持・増進のためにはスポーツや身体運動の実践が必要である。本講義では、生涯を通じて実践可能なスポーツの方法を学ぶ。さらに、身体運動の創作なども通してスポーツ指導者としての想像性を育む。				
到達目標	楽しく安全にスポーツができる方法を学ぶことにより、生涯を通じたスポーツ実践につなげる。				
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 体力評価① 第3講 体力評価② 第4講 健康身体運動の必要性 第5講 エアロビクスの理論と実践① 第6講 エアロビクスの理論と実践② 第7講 エアロビクスの理論と実践③ 第8講 エアロビクスの理論と実践④ 第9講 レジスタンス運動の理論と実践① 第10講 レジスタンス運動の理論と実践② 第11講 柔軟性運動の理論と実践① 第12講 柔軟性運動の理論と実践② 第13講 バランス運動の理論と実践① 第14講 バランス運動の理論と実践② 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献含む）	竹島伸生編「ウエルビクスのすすめ」有限会社ナップ				
事前・事後学習	取り上げる内容について、事前に資料を配布するので、目を通しておく				
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・日頃の準備学習や復習の様子や受講態度：50% ・実技実習による課題：50%				
授業内の課題・提出方法	各々の運動実習において、課題として個人のデータを取ります。配布する資料にデータを記載した実習記録を提出していただきます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題を課した際は、次週にその解説をおこないフィードバックします。				
担当者から一言	運動のできる服装（ウェア・シューズ）を用意して参加する事。服装を用意していない場合は欠席扱いとします。体育館シューズも持参してください。				

授業科目名	こころの健康			科目コード	471318	授業コード	114619
担当教員	柿原 加代子、後藤 由紀、工藤 安史、佐藤 優子			科目ナンバリング	PHH2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。 幅広い人間力を身につける。						
授業のねらい	この講義では人間の健康とは、その健康に影響を及ぼす生活習慣や人間関係、ストレス対処等の傾向を理解することを目指します。健康は一日にしているものではなく、日々の生活の積み重ねにより築かれます。自己の生活を振り返り、健康とは何かを考え、自分自身の生活につなげてもらいたいと考えます。						
到達目標	人間のこころと身体に関する基本知識を理解するとともに、自己の日常生活に活かし、健康の維持増進につなげる。						
授業計画	1 ガイダンス 健康とは〔講義〕（柿原） 2 人間の発達と健康（柿原） 3 メンタルヘルス不調（柿原） 4 人間関係と健康（柿原） 5 生活習慣と健康① 食生活と健康（佐藤） 6 生活習慣と健康② 運動と健康（佐藤） 7 生活習慣と健康③ 睡眠と健康（後藤） 8 生活習慣と健康④ たばこ・アルコールと健康（後藤） 9 セルフマネジメント① 怒りのコントロール（後藤） 10 感染症と健康①（工藤） 11 感染症と健康②（工藤） 12 自分自身の健康観を知る①（工藤） 13 自分自身の健康観を知る②（工藤） 14 まとめ・グループワーク 15 まとめ・発表						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリントを配布します						
事前・事後学習	書籍やインターネットなどで健康に関連する情報を得る。（毎週2時間程度） 配布されたプリントを読み理解し、学んだことを整理し、自分自身の生活に取り入れる目標を決めて実践する。						
成績評価方法	受講態度（20%） レポート（80%）						
授業内の課題・提出方法	講義毎に提示する。次回、講義後もしくはメールにより提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中、講義後に質問を受け付け、タイムリーにコメントをフィードバックし、内容によっては次回の講義で説明を追加する。						
担当者から一言	人間にとって心身共に健康であることは、重要な要素であり、皆さんのこれからの人生をより豊かに、自分らしく生きることの試金石となるでしょう。皆さんの日々の生活に活かしてください。						

授業科目名	こころと文学			科目コード	471319	授業コード	115402
担当教員	高田 晴美			科目ナンバリング	PHH2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける 幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	この講義では、文学作品を読むことで、人間の様々な心のあり方、人と人との関係、人生の様相について、その深みに触れ、味わい、思いをはせることを目指します。「事実は小説より奇なり」とはよく言われます。しかし「事実」だけがそんなに偉いのか。フィクションだからこそ書けること、語れることもあるし、自分では体験できない世界に触れることも可能になる。この世界と人間の想像力を表現し得るのが文学であり、それを他人事ではなく我が事として実感し、考えるきっかけにできるのも文学。この授業を通して、それを体験してもらいたいと考えてい						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ステレオタイプではない心のあり方というものを知る。 ・人間や心、人生社会のあり方に対する感受性や洞察力、分析力、そして広く受け入れる寛容性や批判性などを養う。 						
授業計画	第1講 ガイダンス、まずは短歌や俳句を味わってみよう 第2講 物狂おいしい恋心―芥川龍之介の詩 第3講 変態だって純情である―江戸川乱歩「人間椅子」 第4講 ザ・少女漫画の胸キュンな恋―椎名軽穂「君に届け」 第5講 人は恋してクズになる?―横槍メンゴ「クズの本懐」 第6講 バトルを極めてこそ夫婦?―田村俊子の作品 第7講 この世でもっとも強い絆?―桜庭一樹「私の男」 第8講 苦々しく、味わい深い人生―アリス・マンローの作品 第9講 秘めた恋―トレヴァー「パラダイスラウンジ」 第10講 海の向こうにはこんな国もある―ダンティカ『デュー・ブレイカー』 第11講 青春の苦悩―太宰治「斜陽」 第12講 ストイックの極みへ―羽海野チカ作品 第13講 嫉妬と妄執―中勘助「提婆達多」 第14講 老いて華やぐ命―岡本かの子「老妓抄」、岸恵子「わりなき恋」 第15講 人生、捨てたもんじゃない―岡本かの子「家霊」 話題作など気になる作品が出たら、内容・順番を多少変えて、その作品を取り上げる可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、プリントを配布します。						
事前・事後学習	講義で取り上げた文学作品やその作家の別作品を、図書館の書籍やネット上の青空文庫などでいくつか読んでみましょう。映像化されている作品を観てみるのもおすすめです（毎週3時間程度）。						
成績評価方法	毎回の小レポート 50% レポート試験 50%						
授業内の課題・提出方法	毎回、授業の終わりに、小レポート（コメント）を書いて提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小レポート（コメント）については、次回の授業でいくつか紹介し、コメント返しを行います。						
担当者から一言	まずは気軽に、変わった話が聞きたい、小説を味わいたい、物語を楽しみたいという気分で受講してください。心を柔らかく、広く、深く――。きっと世界が、もっと広く深く甘く洪くなる。						

授業科目名	国際経済事情			科目コード	471401	授業コード	113703
担当教員	鶴田 利恵			科目ナンバリング	PIM2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	この講義では、貿易の理論や為替レートの決定理論など、国際経済を理解する上で必要となる国際経済学の基本的な理論を解説するとともに、第二次世界大戦後の国際経済体制の変容、途上国問題、直接投資、地域統合、リーマン・ショック後の国際経済の状況について解説します。また、日本の経済が国際経済の変化からどのような影響を受けてきたのかについても講義します。授業では鶴田の解説だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。						
到達目標	国際経済学の基本的な理論を理解するとともに、国際経済の現状を知ることによって、今後の国際経済と日本経済の行方を自分で考察できるようになること。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 国際収支の内容 第3講 貿易の理論（1） 第4講 貿易の理論（2） 第5講 第二次世界大戦後の国際経済体制 第6講 外国為替市場と為替レートの決定理論 第7講 発展途上国の諸問題 第8講 国際経済と直接投資 第9講 プラザ合意以降の国際経済（1） 第10講 プラザ合意以降の国際経済（2） 第11講 サブプライム・ローンからリーマン・ショック、世界同時不況へ 第12講 産業間貿易と産業内貿易 第13講 地域統合の動き（1） 第14講 地域統合の動き（2） 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリントを配布します。						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日読んだテキストを必ず読み返す（90分以上）						
成績評価方法	受講態度20%、定期試験80%により評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回Moodleで小テストを行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果、講義中や講義後の質問や疑問には適宜コメントします。						
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	国際関係論			科目コード	471402	授業コード	112206
担当教員	富田 与			科目ナンバリング	PIM2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	国際社会のあり方が、思想、理論、制度など広範に変わり始めています。この講義ではテキストの『国際紛争』を参照しながら、国際関係のあり方がどのように変わり始めているかを考えていきます。その時々国際情勢にあわせる形で「授業計画」の順番を入れ替えながら、より現実的な国際関係を取り上げていくことにしたいと思います。						
到達目標	到達目標は「最近の国際ニュースが説明できるようになる」です。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 第1章 国際政治における紛争には一貫した論理があるか 第3講 第2章 20世紀における大紛争の期限 第4講 第3章 バランス・オブ・パワーと第一次世界大戦 第5講 第3章 つづき 第6講 第4章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦 第7講 第4章 つづき 第8講 第5章 冷戦 第9講 第5章 つづき 第10講 第6章 介入、制度、地域・エスニック紛争 第11講 第7章 グローバリゼーションと相互依存 第12講 第8章 情報革命、脱国家主体とパワーの分散 第13講 第8章 つづき 第14講 第9章 新しい世界秩序 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	『国際紛争』 ジョセフ・ナイ著 有斐閣 2, 600円						
事前・事後学習	毎回、各章末につけられた「学習上の論点」から予習課題を出します（180分）。						
成績評価方法	講義への参加度（発言等）：30% 講義期間中のレポート：30% 最終レポート：40%						
授業内の課題・提出方法	講義期間中の予習課題は、講義中に指名して発表してもらうのでいつでも発表できるように準備しておいてください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義内での発表にその都度コメントします。指名時に発表の準備ができていない場合は、その時間は欠席扱いとします。						
担当者から一言	国際関係のあり方は時々刻々に変化しています。日本ではそうした変化がかなり遅れて報道されています。日本の報道だけではなく、できるだけ海外の報道に目を通すようにしてください。						

授業科目名	経営管理論	科目コード	471403	授業コード	112804
担当教員	川崎 綾子	科目ナンバリング	PIM2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。				
授業のねらい	本講義では企業の本質について理解するために、企業の役割や経営者の仕事といった基礎的知識について講義する。実際の企業事例の分析を通して、①経営管理論の用語の本質を理解すること、②企業経営に関する理解を深めることを、本講義のねらいとする。				
到達目標	経営管理論の理論的用語および、企業経営に関する知識を習得し、ビジネスパーソンとしての基礎的な能力を培うことを、目標とする。				
授業計画	第1講 ガイダンス／単位取得に関する注意事項 第2講 企業の役割とは 第3講 企業システム 第4講 企業の理解／企業情報の収集 第5講 経営者の仕事 第6講 企業の基本的構造／所有・経営・統治 第7講 伝統的な管理論／官僚制 第8講 リーダーシップ（1） 第9講 リーダーシップ（2） 第10講 企業と起業 第11講 企業間関係の意義（1） 第12講 経営戦略（1） 第13講 経営戦略（2） 第14講 提携と買収合併 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書はなし。資料を配布する。				
事前・事後学習	レポートへの解答、書籍やインターネットの閲覧などを通して、用語の予習や復習、経営管理者としての戦略立案練習に取り組むことが望ましい（毎週3時間程度）。				
成績評価方法	中間レポート 50% 最終レポート（レポート試験）50%				
授業内の課題・提出方法	①毎回の出席確認の質問への解答は講義内で提出、 ②中間レポート、③最終レポートはmoodleから提出すること				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては、講義内でコメントする。 ■出席確認の質問への解答 優秀な解答は、講義内で紹介する場合がある。 ■中間レポート 優秀なレポートは、講義内で紹介する場合がある。				
担当者から一言	中間レポートと最終レポートでは院生レベルを要求しますが、講義では1から教えますので安心してください。ただし分量が少なすぎたり、自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは、大幅な減点となります。 If you like studying and are willing to work hard, please take this course.				

授業科目名	日本経済事情			科目コード	471404	授業コード	113209
担当教員	鶴田 利恵			科目ナンバリング	PIU2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている						
授業のねらい	経済学の基本的な理論を習得します。国民所得がどのように決定されるのか、財政政策や金融政策とはどのようなものなのか、そのような経済政策によってどのような変化が起きるのかなどについて学び、世の中の動きを理解する力を身につけます。						
到達目標	新聞やニュースで取り上げられている経済に関する出来事の意味を理解し、それに関連する問題点を捉える力をつける。						
授業計画	第1講 経済学とは？-ミクロ経済学とマクロ経済学- 第2講 マクロ経済学と日本経済 第3講 GDP（国内総生産）とは？ 第4講 消費と貯蓄 第5講 企業の投資 第6講 政府の支出 第7講 GDP（国内総生産）の決定 第8講 財政政策（1） 第9講 財政政策（2） 第10講 貨幣の定義 第11講 金融政策（1） 第12講 金融政策（2） 第13講 財市場と金融市場の同時分析（1） 第14講 財市場と金融市場の同時分析（2） 第15講 財市場と金融市場の同時分析（3） 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	家森信善「マクロ経済学の基礎」ベーシックプラスシリーズ 中央経済社（2021） 定価：2200円（税込）						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す（90分以上）。						
成績評価方法	授業態度20%、定期試験80%により評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回Moodleで小テストを行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果や、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	金融論			科目コード	471405	授業コード	111409
担当教員	岩崎 祐子			科目ナンバリング	PIU2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この講義では、日本の金融市場、金融機関、金融商品などについて学んでいきます。これから社会に出て、自分の資産をいかに増やそうと思ったときに、金融に関する知識が必要となります。この講義は、今後、現実の金融取引を行う際に、自らの責任で、自らの判断で、取引を行うための基礎力をつけることを目的とします。						
到達目標	一般紙の金融・経済欄の記事内容を理解できるようになることを、到達目標としています。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 金融市場1 第3講 金融市場2 第4講 金融機関1（銀行、信用金庫） 第5講 金融機関2（証券会社） 第6講 金融商品1（債券） 第7講 金融商品2（株式、投資信託） 第8講 金融政策 第9講 為替相場の見方 第10講 国際通貨制度 第11講 リスク管理 第12講 トピックス1（外部講師） 第13講 トピックス2（外部講師） 第14講 トピックス3 第15講 まとめ 定期試験 ※第12講、第13講はグループワークを実施します						
テキスト・教材（参考文献含む）	使用しません。教材として、プリントや新聞記事を使用します。 参考文献：「みんなが欲しかった！FPの教科書 3級 2023-2024年」滝澤 ななみ（著）TAC出版、5月出版予定、前年は1760円						
事前・事後学習	日頃から、金融に関するニュースに目を通すようにして下さい（30分、週3日以上）。 授業内容のノートを復習して、専門用語の理解に努めてください（90分）。						
成績評価方法	定期試験（60%）および授業時に作成するコメントシートおよび小レポート（40%）により評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業時にはコメントシートを提出します。 小レポートを2回提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。						
担当者から一言	日頃から金融・経済に関するニュースに関心をもつようにして下さい。金融機関への就職を考えている学生は、履修を検討してください。						

授業科目名	国際経営論			科目コード	471406	授業コード	113510
担当教員	吉成 亮			科目ナンバリング	PIU2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	<p>プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける</p> <p>系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する</p> <p>幅広い人間力を身につける</p>						
授業のねらい	<p>日本国内のマーケットは国内人口の減少により、これ以上大きくなることを期待できません。したがって、企業が海外の市場へ展開することは、日本の企業が今後とも存続していく上で不可欠です。それゆえどのような企業の、どのような事業を、その発展段階に応じて、海外に展開していくのかを学ぶ必要があります。主に中心は国内の企業を事例にあげるものの、留学生も配慮し、海外の企業の事例も取り上げ、これらのことを、企業戦略との関連で学習することが授業のねらいです。</p>						
到達目標	<p>留学生を含め、国内および海外の特定の企業を取り上げ、自国における企業の海外進出を段階的に自分で説明できるようになることを目標にしています。</p>						
授業計画	<p>第1講. ガイダンス</p> <p>第2講. 国際経営とは何か</p> <p>第3講. 海外直接投資の理論（1）</p> <p>第4講. 海外直接投資の理論（2）</p> <p>第5講. 多国籍企業による国際競争の歴史</p> <p>第6講. 多国籍企業の組織デザイン</p> <p>第7講. トランスナショナル経営</p> <p>第8講. 海外子会社の経営</p> <p>第9講. 国際マーケティング</p> <p>第10講. 国際生産戦略</p> <p>第11講. ものづくりの国際拠点展開</p> <p>第12講. 研究開発の国際化</p> <p>第13講. 国際的な人的資源管理</p> <p>第14講. 国際パートナーシップ</p> <p>第15講. 日本企業のさらなる国際化のために＋まとめ</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>教科書として下記の書籍を使用します。必ず購入して授業に取り組んでください。</p> <p>中川 功一，林 正，多田 和美，大木 清弘著『はじめての国際経営』有斐閣ストウディア</p> <p>参考書は各授業内で提示します。</p>						
事前・事後学習	<p>講義の前後に授業中で指示された単元の予習、復習（それぞれ1日30分程度）を行うことが望ましいです。また課題の提出を課すこともあります。</p>						
成績評価方法	<p>各授業の評価点は主に課題により決定する。成績評価は、各授業の課題の成績を80%とし、まとめテスト（もしくはレポート）20%という割合を基本にしながら、総合的に判断する。</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>課題は各授業の中で実施する。課題の提出方法は基本的に「四日市大学教育支援システム」Moodleを用いる。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>授業内の課題はその評価とともに、次回の授業でフィードバックする。またその方法は「四日市大学教育支援システム」Moodleを用いる。</p>						
担当者から一言	<p>国内だけでなく、海外に目を向けて幅広い視野でビジネスを考えることができるようになります。</p>						

授業科目名	国際協力論			科目コード	471407	授業コード	111809
担当教員	富田 与			科目ナンバリング	PIU2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	国際社会のあり方が大きく変化を始めており、国際協力のあり方もその時々情勢に左右される揺れ幅が大きくなっています。この講義では日本のODA政策を中心に、そうした国際社会の変化と国際協力のとの対応を見ていきます。講義で扱うテーマⅠ～Ⅲは、講義開始時点の国際情勢を反映させた形で設定します。昨年度は、「なぜ食糧支援なのか」、「なぜアフリカなのか」、「なぜ無償資金協力なのか」の3つを考えました。						
到達目標	到達目標は「なぜ、ODAが必要なのかを説明できる」です。						
授業計画	第1講：ガイダンス、最近のODA 第2講：近年の国連総会一般討議の事務総長演説から 第3講：ODAのふたつの側面：外交政策・国際開発政策 第4講：テーマⅠ（１）：国際関係論からの見方 第5講：テーマⅠ（２）：開発経済学からの見方 第6講：テーマⅡ（１）：国際関係論からの見方 第7講：テーマⅡ（２）：開発経済学からの見方 第8講：テーマⅢ（１）：国際関係論からの見方（ODAの歴史） 第9講：テーマⅢ（２）：開発経済学からの見方（ODAの種類） 第10講：ODA予算とその推移 第11講：ODAを巡る政策決定 第12講：地球規模の問題 第13講：人間の安全保障（１） 第14講：人間の安全保障（２） 第15講：まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストと参考文献は特に指定しません。						
事前・事後学習	毎回の講義で予習課題を出すので、予習と復習を兼ねて取り組んでください（180分）。						
成績評価方法	講義への参加度（発言等）：30% 講義期間中のレポート：30% 最終レポート：40%						
授業内の課題・提出方法	講義期間中の予習課題は、講義中に指名して発表してもらおうのでいつでも発表できるように準備しておいてください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義内での発表にその都度コメントします。指名時に発表の準備ができていない場合は、その時間は欠席扱いとします。						
担当者から一言	国際情勢は急速に変化しています。日本の外交政策もそれに伴う転換期にあります。日頃から外国の報道と国内の報道の双方に目を通し、その違いを確かめるようにしてください。						

授業科目名	開発経済学			科目コード	471408	授業コード	111408
担当教員	鶴田 利恵			科目ナンバリング	PIU2005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	この講義では、日本を含むアジア諸国の経済発展がどのような変遷を辿ってきたのかを、経済理論と実際の流れによって説明します。特に、国内の工業化政策、諸外国との貿易と直接投資、外国からの政府開発援助（ODA）、そして、グローバル化が進む国際経済における自由貿易（FTA）や地域連携協定（EPA）が、経済成長を進める上でどのような役割を担っているのかに焦点を置いて講義していきます。授業では鶴田の解説だけでなく、活発なディスカッションを行いながら進めます。						
到達目標	経済成長に関する基本的な理論とアジア諸国の経済の実情を理解する。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 GDPの決定（1） 第3講 GDPの決定（2） 第4講 財政政策 第5講 金融政策 第6講 為替・国際収支 第7講 マルサスの罠 第8講 ペティ＝クラークの法則 第9講 2部門モデル 第10講 工業化の初期条件と輸入代替工業化 第11講 輸出志向型工業化と対外直接投資 第12講 日本の政府開発援助 第13講 多様化する外国資本投資とアジア通貨危機 第14講 アジア経済の新動態 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリントを配布します。						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す（90分以上）。						
成績評価方法	授業態度20%、定期試験80%により評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回Moodleで小テストを行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果や授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	簿記入門			科目コード	471409	授業コード	115606
担当教員	奥原 貴士			科目ナンバリング	PBM2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	企業は日常的に様々な活動をしています。たとえば、商品を仕入れてその商品を販売したり、事務所に使う建物を購入したり、資金が不足したら銀行から借り入れたりなど多種多様な取引を行っています。そして、これらの取引は簿記によって記録され、その記録に基づいて財務諸表が作成されます。本講義では、企業が行う取引について簿記の技術を用いてどのように記録するのかを学習します。						
到達目標	簿記では、企業が行う取引を仕訳によって記録していきます。よって、まず仕訳のルールを理解します。そして、商品の売買や銀行からの借入れなどの取引に関する仕訳の方法を身につけます。最後に、仕訳の内容に基づいて試算表が作成できるようになることを本講義の到達目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 簿記の基礎 第2講 日常の手続き（簿記上の取引・仕訳など） 第3講 日常の手続き（転記・試算表作成の基礎） 第4講 商品売買 第5講 商品売買 第6講 商品売買 第7講 現金・当座預金 第8講 現金・当座預金 第9講 小口現金・手形 第10講 小口現金・手形 第11講 その他の期中取引（貸付金・借入金など） 第12講 その他の期中取引（固定資産・有価証券など） 第13講 その他の期中取引（税金の支払など） 第14講 試算表の作成 第15講 試算表の作成 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義資料は毎回プリントを配布します。 （参考文献） 『合格テキスト日商簿記3級』TAC株式会社。 『合格トレーニング日商簿記3級』TAC株式会社。						
事前・事後学習	講義で学習した内容をそのつど復習してください。新聞や雑誌などで企業の会計数値（売上高や利益額など）を見て、この企業の経営はうまくいってそうだが、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください（毎日30分以上）。						
成績評価方法	成績評価方法 平常点（授業への積極的な参加、小テスト等）60% 定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	適宜指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストについては、各自に点数を伝えます。また、小テストの模範解答も以降の講義で示します。						
担当者から一言	遅刻、私語、スマホ使用などは禁止します。他の学生に迷惑をかけないように心がけてください。 簿記の知識を習得するには連続した学習が必要です。したがって、毎回の出席と復習が重要となります。電卓を毎回用意してください。進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。						

授業科目名	会計学総論			科目コード	471410	授業コード	112704
担当教員	奥原 貴士			科目ナンバリング	PBM2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	会計に関する知識は、経済社会を生き抜いていくためには必要不可欠だといわれています。企業の決算書を見ると、その企業はどのようにして利益をあげているのかを知ることができます。また、その企業が将来に倒産するおそれがどのくらいあるのかといったことも推測することができます。ただし、このようなことを決算書から読み取るには会計の知識が必要となります。したがって、本講義は、会計学の主要な論点を取りあげて解説を行い、会計学の基礎知識を身につけることを目的とします。						
到達目標	まず会計の役割を理解し、資産や負債などに関する会計学の基本的な知識を習得します。そして、それらの知識に基づいて企業の決算書から、その企業の財政状態・経営成績などを読み取ることができるようになることを到達目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 会計情報の役割 第3講 会計制度と社会（1） 第4講 会計制度と社会（2） 第5講 会計の仕組み（1） 第6講 会計の仕組み（2） 第7講 貸借対照表（1） 第8講 貸借対照表（2） 第9講 在庫の会計 第10講 生産設備の会計 第11講 金融資産の会計 第12講 負債と資本の会計 第13講 損益計算書（1） 第14講 損益計算書（2） 第15講 営業活動の会計 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義資料は毎回プリントを配布します。 （参考文献） 谷武幸・桜井久勝・北川教央編著『1からの会計（第2版）』中央経済社（2021）。 桜井久勝『会計学入門〈第5版〉』日本経済新聞出版社（2018）。						
事前・事後学習	新聞や雑誌などで企業の会計数値（売上高や利益額など）を見て、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちは倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください（毎日30分以上）。						
成績評価方法	平常点（授業への積極的な参加、小テスト等）60% 小テストは15回の講義中に4回程度行います。 定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	適宜指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストについては、各自に点数を伝えます。また、小テストの模範解答も以降の講義で示します。						
担当者から一言	遅刻、私語、スマホ使用などは禁止します。他の学生に迷惑をかけないように心がけてください。 進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。 日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。						

授業科目名	財務諸表論			科目コード	471411	授業コード	112305
担当教員	奥原 貴士			科目ナンバリング	PBM2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	企業の決算書は、企業の業績の優劣や潜在能力を映し出しており、こうした会計情報に関する知識は、ビジネスの世界で活躍するためにも不可欠だといわれています。そして、会計情報を的確に読み取るためには、財務諸表がどのようなルールに基づいて作成されているのかを理解する必要があります。したがって本講義では財務会計の重要な論点を取り上げて解説を行い、財務会計の重要な論点を網羅的に理解することを目的とします。						
到達目標	まず財務会計の役割、会計基準の必要性などの基礎知識を習得します。続いて、財務会計における主要な論点を理解することを到達目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 財務会計の機能と制度 第3講 利益計算の仕組み 第4講 利益計算の仕組み 第5講 会計理論と会計基準 第6講 会計理論と会計基準 第7講 利益測定と資産評価の基礎概念 第8講 利益測定と資産評価の基礎概念 第9講 現金預金と有価証券 第10講 売上高と売上債権 第11講 棚卸資産と売上原価 第12講 有形固定資産と減価償却 第13講 損益計算書と貸借対照表 第14講 損益計算書と貸借対照表 第15講 連結財務諸表 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義資料は毎回プリントを配布します。 （参考文献） 桜井久勝『財務会計講義〈第22版〉』中央経済社（2021）。 桜井久勝『会計学入門〈第5版〉』日本経済新聞出版社（2018）。						
事前・事後学習	新聞や雑誌などで企業の会計数値（売上高や利益額など）を見て、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください（毎日30分以上）。						
成績評価方法	平常点（授業への積極的な参加、小テスト等）60% 小テストは15回の講義中に4回程度行います。 定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	適宜指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストについては、各自に点数を伝えます。また、小テストの模範解答も以降の講義で示します。						
担当者から一言	遅刻、私語、スマホ使用などは禁止します。他の学生に迷惑をかけないように心がけてください。 進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。 日商簿記検定等の資格取得の相談にも対応します。 簿記・会計に関する講義で学習した内容を復習しておいてください。						

授業科目名	経営戦略論			科目コード	471412	授業コード	114713
担当教員	川崎 綾子			科目ナンバリング	PBM2003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	本講義では経営戦略論の概念や論理を理解した上で、企業の経営戦略について考察する。考察を通じて経営戦略論の理解を深めることを、本講義のねらいとする。						
到達目標	経営戦略の枠組みや手法について理解した上で、実際の企業戦略に対する改善案や新たな戦略案を提示できる。 経営戦略の用語を駆使した、論理的なレポートの作成能力をもつ。 資料から必要な証拠を収集し、説得力のあるレポートを書く力を有する。						
授業計画	1 ガイダンス／単位取得に関する注意事項 2 経営戦略の基本（１）／思考の軸としての論理 3 経営戦略の基本（２）／主要なアプローチの概観 4 経営戦略の構造／戦略の３つのレベル、環境 5 全社戦略 6 事業戦略（１）／ポーター理論 7 事業戦略（２）／資源ベース論 8 他社との違いをつくる 9 コストを引き下げる 10 集中戦略／専門性を身につける 11 顧客ニーズの違いに対応する（１） 12 顧客ニーズの違いに対応する（２） 13 環境は変えられる 14 環境操作戦略 15 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書はなし。資料を配布する。 参考文献：宮崎正也著『コア・テキスト事業戦略』新世社 青島矢一、加藤俊彦著『競争戦略論』東洋経済新報社 稲葉 祐之、井上 達彦、鈴木 竜太、山下 勝著『キャリアで語る経営組織』有斐閣						
事前・事後学習	レポートへの解答、書籍やインターネットの閲覧などを通して、用語の予習や復習、経営戦略の立案練習に取り組むことが望ましい（毎週３時間程度）。						
成績評価方法	中間レポート 50% 最終レポート（レポート試験）50%						
授業内の課題・提出方法	①毎回の出席確認の質問への解答、②中間レポート、③最終レポートは全てmoodleから提出すること						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては、講義動画内でコメントする。 ■出席確認の質問への解答 優秀な解答は、講義動画内で紹介する場合がある。 ■中間レポート 優秀なレポートは、講義動画内で紹介する場合がある。						
担当者から一言	中間レポートと最終レポートでは院生レベルを要求しますが、講義では1から教えますので安心して下さい。ただし分量が少なすぎたり、自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは、大幅な減点となります。 If you like studying and are willing to work hard, please take this course.						

授業科目名	マーケティング論		科目コード	471413	授業コード	114814
担当教員	川崎 綾子		科目ナンバリング	PBM2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。					
授業のねらい	本講義ではマーケティング論の概念や論理を理解した上で、企業のマーケティング活動やマーケティング戦略について考察する。考察を通じてマーケティング論の理解を深めることを、本講義のねらいとする。					
到達目標	マーケティングの論理や枠組みについて理解した上で、企業のマーケティング活動に対する改善案や新たなマーケティング戦略を提示できる。 マーケティング論の用語を駆使した、論理的なレポートの作成能力をもつ。 資料から必要な証拠を収集し、説得力のあるレポートを書く力を有する。					
授業計画	1 ガイダンス／単位取得に関する注意事項 2 マーケティングの論理 3 マーケティング・ミックス／4つのP 4 ターゲット市場の選定 5 ポジショニング／事例：ドトールとスターバックス 6 マーケティング戦略 7 マーケティング戦略（2） 8 業界の構造／コンビニの流通 9 成功商品や企業の分析 10 価格戦略 11 セグメンテーション 12 流通の役割 13 成功商品の4P分析 14 ブランド戦略 15 まとめ／経験財のマーケティング					
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書はなし。資料を配布する。 参考文献：青木幸弘編『ケースに学ぶマーケティング』有斐閣ブックス					
事前・事後学習	レポートへの解答、書籍やインターネットの閲覧などを通して、用語の予習や復習、マーケティング戦略の立案練習に取り組むことが望ましい（毎週3時間程度）。					
成績評価方法	中間レポート 50% 最終レポート（レポート試験）50%					
授業内の課題・提出方法	①毎回の出席確認の質問への解答、②中間レポート、③最終レポートは全てmoodleから提出すること					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては、講義動画内でコメントする。 ■出席確認の質問への解答 優秀な解答は、講義動画内で紹介する場合がある。 ■中間レポート 優秀なレポートは、講義動画内で紹介する場合がある。					
担当者から一言	中間レポートと最終レポートでは院生レベルを要求しますが、講義では1から教えますので安心してください。ただし分量が少なすぎたり、自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは、大幅な減点となります。 If you like studying and are willing to work hard, please take this course.					

授業科目名	中小企業論			科目コード	471414	授業コード	115505
担当教員	岡 良浩			科目ナンバリング	PBM2008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる						
授業のねらい	<p>この講義は企業経営を人的側面からみることをねらいとしています。</p> <p>企業経営には「正解」というものがありません。企業は、日々、自らの事業の改良や新しいビジネスを模索しています。</p> <p>この講義では、毎回、経営者の対談やエピソードに関する映像を見ていただき、その経営者が何を重要と思いながら日々経営を考えているか、なぜそのような経営理念が生まれるのかを探ることを目標とします。</p> <p>また講義時間の一部使って地域産業の見学を行う予定です。</p>						
到達目標	<p>以下の3つを目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中小企業の役割や課題を理解する。 2. 企業の経営理念と事業内容の関係を理解する。 3. 全体を通じて中小企業がもつ経営の特質を理解する。 						
授業計画	<p>第1講 ガイドンス&映像視聴</p> <p>第2講 ユニバーサルスタジオジャパン</p> <p>第3講 セブンイレブン</p> <p>第4講 コメダ珈琲</p> <p>第5講 スターバックス</p> <p>第6講 食べチョク</p> <p>第7講 マザーハウス</p> <p>第8講 ハローキティ</p> <p>第9講 中川政七商店</p> <p>第10講 矢場とん</p> <p>第11講 ものづくりin三重</p> <p>第12講 企業見学（1）</p> <p>第13講 企業見学（2）</p> <p>第14講 企業見学（3）</p> <p>第15講 企業見学（4）</p> <p>※とりあげる企業は、希望に応じて変更する可能性があります。</p> <p>※企業見学は、「地元企業魅力発見バスツアー」を行います（四日市市との連携授業）。定期試験終了直後に実施することを予定しています。参加人数に制限があります。別途自由見学コースも設定する予定です。（詳細は講義中にお知らせいたします。）</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	特に使用しません。Moodle上で提示します。						
事前・事後学習	<p>予習：とりあげる企業の概要を調べておくこと（90分）</p> <p>復習：毎回の要約の提出（90分）</p>						
成績評価方法	<p>毎回の要約（50%）</p> <p>学期末のレポート試験（50%）</p>						
授業内の課題・提出方法	毎回の要約をMoodle内の課題として提出いただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された要約は毎回採点します。全体の講評を授業内で行います。						
担当者から一言	<p>皆さんも経営者になった気持ちで、受講してください。</p> <p>映像は授業内でのみ視聴可能な貴重なものです。</p> <p>毎回、映像の内容を要約するのは大変ですが、よい訓練になります。</p>						

授業科目名	人事管理論			科目コード	471415	授業コード	113112
担当教員	川崎 綾子			科目ナンバリング	PBM3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	①企業内の諸個人が抱える課題について考えること、②人事制度を通した解決の方法について理解することを、本講義のねらいとする。「個人」や「組織」の観点から、人事管理や経営組織について学ぶ。						
到達目標	人事の仕組みや組織に関する理論について理解した上で、働き方に関する諸課題への解決策を提示できる。受講生自身のキャリア計画を立案できる。 組織論の用語を駆使した、論理的なレポートの作成能力をもつ。 資料から必要な証拠を収集し、説得力のあるレポートを書く力を有する。						
授業計画	1 ガイダンス／単位取得に関する注意事項 2 人事管理とは（１）／マネジメントの定義 3 人事管理とは（２）／日本の人材マネジメント 4 キャリアを考える／個人の欲求と会社の目的 5 日本の人材マネジメント 6 モチベーションと規則の関係／官僚制 7 社会化と信頼 8 意思決定 9 人事評価、等級 10 賃金（１） 11 賃金（２） 12 人間関係を考える 13 組織デザイン 14 企業間の信頼とまとめ 15 社会人としての未来の未来を考える 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書はなし。資料を配布する。						
事前・事後学習	レポートへの解答、書籍やインターネットの閲覧などを通して、用語の予習や復習、組織リーダーとしての戦略立案練習に取り組むことが望ましい（毎週３時間程度）。						
成績評価方法	中間レポート 50% 定期試験 50%						
授業内の課題・提出方法	①毎回の出席確認の質問への解答は講義内で提出、 ②中間レポートはmoodleから提出すること						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては、講義内でコメントする。 ■出席確認の質問への解答 優秀な解答は、講義内で紹介する場合がある。 ■中間レポート 優秀なレポートは、講義内で紹介する場合がある。						
担当者から一言	中間レポートと最終レポートでは院生レベルを要求しますが、講義では１から教えますので安心して下さい。ただし分量が少なすぎたり、自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは、大幅な減点となります。 If you like studying and are willing to work hard, please take this course.						

授業科目名	ものづくり経営	科目コード	471416	授業コード	115802
担当教員	西浦 尚夫	科目ナンバリング	PBM2006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。				
授業のねらい	「ものづくり経営」について、基礎となる理念、過程、管理の基本知識を講義します。一般的な製造業のものづくりに関する知識だけでなく、ゲストスピーカーによる講演から問題発見能力、問題解決能力、提案能力の3つの能力を養うことを目的とします。				
到達目標	受講修了後、企業の現場において、「価格競争に陥らないような独創的な製品・サービス開発したい」、「開発のスピードで他社より勝りたい」、「高い品質で顧客に満足してもらいたい」といった現実の要望に応えられるため、論理的かつ端的に自らの考えを表現できる文章を作成できることを到達目標としています。				
授業計画	第1講 ガイダンス・講義の概要 第2講 日本企業の経営課題（主に製造業） 第3講 経営戦略の基礎（1） 第4講 経営戦略の基礎（2） 第5講 マーケティングの基礎（1） 第6講 マーケティングの基礎（2） 第7講 企業成長の理論（1） 第8講 企業成長の理論（2） 第9講 生産管理の基礎（1）【科学的管理法・フォードシステム】 第10講 生産管理の基礎（2）【トヨタ生産方式】 第11講 日本中小企業の海外進出 第12講 ゲスト講師による講演（※予定） 【監督・俳優：高川裕也 http://magnetize.jp/artist/yuya-takagawa 】 第13講 事例研究① 第14講 事例研究② 第15講 ものづくり経営のまとめ 定期試験 ※ゲスト講師による講演日は、講師との日程調整により決定します。 また、高川氏が講演できない場合は、他のゲストスピーカー（経営者等）で対応する予定でいます。				
テキスト・教材（参考文献含む）	市販のテキストは使用せず、適宜、資料やパワーポイントを活用しながら、理解を深める授業を展開します。				
事前・事後学習	事前学習：様々なメディア情報から日本のものづくり企業がどのような経営を行っているかを考えること。（1日20分） 事後学習：講義の内容や課題を復習しておくこと（90分）				
成績評価方法	・授業態度及び授業時に指示する課題の提出状況 55% ・定期試験 45% （授業中、配布したテキスト、自筆ノートのみ持込可） 毎回提出する小レポートで理解度と文章構成力を確認し評価します。 無断で3回以上欠席した学生には、原則として単位を与えないこととします。				
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業終了後に課題を提出していきます。 <提出方法> Moodle				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。				
担当者から一言	遅刻、授業中の離席、スマートフォンの操作、携帯電話の鳴動等は原則禁止します。監督・俳優として活躍している四日市市出身の高川裕也氏をゲスト講師として迎える予定です。貴重な機会ですので真剣な態度で受講してください。				

授業科目名	流通論	科目コード	471417	授業コード	114313
担当教員	川崎 綾子	科目ナンバリング	PBM2007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。				
授業のねらい	本講義では流通論の概念や論理を理解した上で、小売企業の流通活動について考察する。考察を通じて流通論の理解を深めることを、本講義のねらいとする。				
到達目標	流通論の論理や枠組みについて理解した上で、企業の流通活動に対する改善案や新たな流通戦略を提示できる。 流通論の用語を駆使した、論理的なレポートの作成能力をもつ。 資料から必要な証拠を収集し、説得力のあるレポートを書く力を有する。				
授業計画	1 ガイダンス / 単位取得に関する注意事項 2 流通とは / 生産者、商業者、消費者の視点 3 百貨店と総合スーパー / チェーン・オペレーション 4 食品スーパー / 日本市場特有のニーズ 5 コンビニエンス・ストア / 立地・時間・品揃えという価値 6 ディスカウント・ストア / 規模の経済 7 SPA / 伝統的な分業体制とのちがい 8 商店街とショッピングセンター / 開発業者とテナントの関係 9 流通構造と日本型取引慣行 / 映画産業の事例 10 日本型の商慣行と、その崩壊 / 流通系列化 11 農産物流通 / 卸売市場とは 12 青果物の流通・マーケティング 13 食品の流通（１） / 生産から消費へ 14 食品の流通（２） 15 Amazonの流通システム、イオンの歴史				
テキスト・教材（参考文献含む）	石原武政・竹村正明・細井謙一編著『1からの流通論（第2版）』碩学舎。				
事前・事後学習	レポートへの解答、書籍やインターネットの閲覧などを通して、用語の予習や復習、流通戦略の立案練習に取り組むことが望ましい（毎週３時間程度）。				
成績評価方法	中間レポート 50% 最終レポート（レポート試験）50%				
授業内の課題・提出方法	■オンデマンド授業の場合 ①毎回の出席確認の質問への解答、②中間レポート、③最終レポートは全てmoodleから提出すること ■対面授業の場合 ①は講義内で紙かmoodle（ネット接続可能な教室の場合）で提出してもらう予定。 ②と③はmoodleで提出してもらう予定。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては、講義動画内（オンデマンド講義の場合）でコメントする。 対面講義の場合は、講義内でコメントする ■出席確認の質問への解答 優秀な解答は、講義動画内あるいは講義中に紹介する場合がある。 ■中間レポート 優秀なレポートは、講義動画内あるいは講義中に紹介する場合がある。				
担当者から一言	中間レポートと最終レポートでは院生レベルを要求しますが、講義では1から教えますので安心してください。ただし分量が少なすぎたり、自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは、大幅な減点となります。 If you like studying and are willing to work hard, please take this course.				

授業科目名	農業経営論			科目コード	471418	授業コード	115607
担当教員	鶴田 利恵、杉谷 克芳			科目ナンバリング	PBM2009		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	<p>この講義では、前半（杉谷担当）において主に日本の農業問題に焦点を当て、後半（鶴田担当）では国際的な視点から農業問題を考えます。</p> <p>日本の農業問題では第二次世界大戦後の改革から始まり、高度経済成長期やグローバル化が進む中で、日本の農業問題やビジネスがどのように進展していったのかを学びます。国際的な視点からはGATT（貿易と関税に関する一般協定）やTPPなどの自由貿易協定の中で農業問題がどのように捉えられてきたのかを理解します。皆さんの意見や疑問もぶつけ合いながら、活発なディスカッションを行いながら進めます。</p>						
到達目標	日本及び世界における農業の経済的側面に関する基本的な知識と問題点を理解し、将来の展望を考える力を培う。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 日本の農業の現状①：農地、農家、農業産出額 第3講 日本の農業の現状②：農業生産の縮小と食糧自給率の低下 第4講 日本の農政①：戦後改革と農業、食糧制度 第5講 日本の農政②：高度成長と農業、農業基本法、総合農政 第6講 日本の農政③：グローバル化と農業、食料・農業・農村基本法 第7講 鈴鹿市のある農家のコメ作り 第8講 前半のまとめ 第9講 世界の食糧事情と問題点 第10講 穀物貿易の特質 第11講 農業保護政策 第12講 輸出競争とGATT農業交渉 第13講 WTO農業協定とドーハ開発アジェンダ 第14講 FTA（自由貿易協定）と農業問題 第15講 後半のまとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリントを配布します。						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す（90分以上）。						
成績評価方法	前半のレポート50%と後半の試験50%により評価します。						
授業内の課題・提出方法	前半は講義の最後に簡単な小テストを行います。 後半は毎回Moodleで小テストを行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果や、講義中及び講義終了後の質問には適宜コメントします。						
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	起業論	科目コード	471419	授業コード	114112
担当教員	岡 良浩	科目ナンバリング	PBM2010		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。				
授業のねらい	<p>この講義では起業家精神（アントレプレナーシップ）を養うための講義と演習を行います。</p> <p>起業家精神とは、事業を起こす可能性を追求する能力のことです。このような能力は、例えば暗記したり学説を理解したりする能力とは全く異なり、創造的思考が必要です。</p> <p>まずアントレプレナーシップの事例を学びます。次に創造的思考の技法を学びます。最後に、ソーシャルビジネスを事例に、これらがどのような共通の発想で成り立っているかを理解したうえで、自らビジネスモデルの立案を試みます。</p>				
到達目標	<p>以下の3つを掲げています。</p> <p>1.アントレプレナーシップが事業者にどのように活用されているかを理解する。</p> <p>2.創造的思考の技法を身につける。</p> <p>3.自ら事業企画を立案する。</p>				
授業計画	<p>第1講 4/13ガイダンス</p> <p>第2講 4/20アントレプレナーシップと事業事例 1</p> <p>第3講 4/27アントレプレナーシップと事業事例 2</p> <p>第4講 5/11アントレプレナーシップと事業事例 3</p> <p>第5講 5/18創造的思考実習 1（ブレーンストーミング／KJ法）</p> <p>第6講 5/25創造的思考実習 2（ソーシャルビジネスの企画立案）</p> <p>第7講 6/1企画立案のフィードバック</p> <p>第8講 6/8ビジネスプランコンテスト</p> <p>第9講 6/15事業計画の構成 1（総論）</p> <p>第10講 6/22事業計画の構成 2（ファイナンス）※ 1</p> <p>第11講 6/29ビジネスモデル立案の実習 1</p> <p>第12講 7/6ビジネスモデル立案の実習 2</p> <p>第13講 7/13ビジネスモデルのフレームワーク</p> <p>第14講 7/20ビジネスプランコンテスト ※ 1</p> <p>第15講 7/27まとめ</p> <p>※ 1 は、株式会社三十三総研が提供する授業です。</p> <p>※日程・内容などは変更する場合があります。</p>				
テキスト・教材（参考文献含む）	特に使用しません。講義中に適宜プリントを配布します。				
事前・事後学習	<p>参考文献は講義中に示します。事前に学習してください（90分）。</p> <p>報告や小レポートの提出を求めますので自宅で行ってください（90分）。</p>				
成績評価方法	<p>課題への取り組み（50%）学期末のレポート試験（50%）</p> <p>提出された課題は、講義中にコメントをします。</p>				
授業内の課題・提出方法	講義中に課題を課します。教学ポストに提出することを予定しています。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題は、コメントをつけて講義中に返却します。また事業計画の構想については、適宜、講義中に公表して参考とします。				
担当者から一言	この授業を通じてビジネスプランが完成すれば、株式会社三十三総研のビジネスプランコンテストに応募していただきます。是非、応募をめざしてください。				

授業科目名	総合政策特別講義Ⅲ			科目コード	471503	授業コード	113110
担当教員	前川 督雄、片山 清和			科目ナンバリング	PSL2003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける 幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	<p>情報通信技術の革命的発展にともない、私たちの住む社会はサイバー社会（ネット）とフィジカル社会（現実社会）とが一体化した新しい社会に生まれ変わろうとしています。その社会では、気づかないところで観測・集積される多様なデータを用いてAIが社会の重要な基盤として活躍します。</p> <p>これからの私たちは、データサイエンスとAIについてのリテラシーをもつことが求められるようになります。</p> <p>「データサイエンス概論」ではその入門編として基礎的な知識を学び、心構えの基本を身に付けてもらいます。</p>						
到達目標	データサイエンスとAIについて基礎的な知識を獲得し、心構えの基本を身に着ける。						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス</p> <p>第2講 社会で起きている変化① Society5.0（前川）</p> <p>第3講 社会で起きている変化② AI（前川）</p> <p>第4講 社会で起きている変化③ データ駆動型社会（前川）</p> <p>第5講 社会で活用されているデータ（片山）</p> <p>第6講 データ・AI利活用の最新動向（前川）</p> <p>第7講 データ・AIの活用領域（片山）</p> <p>第8講 データ・AIの利活用のための技術（片山）</p> <p>第9講 データ・AI利活用の現場（片山）</p> <p>第10講 データを読む・説明する・扱う（導入）（片山）</p> <p>第11講 データを読む・説明する・扱う（演習）（片山）</p> <p>第12講 データ・AI利活用における留意事項①（前川）</p> <p>第13講 データ・AI利活用における留意事項②（前川）</p> <p>第14講 データを守るうえでの留意事項（前川）</p> <p>第15講 まとめ</p> <p>定期試験</p> <p>（必要に応じて内容・順序を変更することがあります）</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>岡嶋ほか「はじめてのAIリテラシー」技術評論社 税別1680円</p> <p>参考文献</p> <p>江間「絵と図でわかる AIと社会」技術評論社 税別2000円</p>						
事前・事後学習	授業前にテキストの該当する箇所を予習すること（60分）。授業後に復習するとともに、参考図書やインターネットを用いて疑問点を調べ、授業内容を展開する探索を行うこと（120分）。						
成績評価方法	毎回の授業で課す確認テスト及び演習課題60%、定期試験40%で総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	授業内で実習課題や復習課題を課し、原則として教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の課題等について、事後（次回など）に解説を行います。						
担当者から一言	<p>本科目は、四日市大学のデータサイエンス・リテラシー（DSL）プログラムの中核科目です。</p> <p>四日市大学DSLプログラムは、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度リテラシーレベル」を認定されました（三重県で初めて）。</p>						

授業科目名	出版文化論	科目コード	471504	授業コード	112404
担当教員	稲葉 年計	科目ナンバリング	PCF2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。				
授業のねらい	<p>本授業では、出版文化の基本として、まずは現代日本の文学を見ていくこととなります。</p> <p>時代時代の諸所の文学的な作品を通じて、人々と社会の関係の上で何が表現されているかを考えます。文学やサブカルを通じての現代社会の捉え方を学んでいきます。そうした現代の社会背景を把握した上で、現在の出版文化や出版メディアの位置づけを、小さな出版社をつくる実践例を見ることで理解します。文学と出版文化を通じて、現代の文化や社会の仕組みを考えます。</p>				
到達目標	<p>全体性に留意しつつ、現代社会を考えることができること。</p> <p>文学と経営を通じて、社会を深く把握すること。</p> <p>できるだけ授業において、考える力や学ぶ力を養いたい。授業では出席カード裏で講義ごとに感想や意見を書いてもらい、出席の確認をするとともに、コミュニケーションをとっていくこととなる。よって、考え、理解し、意見する力を身に付けること。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 1960年代の文学の展開（松本清張・三島由紀夫）——全体性の喪失—— 3. 三島由紀夫『美しい星』 4. 三島由紀夫『美しい星』 5. 東浩紀『動物化するポストモダン』『ゲーム的リアリズムの誕生』 6. 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』 7. 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』 8. 庵野秀明『エヴァンゲリオン新劇場版：破』 9. 庵野秀明『エヴァンゲリオン新劇場版：破』 10. 大場つぐみ・小畑健『DEATH NOTE デスノート the Last name』 11. 大場つぐみ・小畑健『DEATH NOTE デスノート the Last name』 12. 小さな出版社のつくり方 13. 高畑 勲『かぐや姫の物語』 14. 高畑 勲『かぐや姫の物語』 15. 全講義のまとめ <p>定期試験</p>				
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>（テキスト）宇野常寛著「ゼロ年代の想像力」早川書房（2011年）定価：902円</p> <p>各講義において、PowerPoint資料を提示、プリントを配布します。</p>				
事前・事後学習	<p>本や小説、映画、漫画、ドラマ等により時事的なニュースや社会に触れること。（80分）</p> <p>授業後には配布資料に目を通し復習すること。（10分）</p>				
成績評価方法	<p>成績評価は、授業への参加度40%、定期試験（レポート）60%による。レポート試験については、希望者は返却するなどの対応をします。</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>出席カード裏で、毎回の課題（感想や意見）を提出してもらいます。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>出席カード裏での毎回の課題（感想や意見）について、次の回の授業の冒頭で質問があれば回答し、また良いもの面白いものなどがあればとり上げ、コミュニケーションしていきたいと思えます。</p>				
担当者から一言	<p>できる限り関心が持てるように工夫をした授業となりますが、内容自体はそれなりに高度な内容を含むものです。よって、やる気がある学生を歓迎します。また授業内で、できる限りコミュニケーションがとれるように設定しています。なお、コピー＆ペーストは厳禁です。</p>				

授業科目名	日本文化論			科目コード	471505	授業コード	115103
担当教員	永井 博			科目ナンバリング	PCF2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	幅広い人間力を身につける。また、多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。						
授業のねらい	<p>いわゆる「日本文化論」は、たとえばお茶やお能などの伝統芸能などを日本に独自の文化として論じる。しかし「日本」の「文化」はどのような文化なのかについて考えるのではなく、むしろ「文化」という概念のもとに何が語られているのかを考えることの方がより大きな問題であると思われる。</p> <p>この講義では、いろいろな「日本文化論」を取り上げて、「日本」の「文化」がどのように語られ、どのような問題をかたちづくってきたのかについて一緒に考えてみたい。</p>						
到達目標	「文化」という概念が含む問題を自らの中にも根付いている自分の問題としてとらえ、それをどのように克服していくかについて考える糸口を見つけることができることを目標にする。						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 「文化」概念について 第3回 「日本文化論」の問題点について 第4回 ブルーノ・タウトの日本文化論について ① 「日本文化私観」 第5回 ブルーノ・タウトの日本文化論について ② 「ニッポン」 第6回 日本の食文化 お雑煮 第7回 加藤周一<雑種文化論> ① その背景 第8回 加藤周一<雑種文化論> ② その主張 第9回 加藤周一<雑種文化論> ③ その特徴と問題点 第10回 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」 ① その概要 第11回 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」 ② その問題点 第12回 三島由紀夫「文化防衛論」 ① その特徴 第13回 三島由紀夫「文化防衛論」 ② 戦後の日本文化論 第14回 坂口安吾「日本文化私観」 ① その内容 第15回 坂口安吾「日本文化私観」 ② その思想史的意味 定期試験</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリントなどの資料を配布する。						
事前・事後学習	<p>予習として、配布する日本文化論のテキストをよく読んでくること。（90分） 復習として、講義の内容を踏まえて上記のテキストをさらによく読むとともに、それらの筆者の他の文章も自分で入手して読むこと。（90分）</p>						
成績評価方法	受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的にする。提出物は評価をつけたうえで翌週以降の講義で返却する。						
授業内の課題・提出方法	毎回授業の終わりに、講義の内容をまとめ、自分の意見や質問を書いて提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物は、全体的なコメントとともに翌週以降の講義で返却する。						
担当者から一言	日本文化論がこれまでにどのような問題を構成してきたか、現在どのような問題をはらんでいるのかについて一緒に考える時間にしたいと思っている。						

授業科目名	東洋文化論			科目コード	471506	授業コード	111505
担当教員	加納 光			科目ナンバリング	PCF2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	幅広い人間力を身につける。						
授業のねらい	<p>アジア地域・諸国の歴史・文化・社会を概観しながらアジアに対する認識を深め、アジアの特性について考えていきます。また、日本を含むアジア地域・諸国の諸事情を学びながら、アジア地域・諸国から日本社会が学ぶべき点についても考えてみたいと思います。</p> <p>アジアに対する理解を深めるため、受講生自身がアジアに関する特定のテーマについて調べ、レポートにまとめて発表する機会も持ちたいと考えています。</p> <p>アジアに対する理解を深めながら、アジア地域の特性を明らかにすることを、この授業のねらいとします。</p>						
到達目標	<p>この授業では、社会・文化・宗教・言語など、さまざまな視点からアジア諸国に対する理解を深め、学生諸君が明確なアジア像をイメージできるようになることが、到達目的です。</p>						
授業計画	<p>第1講：ガイダンス、講義の概要 第2講：アジアとは何か 第3講：アジアの地理学的な規定 1 第4講： 同上 2 第5講：アジアの地域区分 第6講：アジアの語源 第7講：アジアの多様性 第8講：民族の多様性 第9講：言語の多様性 グループ発表① 第10講：宗教の多様性 1 グループ発表② 第11講： 同上 2 グループ発表③ 第12講：中国近代史 1 第13講： 同上 2 第14講： 同上 3 第15講： 同上 4 まとめ 定期試験 注 進度および授業内容はクラス状況に応じて変更する場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリント教材（適宜教材を配布します）。						
事前・事後学習	<p>毎回のテーマに関する内容を事前に調べ授業に臨んでください（90分）。授業後は、学習内容の理解を定着させるために再度しっかり復習してください（90分）。事前学習の内容については、毎回の授業終了時に連絡する予定です。</p>						
成績評価方法	<p>定期試験60%、課題レポート40%をもとに、総合的に評価します。授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>授業中の課題は、Moodle、あるいは授業内に直接手渡しで提出すること。どちらの方法で提出するのかは、そのつど指示します。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>授業中の課題や質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。</p>						
担当者から一言	<p>日頃からアジア地域・諸国に関心をよせながら、その歴史・文化・社会に対する理解を深める取り組みをしていってください。なお、遅刻、中座、飲食、私語、携帯の使用は原則禁止します。積極的な授業参加を期待しています。</p>						

授業科目名	西洋文化論			科目コード	471507	授業コード	112502
担当教員	山本 伸			科目ナンバリング	PCF2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	<p>本講義の狙いは、カリブ海地域の視点を基軸にヨーロッパ世界の文化や哲学、宗教観などを批判的に紐解きながら、福沢諭吉の「脱亜入欧」論を基盤に構築された近代日本の歪みを浮き彫りにし、ウクライナ問題やBLM問題に象徴されるような右傾化の激しい現代世界の課題と本来あるべき姿を考えます。</p> <p>近代世界がヨーロッパ中心主義的な価値観のもとで構築されてきていることをまずは理解することが第一、そして、そのことを日本の我々自身が半ば無意識のうちに影響を受けて日常を過ごしていることを意識することが第二、最後は、では「いま、ここに」いる自身が今後世界とどう関わっていくかを考えること、この三つが目標となります。</p>						
到達目標	<p>近代世界がヨーロッパ中心主義的な価値観のもとで構築されてきていることをまずは理解することが第一、そして、そのことを日本の我々自身が半ば無意識のうちに影響を受けて日常を過ごしていることを意識することが第二、最後は、では「いま、ここに」いる自身が今後世界とどう関わっていくかを考えること、この三つが目標となります。</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス、導入「本講義で学べること」</p> <p>第2講 カリブ海地域における異文化コミュニケーション</p> <p>第3講 歴史と教育①</p> <p>第4講 社会・人種・アイデンティティ①／アフリカ系とインド系</p> <p>第5講 社会・人種・アイデンティティ②／インド系内比較</p> <p>第6講 社会・人種・アイデンティティ③／中国系</p> <p>第7講 台湾映画『セデック・バレ』（前半）</p> <p>第8講 台湾映画『セデック・バレ』（後半）</p> <p>第9講 文化とコミュニティ／カーニバルと精神文化</p> <p>第10講 文化と宗教</p> <p>第11講 クレオリズムとグローカリズム①／ハイチのクレオリズム</p> <p>第12講 クレオリズムとグローカリズム②／ジャマイカのグローカリズム</p> <p>第13講 平和第14講 カリブ文学研究の現代的意義</p> <p>第15講 まとめ</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	山本 伸著『カリブ文学研究入門』（世界思想社）定価：1,500円（税込）						
事前・事後学習	前週に出された課題（テキストの熟読／わからない用語の検索等）に90分、学習した箇所の復習（テキストのおさらい／ノート整理等）に90分をそれぞれかけて準備学習をしてください。						
成績評価方法	平常点（積極的に授業を受けているか等の授業態度、確認テスト等）50%、レポート（期末試験）50%で総合的に判断します。						
授業内の課題・提出方法	メールへのWORDファイル添付。メールアドレスは、yamamoto-s@tokaigakuen-u.ac.jp						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内におけるフロアとの質疑のインターアクションをもってアクティブラーニングとする。						
担当者から一言	カリブ（およびアジア）の視点を通しての欧米文化について広く学ぶことになるので、これら三地域への関心を高め、さまざまなメディアツールを利用してバーチャルに異文化体験をしておくことが望まれます。						

授業科目名	地域文化論	科目コード	471508	授業コード	112304
担当教員	浅井 雅	科目ナンバリング	PCF2005		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	幅広い人間力を身につける。 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。				
授業のねらい	文化とは、人々の生活の中で築き上げてきたものの総体である。したがって集団の数だけ、無数の文化があるが、人々は常にその文化から影響を受け、また影響を与えている。この授業では、三重県や四日市市の文化を中心として紹介し、先人たちの営みを再発見・再認識するとともに、その影響関係を多角的な視点でとらえていきたい。				
到達目標	1. 三重県および四日市市にある文化的資源の概要を把握し、文化的特徴を理解できる。 2. 国内外問わず、他地域の人々がこの地域の魅力をどのように受け止めるか客観的に検討できる。 3. 地域社会に対する関心を高め、探求心を持つ。				
授業計画	1. ガイダンス、文化とは 2. 三重県とは 3. 街道と交通 4. 伊勢神宮 5. 熊野古道 6. 鳥羽・志勢 7. 伊賀 8. 中南勢 9. 伝統芸能 10. まつり 11. 食文化 12. 伝統工芸 13. 四日市市、北勢とは 14. 三重の人々、三重を訪れる人々 15. 地域文化資源の活用 期末レポート				
テキスト・教材（参考文献含む）	講義資料については、電子もしくは紙で毎回配布する。 参加図書 ・「新視点 三重県の歴史」（山川出版社） ・「続・新視点 三重県の歴史」（山川出版社） ・「発見！ 三重の歴史」（新人物往来社） ・「続・発見！ 三重の歴史」（新人物往来社）				
事前・事後学習	事前学習については、新聞の地域面、タウン誌あるいは広報、行政のHP等を通して、日頃から地域情報・地域文化に関する情報に触れ、考える機会を設けること。（60分） 事後学習については毎回の講義に関して不明な点を残さないよう調べておくこと。また、講義に関する事柄を自ら調べ、視野を広げる機会を設けてほしい。（60分）				
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝45% 期末レポート＝55% なお、2/3以上の出席がない場合は採点の対象外とする。（病欠・公欠等は、別途相談のこと。）				
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、MoodleにGoogleフォームのリンク先を毎回上げる。 期末レポートもMoodle内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出とのこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。				
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（携帯・メールなども含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。				